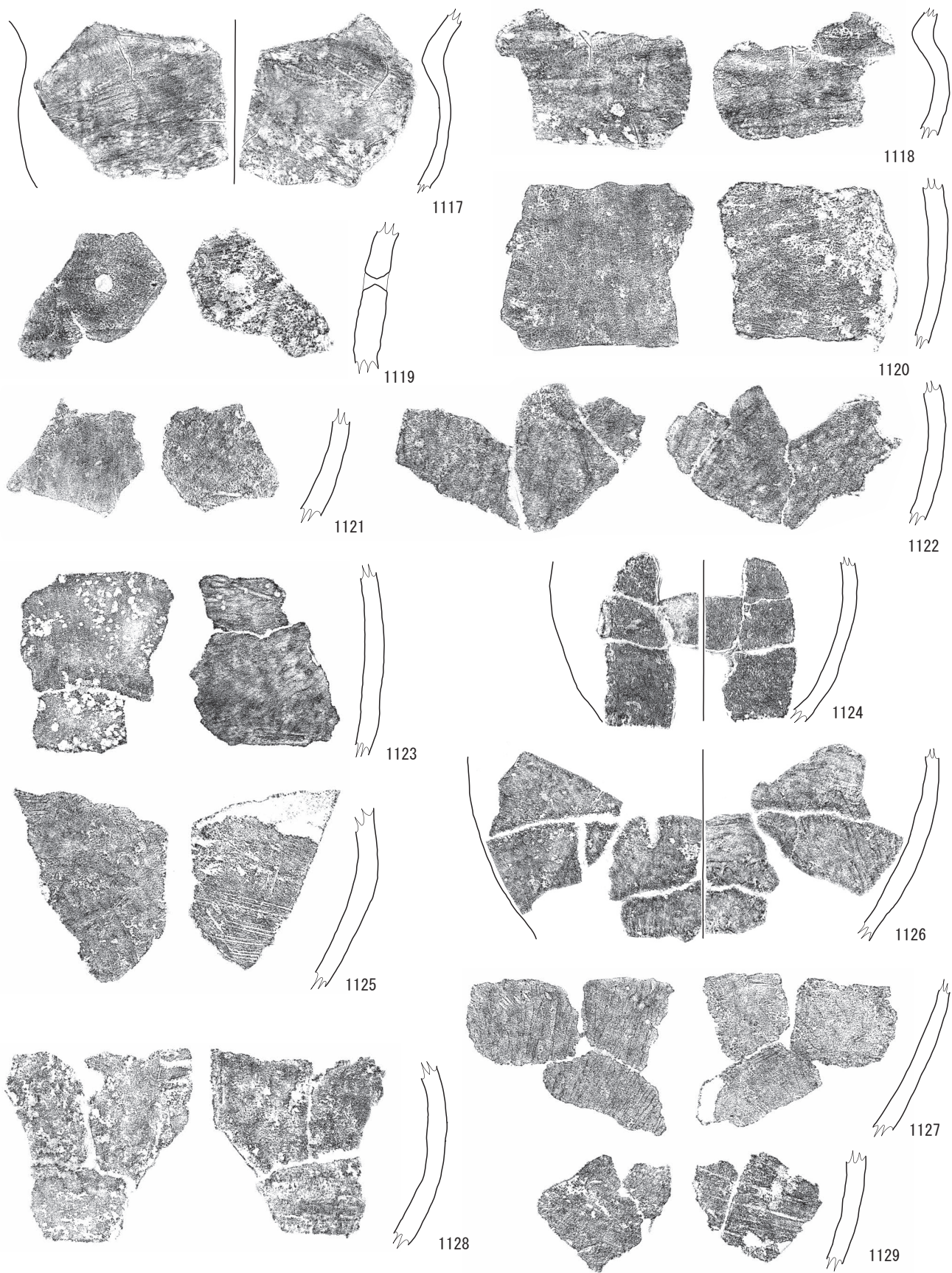


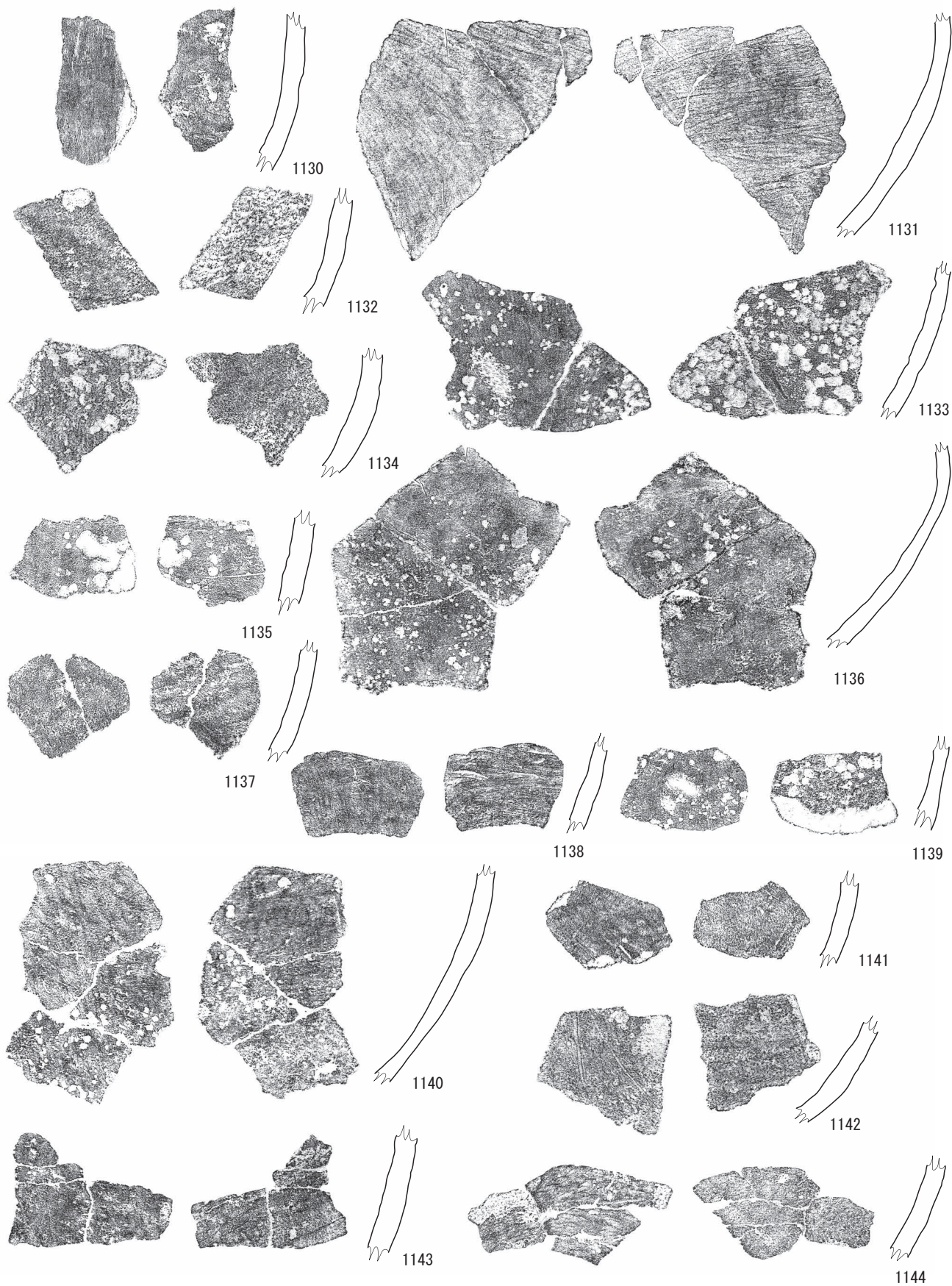
第316図 無文土器【粗製】(2)





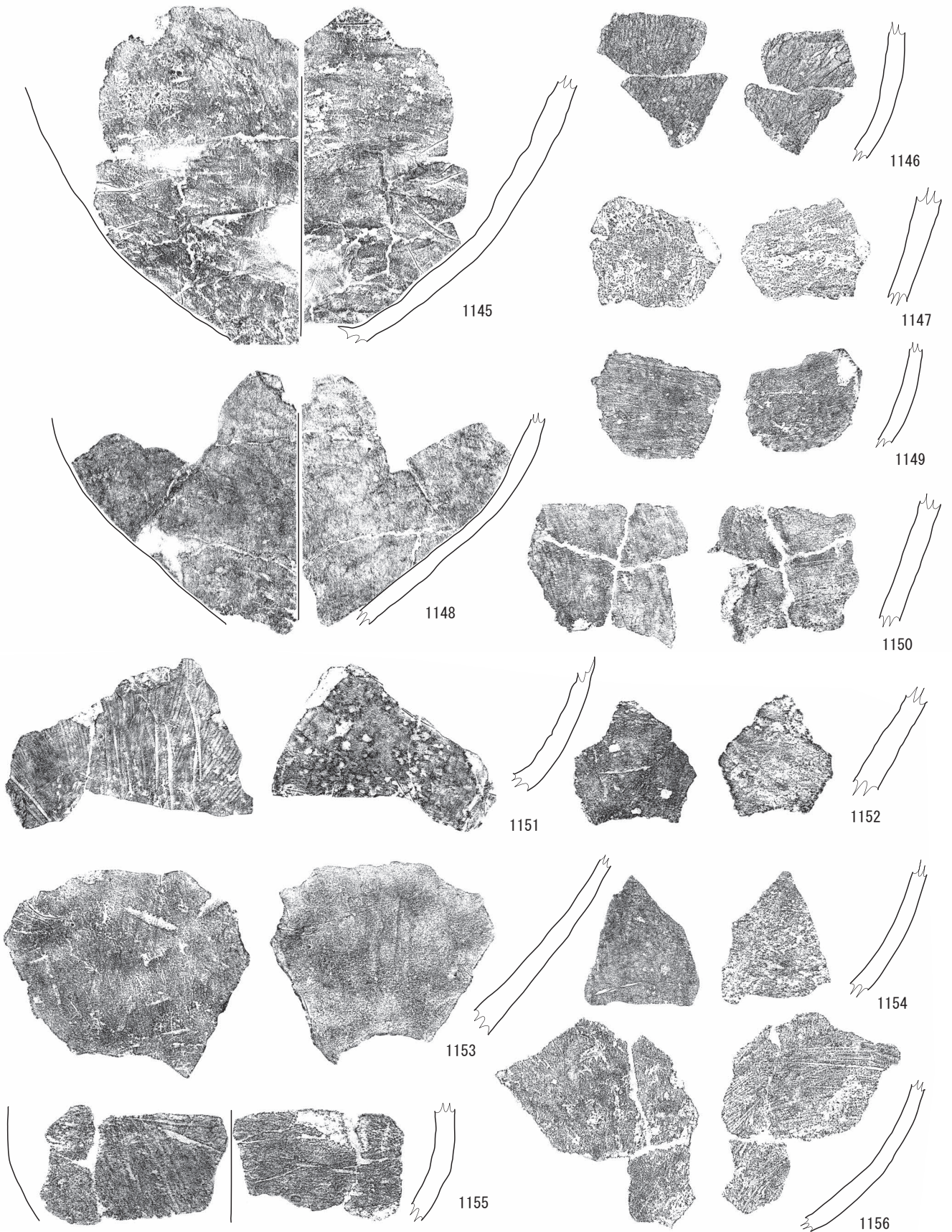
第317図 無文土器【粗製】(3)





第318図 無文土器【粗製】(4)

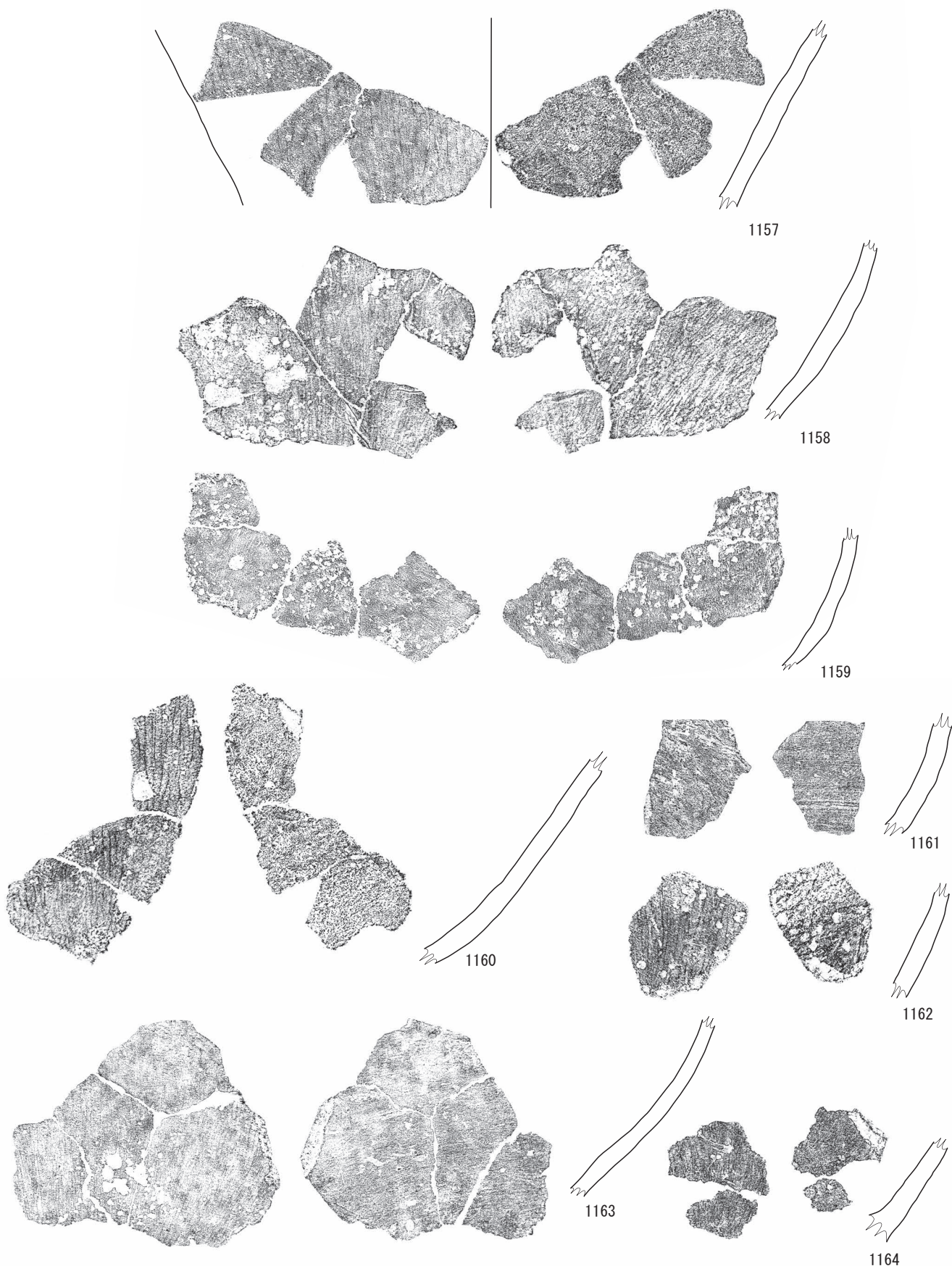




第319図 無文土器【粗製】(5)

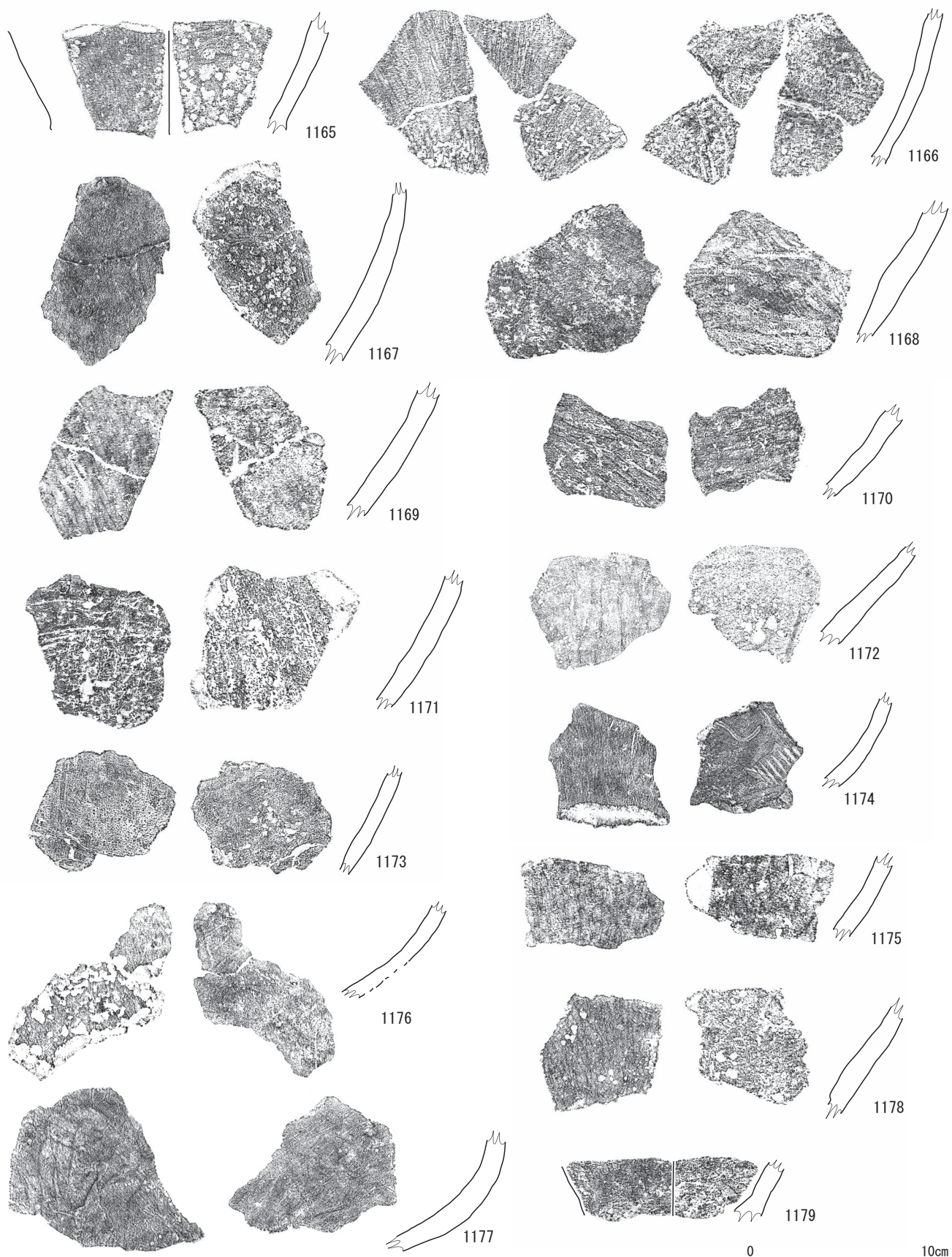
0 10cm  
[1:3]





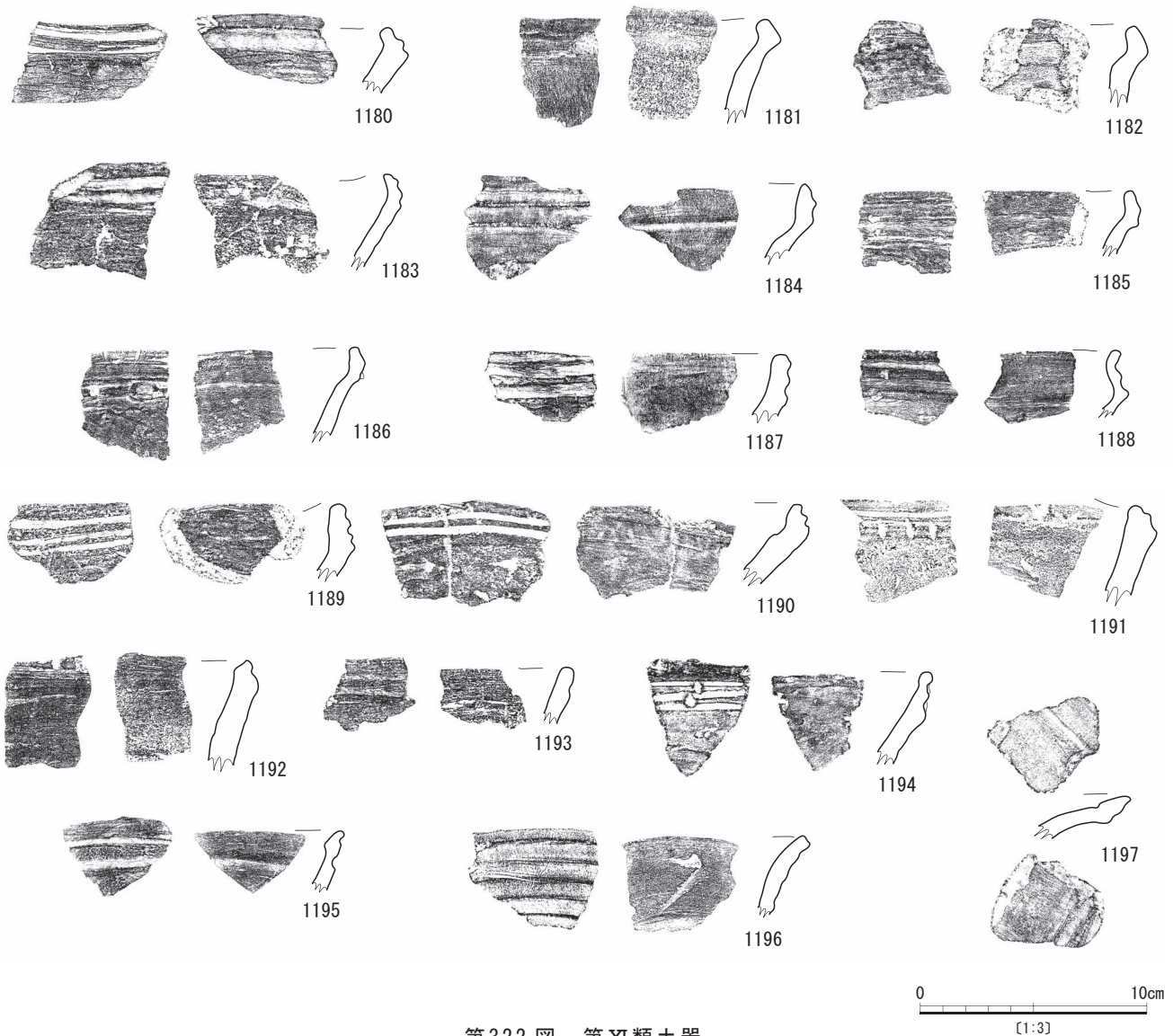
第320図 無文土器【粗製】(6)





第321図 無文土器【粗製】(7)





第322図 第Ⅻ類土器

底部に至る。頸部や屈曲部に凹線や半月状の凹点などを施す。調整は内外面共に丁寧にヘラミガキが施される。

1198～1211は口縁部で、2条の凹線が巡る。1198～1200と1211は口縁部の内側に凹線が明確に入り、1198の口縁部はやや内傾し、外面にはススが一部付着する。1201～1210は口縁部の内側の凹線が浅い。1206は2条の凹線が入っている文様帯が他と比べ広く、口唇部は断面三角形に作られている。1207は上の凹線と比べ下の凹線は深く入り沈線状になっている。1209は口唇部の上端を意図的に外に張り出させるように、凹線状の文様を施しながら調整して作られたと考えられる。1211の口縁部は直口し、内側の凹線の幅は他と比べやや広い。

1212～1219は胴部である。1212は胴部の屈曲が強く、沈線状の凹線が2条巡る。器壁はb類と比べ薄い。1213・1214・1218は屈曲部に凹線が巡る。1215・1217は沈

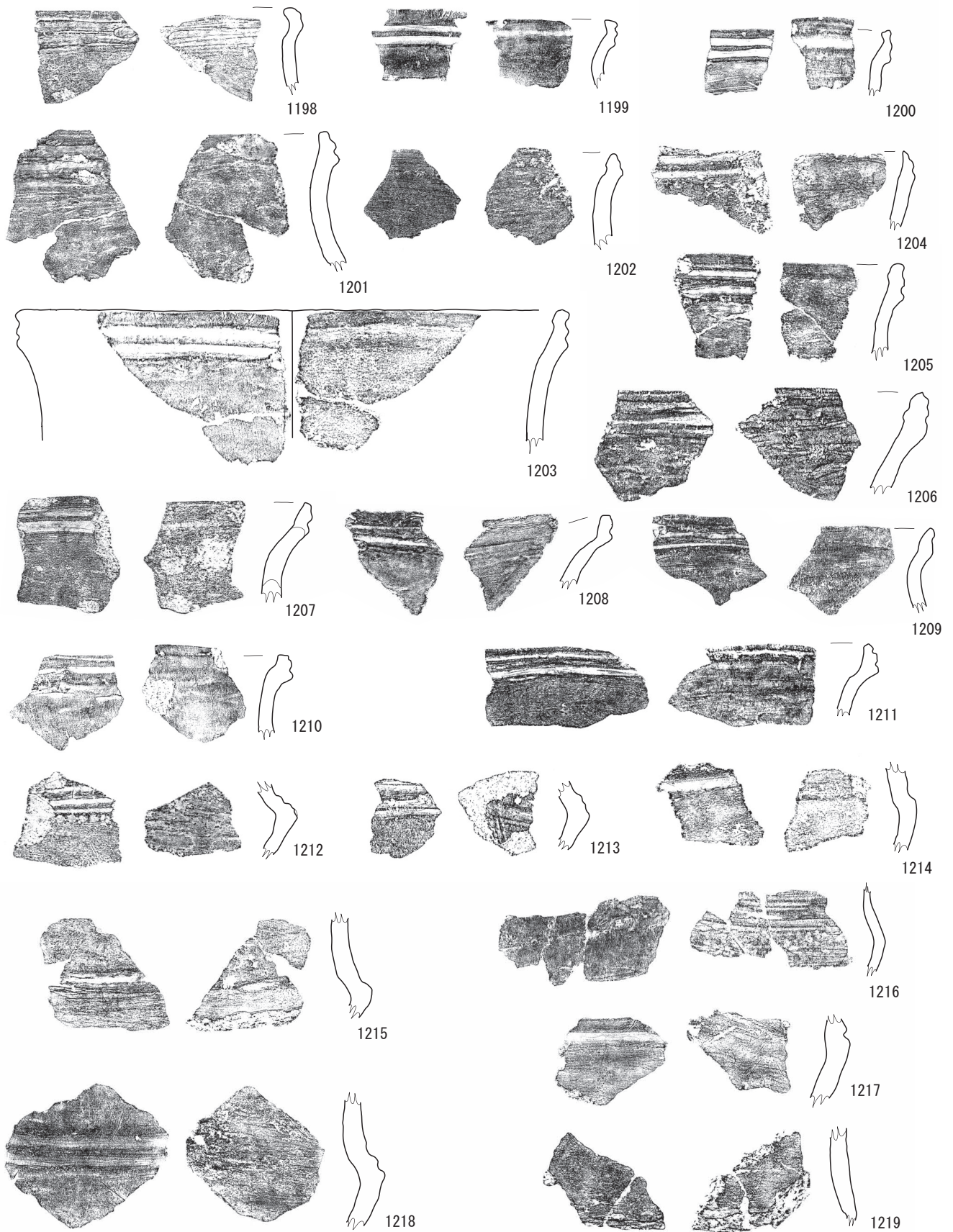
線状の凹線が屈曲部に巡り、肩が張る器形である。1216は「く」の字状に屈曲するものの沈線や凹線は入っていない。

#### 第Ⅻ-b類 (第324・325図 1220～1253)

肥厚した口縁部が外反し2条の凹線・沈線が巡る。胴部に段を作って、丸い肩から直線的に窄まり小さな底部に至る。肥厚した口縁部の外面とやや膨らんだ胴部に沈線文や凹点を施す。内外面は丁寧にヘラミガキが施される。器壁は厚い。口縁部が大きく外反する浅鉢形土器が伴う。a類と比べると口縁部の外反と、胴部の張り出しが明確である。

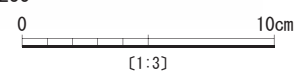
1220～1235は口縁部である。1220・1227は丸い端部をもち、凹線が施される。1221～1225・1228は口縁部の上端に面をもち、1221～1225は口縁端部の形が方形を呈するものである。1226は断面が三角形で、凹線は浅く巡り幅も狭い。1229は肥厚した口縁部をも





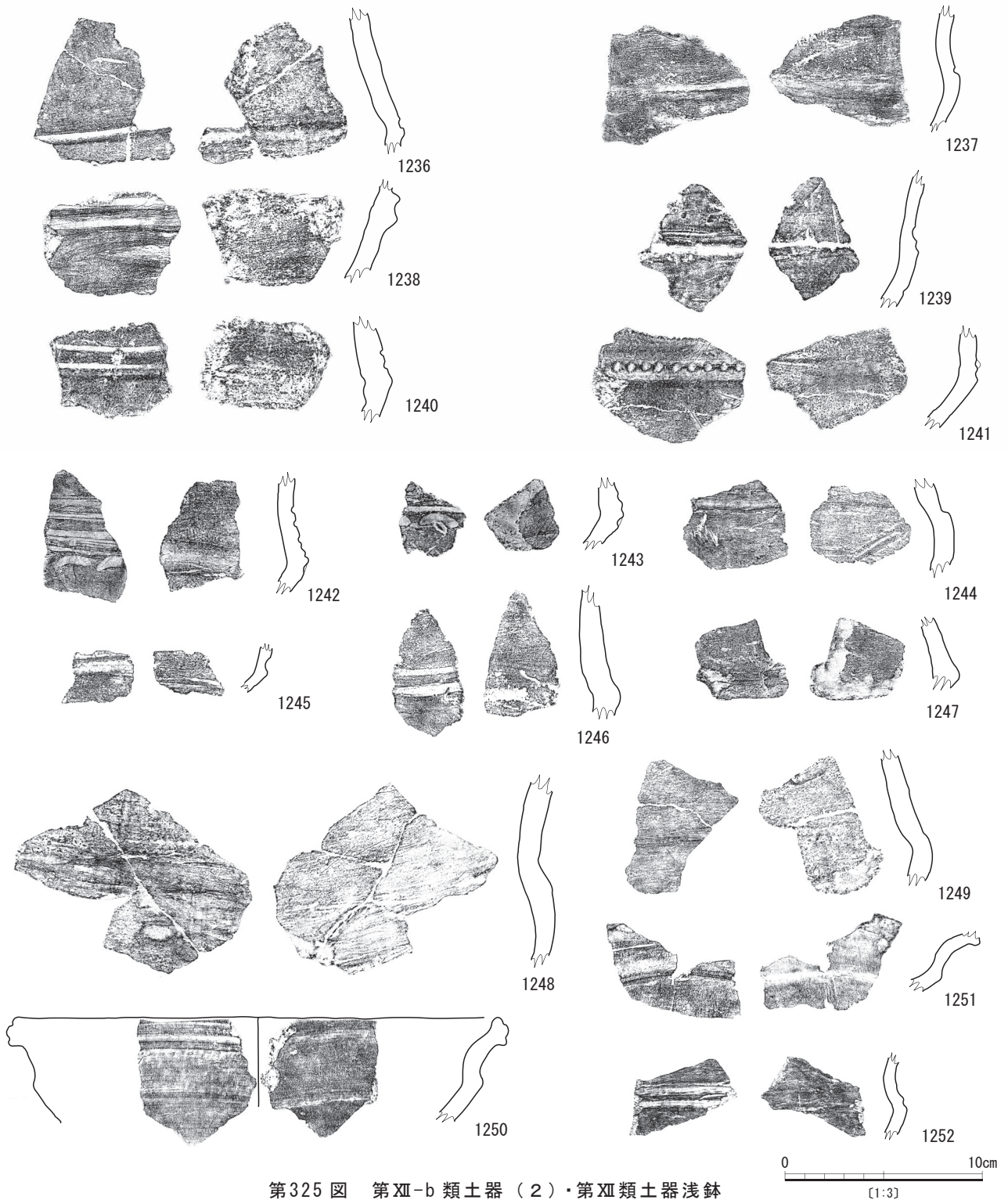
第323图 第Ⅳ-a类土器





第324 図 第Ⅷ-b類土器 (1)





第325図 第Ⅶ-b類土器(2)・第Ⅶ類土器浅鉢

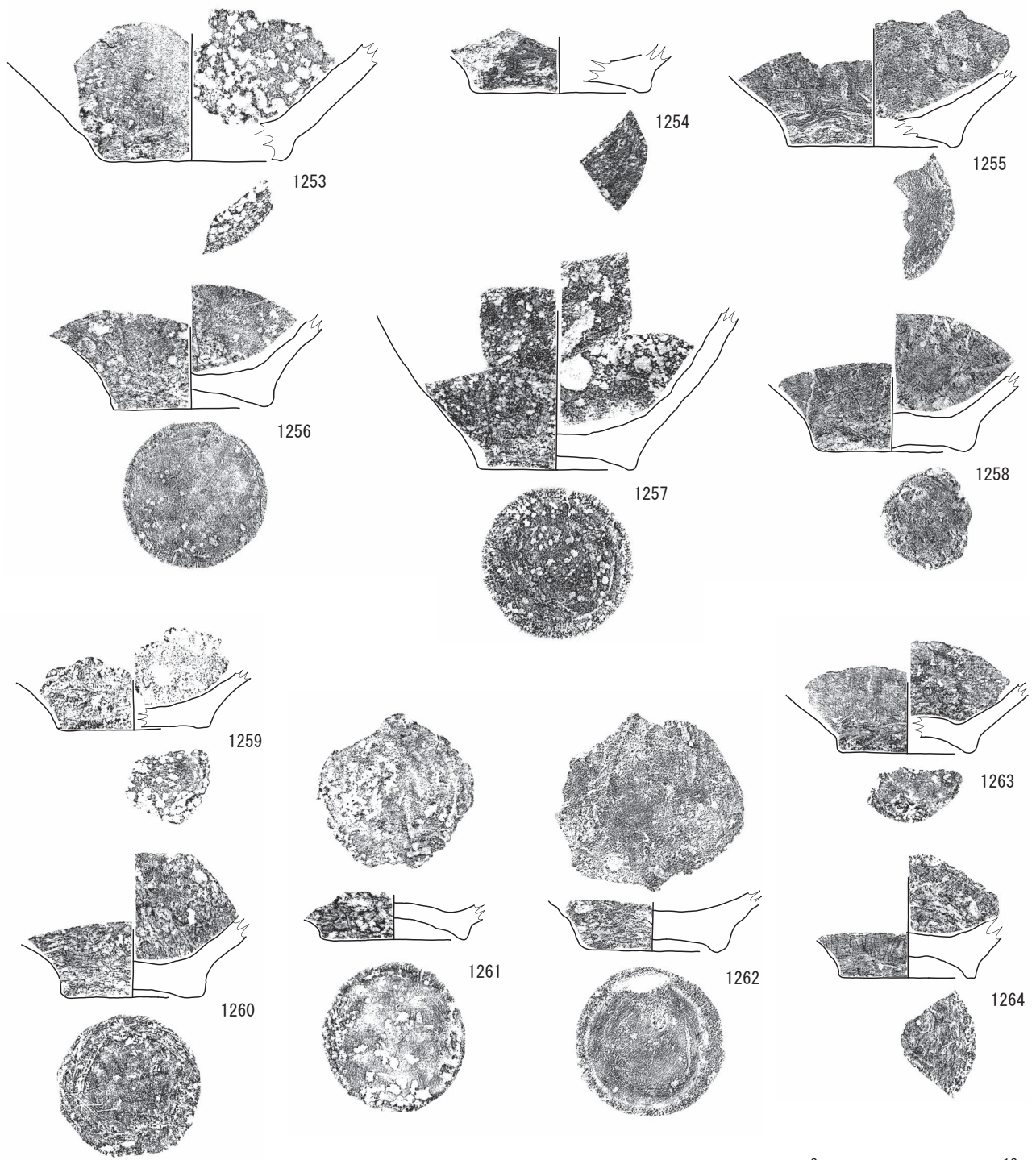
ち、凹線は明瞭に入っていない。1230・1233は沈線状、1231・1234・1235は凹線が薄く施され、凹線の幅も狭い。1232は口縁部の平坦面に2条沈線を施す。

1236～1249は胴部である。1236・1237・1239・1240・1243・1249は沈線状の凹線が屈曲部下に巡り、1236・1237内面は屈曲部を作り出すために凹線状に整形されている。1238・1241・1244～1246は凹線が巡る。1242

は屈曲部の上部に沈線が5条巡る。

1250～1252は第Ⅶ類の深鉢に伴うと考えられる浅鉢形土器である。深鉢と同様に器壁がやや厚く、胎土も赤黒い色調を呈する。内外面とも丁寧にヘラミガキされている。1250・1251は頸部の屈曲が強く、肩の張り出しが強調されている。1253は胴部の屈曲部上部に沈線が1条施されている。





第326図 底部（1）

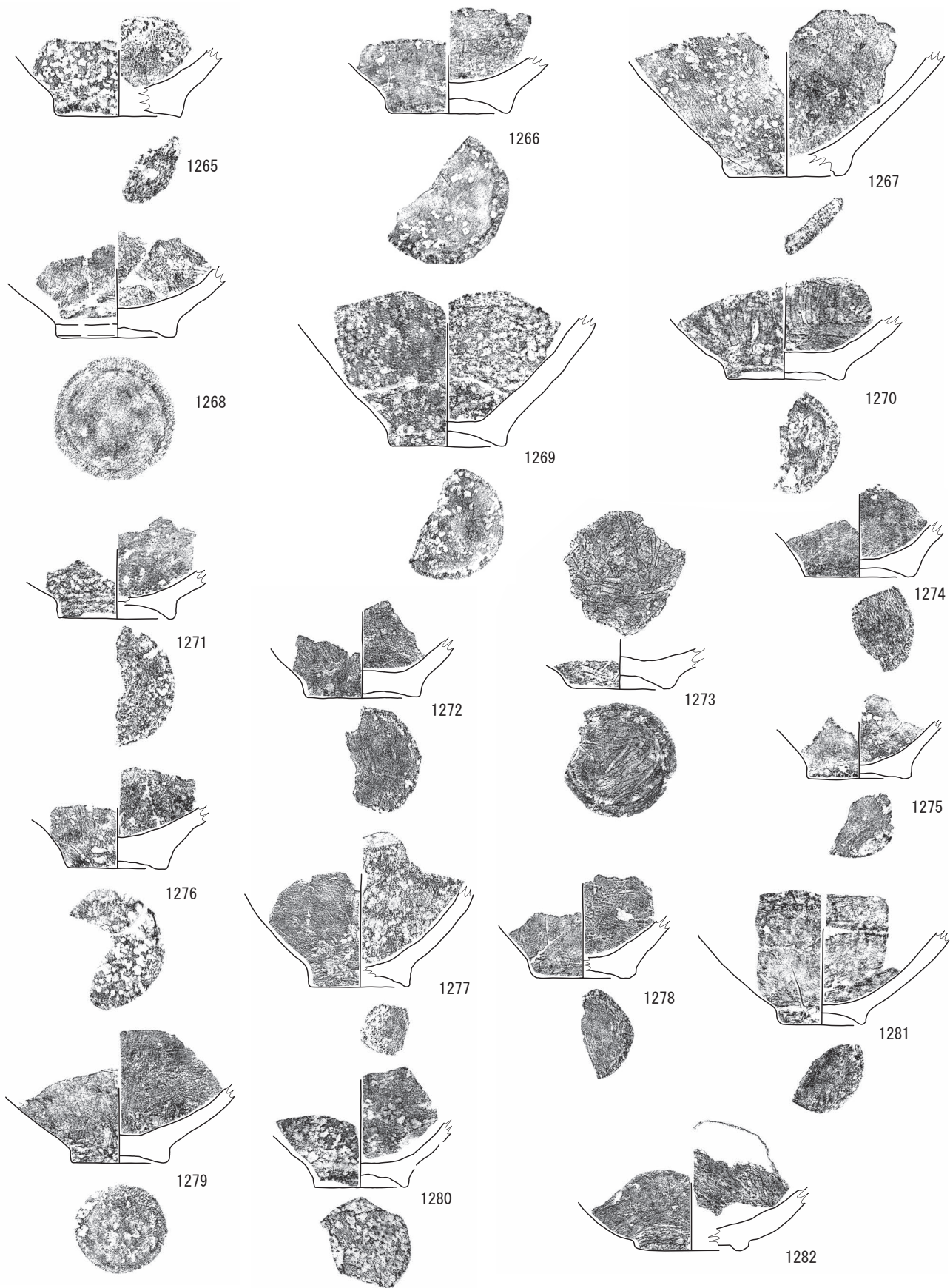
底部（第326～330図1253～1316）

ほとんどが深鉢の底部と考えられ、上底になるものと平底になるものがあり、内面にはコゲが多量に付着するものがある。上底のものは円盤状の底部に胴部を積み上げていく円盤貼り付けのものと、平底に粘土を貼り付けて上底にするものがある。

1253～1285は上底の底部である。底部と胴部の境で緩やかに屈曲し、胴部はやや外に開きつつ丸みを帯

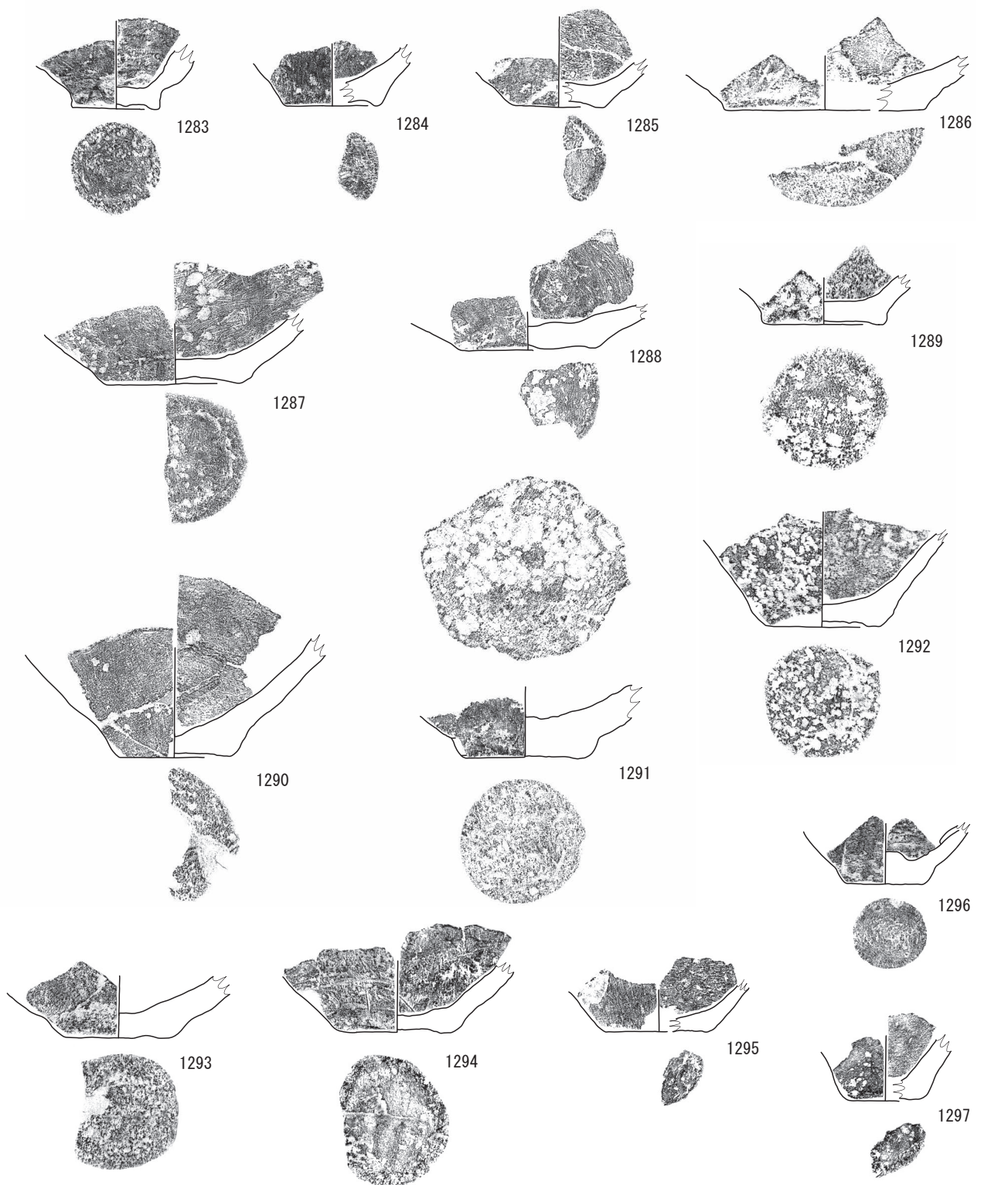
びながら立ち上がる器形である。1253は上底の高台部を残して底部が欠けている。外面は縦ミガキ調整である。1254は円盤貼り付けの底部である。1255も円盤貼り付けの底部で、内外ともミガキ調整である。1256は胴部がほとんど同じ高さで割れており、端部は丸みを帯びている。意図的に割ったものか、輪積み部分で割れたのか不明であるが、底部を再利用している可能性がある。内面にはコゲが多量に付着する。1257は一部胴





第327图 底部(2)





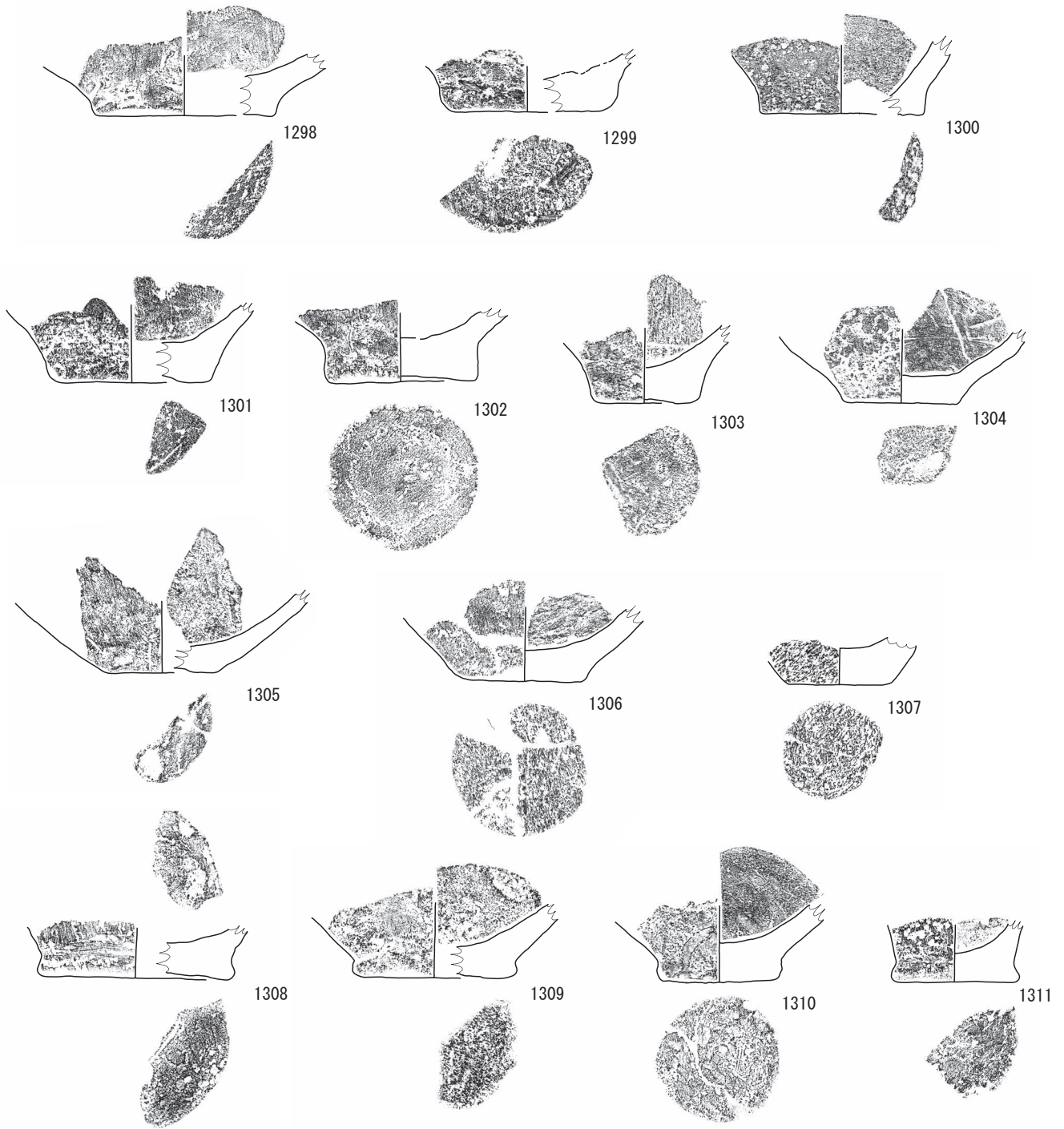
第328図 底部（3）

0 10cm  
[1:3]

部片が接合するが、底部は1256と同様の様子が観察できる。内面にコゲが付着する。1258も1256・1257と同様の様子が観察できる。底部内面はやや盛り上り、工具痕が明瞭に残る。また工具痕内にコゲが多く付着する。1259は上底がやや弱い。底部外面は直線的に外へ

開く。外面は剥落により不明瞭ではあるが、一部ミガキ調整が観察できる。1260は円盤貼り付けの底部である。1256～1258と同様の様子が観察できる。内面に底部と胴部の接合時に付いたと考えられる指オサエの痕が明瞭に残る。1261は底部内面がやや盛り上がる。底部外面



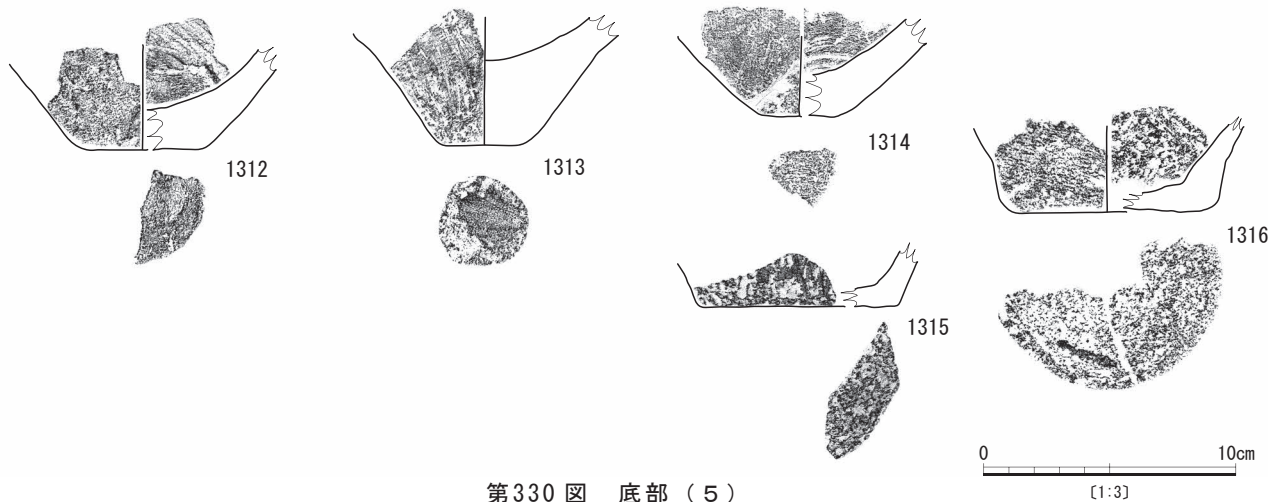


第329図 底部（4）

はミガキ調整である。1262～1264は円盤貼り付けの底部である。1262は輪積みの際に円盤の外まで粘土を巻いている。1263は、1256～1258、1260と同様の様子が観察できる。底部内面は盛り上がり、コゲが付着する。1264は底部内面が平坦である。1265は全体的に摩滅が激しく不明瞭であるが、一部ミガキ調整が観察できる。1266は内外ともミガキ調整である。1267は上底の高台部を残して底部が欠けている。外面は縦ミガキ調整で

ある。1268の底部内面には小さな粘土塊が貼り付いている。1269は円盤貼り付けの底部である。内面の剥落が激しい。1270は内外とも整形が粗く表面が凹凸している。1271は平底に粘土を貼り付けて上底にしている。底部は中心に向かって薄くなり、中心で厚さ4mm程になる。1272は底部内面がわずかに盛り上がる。外面は丁寧なミガキ調整である。1273は上底の接地面が幅広で、胴部に向かって大きく外へ開く器形である。底部内





第330図 底部（5）

面はやや盛り上がる。内外ともに丁寧なミガキ調整で、接地面も丁寧に調整され光沢を帯びる。1274は平底に粘土を貼り付けて上底にしている。1271と同様に底部は中心に向かって薄くなり、中心で厚さ5mm程になる。外面は縦ミガキ調整である。1275は内外ともにミガキ調整である。1276の外面は縦ミガキ調整であるが、底部の剥落が激しい。1277は平底に粘土を貼り付けて上底にしている。接地面は狭く、尖るように調整されている。1278の外面は縦ミガキ調整である。1279は円盤貼り付けの底部であり、接地面は三日月状に幅広となっている。1280は内外ともに剥落が激しく調整が不明瞭である。1281は平底に粘土を貼り付けて上底にしている。接地面は狭く、やや尖るように調整されている。また、高台部は色調が異なり、にぶい赤褐色を呈する。1282も平底に粘土を貼り付けて上底にしている。胴部に向かって外へ開きつつ、丸みを帯びながら立ち上がる器形である。1283～1285は底径が5cm以下の小型の底部である。1283は高台状の平底に粘土を貼り付けて、指でつまみだすようにして上底にしている。外面はミガキ調整であるが、器面は凸凹している。内面は胴部と底部の接合部の指オサエの痕が明瞭に残る。1284・1285は中央がやや凹む底に粘土を貼り付けて上底にしており、外面はどちらもミガキ調整である。

1286～1294は平底に粘土を貼り付けることでわずかに上底になる底部である。接地面は丸みを帯び、底径が大きなものは幅広で、底部から胴部に向かって外へ開きながら立ち上がる器形である。1286は復元径が10.4cmと大きなもので、胎土中に雲母を多く含む。1287は上底の粘土貼り付け後の調整が粗く、貼り付け痕が明瞭に残る。内面にコゲが付着する。1288は底部から胴部へ向かって大きく開く。内外ともにミガキ調整である。1289は内面にコゲが多量に付着する。1290の外面は縦ミガキ調整で、底部は摩滅が激しい。1291は全体に厚

みがあり、重量感がある。1292は内外とも剥落が激しい。底部内面を中心として円状にコゲが多量に付着する。1293は内外とも摩滅が激しい。胎土中に雲母を多く含む。1294も胎土中に雲母を多く含む。

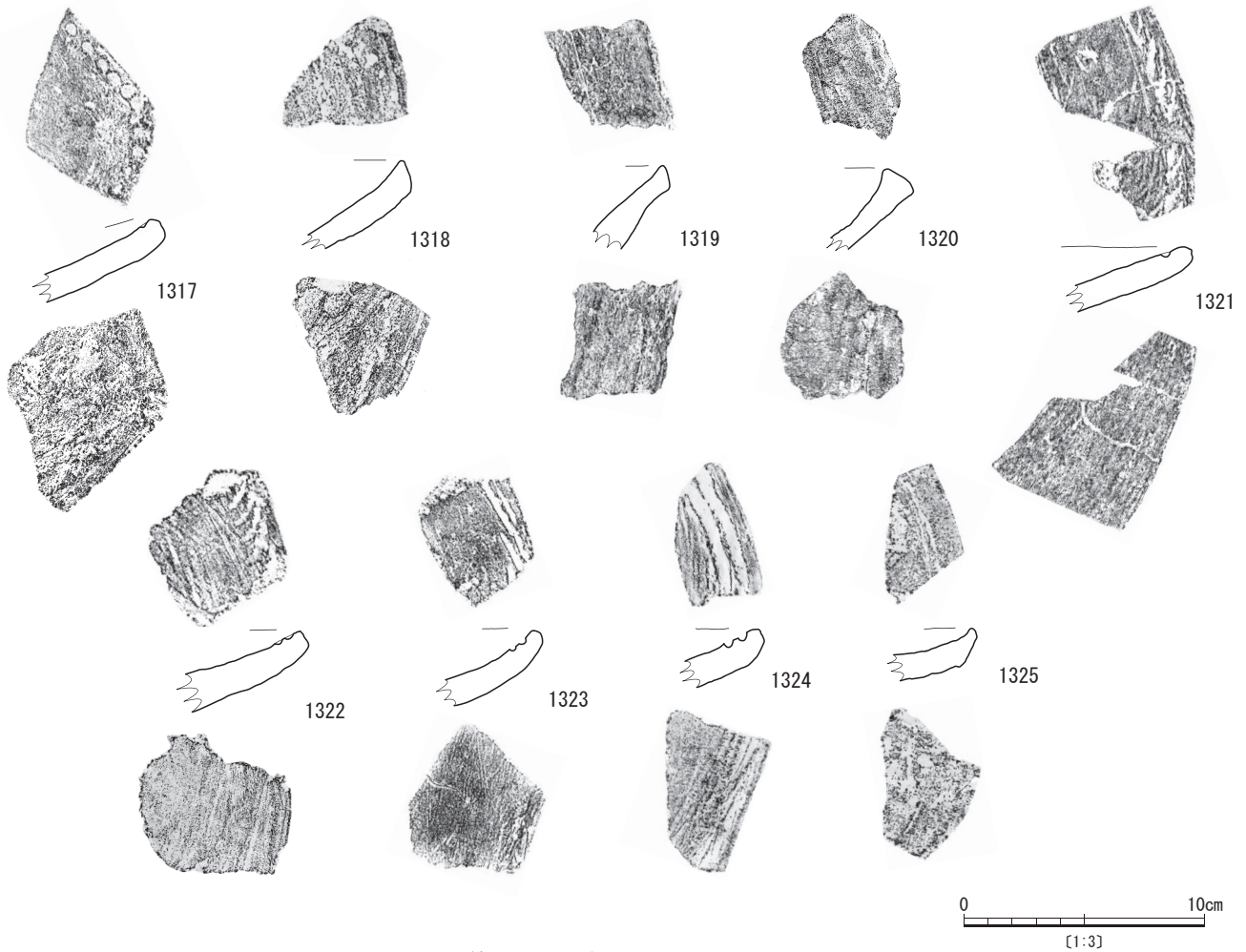
1295～1297は底径5.5cm以下の小型の底部で、底縁辺を残して強く調整することにより、わずかに上底になる。1295の外面はミガキ調整で黒褐色を呈する。1296は底部内面が盛り上がる。1297は胎土中に石英を多く含む。

1298～1303は平底で、全体にやや厚みがあり高台状となる。1298は底部と胴部の境で屈曲し、胴部下半から胴部上半に向かって大きく外へ開く器形である。内外ともにミガキ調整で、胎土中に石英を多く含む。1299は底端部が丸みを帯びる。内面は大きく剥落している。1300は剥落が激しいが外面はミガキ調整で、内面にはコゲが付着する。1301は底がわずかに丸みを帯びており、やや不安定である。1302は底部から胴部に向かって直線的に立ち上がる器形である。底の中心はやや凹んでいる。内面は大きく剥落するが全体的に厚みがあって安定しており重量感がある。1303は底部から胴部に向かって緩やかに外反しながら立ち上がる器形である。胎土中に雲母を多く含む。

1304～1307は平底で、底部から胴部に向かって外に大きく開きながら立ち上がる器形である。1304は底部内面が平坦である。1305・1306は摩滅により不明瞭であるが、外面に一部ミガキ調整が観察できる。1307は内外ともに摩滅により器面の状態が不明瞭である。

1308～1311は底端部が外へ張り出す平底である。1308は底の中心がやや凹む。外面はくびれ部を意識的に調整しているようで一部屈曲が強くなる。1309はくびれ部の指オサエが強く残る。1310は底がやや丸みを帯びるため、若干不安定である。外面はくびれ部の指オサエの痕が残るが、内面はナデにより丁寧に調整されて





第 331 図 台付皿形土器 (1)

いる。また、内面にはコゲが少量付着する。1311 は底部と胴部の境が緩やかに屈曲する。

1312 ~ 1314 は小さな底部からやや外へ開きながら直線的に立ち上がる器形である。1312 は摩滅により一部不明瞭であるが、内外ともミガキ調整が観察できる。1313 は底部が大きく肥厚する。外面は縦ミガキ調整で、内面にはコゲが多量に付着する。1314 は底まで丁寧に調整されている。

1315・1316 は底部が肥厚せず、外面は底部から胴部に向かってやや外へ開きながら立ち上がる器形である。底部内面は平坦であり、底部と胴部の境が緩やかに屈曲する。1315 は内外ともに剥落しているが、外面には一部ミガキ調整が観察できる。1316 は底の中心がやや凹んでいる。また、残存率が悪いため不明瞭だが、中央は外面から円形に打ち欠いているように観察できる。

台付皿形土器 (第 331 ~ 335 図 1317 ~ 1367)

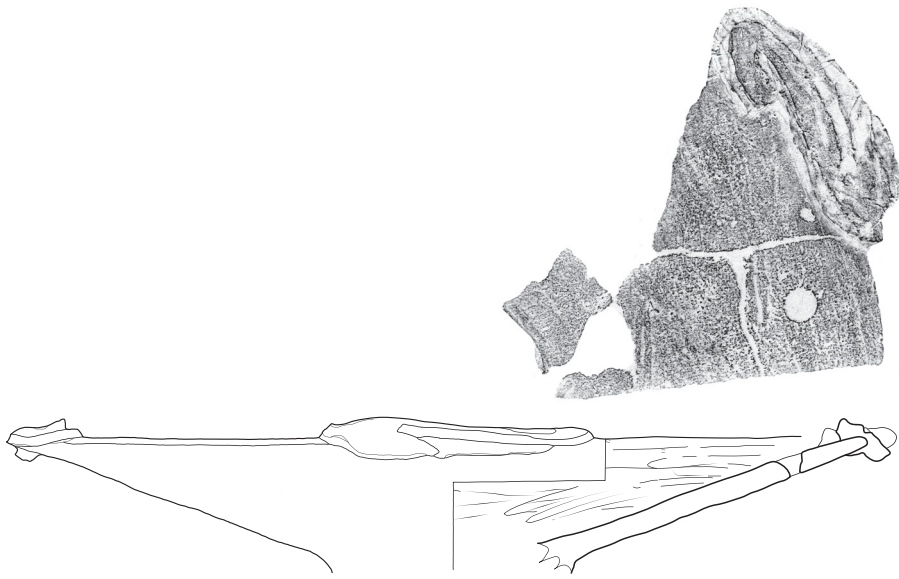
第Ⅲ類土器から第Ⅵ類土器の時期に伴うと考えられる台付皿形土器が出土している。口縁部のみの破片がほとんどで、全体的な器形が判然としないものが多い。口唇部が直線的で、方形の口縁を呈すると考えられるものを

第Ⅲ類土器、貝殻腹縁文を施文するものや胎土中に雲母が顕著に含まれるものを第Ⅳ類土器、口縁端部に S 字状の突起を貼り付けるものや沈線文を施文するものを第Ⅵ類土器に伴うものとして分類した。その他は内面の施文の有無や、口縁部の開き方等から台付皿形土器と考えられるものを報告する。

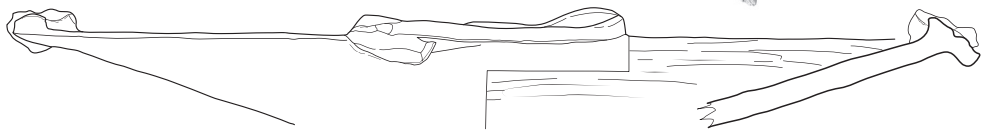
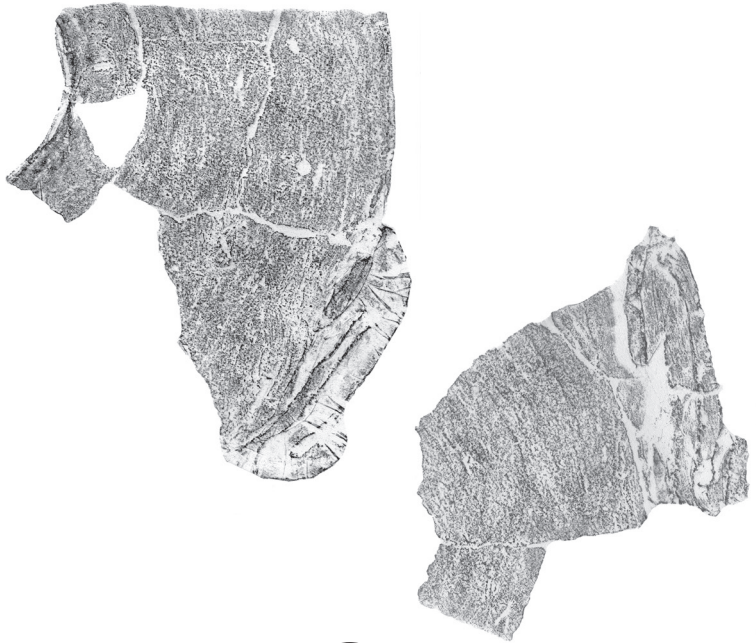
1317 ~ 1320 は口縁部で、第Ⅲ類土器に伴うと考えられる。1317 は方形の頂点が残存している。口縁端部は角が取れた矩形で、内面に連続刺突文を施文する。内面はミガキ調整である。1318 は口縁端部に向かってやや丸みを帯びる。胎土中に石英を多く含む。1319 は口縁端部に向かってわずかに外反し、断面三角形に厚みをもつ。外面の調整は粗いが、内面は丁寧なミガキ調整である。1320 は口縁端部に向かって厚みが増し、口唇部は平坦で幅広である。胎土中に雲母を多く含む。

1321 ~ 1325 は口縁部で、第Ⅳ類土器に伴うと考えられる。1321 は口縁端部に向かって直線的に外へ開く器形である。内面の口縁端部に貝殻腹縁文を施文する。1322 ~ 1325 は口縁端部に向かってやや丸みを帯びる器形である。1322 は口縁端部が矩形で、内面に貝殻腹縁

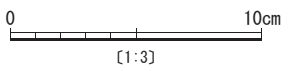
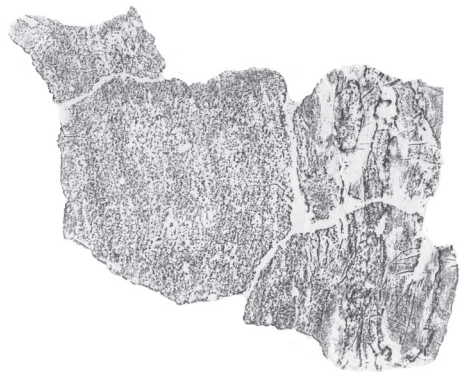




1326

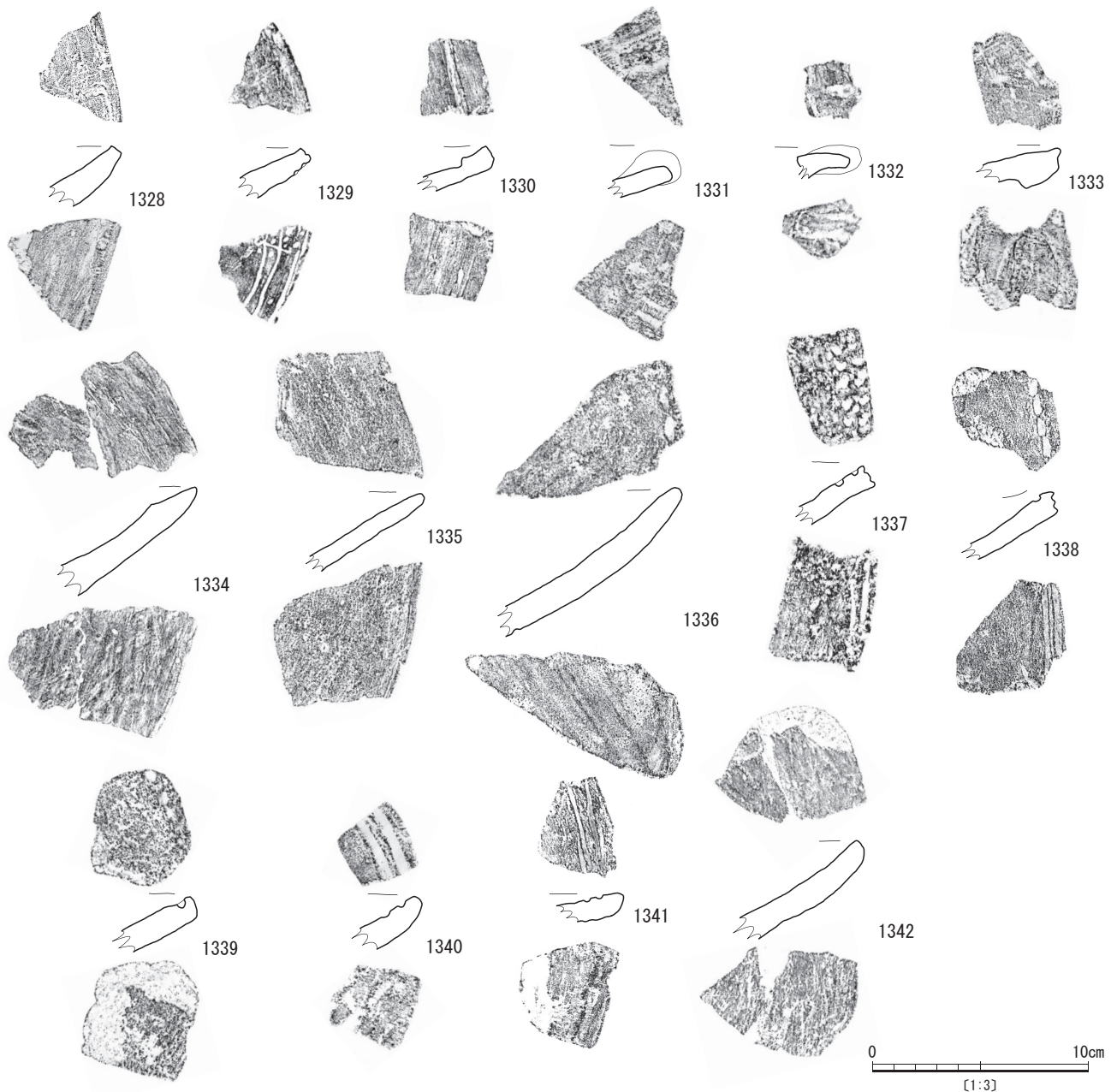


1327



第 332 图 台付皿形土器 (2)





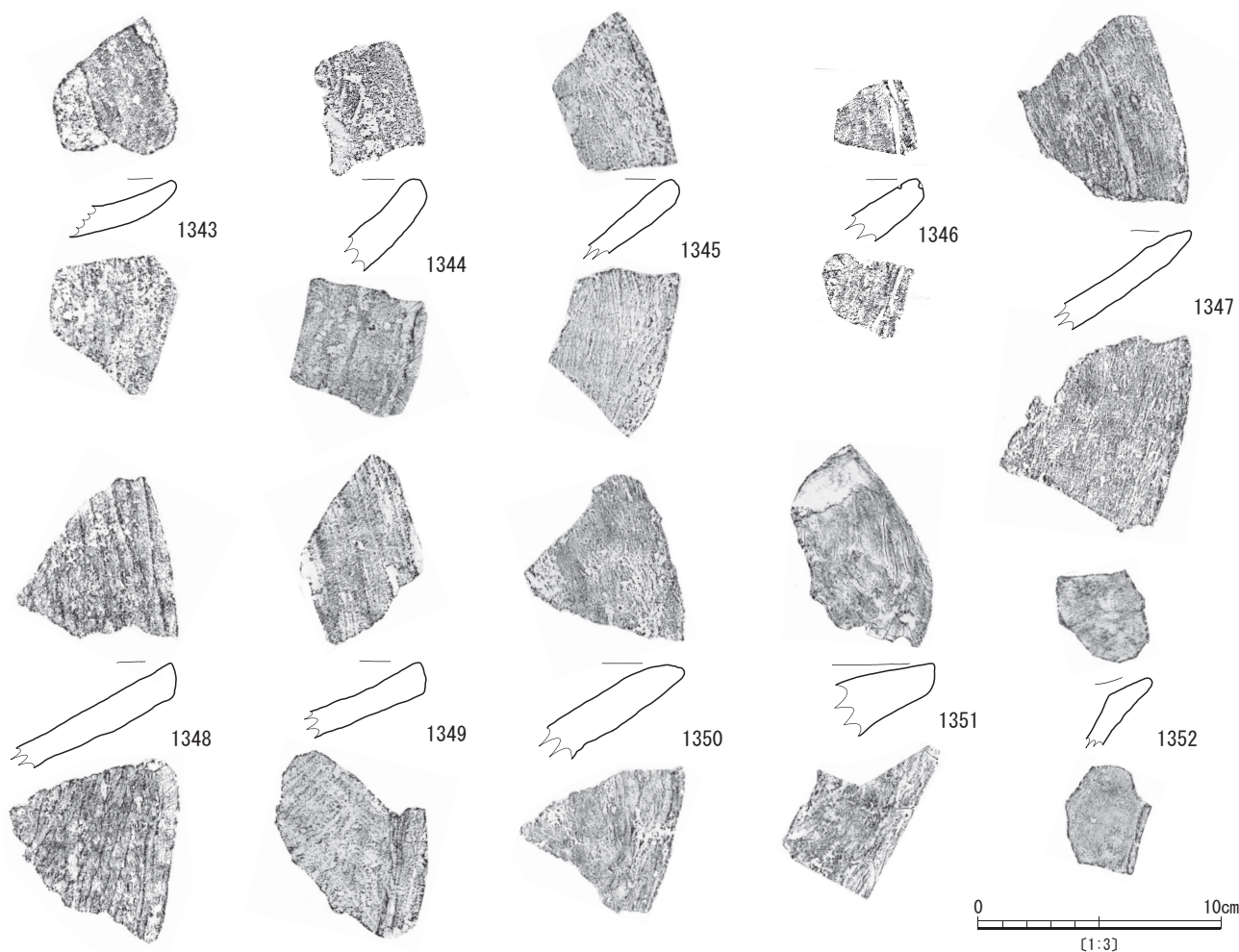
第 333 図 台付皿形土器 (3)

文を施文する。胎土中に雲母を多く含む。1323 は内面に短沈線を 2 条施文する。1324 は内面に 2 段の押し文を施文する。器面状況から時計回りに施文したと考えられる。1325 は胎土中に雲母を多く含む。

1326 ~ 1335 は第 VI 類土器に伴うと考えられる。1326 と 1327 は同一個体である。脚部と胴部の境から口縁部までの破片で、口縁端部に向かって直線的に外へ大きく開く器形である。口径は約 34 cm である。口唇部に突起が貼り付けられており、S 字状のものとひねり状のものがある。また、1 か所内面からの穿孔が観察できる。焼成後に穿孔されたもので、補修孔の可能性はあるが、欠損により 1 か所しか確認できないため判然としない。内

外ともにミガキ調整である。

1328 ~ 1335 は口縁部である。1328 は内面に横 L 字状の沈線を施文する。1329 は口唇部と外面に文様が施文される。口唇部は沈線と刺突を施文する。外面は横位沈線施文後、縦位沈線で区画を作り、その中に刺突による列点文を施文する。1330 は口縁端部で粘土を折り返すため厚みを帯びる。折り返し後の調整は粗く段が残る。1331 は矩形の口縁端部に、突帯を縦に 2 条貼り付けている。1332 も口縁端部に突帯を縦に貼り付けている。内面はミガキ調整である。1333 は内面に横楕円状の突起を貼り付けている。胴部から口縁端部にかけて段を伴うようであるが、残存率が悪いため不明瞭である。口縁



第 334 図 台付皿形土器 (4)

端部の整形は粗く、器面調整も全体的に粗い。1334 は口縁端部内面に稜をもつ。1335 は直線的に外へ開く器形である。器壁はやや薄く、内外ともにナゲ調整である。

1336～1339 は口縁端部内面に連続刺突文を施文する口縁部である。1336 は楕円形の連続刺突文を施文する。内外ともに摩滅が激しい。1337 は連続刺突文を 2 段施文する。刺突文が三日月状であることから、管状のものを半裁した工具で施文したと考えられる。口唇部には沈線を 2 条施文する。1338 は横長の連続刺突文を施文する。刺突文の横断面が三角形であることから、刺突箇所を始点にして左右に押し広げるようにしたと考えられる。口唇部には沈線を 2 条施文する。胎土中に雲母を多く含む。1339 は円形の連続刺突文を施文する。

1340～1342 は口縁端部内面に沈線を施文する口縁部である。1340 は沈線を 2 条施文する。沈線は幅広で凹線に近い。1341 は短沈線を 2 条施文する。胎土中に雲母を含む。1342 の内面はミガキ調整である。

1343～1352 は無文の口縁部である。1343～1346 は口縁端部に向かってやや丸みを帯びる器形である。1343

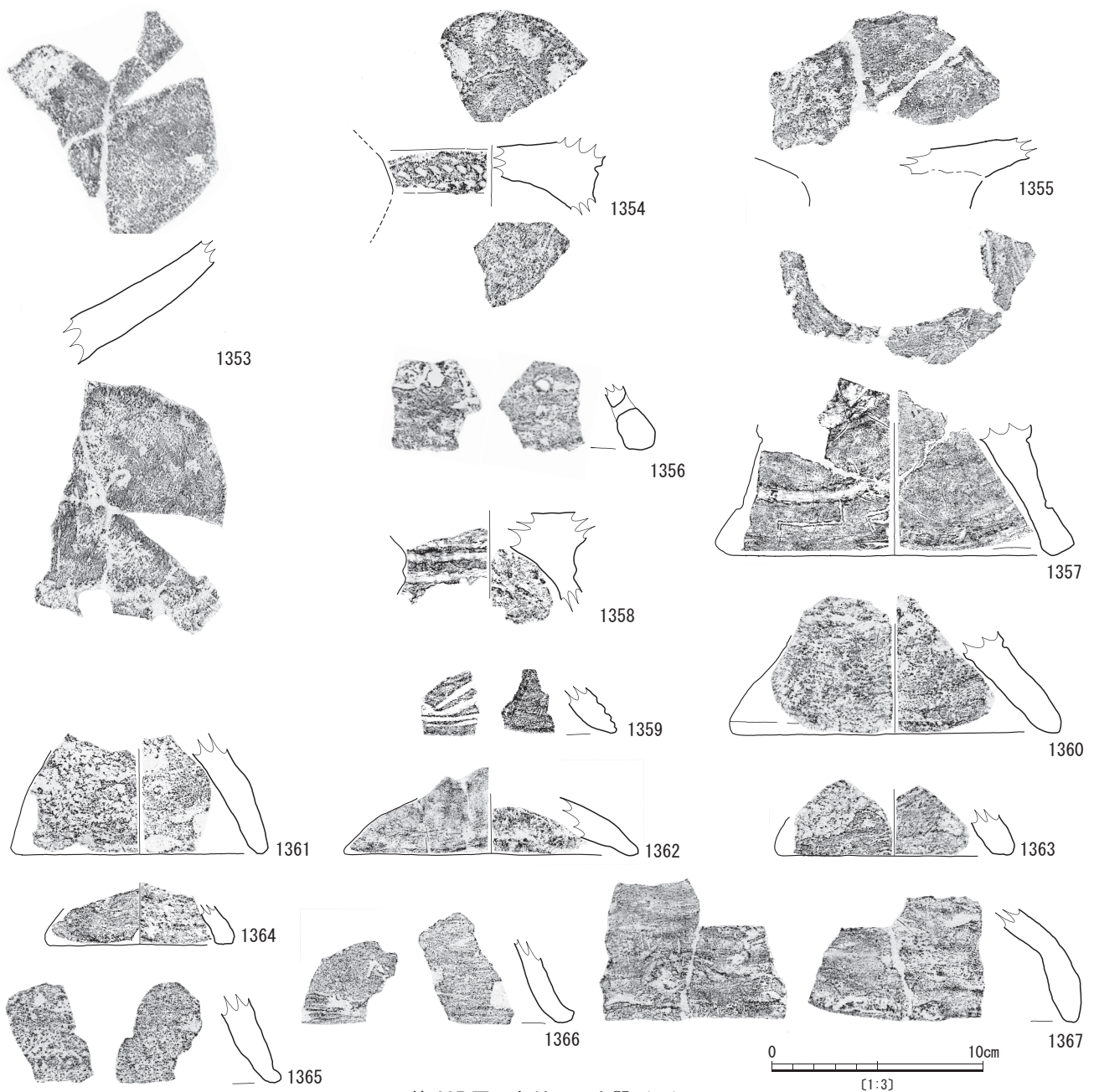
の内面はミガキ調整である。1344 は外面の調整が粗い。1345 は胎土中に雲母を多く含む。1346 は外面に白色の粉状のものが付着する。1347～1350 は直線的に外へ開く器形である。1347 は口縁端部内面に段をもつ。1348 は内外ともにミガキ調整である。1349 の外面はミガキ調整で、胎土中に雲母を多く含む。1350 は全体的にやや厚みがあるが、口縁端部に向かって薄くなる。口唇部は丸みを帯びるが、一部内面に粘土を貼り付けて矩形の口縁部に行っている箇所がある。

1351 は器壁が厚い。内外ともにミガキ調整であるが、器面に凹凸がある。剥落した把手の可能性もある。1352 の外面は口縁端部に向かってわずかに外反し、内面は「く」の字状に屈曲する。内外ともにミガキ調整である。小型鉢の口縁部の可能性もある。

1353 は胴部である。全体的に器壁が厚く、内外ともに摩滅が激しいが、一部ミガキ調整が観察できる。

1354～1367 は脚部である。1354 は皿部との接合面で欠損している。くびれ部に連続刺突文を 2 段施文する。胎土中に雲母を含む。1355 は皿部の底で、脚部は接合

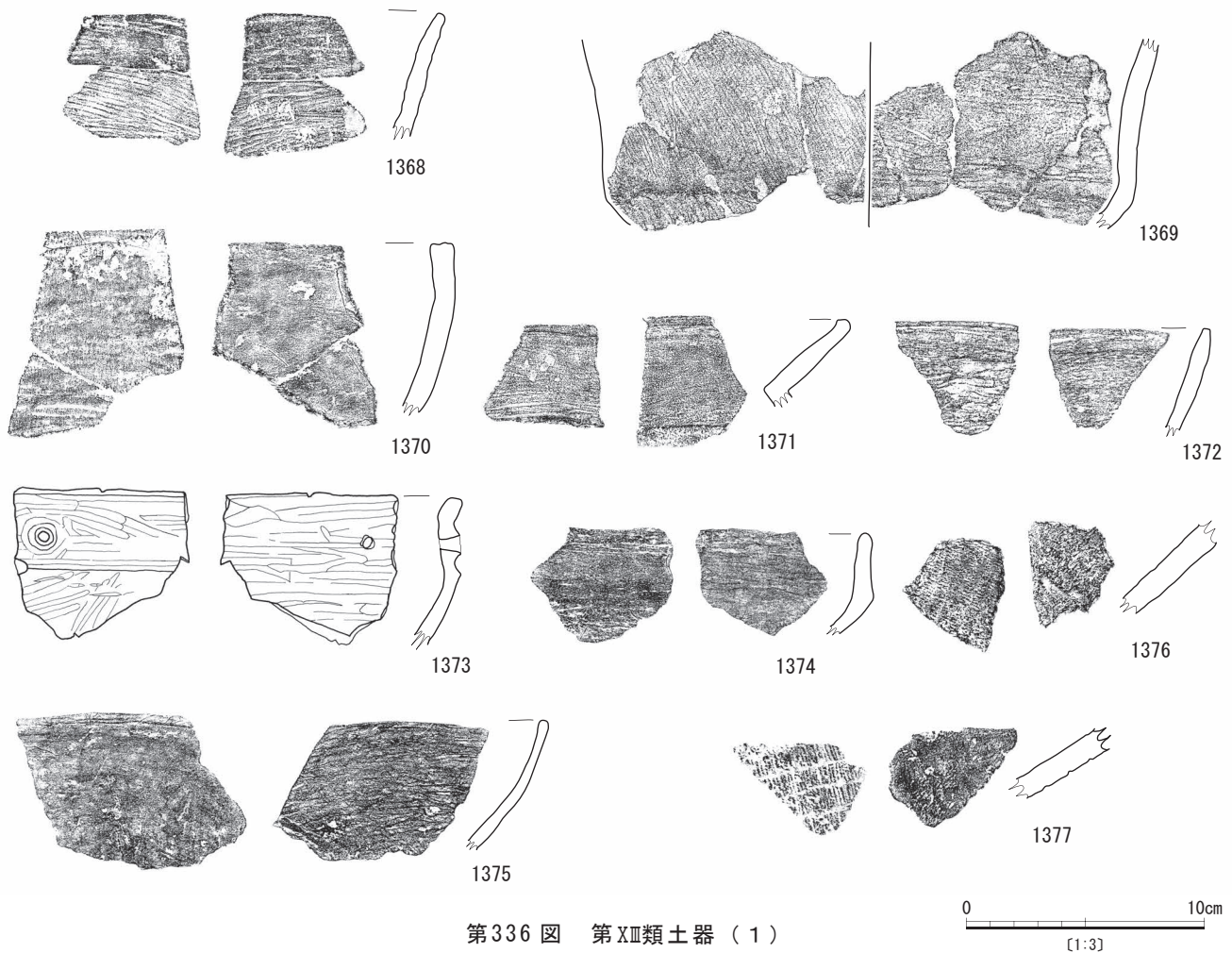




第 335 図 台付皿形土器 (5)

面で剥落している。胴部はわずかに残存しており、外へ向かって大きく開くことから、大型の台付皿形土器と推察される。脚部との接合面は平坦である。胎土中に雲母を含む。1356 は穿孔と、外面に沈線が観察できる。穿孔は円形で穿孔の直径よりも小さな工具を用いて円を描くように穿孔したと考えられる。1357 は全体的に厚みがあり、重量感がある。脚端部から胴部に向かって 2 cm 程の範囲に沈線による L 字状の幾何学文を施文する。また施文範囲は厚みを帯びて、端部で段を伴う。内外ともにミガキ調整である。1358 はくびれ部に 2 条の沈線を巡らす。外面はミガキ調整で内面の調整は粗い。胎土中

に雲母を多く含む。1359 は外面の脚端部に沈線を 2 条巡らし、その上に斜めの沈線を施文する。脚端部の沈線の間に赤色顔料がわずかに付着する。1360 は内外とも摩滅により不明瞭であるが、一部ミガキ調整が確認できる。1361 も摩滅が激しい。整形も粗く表面は凸凹している。胎土中に雲母を含む。1362 は脚部が外に広がる。全体的に厚みがあり、安定感がある。外面は脚端部がナデ調整で内側はミガキ調整である。1363・1364 は胎土中に雲母を含む。1365 は外面が直線的で、脚端部がやや外へ張り出す。内外ともに摩滅が激しく調整は不明瞭である。胎土中に雲母を含む。1366 も脚端部が外へ張



第336図 第ⅩⅦ類土器（1）

り出す。内外ともにミガキ調整である。1367は全体的に厚みがあり、重量感がある。

#### 第ⅩⅦ類土器

縄文時代晩期に該当する土器である。入佐式土器・黒川式土器・刻目突帯文土器が出土している。

#### 入佐式土器（第336図1368・1369）

1368は深鉢の口縁部である。口縁部は直線的であり、口縁端部は矩形を呈する。全体的に薄く、内外ともに貝殻腹縁によるナデ調整である。1369は深鉢の胴部である。胴部は「く」の字状に屈曲し、縁辺部に向かってやや外反しながら立ち上がる。内外ともに丁寧なミガキ調整で、外面の屈曲部より上部にススが付着する。黒川式土器の可能性も考えられる。

#### 黒川式土器（第336図1370～1377）

1370は深鉢の口縁部である。胴部から丸みを帯びながら直線的に立ち上がる。口縁端部は矩形を呈し、やや肥厚する。内外ともにミガキ仕上げである。

1371～1374は浅鉢の口縁部である。1371は頸部で鋭く屈曲し、口縁部は外へ大きく開きながら直線的に伸び、内面には凹線を巡らす。口縁端部は丸みを帯びる。内外

ともに丁寧なミガキ調整である。1372はボウル状の器形となり、口縁端部は丸みを帯びる。内外ともにミガキ調整である。1373は胴部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反しながら立ち上がる。外面の屈曲部は頸部との接合部に沈線を巡らす。頸部は中心に焼成前穿孔を伴う環状浮文がある。内外ともにミガキ調整であり、屈曲部より下にススが付着する。1374も胴部で「く」の字状に屈曲し、口縁部はわずかに外反しながら立ち上がる。口縁端部は丸みを帯びる。

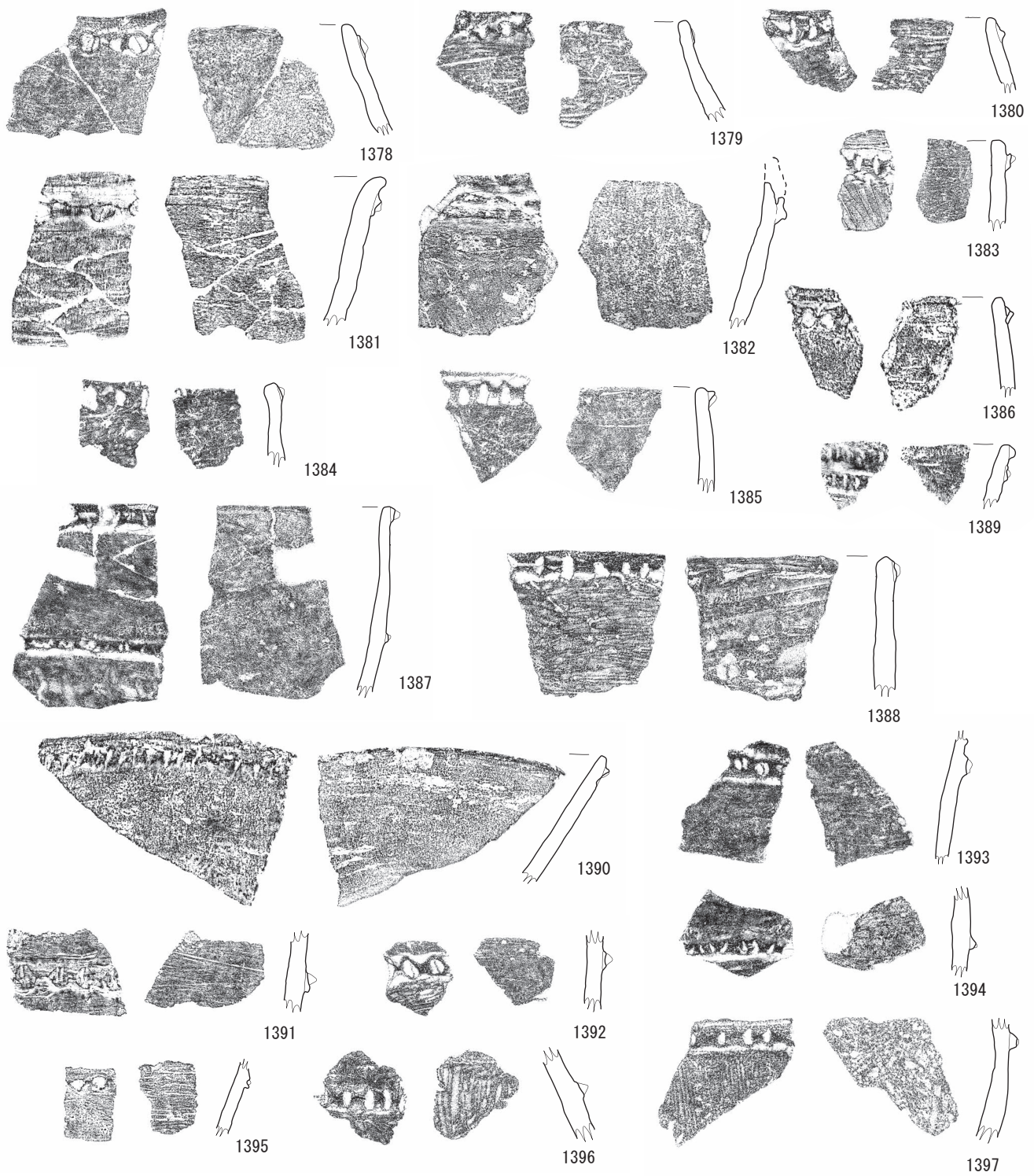
1375はマリ形土器である。全体的に薄い作りで丸みを帯びて、底部から口縁部に向かって外へ広がる器形である。口縁端部は矩形を呈する。内外ともに丁寧なミガキ調整である。

1376・1377は組織痕を残す底部の破片である。1376の内面は摩滅により不明瞭であるが、1377の内面はミガキ調整である。

#### 刻目突帯文土器（第337図1378～1397）

縄文時代晩期のものと弥生時代のものとの区別が難しいが、突帯が巡る位置や器形から判断して縄文時代晩期と想定されるものを報告する。器種は甕形土器と鉢形土





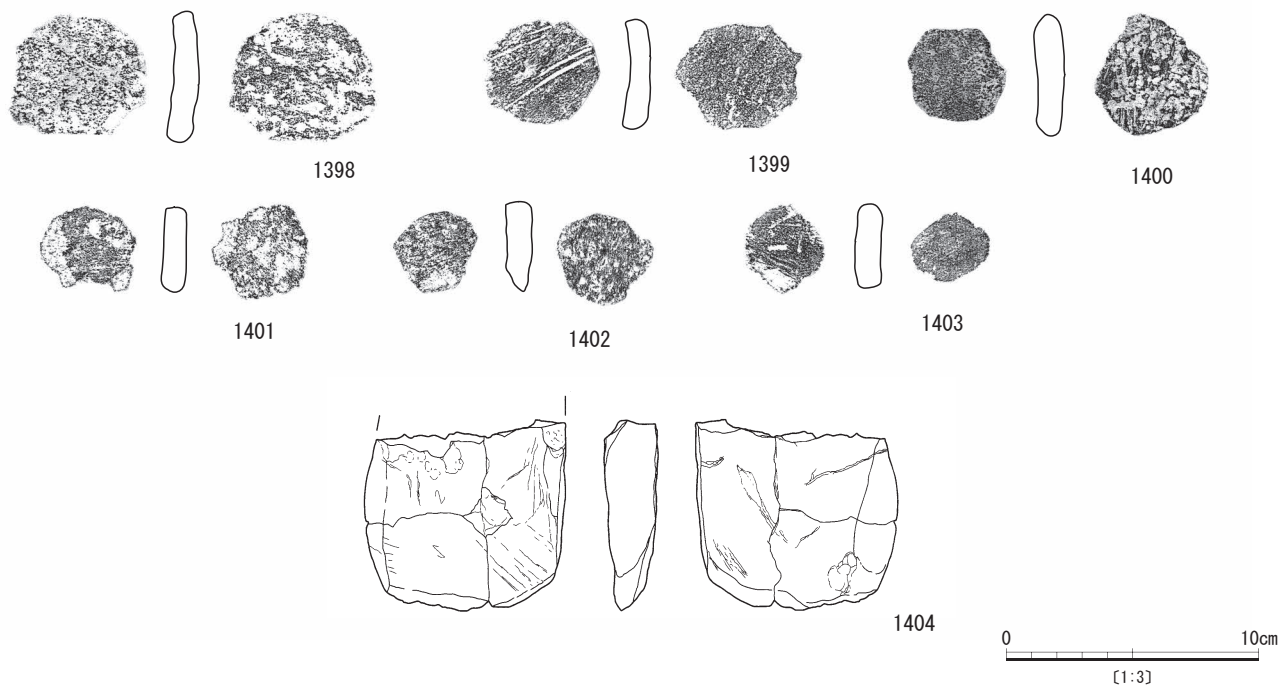
第337図 第Ⅷ類土器(2)

器がある。

1378～1389は甕形土器の口縁部である。1378～1380は胴部から口縁部に向かって内側へ屈曲する器形で、口縁端部よりやや下に刻目突帯を巡らす。1378・1379は低い突帯の上に爪形押圧を施文する。1380は低

い突帯の上に押圧文を施文後、突帯幅よりも大きな刻目を施文する。

1381～1388は砲弾型の器形である。1381は口縁端部が外へ張り出す。口縁端部よりやや下に施文間隔の広い爪形押圧による刻目突帯を巡らす。1382は口縁端部



第338図 円盤状土製品・その他

が剥落しており不明瞭であるが、1381と近い器形であると考えられる。1383・1384は突帯の下から棒状工具を押し上げるようにして施文しており、押圧文が突帯の下から上へ貫通している。1383の口縁端部は矩形で、1384はやや丸みを帯びる。1385・1386は突帯の下に棒状工具を押し当て、突帯に向かって押し倒すようにして押圧文を施文している。口縁端部は矩形で、1385と1386は同一個体であると考えられる。1387は2条甕である。口縁端部より下部と胴部に刻目突帯を巡らす。外面にはススが多量に付着する。

1388は口縁端部の突帯に管状工具を用いて下から上へ押すようにして施文したと考えられる。外面はミガキ調整である。1389は口縁端部とそのすぐ下に刻目突帯を巡らす。また突帯同士の間隔が極端に狭く、突帯の上には細かな刻目が施文される。その他の掲載した刻目突帯文土器とは特徴が異なる資料である。

1390は鉢形土器である。底部から口縁部に向かって丸みを帯びて外へ広がる器形を呈する。口縁のやや下に低い突帯を巡らし、突帯の上から刻目を施文するが、突帯幅よりも施文幅が大きく、器面まで刻目が到達している。外面にススが多量に付着する。

1391～1397は胴部の破片である。1391～1393は断面三角形の突帯の上に爪形押圧を施文する。1391と1392は同一個体と考えられる。1394は細い突帯の上に施文幅の狭い刻目を施文する。1395は断面三角形の突帯の上に押圧文を施文する。1396は断面三角形の突帯の上から棒状工具の側面を用いて押圧文を施文したと考えられる。また、施文後は棒状工具を下へ引き抜くよう

にしたことが器面から観察できる。1397は突帯の上から板状工具を用いて押圧文を施文したと考えられる。

#### 円盤状土製品（第338図1398～1403）

1398～1403は円盤状土製品である。全て西平式系土器の胴部を利用したものと考えられ、土器片の縁端部を面取りし円盤形（メンコ）に仕上げている。どれも不整形円形であるが縁端部を研磨しているものもある。1398は径4.9～5.9cm、厚さ1.0cm、1399は径4.2～5.1cm、厚さ0.7cm、1400は径4.0～4.5cm、厚さ1.0cm、1401は径3.5～4.0cm、厚さ0.9cm、1402は径3.1～3.7cm、厚さ1.0cmである。1403は径2.9～3.3cm、厚さ1.1cmで、端部を丁寧に研磨している。

#### その他（第338図1404）

1404は足形付土版、踵の一部である可能性がある。作りは、平らに伸ばした板状の粘土の片面に、足を押し当て型をとったものと考えられる。大石平遺跡（青森県）出土の足形付土版の様に明瞭に足の輪郭は出ていない。つま先部分が見つかっておらず、あくまでも可能性として報告する。



第59表 第四類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿入 番号	掲載 番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上 番号			
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面		
261	338	IV c	深鉢	D・E17	II a	口縁～ 胴	貝殻連点文・貝 殻条痕	貝殻条痕・ 横ナデ	○	△		○	○			10YR3/2	黒褐	7.5YR4/4	褐	波状口縁 口径：(27.9)	29703 他
	339	IV a	深鉢	D15, E16	II a・b	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・沈 線・連続刺突文・ 貝殻条痕・横ナ デ	貝殻条痕・ 横ナデ	○	△		○	◎	△		5YR4/2	灰褐	5YR5/4	にぶい 赤褐	波状口縁	8688 他
	340	IV a	深鉢	C・D22	II a	口縁	貝殻腹縁文・沈 線・連続刺突文・ 横ナデ	丁寧な横ナ デ	○					△	△	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐		25132 他
	341	IV a	深鉢	B24	II b	口縁	貝殻腹縁文・沈 線・連続刺突文・ 横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	○	△				△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		17917
	342	IV a	深鉢	H32	II c	口縁	貝殻腹縁文・凹 線・横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	◎	△		○	○	△		10R4/1	暗赤灰	2.5YR5/1	赤灰		9991 他
	343	IV a	深鉢	G25	II a	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	摩滅	◎			○	○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4	褐	スス	10199
	344	IV a	深鉢	H33	II b	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	◎	△		○	○			5YR4/2	灰褐	5YR6/6	橙		一括
	345	IV a	深鉢	B19, D18	II b・c	口縁	貝殻腹縁文・刺 突・横ナデ	横ナデ	○					△	△	5YR5/6	明赤褐	10YR4/2	灰黄褐	スス・コゲ 口径：(17.3)	15719 他
262	346	IV a	深鉢	G18	II a	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	◎			◎	◎			5YR5/6	明赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	波状口縁 口径：26.8	20436 他
	347	IV a	深鉢	F37	II a	口縁	貝殻腹縁文・貝 殻条痕	貝殻条痕	◎			○	◎	△		7.5YR4/4	褐	2.5YR4/4	にぶい 赤褐	波状口縁 スス	10311
	348	IV a	深鉢	C23	II a	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・横ナデ	貝殻条痕	◎		△			△		5YR3/1	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐		27756 他
	349	IV a	深鉢	E17	II a	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	○					△	△	7.5YR4/3	褐	7.5YR5/8	明褐		29837 他
	350	IV a	深鉢	G18	II a	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	◎	△		○	◎			5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR4/6	赤褐	波状口縁	20821 他
	351	IV a	深鉢	D34	II c	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・横 ナデ	貝殻条痕	○			○	△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/2	灰褐	波状口縁	6862
	352	IV a	深鉢	C15	II b	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・沈 線・横ナデ	貝殻条痕	○	△		△	○			2.5YR3/3	暗赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		8799
	353	IV a	深鉢	D17	I・II a	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	○	△		○	○			7.5YR5/3	にぶい 褐	5YR5/6	明赤褐	口径：(25.2)	29711 他
	354	IV a	深鉢	D・E32	II b・c	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	○			◎	○	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/4	褐	波状口縁	7262 他
	355	IV a	深鉢	C・D・ E16	II a・b	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横 ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	○	△				○	△	5YR6/6	橙	7.5YR5/4	にぶい 褐	波状口縁	8739 他
263	356	IV b	深鉢	D33	II c	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	○	△				△	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR4/2	灰褐	波状口縁 スス	7452 他	
	357	IV b	深鉢	F31	II c	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	△	△				△	7.5YR7/3	にぶい 橙	7.5YR3/2	黒褐	波状口縁	11409 他	
	358	IV b	深鉢	D16	II a	口縁	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・刺突・ 横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	○	△	△			△	△	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR6/6	橙	波状口縁	8623 他
	359	IV b	深鉢	G28	II a	口縁	貝殻腹縁文・貝 殻条痕	貝殻条痕	◎	△		◎	○			2.5YR5/1	赤灰	2.5YR5/1	赤灰		9187
	360	IV b	深鉢	D16	II a	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	△			△	△			7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR3/1	黒褐	スス・コゲ 口径：(22.2)	29920
	361	IV b	深鉢	D33	II c	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横 ナデ	横工具ナデ	△			△	△			2.5YR5/4	にぶい 赤褐	7.5YR3/3	暗褐	波状口縁	8601
	362	IV b	深鉢	B9	II c	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	◎	△		△	○			5YR3/2	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐		42616
	363	IV b	深鉢	B・C9	II b・c	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・刺 突・横斜ナデ	横ナデ	◎	△	△	△	○			7.5YR4/4	褐	7.5YR5/6	明褐		36295 他
	364	IV b	深鉢	C・D15・ 16	II	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横 ナデ	横斜ナデ	○	△		○	○			10YR4/3	にぶい 黄褐	10YR4/1	褐灰	スス・コゲ	71 他
	365	IV b	深鉢	C19・20 D19	II a・b	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・刺 突・横斜ナデ	貝殻条痕・ 横斜ナデ	○	△		◎	○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4	褐		17660 他
264	366	IV b	深鉢	F・G19	II a	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・横ナデ	貝殻条痕	◎	○		○			2.5YR3/3	暗赤褐	2.5YR2/1	赤黒	口径：(16.8)	19786 他	
	367	IV b	深鉢	B23	II a	口縁	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	○	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR2/2	黒褐		18029
	368	IV b	深鉢	C29・30	表土	口縁	貝殻腹縁文・横 ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎	△		7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/3	褐		一括
	369	IV b	深鉢	D16	II a	口縁	貝殻腹縁文・貝 殻条痕・刺突・ 横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	△		△			△		7.5YR5/3	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		8630
370	IV b	深鉢	E・G21	II a・b	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・沈 線・貝殻条痕・ 横ナデ	貝殻条痕・ 横ナデ	◎	△	△		◎	○		5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐		28194 他	

第60表 第IV類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調		備考	取上 番号				
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他			外面	内面		
264	371	IV b	深鉢	D16	II b	口縁	貝殻腹縁文・貝殻条痕・刺突・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△		7.5YR4/1	褐灰	7.5YR6/4	にぶい 橙	口唇：沈線	8703 他
	372	IV b	深鉢	B28	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	△		△		△	△		5YR4/4	にぶい 赤褐	2.5YR4/6	赤褐		40494
	373	IV b	深鉢	D32	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○					△	△	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	波状口縁	一括
	374	IV c	深鉢	B22	攪乱	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		◎	○			7.5YR3/2	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐		一括
	375	IV c	深鉢	F32	攪乱	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	○	△	△	○	△	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/4	にぶい 橙		一括
	376	IV c	深鉢	C31	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○			○	△	△		7.5YR7/3	にぶい 橙	7.5YR7/3	にぶい 橙	スス	7937
	377	IV c	深鉢	E17	II a	口縁～ 胴	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	△		△		△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR5/6	明褐	波状口縁 口径：(29.1)	29737 他
	378	IV c	深鉢	C3	VII b	口縁～ 頸	沈線・刻目・横ナデ	横ナデ	△			△	△	△		2.5Y3/2	黒褐	2.5Y4/2	暗灰黄	スス	14734 他
	379	IV c	深鉢	D33	II c	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		△	◎			7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4	褐	スス・コゲ	7701
	380	IV c	深鉢	D17	I・II a	口縁	貝殻腹縁文・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		○	○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/6	褐	波状口縁 スス 口径：(24.6)	29824 他
	381	IV c	深鉢	C22	II a	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	△		△			△		2.5YR4/6	赤褐	2.5YR4/4	にぶい 赤褐		29122 他
	382	IV c	深鉢	F32	II c	口縁～ 頸	貝殻腹縁文・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		◎	◎	△		5YR5/8	明赤褐	5YR6/8	橙		11682 他
265	383	IV c	深鉢	G22	II a	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	貝殻条痕	◎	△		◎	○	△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス	22268	
	384	IV c	深鉢	G41	II b	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	○	△	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		996	
	385	IV c	深鉢	F42	II b	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎		7.5YR4/2	灰褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		1113	
	386	IV c	深鉢	H31	II b	口縁	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	◎	△			○	△	10YR4/3	にぶい 黄褐	5YR5/6	明赤褐		一括	
	387	IV c	深鉢	D27	II c	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎				△	△	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス	4842	
	388	IV c	深鉢	D33	II c	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		◎	○	△	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/8	明褐		8232	
	389	IV c	深鉢	D29	II b	口縁	摩滅（貝殻腹縁文・短沈線）	横ナデ	◎	△		◎	○		2.5YR3/3	暗赤褐	2.5YR4/4	にぶい 赤褐	スス	3780	
	390	IV c	深鉢	E19	II a	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎			○	△		5YR5/6	明赤褐	5YR4/6	赤褐		19074	
	391	IV c	深鉢	B19	II b	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		○	○	△	7.5YR4/3	褐	5YR4/3	にぶい 赤褐	スス	16405	
	392	IV c	深鉢	D33	II c	口縁	摩滅（貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ）	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		◎	◎		7.5YR7/3	にぶい 橙	7.5YR7/3	にぶい 橙		6812	
	393	IV c	深鉢	D33	II c	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	○	△	5YR7/6	橙	5YR7/6	橙		6813	
	394	IV c	深鉢	H32	II b	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	○				△	△	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		9397 他	
	395	IV c	深鉢	D32	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	○		滑石△	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/1	黒褐		8090
	396	IV c	深鉢	C・D16	II a	口縁	短沈線・爪形文・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	△		△		△	△	7.5YR6/3	にぶい 褐	7.5YR6/6	橙	スス	8628 他	
	397	IV c	深鉢	F29	II b・c	口縁	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	○			◎	○		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		11802 他	
266	398	IV	深鉢	D17・ 18, E16	II a・b	胴	刻目・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	○	△		◎	△	△	滑石△	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		17617 他
	399	IV	深鉢	G18	II a	胴	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	○	△	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR6/6	橙		20820 他	
	400	IV	深鉢	C22	II a	胴	貝殻腹縁文・貝殻条痕	貝殻条痕	○		△		△	△	5YR4/2	灰褐	5YR4/4	にぶい 赤褐		29286 他	
	401	IV	深鉢	D21・22 E16	II a・b	胴	縦斜ナデ	斜ナデ	○	△		○	○	△	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐		28611 他	
	402	IV	深鉢	F43	II b	胴	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	貝殻条痕	○				△	△	10R4/3	赤褐	10R4/2	赤褐		1192	



第61表 第四類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上 番号			
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面		
266	403	IV	深鉢	E18, F21	II a・b	胴	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	○			◎	○	△		7.5YR4/6	褐	7.5YR4/4	褐		16959 他
	404	IV	深鉢	D16・21 E16・17	II a	胴	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	○	△			△	△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/3	褐		29379 他
	405	IV	深鉢	D16	II a・b	頸	貝殻腹縁文・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△		7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/6	明褐		8705 他
	406	IV	深鉢	E16	II a	胴	貝殻腹縁文・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	○	△		△	○	△		5YR3/1	黒褐	5YR5/8	明赤褐	スス	8745
	407	IV	深鉢	G36	II a	頸	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	◎			◎	○			2.5YR3/2	暗赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		一括
	408	IV	深鉢	D23	II a	胴	貝殻腹縁文・斜ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		△	○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/3	暗褐	スス	26103
	409	IV	深鉢	D18, F19 G18・19	II a・b・c	頸～胴	摩滅（横ナデ）	摩滅（貝殻条痕・横ナデ）	○				○			10YR3/3	暗褐	2.5YR3/3	暗赤褐	スス	17758 他
	410	IV	深鉢	C23	II a	胴	沈線・横ナデ	斜ナデ	◎			◎	○			5YR3/1	黒褐	5YR4/2	灰褐		28714
267	411	IV c	深鉢	F31	II c	胴	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・斜ナデ	◎	△		◎	○			7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR7/6	橙	スス	11015
	412	IV c	深鉢	F31	II c	胴	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○		△		△	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR6/4	にぶい橙		11541
	413	IV c	深鉢	G23	II b	胴	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		○	△	△		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐		22577
	414	IV c	深鉢	C31・32	II c	胴	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	摩滅により不明瞭	○		△		△	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR5/6	明赤褐		6636 他
	415	IV c	深鉢	D19	II a	胴	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	貝殻条痕	◎			◎	△	△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR6/6	橙		18305
	416	IV c	深鉢	F19	II a	胴	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○			○	○	△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR6/8	橙		19899 他
	417	IV c	深鉢	C28	II c	胴	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	△				△	褐色砂礫△		7.5YR6/2	灰褐	7.5YR7/4	にぶい橙		3369
	418	IV c	深鉢	C15	II b	胴	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	摩滅（貝殻条痕）	◎	△		○	○	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/6	橙		一括
	419	IV c	深鉢	F23	II b	胴	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		◎	○	△		7.5YR5/4	にぶい褐	5YR5/6	明赤褐		28707
	420	IV c	深鉢	C31	II c	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△	△	◎	○			10YR3/2	黒褐	10YR5/8	黄褐		7579
	421	IV c	深鉢	H28	II b	胴	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	○		△		△	褐色砂粒◎		5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		9196
	422	IV c	深鉢	F22	II a	胴	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		◎	◎			5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		27334
	423	IV c	深鉢	H24	II c	胴	貝殻腹縁文・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		◎	○	△		2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR4/4	にぶい赤褐		T27 一括
	424	IV c	深鉢	C17	II a	胴	短沈線・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	◎				○	○		5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR4/4	にぶい赤褐		29766
	425	IV c	深鉢	D26	II c	胴	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		◎	○			2.5YR4/3	にぶい赤褐	5YR3/1	黒褐		45648
268	426	IV	深鉢	D16 E16・17	II a	胴	爪形文・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△	△	◎	○	△		7.5YR2/3	極暗褐	7.5YR2/1	黒		29913 他
	427	IV	深鉢	B20・21	II a	胴	貝殻条痕	貝殻条痕	○				○	△	砂礫○	5YR4/2	灰褐	5YR4/6	赤褐		15922 他
	428	IV	深鉢	C19・20 D17	II b	胴	摩滅（斜ナデ）	斜工具ナデ	◎	△		◎	○	△		5YR4/6	赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐	スス	17428 他
	429	IV	深鉢	D23	II a	胴	貝殻条痕	貝殻条痕	○		△		○	△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/6	褐		24974
	430	IV	深鉢	F21	II a	胴	横斜ナデ	摩滅（横ナデ）	○	△	△	△	○	△		7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい褐	スス	28189 他
	431	IV	深鉢	D21	II a	胴	貝殻条痕・横ナデ	横斜ナデ	○	△		○	○			10YR5/4	にぶい黄褐	10YR2/2	黒褐	スス・コゲ	28213 他
	432	IV	深鉢	D15	II b	胴	摩滅	斜ナデ	○	△		◎	○			7.5YR3/2	黒褐	5YR4/6	赤褐	スス	8681
	433	IV	深鉢	D21・22	II a・b	胴	貝殻条痕・斜ナデ	貝殻条痕	○	△		△	○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4	褐		27055 他
	434	IV	深鉢	E20	II a	胴	貝殻条痕・斜ナデ	貝殻条痕・斜ナデ	○			◎	○	△		7.5YR4/6	褐	7.5YR3/2	黒褐		18840 他
	435	IV	深鉢	D21・22	II a・b	胴	貝殻条痕・斜ナデ・粗い斜ミガキ	貝殻条痕	○			△	○			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR2/2	黒褐		28270 他

第62表 第V類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	外面			内面
269	436	V a	深鉢	E20	II a	口縁	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		△	△			5YR6/6	橙	7.5YR4/2	灰褐	スス・コゲ	18965 他
	437	V a	深鉢	F31	II a	口縁	貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕	○		◎	○	△			5YR3/4	暗赤褐	5YR3/4	暗赤褐		一括
	438	V a	深鉢	B22	攪乱	口縁	沈線・貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎			5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	口唇：凹線	一括
	439	V a	深鉢	B23	攪乱	口縁	貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	◎			△	△	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		一括
	440	V a	深鉢	G28	II a	口縁	押し文・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		△	△			5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/2	灰褐	スス	9170
	441	V a	深鉢	F21	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		△				7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR4/2	灰褐	波状口縁 スス・コゲ	27575
	442	V a	深鉢	F23	II a	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	△	△			△			5YR7/6	橙	5YR6/6	橙	波状口縁	26334
	443	V a	深鉢	G32	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	△	△		○	△			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR5/6	明褐		11332
	444	V a	深鉢	E21	II a	口縁 ～頸	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	◎			◎	◎	△		5YR2/2	黒褐	5YR4/6	赤褐		29653
	445	V a	深鉢	C22	II a	口縁	沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		△	△			5YR3/3	暗赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		28561
	446	V a	深鉢	C31	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	○	△			△			5YR4/8	赤褐	5YR4/8	赤褐		6186
	447	V a	深鉢	G31	II c	口縁 ～頸	貝殻腹縁文・沈線・押し文・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎	△		7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/6	褐		11780
	448	V a	深鉢	F31	II c	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	○			◎	○			2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR5/8	明赤褐		11546
	449	V a	深鉢	H27	II b	口縁	貝殻腹縁文・沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	◎			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR6/6	橙		37307
	450	V a	深鉢	G41	II b	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		○	△			7.5R4/1	暗赤灰	2.5YR5/4	にぶい赤褐		767
	451	V a	深鉢	F44	II b	口縁	貝殻腹縁文・沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		△	△			7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/2	灰褐	スス	1699
270	452	V b	深鉢	H28	II b	口縁 ～頸	沈線・横斜ナデ	横ナデ	○			◎	△	△	滑石△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		9215
	453	V b	深鉢	H31	II b	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		△	△	砂礫○	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐	スス	10327	
	454	V b	深鉢	D33	II c	口縁	沈線・横ナデ	貝殻条痕	◎	△		◎	○	△		7.5YR4/4	褐	7.5YR5/4	にぶい褐		8259
	455	V b	深鉢	E40	表土	口縁	沈線・横ナデ	貝殻条痕	○			△	△	砂礫△	10YR5/3	にぶい黄褐	5YR5/6	明赤褐		一括	
	456	V b	深鉢	F31	II b	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	△			7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/6	明褐		一括
	457	V b	深鉢	B21	II b	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	◎			◎	○			5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		16471
	458	V b	深鉢	D31	攪乱	口縁	短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	○	△		7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい橙		一括
	459	V b	深鉢	C22	II b	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	◎			◎	◎			5YR4/6	赤褐	5YR5/6	明赤褐		29537
	460	V b	深鉢	B23	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△	△		△	褐色砂礫△	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR5/8	明赤褐		18062	
	461	V b	深鉢	C33	II c	口縁	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○			△	△	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/8	橙	スス	6783
	462	V b	深鉢	E21	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	◎			○	○			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐		27371
	463	V b	深鉢	E23	II a	口縁	沈線・横ナデ	摩滅	○	△			△			5YR7/8	橙	5YR4/1	褐灰		25467 他
	464	V b	深鉢	D21	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		△	△			5YR5/3	にぶい赤褐	5YR6/6	橙	スス	27977
	465	V b	深鉢	G22	II b	口縁 ～頸	連続刺突文・沈線・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		○				5YR3/1	黒褐	5YR1.7/1	黒	波状口縁	22311
466	V b	深鉢	E19	II a・c	口縁 ～胴	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎	△		△	△			7.5YR4/3	褐	7.5YR5/6	明褐	スス	20711 他	
467	V b	深鉢	F19	II a	口縁	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△		△	△			5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/6	橙		19188	
271	468	V c	深鉢	C18, D19	II a・b	口縁 ～胴	連続刺突文・沈線・横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ	△	△			△	褐色砂礫△	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR5/4	にぶい褐	波状口縁 スス 口径：(24.6)	17464 他	
	469	V c	深鉢	B22	攪乱	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	○	△		△	△			5YR2/2	黒褐	5YR5/6	明赤褐		一括



第63表 第V類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号		
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	外面			内面	
271	470	V c	深鉢	E45	II a	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	◎		◎	△	△			2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐		1644	
	471	V c	深鉢	F45	II a	口縁	短沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	○	△		2.5YR4/3	にぶい赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐		1350	
	472	V c	深鉢	G32	II b	口縁	短沈線・貝殻腹縁文・横ナデ	横ナデ	○				△	△		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐	スス	10450	
	473	V c	深鉢	E33	II b	口縁	沈線・丁寧な横ナデ	横ミガキ	△						砂礫△	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		5480	
	474	V c	深鉢	G32	II c	口縁	横ナデ	丁寧な横ナデ	◎	△		◎	◎	△		5YR5/8	明赤褐	5YR6/6	橙		11772	
	475	V c	深鉢	D18	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	○		△			△	褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		18178	
	476	V c	深鉢	G22	II a	口縁	沈線・短沈線・横ナデ・縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○				○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR5/2	灰褐	スス	22302	
	477	V c	深鉢	E34	II a	口縁～胴	沈線・横ナデ	摩滅	◎			◎	○			2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		3402	
	478	V c	深鉢	G31	II b	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	丁寧な横ナデ	△	△	△		△	△		2.5Y4/3	オリーブ褐	7.5YR6/4	にぶい橙		10376	
	479	V c	深鉢	E19	II a	口縁～頸	沈線・貝殻腹縁文・横ナデ	貝殻条痕	△			△	○	△		5YR6/6	橙	7.5YR6/6	橙		19089	
	480	V c	深鉢	G30	II c	口縁～頸	摩滅(沈線・刺突)	摩滅	○				○	△		10YR7/3	にぶい黄橙	10YR7/4	にぶい黄橙		11466	
	481	V	深鉢	D・E22	II a・b	口縁～頸	沈線・貝殻条痕・横ナデ	横ナデ	○				△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR2/2	黒褐	口径：(22.2)	27084 他	
	482	V	深鉢	D29	II c	口縁～頸	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	○		△			△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		4061	
	483	V	深鉢	F43	II b	口縁～頸	沈線・横ナデ	横ナデ	△			○	○			2.5YR4/2	灰赤	2.5YR3/1	暗赤灰		1065	
	484	V	深鉢	H29	II b	口縁	沈線・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎	△		△	○			5YR6/6	橙	5YR5/2	灰褐		8909	
	485	V	深鉢	F23	II a	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	◎			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/4	褐		25958	
	486	V	深鉢	F10	II b	口縁	剥落(沈線)	横ナデ	◎			◎	○	△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		37197	
	487	V	深鉢	G31	II c	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	○		△		○			7.5YR5/2	灰褐	7.5YR5/2	灰褐	波状口縁 波頂部：刺突	一括	
	488	V	深鉢	H28	II b	口縁～頸	摩滅(沈線・粗い横ミガキ)	摩滅	○		△		△	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐		37369	
	489	V	深鉢	B11	VII b	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	横ナデ	○	△			◎			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/3	暗褐	スス	46828 他	
	490	V	深鉢	E34	VII b	口縁	沈線・短沈線・横ナデ	横ミガキ	△	△		△	◎			10YR4/3	にぶい黄褐	7.5YR5/3	にぶい褐		40950	
	491	V	深鉢	C11	VII b	胴	沈線・短沈線・横ナデ	摩滅	○				◎	△		7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい褐		47179	
	272	492	V a	深鉢	C28	攪乱	頸～胴	沈線・横ナデ	摩滅(横ナデ)	◎			◎	○		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		一括	
		493	V a	深鉢	C33	II c	胴	沈線・貝殻腹縁文・貝殻条痕・横斜ナデ	貝殻条痕・横ナデ	△			△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/3	暗褐	スス	7039	
		494	V a	深鉢	C23	II a	胴	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	摩滅	○		△		△	△		5YR6/4	にぶい橙	10YR7/4	にぶい黄橙		一括
		495	V a	深鉢	D29	II c	口縁(口唇欠損)	沈線・貝殻腹縁文・横ナデ	貝殻条痕・横ナデ	◎			◎	○			7.5YR7/6	橙	7.5YR7/6	橙	スス	4077
		496	V a	深鉢	D32	II c	胴	貝殻腹縁文・短沈線・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△		2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		7161
497		V a	深鉢	E34	II c	胴	短沈線・横ナデ	横ナデ	○		△			△		10YR3/3	暗褐	10YR6/4	にぶい黄橙		2122	
498		V a	深鉢	E34	II c	胴	横ナデ	横ナデ	○			◎	○			2.5YR4/2	灰赤	2.5YR5/4	にぶい赤褐		8382	
499		V a	深鉢	C22	II a	胴	短沈線・横ナデ	横ナデ	◎			◎	○			7.5YR3/1	黒褐	5YR6/6	橙		26177	
500		V b	深鉢	F44	II a	胴	沈線・横ナデ	摩滅(横ナデ)	◎				△	砂礫△	10R4/1	暗赤灰	10R4/2	灰赤		2649		
501		V b	深鉢	G・H38	II c	胴	沈線・横縦ナデ	横ナデ	○		△		△	△		5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙		一括	
502		V b	深鉢	F17	II a	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△	褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		30186 他	
503		V b	深鉢	G40	II c	胴	沈線・横ナデ	摩滅	◎	△		◎	○	△		7.5YR4/4	褐	7.5YR4/3	褐		1421	
504		V b	深鉢	D20	II a	頸	沈線・丁寧な横ナデ	横ナデ	△		△		○	砂礫△	2.5Y7/3	浅黄	2.5Y7/3	浅黄		18116		
505		V b	深鉢	F28	攪乱	胴	沈線・横ナデ	摩滅	○	○		○	◎			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐		一括	

第64表 第V類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	細 分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
272	506	V b	深鉢	F22	II a	胴	沈線・横ナデ	横工具ナデ	◎	△	○	◎				5YR4/8	赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		27182
	507	V b	深鉢	E33	II c	胴	沈線・縦ナデ	剥落(ミガキ)	○			◎	△	褐色砂粒 △ 滑石△	5YR3/3	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐		7280	
	508	V b	深鉢	D34	II b	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	◎	○		◎				7.5YR4/3	褐	7.5YR5/4	にぶい褐		2270
	509	V b	深鉢	G19	II a	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○					褐色砂粒 ○	5YR5/6	明赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		20365	
	510	V b	深鉢	F23	II a	胴	沈線・縦工具ナデ	横ナデ・横ミガキ	△	△	△		△			10YR4/6	褐	7.5YR4/4	褐		26674
	511	V b	深鉢	C23	注記不明	頸	沈線・粗い横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△		△	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		28729
	512	V b	深鉢	D18	II a	頸～胴	沈線・横縦ナデ	剥落	◎		△		○			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/6	明褐		18177
	513	V b	深鉢	B21	II a	頸	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	○				△	△		5YR4/2	灰褐	5YR4/4	にぶい赤褐		16299
	514	V b	深鉢	A12	II b	胴	沈線・横ナデ	摩滅	◎				△	◎		5YR5/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		36086
273	515	V b	深鉢	C33	攪乱	胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○	△		○	○	褐色砂粒 △	7.5YR4/3	褐	7.5YR2/2	黒褐		一括	
	516	V b	深鉢	F13	II a	胴	沈線・刺突・縦ナデ	横ナデ	○	△		○	○	褐色砂粒 ○	5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		22619	
	517	V b	深鉢	H29	II b	胴	沈線・刺突・横ナデ・縦ミガキ	横ナデ・縦ミガキ	○	○		△	○		10YR4/3	にぶい黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐		37469	
	518	V b	深鉢	D33	II c	胴	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	○	△		○	○	褐色砂粒 △	10YR4/6	褐	10YR3/3	暗褐		8250	
	519	V b	深鉢	H27	II b	頸	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△	△			赤色砂礫 △	7.5YR4/4	褐	7.5YR7/2	明褐灰	スス	37591	
	520	V b	深鉢	F31	II b・c	胴	沈線・刺突・横縦ミガキ	ナデ	○	△			△	△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR6/6	橙		10987 他
	521	V c	深鉢	F44	II a	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○				△	△		7.5YR4/2	灰褐	5YR5/3	にぶい赤褐		1334 他
	522	V c	深鉢	F16	II a	胴	摩滅(沈線・刺突)	横ナデ	△	△		△	△	△		2.5YR5/4	にぶい赤褐	10YR4/1	褐灰		30064
	523	V c	深鉢	B25	II a	頸	沈線・横ナデ	摩滅(横ナデ)	○	△		◎	◎		5YR5/3	にぶい赤褐	5YR6/4	にぶい橙		15847	
	524	V c	深鉢	C23	II a	胴	沈線・斜ナデ	摩滅	○		△		○	褐色砂粒 ◎	5YR5/3	にぶい赤褐	5YR7/6	橙		27750	
	525	V c	深鉢	G27	II c	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	△			△	△	△		10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/4	にぶい黄橙		11613
	526	V c	深鉢	B22	II a	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	△				△	△	砂礫○	7.5YR3/1	黒褐	5YR5/6	明赤褐		18521
	527	V c	深鉢	F21	II a	胴	沈線・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○				△	△	褐色砂粒 △	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR5/6	明赤褐		27870
	528	V c	深鉢	D31	II a	胴	沈線・貝殻腹縁文・横ナデ	横工具ナデ	△	△						7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐		2736
	529	V c	深鉢	G40	II b	胴	沈線・横ナデ	摩滅	○			○	○			2.5YR3/1	暗赤灰	5YR4/6	赤褐		1277
	530	V c	深鉢	G27	II c	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△		△	○			5YR4/6	赤褐	5YR5/6	明赤褐		一括
	531	V c	深鉢	E32	攪乱	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○	○		△	○	△	褐色砂粒 △	7.5YR5/2	灰褐	7.5YR5/4	にぶい褐		一括
	532	V c	深鉢	G22	II b	頸	沈線・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ・横ナデ	○				△	○		7.5YR3/4	暗褐	7.5YR3/1	黒褐		22515
	533	V c	深鉢	F23	II a	頸	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	○			◎	△	△	褐色砂粒 △	7.5YR4/4	褐	7.5YR5/6	明褐		25691
	534	V c	深鉢	C16	II・II a	胴	摩滅(沈線・刺突)	摩滅	○			△	○	△		7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/6	明褐		一括他
535	V c	深鉢	H25	II b	胴	沈線・刺突・丁寧な縦ナデ	剥落(横ミガキ)	△	△	△		△		褐色砂粒 △	5YR5/3	にぶい赤褐	5YR3/1	黒褐		38161	
274	536	V c	深鉢	D22	II a	頸	沈線・刺突・横ナデ	剥落(横ナデ)	◎		△		△		7.5YR4/3	褐	7.5YR5/4	にぶい褐		26169	
	537	V c	深鉢	E22	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	○		△	○	△	△		7.5YR2/3	極暗褐	7.5YR4/4	褐		25720 他
	538	V c	深鉢	H29	II b	頸	沈線・刺突・横ナデ	粗い横ミガキ	◎				△	△		7.5YR3/4	暗褐	7.5YR4/2	灰褐		38034
	539	V c	深鉢	C31	II b	頸～胴	沈線・刺突・横ナデ	横ミガキ	◎		△		△	褐色砂粒 △	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい褐		39318 他	
	540	V	深鉢	E17	II a	頸	沈線・丁寧な横ナデ	横ナデ	◎		△		△	褐色砂粒 △	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		30179	
	541	V	深鉢	B22	II a	胴	沈線・短沈線・貝殻条痕・横ナデ	貝殻条痕・斜ナデ	○			◎	△			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR3/1	黒褐		19050



第65表 第V類土器観察表④

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	細分	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
274	542	V	深鉢	C35	攪乱	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○			○	○			5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		一括
	543	V	深鉢	F24	II a	胴	沈線・短沈線・横ナデ	剥落(横ナデ)	◎	△		◎	○	△		5YR4/2	灰褐	5YR4/6	赤褐		26906
	544	V	深鉢	E38, F37・38	II a	胴	沈線・丁寧な工具ナデ	横ナデ	○	○		◎	○		褐色砂粒△	5YR3/1	黒褐	5YR4/2	灰褐		一括
	545	V	深鉢	I41	II c	胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○	○		◎	○			5YR3/1	黒褐	5YR5/3	にぶい赤褐		一括
	546	V	深鉢	F41	II b	頸	沈線・刻目・横ナデ	横ナデ	△	△	△		△			5YR6/4	にぶい橙	5YR5/4	にぶい赤褐		640-2

第66表 第VI類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
275	547	深鉢	F23	II a	口縁〜頸	突帯・横ナデ・横ミガキ	横ナデ	◎		△		○			7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	橙	スス口径：(31.9)	26206他
	548	深鉢	F44	II b	口縁	縄文・横ナデ・縦ミガキ	横ミガキ	△		△		○			7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰		1680
	549	深鉢	E17	II a	口縁	縄文・横ナデ	横ミガキ	○		△		○		褐色砂粒△	7.5YR6/3	にぶい褐	7.5YR5/2	灰褐		30124
	550	深鉢	F12	II a	口縁	縄文・縦ミガキ	横ミガキ	△				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		22976
	551	深鉢	F40	II b	口縁	磨消縄文・沈線・横ナデ	横工具ナデ	○	△	△		△			7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/2	灰褐	波状口縁	682
	552	深鉢	H37	II b	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・横工具ナデ	丁寧な横ナデ	○		△		◎			10YR3/2	黒褐	10YR3/2	黒褐	波状口縁	9592
	553	深鉢	F41	II b	口縁	沈線・刺突・横縦工具ナデ	丁寧な横工具ナデ	△				△	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR3/2	黒褐		643
	554	深鉢	G21	II a	口縁〜頸	沈線・刺突・連続刺突文・丁寧な横ナデ	横ナデ	△				○		褐色砂粒△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/1	褐灰	口唇：沈線スス	22074
	555	深鉢	F25	II b	口縁〜頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・粗い横ミガキ	横ミガキ	○				○	△		10YR2/2	黒褐	10YR3/1	黒褐	スス・コゲ口径：(18.8)	42854他
	556	深鉢	D21	II a	口縁	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	ナデ	△	△	△		△			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR6/4	にぶい橙		26500
	557	深鉢	E22	II a	口縁	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横工具ナデ	○		△		△			5YR3/3	暗赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		26267
	558	深鉢	C23	II a	口縁	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○	△	△		◎			2.5Y5/2	暗灰黄	2.5Y5/3	黄褐		28259
	559	深鉢	H26	II b	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横工具ナデ	△		△		○			2.5Y6/2	灰黄	2.5Y6/3	にぶい黄	口唇：刺突	11289
	560	深鉢	G22	II a	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○				○	△		10YR6/6	明黄褐	2.5Y4/4	オリーブ褐		21678
	561	深鉢	C31	II b	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△		△		△			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐		5608
	276	562	深鉢	G27	II b	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎	△		○	◎			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	
563		深鉢	G29	II b	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/3	褐		12034
564		深鉢	H29	II b	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎				◎	○	褐色砂粒○	7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐		10095
565		深鉢	E28	II c	口縁(口唇欠損)	縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△		△		△		褐色砂粒△	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR5/3	にぶい褐	口唇：刺突	一括
566		深鉢	H31	II b	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		○			5YR5/3	にぶい赤褐	5YR4/1	褐灰	波状口縁	10321
567		深鉢	C15	II b	口縁	磨消縄文・沈線・横工具ナデ	横ナデ・横工具ナデ	○		△		○		褐色砂粒△	5YR4/2	灰褐	5YR5/3	にぶい赤褐		一括

第67表 第VI類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm。( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	正文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面			
276	568	深鉢	B23	II b	口縁	縄文・沈線・縦ミガキ	横ミガキ	△	△	△				5YR5/6	明赤褐	2.5YR6/2	灰赤	波状口縁	17816
	569	深鉢	D32・34	II b・c	口縁	磨消縄文・沈線・縦ミガキ	横ミガキ	◎			◎	△		7.5YR2/3	極暗褐	5YR4/8	赤褐		5776 他
	570	深鉢	C18	II b	頸～胴	沈線・連続刺突文・丁寧な横ナデ	横ミガキ	◎		△	△	△		10YR6/6	明黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙		16990
	571	深鉢	G25	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎		○	◎		褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		10196
	572	深鉢	F31	II c	頸	摩滅（沈線）	横ナデ	◎			○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	スス	11373
	573	深鉢	B5	II a	頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ミガキ	横ナデ	○			△		褐色砂粒△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR2/3	極暗褐		37812
	574	深鉢	E18	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△			○			5YR4/6	赤褐	5YR2/2	黒褐		20286
	575	深鉢	F23	II a	頸	沈線・連続刺突文・横ミガキ	横ミガキ	○			○	△		10YR2/1	黒	7.5Y3/1	オリーブ黒		25865
	576	深鉢	D22	II b	胴	沈線・刺突・横ナデ	粗い横ミガキ	○	△				褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐		一括
	577	深鉢	F20	II a	胴	沈線・刺突・横ナデ	横ミガキ	△	△	△			褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい赤褐	7.5YR5/4	にぶい赤褐	スス	18925
277	578	深鉢	G22	II b	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横工具ナデ	◎	△	○	◎	△	褐色砂粒△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		22557
	579	深鉢	D33	II c	胴	沈線・ナデ	摩滅（ナデ）	○		○	△			7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/6	褐		6849
	580	深鉢	D35	II b	胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ		△	△			2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		3580	
	581	深鉢	D31	II b	胴	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	◎	△	△	△		2.5YR4/4	にぶい赤褐	7.5YR4/4	褐		5679	
	582	深鉢	D31	攪乱	頸～胴	沈線・連続刺突文	横ナデ	△	△	○	△		2.5YR3/2	暗赤褐	7.5YR3/2	黒褐		一括	
	583	深鉢	F19	II a	頸	沈線・連続刺突文・丁寧な横ナデ	丁寧な横ナデ	○	△	○	△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/2	灰褐		19078	
	584	深鉢	D15	II a	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	◎		△	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐		一括	
	585	深鉢	F28	II c	頸	沈線・横ナデ	横ナデ	○	△	○	△		5YR6/6	橙	5YR3/1	黒褐		一括	
	586	深鉢	C7	II b	胴	沈線・刺突・横ミガキ	横工具ナデ	○			△		褐色砂粒△	10YR2/1	黒	10YR2/3	黒褐		42423 他
	587	深鉢	C7	II c	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○			○		褐色砂粒△	7.5YR1.7/1	黒	7.5YR3/2	黒褐		42543
	588	深鉢	D31	II c	頸	沈線・刺突・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○	△	△			7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/1	黒褐		7587	
	589	深鉢	D31	II c	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	◎	△	△		褐色砂粒△	5YR2/3	極暗赤褐	5YR3/4	暗赤褐		8443	
	590	深鉢	D33	II c・攪乱	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ・粗い横ミガキ	○	△	△		褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		6841	
	591	深鉢	F32	II b	胴	磨消縄文・沈線・刺突・ナデ	横工具ナデ	△	△	△			5YR3/3	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		10477	
	592	深鉢	E18	II a	頸	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ・縦ナデ	横工具ナデ	○	△	△		褐色砂粒△	5YR4/1	褐灰	5YR4/2	灰褐		20934	
	593	深鉢	G14・20	II a	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○	△	○			2.5Y3/2	黒褐	2.5Y5/2	暗灰黄		19600 他	
	594	深鉢	C31	II b	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横ミガキ・横工具ナデ	◎			○	砂礫△	10YR1.7/1	黒	10YR2/2	黒褐		5590	
	595	深鉢	H29	II a	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△	△	△	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/4	にぶい赤褐		8889	
596	深鉢	E29	II c	頸～胴	磨消縄文・沈線・鋸歯文・連続刺突文・横ナデ	斜ミガキ	△	△	△			10R3/3	暗赤褐	10R4/1	暗赤灰		6390		
597	深鉢	E22	II a	頸	磨消縄文・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ	○			△	△		10YR4/3	にぶい黄褐	10YR4/2	灰黄褐		26932	
598	深鉢	F18	II a	胴	摩滅（磨消縄文・沈線・刺突）	横工具ナデ	○	△	△	△	△	褐色砂粒△	10YR4/6	褐	10YR7/4	にぶい黄橙	スス	21296	



第68表 第VI類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
277	599	深鉢	F33	II b	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横工具ナデ	△		△				褐色砂粒 △	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	9379	
	600	深鉢	F37	II b	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ	◎		○					7.5YR3/2	黒褐	2.5Y3/2	黒褐	9591	
	601	深鉢	D9	II c	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	○			△			褐色砂粒 △	5YR5/8	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	48730	
	602	深鉢	B11	II b	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ	△				△		褐色砂粒 ○	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/3	褐	36161	
	603	深鉢	E9	II c	胴	磨消縄文・沈線・斜ミガキ	横ナデ	○				○	△		5YR3/1	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	48825	
	604	深鉢	Mトレ ンチ	II	頸	沈線・連続刺突文・横ミガキ	摩滅	◎		○		◎			7.5YR2/1	黒	7.5YR3/1	黒褐	10	
	605	深鉢	F29	II b	胴	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	△				○		砂礫○	7.5YR4/4	褐	7.5YR3/2	黒褐	11632	
	606	深鉢	C32	II c	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横工具ナデ	○				○		橙色砂粒 △	2.5YR2/1	赤黒	2.5YR3/2	暗赤褐	7103	
	607	深鉢	C5	II c	胴	沈線・斜ナデ	斜ナデ	○	○			○	○		7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	42697	
	608	深鉢	E30	II c	胴	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ				△			褐色砂粒 △	5YR4/6	赤褐	5YR4/8	赤褐	一括	
	609	深鉢	B8	II b	胴	沈線・横ナデ・縦ミガキ	横ナデ	△		△		△			5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	36351	
610	深鉢	D25	II a	胴	沈線	摩滅	◎	○				○	砂礫○	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR5/4	にぶい 褐	26612		
278	611	深鉢	G31	II c	胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎	△		◎	○		2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR5/3	にぶい 赤褐	11343		
	612	深鉢	F18	II a	胴	縄文・沈線・横ナデ	横工具ナデ	△		△		△		5YR3/1	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	20864		
	613	深鉢	D19	II a・b	頸～胴	磨消縄文・沈線・横ミガキ	丁寧な横ナデ	△		△		△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	17636 他		
	614	深鉢	E・F21	II a・b	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ	○		△		◎		5YR3/1	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	28197 他		
	615	深鉢	C18・ F19	II a	頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	◎		△	△	◎		10YR6/2	灰黄褐	10YR6/2	灰黄褐	20845 他		
	616	深鉢	F12	II a	頸～胴	縄文・沈線・連続刺突文	横ナデ	○				△	△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/2	灰褐	22884 他		
	617	深鉢	B22	II b	頸	縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ミガキ・横工具ナデ	○				△		2.5Y3/1	黒褐	2.5Y3/1	黒褐	19431		
	618	深鉢	D・E17	II a	頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ミガキ	横ミガキ	△		△		△		7.5YR4/4	褐	7.5YR3/2	黒褐	29709 他		
	619	深鉢	D33	II c	頸	摩滅(沈線・連続刺突文)	横ミガキ	◎				◎		橙色砂粒 △	10YR3/3	暗褐	7.5YR3/2	黒褐	粘土塊貼付 コゲ	7438 他
	620	深鉢	E44	攪乱	頸	沈線・刺突・横ナデ	摩滅	△		△		△		2.5YR4/3	にぶい 赤褐	2.5YR4/3	にぶい 赤褐	-		
	621	深鉢	G21	II a	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	△				○	△	5YR2/1	黒褐	5YR2/1	黒褐	21629		
	622	深鉢	G22	II a	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△				○		7.5YR3/3	暗褐	10YR3/3	暗褐	21886		
	623	深鉢	F12	II a	胴	縄文・沈線・縦ミガキ	横ミガキ	△				○	△	5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐	22869		
	624	深鉢	C14	II b	胴	縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ミガキ	△				△	△	5Y4/1	灰	5Y3/1	オリ ブ黒	8790		
	625	深鉢	F32	II b	胴	沈線・横ナデ	横ナデ	◎				◎		砂礫△	10YR2/2	黒褐	10YR3/3	暗褐	9284	
	626	台付 皿	D31	II c	口縁	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△	5YR6/6	橙	5YR6/4	にぶい 橙	赤色顔料	6584	
	627	鉢	C30	表土	胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△				○	◎		10YR3/2	黒褐	10YR3/2	黒褐	一括	
	628	鉢	F21	II a	口縁	縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	△		△				砂礫△	5YR4/6	赤褐	2.5YR4/2	灰赤	一括	
279	629	深鉢	E20・21	II a	口縁～ 胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・丁寧な横ナデ	凹線・横ミガキ・丁寧な横ナデ	○	○	△		○	△	5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR3/2	暗赤褐	波状口縁 スス 口径：(29.2)	18839 他	

第69表 第七類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			
279	630	深鉢	F40, G40・41	II b・c	口縁～ 胴	磨消縄文・沈 線・連続刺突 文・刺突・凹 点・横ミガキ・ 縦ミガキ	横ミガキ・丁 寧な横ミガキ	○	○	○		○	△		10YR6/3	にぶい 黄橙	7.5YR6/4	にぶい 橙	波状口縁 波頂部：V字状 口径：(23.0)	929 他
	631	深鉢	F37	II a	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・粗 い横ミガキ	粗い横ミガキ	△	△	△		○	△		5YR4/2	灰褐	7.5YR5/1	褐灰	波状口縁	10262
	632	深鉢	D33	II c	口縁	磨消縄文・横 ミガキ	凹線・横ミガ キ	○					△	黄色砂粒 △	7.5YR4/1	褐灰	7.5YR4/1	褐灰	波状口縁	7728
	633	深鉢	G40	II b・c	口縁～ 胴	磨消縄文・沈 線・連続刺突 文・刺突・縦 ミガキ	凹線・横ミガ キ	△	△	△				橙色砂粒 △	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR2/2	黒褐	波状口縁	1278 他
	634	深鉢	F23	II a	口縁	磨消縄文・沈 線・横ミガキ	凹線・横ミガ キ	○	○			○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	波状口縁 波頂部：V字状	26710
	635	深鉢	F44	II b	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ミガキ	凹線・横ミガ キ	△					○	△	10YR5/4	にぶい 黄褐	10YR5/4	にぶい 黄褐	波状口縁	1694
	636	深鉢	E31	攪乱	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ミガキ	横ミガキ	△					○	褐色砂粒 △	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR6/4	にぶい 黄橙	波状口縁	一括
	637	深鉢	D32・33	II c	口縁～ 胴	連続刺突文・ 縦ミガキ	凹線・丁寧な 横ナデ	○	△	△			△	褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR3/4	暗赤褐	波頂部：V字状	8612 他
	638	深鉢	D32	II b	口縁	縦ミガキ	凹線・横ミガ キ	○		△		○			10YR3/2	黒褐	10YR4/2	灰黄褐		5769
	639	深鉢	H41	表土	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ミガキ・縦ナ デ	横ミガキ・丁 寧な横ナデ	△	△				△	赤色砂粒 ○	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐	波状口縁 波頂部：V字状	一括
	640	深鉢	H46	II a・b	口縁	磨消縄文・沈 線・横ミガキ	凹線・横ミガ キ	○						褐色砂粒 △ 黄色砂粒 △	7.5R3/1	暗赤灰	7.5R3/3	暗赤褐	波状口縁 波頂部：V字状	2048 他
641	深鉢	H29	攪乱	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ナデ	横ナデ	○	○	△			○	砂礫△	2.5Y6/1	黄灰	2.5Y7/3	浅黄		一括	
280	642	深鉢	D30	II c	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ミガキ	横ミガキ	△				△	○	10YR4/2	灰黄褐	10YR5/3	にぶい 黄褐	波頂部：U字状	4446	
	643	深鉢	D32	II b	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ナデ	丁寧な横ナデ	○		△		△		7.5YR6/6	橙	7.5YR6/8	橙	波状口縁 波頂部：U字状	5314	
	644	深鉢	C33	II c	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・丁 寧な縦ミガキ	凹線・丁寧な 横ミガキ	△	△			○	△	褐色砂粒 △	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	波状口縁 波頂部：V字状	7303 他
	645	深鉢	C33	II c	口縁	磨消縄文・沈 線・縦ミガキ	横ミガキ	△	△			○		5YR2/3	極暗赤 褐	5YR4/3	にぶい 赤褐	波状口縁 波頂部：V字状	6795	
	646	深鉢	D32	II c	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・縦 ミガキ	凹線・横ミガ キ・横ナデ	△		△		△	褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐	波状口縁	8620 他	
	647	深鉢	F24	II a	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・横 ナデ・縦ミガ キ	凹線・横ミガ キ・横ナデ	○	△			○	△		2.5YR2/2	極暗赤 褐	5YR4/3	にぶい 赤褐	波頂部：V字状	26915
	648	深鉢	G21	II a	口縁	磨消縄文・沈 線・縦ミガキ 摩滅（磨消縄 文・沈線・刺 突）	凹線・横ミガ キ	△	△			○	△	褐色砂粒 △	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐	波頂部：U字状	22067
	649	深鉢	D12	II b	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突	横ミガキ	○	○		△	○	△		2.5Y6/2	灰黄	2.5Y6/2	灰黄	波頂部：U字状	42631
	650	深鉢	C34	II b	口縁	磨消縄文・沈 線・刺突・縦 ミガキ	横ミガキ	△				△		5YR2/2	黒褐	5YR2/2	黒褐	波頂部：V字状	一括	
	651	深鉢	G17	II a	口縁	磨消縄文・横 ミガキ	凹線・丁寧な 横ナデ	○				△	△		10YR5/2	灰黄褐	10YR3/2	黒褐	沈線	20987
	652	深鉢	C20	II a	口縁	沈線・横ミガ キ・丁寧な横 ナデ	横ミガキ・丁 寧な横ナデ	△					△	褐色砂粒 △	10R4/8	赤	2.5YR3/6	暗赤褐		16190



第70表 第Ⅶ類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号		
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面					
280	653	深鉢	D21	Ⅱ a	口縁	摩滅(磨消縄文・沈線・刺突)	横ミガキ	△	○				○	△		10YR7/4	にぶい黄橙	10YR7/2	にぶい黄橙	波状口縁	27972
	654	深鉢	G40	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ	○	△				△	△	灰色砂粒 ○	2.5YR5/3	にぶい赤褐	2.5YR5/3	にぶい赤褐	波頂部：U字状	1387
	655	深鉢	D34	Ⅱ c	口縁～頸	磨消縄文・連続刺突文・沈線・横ミガキ	丁寧な横ナデ・横ミガキ	△						△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR3/2	黒褐		2168

第71表 第Ⅶ類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面						
281	656	深鉢	D33	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・縦ミガキ	横ミガキ	△	△				○	○		5YR2/2	黒褐	5YR4/8	赤褐		8568	
	657	深鉢	D33	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・横ミガキ	凹線・横ミガキ	○	△	△					褐色砂粒 △	5YR4/1	褐灰	5YR4/1	褐灰		一括	
	658	深鉢	D32, E33	Ⅱ c	口縁～頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・凹点・丁寧な横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○	△			△			橙色砂粒 △	7.5YR5/2	灰褐	7.5YR5/2	灰褐		7277 他	
	659	深鉢	D34	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・横ミガキ	横ミガキ	△	△			△	○	△	褐色砂粒 △	5YR7/4	にぶい橙	5YR5/2	灰褐	波状口縁	2155 他	
	660	深鉢	B30	Ⅱ b	口縁	沈線・刺突・縦ミガキ	横ミガキ	○	○				○	△	褐色砂粒 △	2.5YR4/2	灰赤	2.5YR4/2	灰赤		38925 他	
	661	深鉢	F32	Ⅱ c	口縁～頸	磨消縄文・沈線・凹点・刺突・横ミガキ	凹線・横ミガキ	○	△	△			○		砂礫△	5YR3/3	極暗赤褐	5YR2/2	黒褐		11686	
	662	深鉢	C18	Ⅱ b	口縁	沈線・縦ミガキ	横ミガキ	△						△		10YR3/2	黒褐	10YR2/2	黒褐	波状口縁 スス	17540	
	663	深鉢	C34	Ⅱ b	口縁～頸	磨消縄文・沈線・刺突・縦ミガキ	横ミガキ	△		△				△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR2/1	黒	波状口縁	3591	
	664	深鉢	G22	Ⅱ a	口縁～頸	磨消縄文・沈線・刺突・横ミガキ	凹線・横ミガキ	△	△					△	褐色砂粒 △	5YR2/2	黒褐	5YR2/1	黒褐	波状口縁	21956	
	665	深鉢	C23	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・縦ミガキ	横ミガキ	△	△				△	△		2.5YR3/4	暗赤褐	7.5YR2/3	極暗褐		28723	
	666	深鉢	F31	Ⅱ c	口縁～頸	磨消縄文・沈線・刺突・横ミガキ	横ミガキ	◎	△				○		橙色砂粒 △	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		11370	
	667	深鉢	B22	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	△						△		7.5YR4/3	褐	7.5YR5/2	灰褐	波状口縁	17986	
	668	深鉢	E19	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・凹点・横ミガキ	横ミガキ	△	△				○		砂礫△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/3	暗褐	スス 口唇欠損	20279	
	669	深鉢	C34	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・丁寧な横ナデ	凹線・丁寧な横ナデ	△					○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR5/4	にぶい褐		7753	
	670	深鉢	C33	Ⅱ c	口縁～頸	磨消縄文・沈線・斜ミガキ	横ミガキ	△					○			10YR3/1	黒褐	10YR3/3	暗褐	波状口縁	一括	
	671	深鉢	E19, F18	Ⅱ a	口縁～頸	磨消縄文・沈線・斜ミガキ	凹線・横ミガキ	△					○	△		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐		20905 他	
	672	深鉢	G20	Ⅱ a	口縁～頸	沈線・斜ミガキ	横ミガキ	○					○	△		7.5YR2/1	黒	7.5YR2/1	黒	スス	20017	
	673	深鉢	D20	Ⅱ a	口縁	摩滅(磨消縄文・沈線・横ミガキ)	摩滅(凹線・横ナデ)	△					△	△	褐色砂粒 △	5YR3/2	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		18277	
	282	674	深鉢	C33	Ⅱ c	口縁～胴	摩滅(磨消縄文・沈線・連続刺突文・横縦ミガキ)	摩滅(横ミガキ)	◎	○				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/4	暗赤褐	波状口縁 口径：(28.6)	6803 他
		675	深鉢	E9	Ⅱ c	口縁	摩滅(磨消縄文・沈線・刺突・縦ミガキ)	横ミガキ	△					○	△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/3	褐		48696
676		深鉢	D11	Ⅱ c	口縁	磨消縄文・沈線・横ミガキ・縦ミガキ	横ミガキ	○	△				○	△		5YR4/6	赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		48944	
677		深鉢	E9	Ⅱ b	口縁	摩滅(沈線・縦ナデ)	凹線・横ミガキ・丁寧な横ナデ	○	△				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		48829	

第72表 第Ⅷ類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
282	678	深鉢	G40	Ⅱ b	口縁	縄文・沈線・凹線・縦ミガキ	凹線・横ミガキ	△	△			△		黄色砂粒△	10YR3/1	黒褐	10YR4/2	灰黄褐		1603
	679	深鉢	D33	Ⅱ c	口縁～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・横縦ミガキ	凹線・横ミガキ	◎				◎	△		5YR3/4	暗赤褐	5YR3/1	黒褐	波状口縁 口径：(22.7)	8230 他
	680	深鉢	D14	Ⅱ b	口縁～頸	連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	摩滅(凹線・横ナデ)	○		△		△	△		7.5YR3/4	暗褐	7.5YR4/6	褐	波状口縁 口唇欠損	一括
	681	深鉢	G41	Ⅱ b	口縁	縄文・沈線・縦ナデ	横ミガキ	△	△			△		褐色砂粒△	10YR4/1	褐灰	10YR3/2	黒褐		386
	682	深鉢	D17	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・粗い工具ナデ	横ナデ	△				△		褐色砂粒△ 砂礫△	7.5YR2/1	黒	7.5YR3/1	黒褐	口唇欠損	29797
	683	深鉢	D33	Ⅱ c	口縁～頸	沈線・連続刺突文・縦ミガキ	横ミガキ	△				△			7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/1	黒褐	波状口縁	一括
	684	深鉢	G26	Ⅱ b	口縁	沈線・横ナデ	横ミガキ	△	△			△	△	褐色砂粒△	10YR3/2	黒褐	10YR2/2	黒褐	スス	11293

第73表 第Ⅶ類・第Ⅷ類土器胴部観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
283	685	深鉢	E12	Ⅱ a	頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・縦横ミガキ	横ミガキ	△				○	△		7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/3	暗褐		29911 他
	686	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	摩滅(磨消縄文・沈線・連続刺突文・横ナデ)	横ナデ・横ミガキ	△				△	△		7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR6/3	にぶい 褐		25975 他
	687	深鉢	B21	Ⅱ b	頸～胴	磨消縄文・沈線・刺突・縦ミガキ・横ナデ	横ミガキ	△				△		黄色砂粒△	10YR5/4	にぶい 黄褐	10YR3/1	黒褐		17869
	688	深鉢	C33	攪乱	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△	△		△		砂礫△	2.5Y4/1	黄灰	2.5Y4/3	オリーブ 褐		一括
	689	深鉢	H32	Ⅱ c	頸	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・横ミガキ	横ミガキ	△	△			△			5YR3/3	暗赤褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	スス	一括
	690	深鉢	H41	Ⅱ b	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・凹点・横ナデ	横ナデ	△				△	△		5YR4/1	褐灰	5YR5/4	にぶい 赤褐		791
	691	深鉢	H30	Ⅱ b	頸	沈線・連続刺突文・刺突・横ミガキ	横ナデ	○	△			△		砂礫△	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR5/2	灰黄褐		37484
	692	深鉢	D34	Ⅱ c	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・横ミガキ	丁寧な斜ナデ	△				△		赤色砂粒△	2.5YR5/2	灰赤	2.5YR5/4	にぶい 赤褐	粘土塊貼付	7821
	693	深鉢	F17	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・刺突・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△	△			○	△		5YR4/1	褐灰	5YR5/6	明赤褐	スス	23173
	694	深鉢	E33	Ⅱ a・b	胴	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ミガキ	△				△		褐色砂粒△	10YR3/2	黒褐	10YR4/2	灰黄褐		3455 他
	695	深鉢	E10・12	Ⅱ b・c	胴	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	△		△		○	△		5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	スス	42660 他
	696	深鉢	D17, E16・18	Ⅱ a	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・凹点・縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				○	△		5YR4/6	赤褐	5YR2/2	黒褐		21330 他
	697	深鉢	G32	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・凹点・横ナデ	横ミガキ・横ナデ	○				○		赤色砂粒△	10YR3/3	暗褐	10YR3/3	暗褐		一括
	698	深鉢	B23	攪乱	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・凹点・横ミガキ	横ミガキ	△				○	△		10YR7/6	明黄褐	10YR3/2	黒褐		一括
	699	深鉢	B18	Ⅱ c	頸～胴	磨消縄文・沈線・連続刺突文・刺突・凹点・横ミガキ・横ナデ	横ナデ	△		△		△	△	赤色砂粒△	5YR4/2	灰褐	5YR5/6	明赤褐		15663
700	深鉢	B22	攪乱	胴	磨消縄文・沈線・刺突・横ナデ	ナデ	△				△		褐色砂粒△	5YR2/2	黒褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		一括	

※685～698 第Ⅶ類 699・700 第Ⅷ類



第74表 第Ⅶ類・第Ⅷ類土器胴部観察表②

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号		
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				備考	
284	701	深鉢	G・H22	Ⅱ a	頸～胴	縄文・沈線・連続 刺突文・刺突	横ナデ	△	△			◎	○		5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR5/3	にぶい 赤褐		21830 他	
	702	深鉢	C18, E20	Ⅱ b・c	頸～胴	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・刺突・ 横ナデ	横ナデ・横ミ ガキ	○	△	△			○		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/3	褐		17531 他	
	703	深鉢	C8	Ⅱ b	頸	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・横ミ ガキ	横ナデ・横ミ ガキ	△					○		5YR2/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐		42381	
	704	深鉢	H41	Ⅱ b	頸	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・横ナ デ	横ミガキ	△					△	△	10YR5/3	にぶい 黄褐	10YR5/4	にぶい 黄褐		357 他	
	705	深鉢	F・G30	Ⅱ b	頸～胴	磨消縄文・沈線・ 連続刺突	粗い横ミガキ	△					△	△	5YR6/3	にぶい 橙	5YR5/3	にぶい 赤褐		10041 他	
	706	深鉢	C9	Ⅱ b	頸	磨消縄文?・沈線・ 刺突	横ナデ・横ミ ガキ	○	△				○	△	2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR3/4	暗赤褐		42602	
	707	深鉢	D30	Ⅱ c	頸～胴	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・縦ミ ガキ	横ミガキ	△						褐色砂粒 △	10YR3/1	黒褐	10YR3/1	黒褐		4199	
	708	深鉢	F43	Ⅱ b	頸～胴	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・横ミ ガキ	横ミガキ	○	△				△		10R4/1	暗赤灰	10R5/1	赤灰		1203	
	709	深鉢	D22	Ⅱ b	胴	沈線・連続刺突文・ 横ミガキ	粗い横ミガキ	△	△				○	△	2.5YR4/8	赤褐	7.5YR5/6	明褐		29062	
	710	深鉢	F13	Ⅱ a	頸	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・横ミ ガキ	横ナデ	△					○	△	褐色砂粒 △	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐		29858
	711	深鉢	D32	Ⅱ b・c	頸	磨消縄文・沈線・ 連続刺突	横ミガキ	△					△		2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR5/3	にぶい 赤褐		5326 他	
	712	深鉢	H29	Ⅱ b	胴	縄文・沈線・刺突・ 刻目	横工具ナデ	△					△		砂礫△	2.5Y7/3	浅黄	2.5Y4/1	黄灰		8977
	713	深鉢	C8	Ⅱ b	胴	摩滅(沈線・刺突)	摩滅						△	○	褐色砂粒 ○	2.5Y7/3	浅黄	2.5Y7/3	浅黄		42373
	714	深鉢	G18	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・ 刺突・丁寧な縦ナ デ	丁寧な横ナデ	◎					○		10YR5/2	灰黄褐	10YR7/6	明黄褐		20472	
	715	深鉢	H31	Ⅱ b	頸	磨消縄文・沈線・ 連続刺突文・横ミ ガキ	剥落(横ナデ)	○					○	△	褐色砂粒 △	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/4	褐		9975
	716	深鉢	F30	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 刺突・横ナデ	横ナデ	△					○	△	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR6/6	明黄褐		一括	
	717	深鉢	H28	Ⅱ b	胴	沈線・縦ミガキ・ 横ミガキ	横ナデ	○					△	△	褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	10YR4/1	褐灰		9199
	718	深鉢	C33	Ⅱ c	胴	摩滅(縄文・沈線)	ナデ						△		黄色砂粒 ○	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/3	褐		一括
	719	深鉢	F17	Ⅱ a	頸	磨消縄文・沈線・ 横ミガキ	横ナデ	△					△		褐色砂粒 △	5YR4/4	にぶい 赤褐	7.5YR3/3	暗褐		23183
	720	深鉢	C34	攪乱	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ	横ナデ	○	○				△	○	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR2/1	黒		一括	
721	深鉢	C7	Ⅱ c	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	△							黄色砂粒 △ 褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		42536	
722	深鉢	G31	Ⅱ c	胴	縄文・沈線	摩滅	△	△				△		7.5YR4/4	褐	7.5YR3/2	黒褐		11360		
723	深鉢	H30	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ	摩滅	◎		△			○	○	2.5Y6/3	にぶい 黄	2.5Y6/3	にぶい 黄		13103		
285	724	深鉢	F31	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・ 斜ミガキ	横ナデ	△	△	△			○	褐色砂粒 △	2.5Y4/1	黄灰	2.5Y5/2	暗灰黄		9725	
	725	深鉢	F18	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ	横ナデ	△					○	△	10R2/1	赤黒	10R3/2	暗赤褐		20902	
	726	深鉢	D17	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ	横ナデ	△	△	△			○	褐色砂粒 △	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/4	褐		29707	
	727	深鉢	G40	Ⅱ c	胴	磨消縄文・沈線・ 刺突・横ミガキ	横ナデ・横ミ ガキ	○		△					10YR3/1	黒褐	10YR3/2	黒褐		1413	
	728	深鉢	D18	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 横ナデ	横ナデ	△	△	△			○		2.5YR3/3	暗赤褐	2.5YR3/3	暗赤褐		18161 他	
	729	深鉢	E16	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 刺突・横ナデ	横ナデ・粗い 横ミガキ	△	△	△			○	△	2.5YR4/2	灰赤	2.5YR4/3	にぶい 赤褐		一括	
	730	深鉢	G21	Ⅱ a	頸～胴	磨消縄文・沈線・ 横ミガキ	横ミガキ	○					△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/1	黒褐		21827	
	731	深鉢	G31, H32	Ⅱ b・c	胴	磨消縄文・沈線・ 刺突・横ミガキ	横工具ナデ・ 横ミガキ	△							褐色砂粒 △	10YR5/6	黄褐	5YR4/1	褐灰		9998 他
	732	深鉢	F8	Ⅱ b	胴	摩滅(縄文・沈線)	横ナデ	△	△				○		5YR3/1	黒褐	5YR3/3	暗赤褐		37177	
	733	深鉢	G21	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・ 横斜ナデ	横ナデ	△	△				○		7.5R3/1	暗赤灰	7.5R3/1	暗赤灰		22078	

第75表 第Ⅶ類・第Ⅷ類土器胴部観察表③

備考欄：計測値の単位はcm，( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
285	734	深鉢	F19	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・横斜ナデ	横ナデ	○	△			◎	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐		21320
	735	深鉢	B23	攪乱	胴	磨消縄文・沈線・横斜ナデ	横ナデ・横ミガキ	△				△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐		一括
	736	深鉢	D23	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△			△		7.5YR4/4	褐	7.5YR4/3	褐		25048
	737	深鉢	E16	Ⅱ a	胴	磨消縄文・沈線・刺突・縦ナデ	横ナデ	○				◎			5YR4/2	灰褐	5YR5/3	にぶい赤褐		一括
	738	深鉢	C18	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ	△				△	褐色砂粒△		5YR3/1	黒褐	10YR4/2	灰黄褐		17534
	739	深鉢	H40	Ⅱ b	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ	△				○	褐色砂粒△		7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR6/3	にぶい褐		1574
	740	深鉢	G18	Ⅱ a	胴	縄文・斜ナデ	斜ナデ	△				△	△		5YR4/6	赤褐	7.5YR6/3	にぶい褐		20091
	741	深鉢	G41	表土	頸	磨消縄文・横ナデ・縦ミガキ	丁寧な横ミガキ	△				△	褐色砂粒△		5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐		一括
	742	深鉢	D33	Ⅱ b	胴	縄文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				○	△		10YR4/2	灰黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐		5241
	743	深鉢	C12	Ⅱ b	胴	縄文・ナデ	摩滅	○	△	△		○			5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		一括
	744	深鉢	C31	Ⅱ b	胴	摩滅(縄文)	横ナデ	△	△	△		○			5YR6/8	橙	5YR6/6	橙		一括
	745	深鉢	F23	Ⅱ a	胴	縄文	横ナデ・横ミガキ					△	褐色砂粒△		10YR3/1	黒褐	10YR3/2	黒褐		26675
	746	深鉢	E8	Ⅱ b	胴	縄文・沈線・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	△				○	褐色砂粒△		2.5YR2/1	赤黒	2.5YR3/1	暗赤灰		45641
	747	深鉢	E23	Ⅱ a	胴	磨消縄文・横ミガキ	横ミガキ	○				○	褐色砂粒△		5YR3/2	暗赤褐	5YR2/1	黒褐		25404 他
	748	深鉢	F23	Ⅱ a	胴	磨消縄文・横ミガキ	横ミガキ・指オサエ	○	△			◎	褐色砂粒△		5YR3/6	暗赤褐	5YR3/6	暗赤褐		25673 他
749	無頸壺	B22	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				△	△	砂礫△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐		18732	
750	無頸壺	B22	Ⅱ a	口縁	磨消縄文・沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				△	△	砂礫△	7.5YR4/4	褐	7.5YR4/3	褐		19033	

第76表 第Ⅸ類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm，( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
286	751	深鉢	D33	Ⅱ b・c	口縁～頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・縦ミガキ	凹線・横ナデ・横ミガキ	△				△	△	褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR2/2	黒褐	口唇：沈線・刺突口径：(32.2)	5264 他
	752	深鉢	G20	Ⅱ a	口縁	横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	△						砂礫△	5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐	口唇：沈線スス	19850
	753	深鉢	F30	Ⅱ b	口縁	横ナデ	横ナデ	○		△		△		砂礫△	7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR3/2	黒褐	口唇：沈線	9071
	754	深鉢	D32	Ⅱ c	口縁～頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		○	△		2.5YR3/1	暗赤灰	5YR4/2	灰褐	口唇：沈線	7117 他
	755	深鉢	F31	Ⅱ c	口縁	横ミガキ	横ミガキ	△		△		△		褐色砂粒△	2.5Y7/2	灰黄	2.5Y6/2	灰黄	口唇：沈線	11384
	756	深鉢	G28	Ⅱ a	口縁	横工具ナデ	横ミガキ	○				△			10YR2/1	黒	10YR2/1	黒	口唇：沈線・刻目スス	一括
	757	深鉢	D33	Ⅱ c	口縁～頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・横工具ナデ・横ミガキ	△				△	△		7.5YR7/3	にぶい橙	7.5YR7/3	にぶい橙	口唇：沈線・刺突スス	7490
	758	深鉢	G24	Ⅱ a	口縁～頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	摩滅	△				△	△		5YR3/3	暗赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	口唇：沈線	10723
	759	深鉢	H30	Ⅱ a	口縁～頸	連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○				△	△		7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	橙	口唇：沈線	一括
	760	深鉢	G30	Ⅱ b	口縁	横ミガキ	横ミガキ	○		△		△	△		5YR3/1	黒褐	5YR4/6	赤褐	口唇：沈線・刺突スス・コゲ	10596
	761	深鉢	D9	Ⅱ b	口縁	縦斜ミガキ	凹線・横ナデ	○				○		褐色砂粒○	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐	口唇：磨消縄文・沈線	48764 他
	762	深鉢	D21	Ⅱ a	口縁	横ナデ・粗い横ミガキ	横ミガキ	○		△		△		黄色砂粒△	10YR2/3	黒褐	2.5Y4/6	オリブ褐	口唇：沈線・刺突スス	28295



第77表 第Ⅷ区類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調			備考	取上 番号		
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面			内面	
286	763	深鉢	C22	Ⅱ a	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○				○	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR6/4	にぶい 橙	口唇：沈線	29099
	764	深鉢	F22	Ⅱ a	口縁	横ナデ	横工具ナデ	○		△		○			7.5YR5/8	明褐	7.5YR5/8	明褐	口唇：沈線	26871
	765	深鉢	D32	Ⅱ c	口縁	横ナデ・粗い縦ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	○	△	△		○	△		5YR6/6	橙	5YR6/4	にぶい 橙	口唇：沈線・ 刺突 口径：(35.2)	6275 他
287	766	深鉢	E23	Ⅱ a	口縁	斜ミガキ	横ナデ	○				△	△		5YR5/3	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐	口唇：沈線 口径：(30.8)	25420
	767	深鉢	F21	Ⅱ a	口縁	縦ミガキ	横ミガキ	○				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	口唇：沈線	27863
	768	深鉢	F40	Ⅱ c	口縁	横ナデ・縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△		○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR2/2	黒褐	口唇：沈線	1297
	769	深鉢	G40	Ⅱ c	口縁	沈線・横ナデ・粗い斜ミガキ	剥落(横ナデ)	◎	△		◎	◎			5YR3/2	暗赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	口径：(27.8)	1420 他
	770	深鉢	H40	Ⅱ b	口縁	沈線・縦ミガキ	横ナデ	◎	△			○	△		5YR3/1	黒褐	5YR5/3	にぶい 赤褐		1570
	771	深鉢	F31	Ⅱ b	口縁～ 胴	横ナデ・粗い縦ミガキ	横ナデ	○		△		△	△		5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR6/8	橙	口唇：沈線・ 刺突 スス	9719 他
	772	深鉢	E7	Ⅱ b	口縁	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		△			7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰		45667
	773	深鉢	F24	Ⅱ a	口縁	摩滅	横ナデ	○				○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/4	暗褐	口唇：沈線	一括
	774	深鉢	B19	Ⅱ a	口縁	沈線・横ミガキ	横ミガキ	△				△	△		5YR3/6	暗赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐		15720
	775	深鉢	G29	Ⅱ c	口縁	横ナデ・粗い縦ミガキ	横ナデ	◎	△	△	◎	○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/6	褐	口唇：沈線 スス	12101
	776	深鉢	D32	Ⅱ c	口縁	横ナデ・斜ナデ	横ナデ	◎		△		○			2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR5/4	にぶい 赤褐	口唇：沈線 スス	6263
	777	深鉢	E22	Ⅱ a	口縁	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○		△					7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	スス	26434 他
	778	深鉢	E6	Ⅱ b	口縁	横ナデ・縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		○	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR2/2	黒褐	口唇：沈線	44548
	779	深鉢	D10	Ⅱ b	口縁	横ナデ	凹線・横ナデ・横ミガキ	○	△			○	砂礫○		7.5YR3/4	暗褐	2.5YR2/1	赤黒	口唇：沈線	48853
	780	深鉢	C23	Ⅱ a	口縁	横ミガキ	凹線・横ミガキ	△				○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐	波状口縁 口唇：沈線	28365
	781	深鉢	F22	Ⅱ a	口縁	横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ	△		△	○	○			2.5YR3/4	暗赤褐	2.5YR4/8	赤褐	口唇：沈線・ 刺突	27340
	782	深鉢	G29	Ⅱ b	口縁	横ナデ	横工具ナデ	◎					△		7.5YR4/2	灰褐	5YR5/6	明赤褐	口唇：沈線	12026
	288	783	深鉢	C22, F23	Ⅱ a	口縁～ 頸	沈線・連続刺突文・横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△		△	△		5YR3/2	暗赤褐	7.5YR3/2	黒褐	波状口縁 口径：(29.1)
784		深鉢	G31	Ⅱ b	口縁～ 頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎		△		○	褐色砂粒 △		2.5YR3/3	暗赤褐	2.5YR3/3	暗赤褐		10375 他
785		深鉢	B・G22	Ⅱ a	口縁～ 胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ	◎		△		△			7.5YR5/3	にぶい 褐	7.5YR6/4	にぶい 橙		18715 他
786		深鉢	F31	Ⅱ b	口縁～ 頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○		△		△	△		7.5YR4/4	褐	7.5YR4/2	灰褐		9766 他
787		深鉢	D5	Ⅱ b	口縁～ 頸	沈線・連続刺突文・横ミガキ	横ミガキ	◎	△			○			5YR3/3	暗赤褐	7.5YR3/2	黒褐	スス 口径：(16.0)	44667
788		深鉢	H24	Ⅱ b	口縁～ 頸	連続刺突文・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	○				△			5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR4/2	灰褐	スス	30133
789		深鉢	C22	Ⅱ a	口縁～ 頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	◎		△		△	△		7.5YR5/4	にぶい 褐	10YR5/2	灰黄褐	スス 口径：(36.4)	26874 他
289	790	深鉢	C31, D34	Ⅱ b	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横工具ナデ・横ミガキ	△					△		2.5YR4/4	にぶい 赤褐	2.5YR5/6	明赤褐	波状口縁 口唇：沈線・ 連続刺突文 スス	5854 他
	791	深鉢	F23	Ⅱ a	口縁	刻目・横ナデ	横ナデ	△		△		○	△		5YR4/6	赤褐	5YR3/3	暗赤褐	口唇：沈線・ 連続刻目	26953
	792	深鉢	H29	Ⅱ b	口縁	横斜ナデ	横ナデ	○	△		△	○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/4	褐	口唇：沈線・ 連続刺突文	9485
	793	深鉢	F31	Ⅱ c	口縁	横斜ナデ	横ナデ	○	△		△	○			5YR5/2	灰褐	5YR5/6	明赤褐	口唇：沈線・ 連続刺突文	11656
	794	深鉢	H29	Ⅱ a	口縁	横ナデ	横ナデ	◎		△		○	△		7.5YR4/4	褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	口唇：連続刺突文 スス	8857
	795	深鉢	D8	Ⅱ b	口縁	沈線・連続刺突文・横縦ナデ	横ナデ・粗い横ミガキ	◎		△		△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/2	灰褐	スス	46168
	796	深鉢	D31	Ⅱ b・c・ 攪乱	口縁～ 胴	沈線・連続刺突文・縦工具ナデ・粗い縦ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	◎	△		○	○			10YR4/2	灰黄褐	7.5YR4/4	褐	スス・コゲ	5875 他
	797	深鉢	C33	Ⅱ c	口縁	横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	◎		△		△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR5/4	にぶい 褐	口唇：沈線・ 連続刺突文	7662

第78表 第Ⅸ類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			
289	798	深鉢	B22	攪乱	口縁	横ナデ	横ナデ	◎					◎ △		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	口唇：沈線・連続刻目・刺突ス	一括
	799	深鉢	C24	—	口縁	沈線・刻目・横ナデ・縦ミガキ	横ミガキ	◎ △					○		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/3	褐	スス	一括
	800	深鉢	E29, F31	Ⅱ c	口縁	連続刺突文・横ナデ	丁寧な横ナデ	○				◎ ◎			7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/6	橙	スス	1375 他
	801	深鉢	E19	Ⅱ a	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○ △				○ ○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/2	灰褐		20703
	802	深鉢	D31	Ⅱ c	口縁	横ナデ	横ナデ	○				◎ △			7.5YR4/4	褐	7.5YR3/3	暗褐	口唇：連続刺突文	一括
	803	深鉢	D31	Ⅱ c	口縁	連続刺突文・横ナデ・縦ナデ	横ナデ	○ △ △				◎ ○			10YR4/3	にぶい黄褐	7.5YR5/3	にぶい褐	口唇：沈線・連続刺突文	8042
	804	深鉢	E33	Ⅱ b	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○		△		◎			7.5YR2/3	極暗褐	7.5YR5/6	明褐		5433
	805	深鉢	D30	Ⅱ a	口縁	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	△				△ △			7.5YR3/3	暗褐	10YR3/3	暗褐		一括
806	深鉢	H22	Ⅱ a	口縁	刻目・横ナデ・縦ナデ	横ナデ・横ミガキ	○		△			△		10YR4/2	灰黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐	口唇：沈線・連続刻目ス	21706	
290	807	深鉢	E・F31	Ⅱ c・攪乱	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・縦斜ミガキ	横ミガキ	◎		△		△		砂礫△	7.5YR6/6	橙	7.5YR5/4	にぶい褐		7541 他
	808	深鉢	C22	Ⅱ a	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	丁寧な横ナデ	○		△		△		褐色砂粒△	5YR6/6	橙	7.5YR6/4	にぶい橙		28556
	809	深鉢	F23	Ⅱ a	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ・粗い横縦ミガキ	横ナデ	○		△		○ △			7.5YR3/4	暗褐	7.5YR6/4	にぶい橙	スス	25859 他
	810	深鉢	F22・23	Ⅱ a	口縁～頸	摩滅（連続刺突文・横ナデ）	摩滅	◎		△		△ △			5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	コゲ	27650 他
	811	深鉢	D14	Ⅱ a	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○		△ △		△			5YR4/6	赤褐	5YR5/8	明赤褐		8673
	812	深鉢	E6	Ⅱ b	頸	連続刺突文・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/3	褐	スス	44537
	813	深鉢	D12	Ⅱ b	頸	横ナデ	横ナデ	◎ △ △				○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐	スス	42626
	814	深鉢	E23	Ⅱ a	頸	沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				△ △			10YR2/3	黒褐	5YR2/1	黒褐		25403
	815	深鉢	D14	Ⅱ a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ミガキ	横工具ナデ	○		△		△			7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/4	褐		一括
	816	深鉢	G24	Ⅱ b	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○		△				砂礫△	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/3	にぶい橙	スス	40571 他
	817	深鉢	A11	Ⅱ b	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	◎		△		△			7.5YR4/2	灰褐	5YR6/6	橙		36171 他
818	深鉢	C31	Ⅱ c	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ・斜工具ナデ	摩滅（横ナデ）	◎		△					5YR4/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		6200	
819	深鉢	C31	Ⅱ c	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・丁寧な横ナデ	丁寧な横ナデ	○		△		△		褐色砂粒△	2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		6618	
291	820	深鉢	C22	Ⅱ a	頸	摩滅（沈線・連続刺突文・横ナデ）	摩滅（横ナデ）	○		△		○ △			7.5YR5/8	明褐	7.5YR6/6	橙		28836 他
	821	深鉢	C・F22	Ⅱ a	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ナデ	○		△		△			7.5YR5/4	にぶい褐	10YR7/4	にぶい黄橙		26413 他
	822	深鉢	E6	Ⅱ b	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○		△		○			7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/6	明褐		44541
	823	深鉢	G40	Ⅱ c	頸～胴	沈線・横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	○		△		△ △			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/1	黒褐		1257
	824	深鉢	D30	Ⅱ a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	○				△			5YR6/4	にぶい橙	5YR5/3	にぶい赤褐		4390
	825	深鉢	G19	Ⅱ a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	○				○ △ △			5YR5/6	明赤褐	5YR4/1	褐灰		20363
	826	深鉢	C15	Ⅱ b	頸	沈線・刻目・横ナデ	横ナデ	◎				○ ○			5YR6/4	にぶい橙	5YR6/6	橙		一括
	827	深鉢	H29	Ⅱ b	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎				△		褐色砂粒△	7.5YR6/6	橙	10YR6/4	にぶい黄橙		9004
828	深鉢	E18	Ⅱ a	頸～胴	沈線・連続刺突文・凹点・横ナデ	横ナデ	○		△		○ ○			10YR4/6	褐	10YR4/3	にぶい黄褐		20644	

第79表 第Ⅸ類土器観察表④

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
291	829	深鉢	F31	II b	頸～胴	沈線・連続刺突文・丁寧な横ナデ	丁寧な・横ナデ	◎				○		褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/4	褐	スス	9779
	830	深鉢	F19	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横工具ナデ・粗い横ミガキ	△					△		7.5YR4/4	褐	7.5YR4/2	灰褐		20807
	831	深鉢	C22	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎				△	△	褐色砂粒△	2.5Y4/4	オリーブ褐	10YR5/2	灰黄褐		29093 他
	832	深鉢	C25	II a	頸	沈線・連続刺突文・横ナデ	横ナデ	◎		△		△		褐色砂粒△	7.5YR6/8	橙	7.5YR6/4	にぶい橙		29459
	833	深鉢	C34	II b	胴	摩滅（沈線・連続刺突文・横ナデ）	横ナデ	○				○			5YR3/2	暗赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐		3618
	834	深鉢	F17	II b	胴	沈線・横ナデ・粗い横ミガキ	横ナデ・指オサエ	△			○		△		5YR4/1	褐灰	5YR5/6	明赤褐	スス	23231
	835	深鉢	B22	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○					△	褐色砂粒△	10YR3/3	暗褐	10YR3/2	黒褐		18237 他
	836	深鉢	F31	II b・攪乱	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ	摩滅	◎		△		△	△		2.5YR5/4	にぶい赤褐	2.5YR5/3	にぶい赤褐		9763 他
	837	深鉢	C24, D21	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・刺突・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△					△		7.5YR2/2	黒褐	7.5YR2/1	黒		28331 他
	838	深鉢	C22, E21	II a	胴	沈線・刺突・横ナデ・横ミガキ	粗い横ミガキ	△		△					7.5YR4/4	褐	5YR6/8	橙		28902 他
	839	深鉢	D14	II a	胴	沈線・刺突・横ナデ	丁寧な横ナデ	△				△	△		10YR3/4	暗褐	5Y3/1	オリーブ黒		8675
840	深鉢	C22	II a	頸～胴	沈線・連続刺突文・横ナデ・斜ミガキ	横ナデ	○		△		△			7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/4	褐		28399	
292	841	深鉢	B23	II a	胴	沈線・横縦ナデ・横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎		△		△	△	褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい褐	10YR6/3	にぶい黄橙		17249 他
	842	深鉢	H40	II c	胴	沈線・横縦ミガキ	横ナデ粗い横ミガキ	◎		△		○			10R2/2	極暗赤褐	7.5R3/1	暗赤灰	コゲ	1258 他
	843	深鉢	D33	II c	胴	沈線・横縦ミガキ	剥落（横ミガキ）	△		△		△			5YR3/1	黒褐	5YR3/6	暗赤褐		6288 他
	844	深鉢	D32	II b	胴	沈線・刺突・横ナデ	丁寧な横ナデ・横ミガキ	△					△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/2	黒褐		5341
	845	深鉢	E17	II a	胴	磨消縄文・沈線・横ナデ	横ナデ横ミガキ	○				○	△		5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐	スス	29897
	846	深鉢	G31	II b	頸～胴	沈線・連続刺突文・丁寧な横ナデ	丁寧な横ナデ	○					△	△	2.5YR5/1	赤灰	2.5YR4/2	灰赤	スス	11056
	847	深鉢	D14	II b	胴	沈線・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				○	△		5YR3/1	黒褐	5YR4/4	にぶい赤褐		8711
	848	深鉢	C22	II a	胴	剥落（沈線・縦ミガキ）	横ナデ	◎		△		○			7.5YR2/2	黒褐	7.5YR2/2	黒褐	スス	28407

第80表 第Ⅹ類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
293	849	深鉢	X a	B22	II a	口縁	横縦斜工具ナデ	凹線・横縦斜工具ナデ	◎	○		○	○		10YR6/2	灰黄褐	10YR3/1	黒褐	口径：(42.2) 底径：(8.5) 器高：(33.6)	17293	
	850	深鉢	X a	F23	II a	口縁～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△	△	△		△		10YR5/4	にぶい黄褐	10YR5/3	にぶい黄褐	スス 口径：(31.8)	25314 他	
294	851	深鉢	X a	E17・18	II a	口縁	縦ミガキ	凹線・横ナデ	△	△	△		△		10YR4/3	にぶい黄褐	2.5Y5/6	黄褐	口径：(37.8)	21357 他	
	852	深鉢	X a	C24, D22	II a・b	口縁	粗い横ミガキ	横ミガキ	○				○	△	褐色砂粒△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/6	明褐	口径：(38.4)	27731 他
	853	深鉢	X a	F23	II a	口縁～胴	粗い斜ミガキ・横ナデ	凹線・横ナデ	○		△		○		7.5YR4/2	灰褐	10YR4/4	褐	スス 口径：(30.4)	26217 他	
	854	深鉢	X a	E22	II a	口縁	横ミガキ	凹線・横ミガキ	△				△		褐色砂粒△	5YR3/2	暗赤褐	5YR2/1	黒褐	スス	29658
	855	深鉢	X a	A8	II b	口縁	丁寧な横ナデ	凹線・丁寧な横ナデ	△					△	褐色砂粒△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	スス	36318



第81表 第X類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	正文様・調整		胎土					色調				備考	取上 番号		
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面			備考	
294	856	深鉢	X a	B23	II a	口縁	丁寧な横ミガキ	凹線・丁寧な横ミガキ	△				△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		18022
	857	深鉢	X a	D21	II b	口縁 ～頸	横ミガキ	凹線・横ミガキ	○			◎	◎	褐色砂粒 △	10YR3/4	暗褐	10YR4/4	褐	口径：(32.0)	28590 他	
	858	深鉢	X a	E18	II a	口縁	斜ナデ	凹線・横工具ナデ	◎			○	◎		5YR2/2	黒褐	5YR3/1	黒褐	スス	20606	
	859	深鉢	X a	B22	II a	口縁 ～頸	横縦ミガキ	凹線・横ナデ・横ミガキ	○	△		○	△		7.5YR3/3	暗褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	スス	18718 他	
	860	深鉢	X a	D33	II c	口縁	縦ミガキ	凹線・横ミガキ	△				△		2.5Y4/4	オリーブ 褐	2.5Y3/2	黒褐		7676	
	861	深鉢	X a	B25	II a	口縁 ～頸	横ミガキ	凹線・横ミガキ	△				○	△	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/1	黒褐	波状口縁	15582 他	
	862	深鉢	X a	G22	II a・ b	口縁	横縦ミガキ	凹線・横ミガキ	△				○		5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	スス	22187 他	
295	863	深鉢	X a	E22・23	II a	口縁 ～胴	横ナデ・粗い 縦ミガキ	凹線・横ミガキ	◎				○	△	7.5YR4/2	灰褐	10YR5/3	にぶい 黄褐	スス	25495 他	
	864	深鉢	X a	C22	II a	口縁	横ミガキ	凹線・横ミガキ	△				○		5YR2/1	黒褐	10YR3/4	暗褐	波状口縁	注記不明	
	865	深鉢	X a	C22	II a	口縁 ～頸	横縦ミガキ	丁寧な横ナデ・ 横ミガキ	△				△	△	10YR3/3	暗褐	7.5YR4/4	褐		29063 他	
	866	深鉢	X a	F23	II a	口縁 ～頸	横縦ミガキ	横ミガキ	△				△	褐色砂粒 △	7.5YR4/4	褐	7.5YR1.7/1	黒		26228 他	
	867	深鉢	X a	C22	II a	口縁 ～頸	横ミガキ	横ミガキ	○	△			△	褐色砂粒 △	5YR5/6	明赤褐	5YR4/2	灰褐		28753	
	868	深鉢	X a	C22	II a	口縁 ～頸	横縦ミガキ	凹線・粗い横ミ ガキ	△	△			△		5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		28455	
	869	深鉢	X a	E31	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	凹線・横ミガキ	○				◎		5YR3/1	黒褐	5YR2/1	黒褐		13395 他	
	870	深鉢	X a	F17, G19	II a	口縁	横ナデ・縦ミ ガキ	凹線・横ナデ	△				○		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR6/6	橙		19954 他	
	871	深鉢	X a	F・G32	II b	口縁	横縦ミガキ	凹線・横ミガキ・ 横ナデ	△				△		7.5YR2/1	黒	7.5YR3/1	黒褐		9802 他	
	872	深鉢	X a	D22	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	◎	△	△			褐色砂粒 △	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR5/3	にぶい 褐	波状口縁	27137	
	873	深鉢	X a	B22	II a	口縁	横ナデ	摩滅	◎				△	褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR5/6	明赤褐		18724	
	874	深鉢	X a	G40	II b	口縁	横ナデ	凹線・横ナデ	○				△		2.5YR4/2	灰赤	2.5YR3/1	暗赤灰		724 他	
	875	深鉢	X a	G31	II b	口縁 ～頸	横ミガキ	横ナデ・横ミガ キ	△	△	△		△		2.5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR3/2	暗赤褐		10379	
296	876	深鉢	X a	C22	II a	口縁 ～胴	横縦ミガキ	凹線・横ミガ キ・横工具ナ デ	△				△	褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	波状口縁 口径：(20.0)	28425 他	
	877	深鉢	X a	G40・41	II b・ c	口縁 ～胴	横縦ナデ	丁寧な・横工具 ナデ	○	△			△		2.5Y4/2	暗灰黄	2.5Y4/2	暗灰黄		518 他	
	878	深鉢	X a	D22	II a	口縁	粗い横ナデ	凹線・横ミガキ	△				△		5Y3/1	オリーブ 黒	7.5Y2/1	黒		26037 他	
	879	深鉢	X a	F23	II a	口縁	横ナデ	横ミガキ	○					褐色砂粒 △ 砂礫△	5YR3/3	暗赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス	26337 他	
	880	深鉢	X a	E7・8	II b	口縁	粗い横ミガ キ	凹線・横ミガキ	○		△	○			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR2/1	黒		45665	
	881	深鉢	X a	E16	II a	口縁	斜ナデ	凹線・丁寧な横 ナデ	◎	△		○	○		2.5Y4/2	暗灰黄	2.5Y4/2	暗灰黄	スス	30047	
	882	深鉢	X a	D14	II b	口縁	横縦ミガキ	凹線・横ミガキ	△				○	褐色砂粒 △	10YR2/3	黒褐	7.5YR4/4	褐		24004	
	883	深鉢	X a	D17	I	口縁 ～胴	横ナデ	凹線・横ナデ	○			○	○	△	2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR4/8	赤褐	波状口縁 波頂部：V字 状 スス	一括他	
	884	深鉢	X a	G24	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	剥落(横ミガ キ)	○	○				砂礫◎	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/3	褐	器高：3.0	40700	
	885	深鉢	X a	D33	II b	口縁 ～頸	粗い横ミガ キ	粗い横ミガキ	△	△			△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	波状口縁	5249	
	886	深鉢	X a	C31	II c	口縁 ～胴	横ナデ・横縦 ミガキ	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	△	△			○		5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐	口径：(15.2)	一括	
	887	深鉢	X a	G40	II c	口縁 ～胴	剥落(横ミガ キ)	凹線・横工具ナ デ・横ミガキ	○	△			◎	砂礫○	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR3/3	暗赤褐	口径：沈線 波状口縁	1409	
	888	深鉢	X a	G40	II c	口縁 ～胴	横ナデ・縦ミ ガキ	凹線・横ミガキ	△	△				褐色砂粒 ○	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰	口径：(18.5)	1418	
	889	深鉢	X a	F23	II a	口縁 ～頸	横ナデ	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	◎				△		7.5YR4/3	褐	10YR4/3	にぶい 黄褐	スス・コゲ 口径：(26.0)	26839 他	
	890	深鉢	X a	H28	II b	口縁 ～胴	横ナデ・粗い 横ミガキ	凹線・横ナデ・ 粗い横ミガキ	○	△			◎	○		7.5YR6/6	橙	7.5YR5/6	明褐		9877 他

第82表 第X類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文線・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			取上 番号
297	891	深鉢	X a	D32	II c	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△						褐色砂粒△	7.5YR2/3	極暗褐	10YR1.7/1	黒	波状口縁 波頂部：突帯	一括
	892	深鉢	X a	G21	II a	口縁 ～頸	横ミガキ	横ミガキ	△				△		褐色砂粒○	2.5YR2/1	赤黒	2.5YR3/1	暗赤灰		22804
	893	深鉢	X a	F23	II a	口縁 ～頸	横ナデ	横ナデ・横ミガキ	◎	△			△	△		5YR5/8	明赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	口径：(34.0)	26310 他
298	894	深鉢	X	D31	II b・ c	口縁 ～胴	横ナデ・横斜 ミガキ	沈線・横ナデ・ 横ミガキ	○	△			△		褐色砂粒△	5YR3/3	暗赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	波状口縁	6144 他
	895	深鉢	X b	H28	II b	口縁 ～胴	摩滅(横ナ デ・横ミガ キ)	摩滅(沈線)	△				△	△		10YR6/6	明黄褐	10YR6/6	明黄褐	波状口縁	9217
	896	深鉢	X b	C22	II b	口縁	剥落(横ミガ キ)	剥落(沈線・横 ミガキ)	△	△			△			5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	波状口縁 粗製土器	29576
	897	深鉢	X b	F31	II b・ c	口縁 ～胴	横ナデ・横ミ ガキ	摩滅(横ナデ)	○	△	△		○			2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR4/3	にぶい 赤褐		4920 他
	898	深鉢	X b	G28	II b	口縁 ～頸	横ミガキ	沈線・横ミガキ	○	△				△		7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/4	褐		11621
	899	深鉢	X b	F23	II a	口縁	横縦ミガキ	凹線・横ミガキ	△	△			△			2.5YR2/1	赤黒	2.5YR2/1	赤黒		26350
	900	深鉢	X b	G30	II b	口縁	横ミガキ	沈線・横ミガキ	○	△			○			2.5YR5/3	にぶい 赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		13144
	901	深鉢	X b	E22	II a	口縁	横ミガキ	凹線・横ミガキ	○	△	△		○		褐色砂粒△	10YR3/4	暗褐	10YR2/2	黒褐		29641
299	902	深鉢	X b	E15	II b	口縁	丁寧な横ナ デ・縦ミガキ	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	△				△		褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR4/6	褐		一括
	903	深鉢	X b	H29	II b	口縁 ～胴	横ナデ・横縦 ミガキ	沈線・横ナデ・ 横ミガキ	△				△	△		5YR2/4	極暗赤 褐	5YR2/2	黒褐		9648 他
	904	深鉢	X b	C10	II a	口縁	横ナデ・粗い 横ミガキ	沈線・丁寧な横 ナデ	△	△			○			7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/2	灰褐	波状口縁	44057
	905	深鉢	X b	D5	II b	口縁	横ナデ・粗い 横ミガキ	沈線・横ナデ	○	△						5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス	44720
	906	深鉢	X b	G31	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	摩滅(沈線)	○	△	△		○			2.5YR2/2	極暗赤 褐	2.5YR3/3	暗赤褐	波状口縁	11318
	907	深鉢	X b	C7, D8	II b	口縁 ～頸	摩滅(粗い横 ミガキ)	摩滅(横ナデ)	○	△		◎	○			5YR5/3	にぶい 赤褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		42404 他
	908	深鉢	X b	G31	II b・ c	口縁 ～胴	横ミガキ	摩滅(沈線)	○	△	△		○			2.5YR3/2	暗赤褐	2.5YR4/3	にぶい 赤褐	波状口縁	11057 他
	909	深鉢	X b	C22	II a	口縁 ～胴	横ナデ・横ミ ガキ	剥落(沈線・横 ミガキ)	△	△			○	△		5YR2/1	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	波状口縁	28631
	910	深鉢	X b	G30・31	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	凹線・横ミガキ・ 横ナデ	○				○		褐色砂粒△	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/2	暗赤褐		13119 他
	911	深鉢	X b	E22	II b	口縁 ～頸	横斜ミガキ	沈線・横ミガキ	△	△				△		7.5YR4/6	褐	7.5YR4/4	褐		27115 他
	912	深鉢	X b	D22	II b	口縁 ～胴	横ナデ・横ミ ガキ	沈線・横ナデ・ 横ミガキ	△				○			7.5YR1.7/1	黒	7.5YR2/2	黒褐	波状口縁	28608
	913	深鉢	X b	C14	II b	口縁	横ナデ	沈線・横ミガキ	◎				△	△	褐色砂粒△	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR5/4	にぶい 褐		8783
300	914	深鉢	X b	H29	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	摩滅(沈線・横 ミガキ)	○				△		黄色砂粒○	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐	コゲ 口径：(21.4)	8965 他
	915	深鉢	X b	F23	II a	口縁 ～胴	横ナデ・横縦 ミガキ	沈線・横ミガキ・ 横ナデ	△				△	△		7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR4/2	灰褐	スス・コゲ 口径：(19.9)	26852 他
	916	深鉢	X b	B21・22	II a・ b	口縁	横ミガキ	沈線・横ナデ・ 横ミガキ	△	△			△			5YR4/6	赤褐	5YR4/6	赤褐	口径：(23.8)	16428 他
	917	深鉢	X b	B・C22	II a	口縁	横ナデ・粗い 横ミガキ	沈線・横ナデ・ 横ミガキ	△	△			△		褐色砂粒△	5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	波状口縁 口径：(23.1)	28032 他
	918	深鉢	X b	D30	II c	口縁 ～頸	横ミガキ	沈線・横ミガキ	△				△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐	波状口縁	4622 他
	919	深鉢	X b	B24	II b	口縁 ～頸	横ミガキ	摩滅(沈線・横 ミガキ)	△				△	△		2.5GY2/1	黒	2.5Y4/4	オリ ー ブ 褐	波状口縁	17145
	920	深鉢	X b	F37	II a	口縁	横ミガキ	摩滅(沈線)	○				○			7.5R3/1	暗赤灰	7.5YR3/3	暗褐		一括
	921	深鉢	X b	C22	II a	口縁	横ミガキ	剥落(沈線・横 ミガキ)	△				○		褐色砂粒○	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/3	暗褐	波状口縁	29094
	922	深鉢	X b	H26	II b	口縁 ～頸	横ナデ・横ミ ガキ	沈線・横ナデ	△	△				△		7.5YR6/6	橙	7.5YR6/3	にぶい 褐	粗製土器	37281
	923	深鉢	X b	F30・31 ・32	II b・ 攪乱	口縁 ～頸	横ナデ	沈線・横ナデ	△	△				△		7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/6	明褐		一括
	924	深鉢	X b	D31	II b	口縁 ～頸	摩滅(横ナ デ)	摩滅(沈線・横 ナデ)	○				○	△		5YR2/2	黒褐	5YR3/2	暗赤褐		5676

第83表 第X類土器観察表④

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	外面			内面
300	925	深鉢	X b	G30	II b	口縁 ～頸	凹線・横ミガキ	摩滅(沈線・横ミガキ)	○				○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/4	褐	波状口縁 スス	10586
	926	深鉢	X b	B22	II a	口縁 ～頸	横ナデ・横ミガキ	沈線・横ミガキ	△				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/3	暗赤褐		17725
	927	深鉢	X b	E31	II b	口縁	横ミガキ	沈線・横ミガキ	○		△		△			5YR4/2	灰褐	2.5YR5/6	明赤褐		5702
301	928	深鉢	X c	F31	II b・ c	口縁 ～胴	横ナデ・横縦ミガキ	横ナデ・横縦ミガキ	○	○	○		○	○		5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR3/4	暗赤褐	粗製土器	9729 他
	929	深鉢	X c	C22. F22・23	II a	口縁 ～頸	凹線・縦ミガキ	摩滅(横ナデ・横ミガキ)	○			◎	◎	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/2	灰褐	波状口縁 口径：(35.0)	25624 他
	930	深鉢	X c	C32	II c	口縁 ～胴	横ミガキ	横ミガキ	△				△			10YR3/2	黒褐	7.5YR5/6	明褐		7644 他
302	931	深鉢	X c	F31	II b・ c	口縁 ～胴	横ミガキ	摩滅(横ミガキ)	○		△		△	△	褐色砂粒 △	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		11648 他
	932	深鉢	X c	D30	II c	口縁 ～胴	横縦ナデ	剥落(横ナデ)	◎				△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR6/4	にぶい 橙		4452 他	
	933	深鉢	X c	G30	II b	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○	△		○	△	褐色砂粒 △	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/1	黒褐		10587	
	934	深鉢	X c	C22	II a	口縁 ～頸	横ナデ	横ナデ・横ミガキ	◎		△		○	△	褐色砂粒 △	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR5/4	にぶい 褐		29109
	935	深鉢	X c	D22	II a	口縁	横ミガキ	横ミガキ	○				△	△		7.5YR2/1	黒	5YR5/6	明赤褐	スス	25810 他
	936	深鉢	X c	F23	II a	口縁 ～胴	斜ナデ	横ナデ・横工具ナデ	○		△	△	◎			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		26963 他
	937	深鉢	X c	D8	II b・ c	口縁	横縦ミガキ	剥落(横ミガキ)	○		△		△		褐色砂粒 △ 砂礫△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/3	褐		46171 他
	938	深鉢	X c	D32	II c	口縁	横ナデ	横ナデ	○			◎	△			2.5YR4/4	にぶい 赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		8610
	939	深鉢	X c	C23	II a	口縁 ～頸	摩滅(横ナデ)	摩滅(横ナデ)	◎				△	△		7.5YR7/6	橙	10YR6/6	明黄褐		27721 他
	940	深鉢	X c	H27	II b	口縁 ～頸	横ナデ・横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎		△		△		褐色砂粒 △	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR6/6	橙		10114
	941	深鉢	X c	B22	II a	口縁	粗い横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎			○	◎	△		7.5Y4/3	暗オ リーブ	7.5Y4/1	灰		17991
	942	深鉢	X c	D32	II c	口縁	横斜ミガキ	横ミガキ	△				△	△	赤色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		8542
303	943	深鉢	X c	D31	II c	口縁 ～胴	剥落(横縦ミガキ)	剥落	◎			◎	◎			5YR3/2	暗赤褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		6136 他
	944	深鉢	X c	D33, F29	II b・ c	口縁 ～胴	横ナデ・粗い縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎		△		◎			10YR2/1	黒	10YR3/2	黒褐		10974 他
	945	深鉢	X c	F31	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	◎				○	△		7.5YR6/3	にぶい 褐	7.5YR6/3	にぶい 褐	スス	9743
	946	深鉢	X c	F25	II c	口縁 ～頸	横ミガキ	横ミガキ	○	△		◎	○		褐色砂粒 △	5YR3/2	暗赤褐	5YR4/2	灰褐		41511
	947	深鉢	X c	G32	II b	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○			◎	○			5YR2/1	黒褐	5YR5/8	明赤褐		10421
	948	深鉢	X c	G29・30	II a・ b	口縁 ～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△		△		○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/1	褐灰		9099 他
	949	深鉢	X c	E29	II c	口縁	横ミガキ	横ミガキ	△		△		△		褐色砂粒 △	5YR6/4	にぶい 橙	5YR5/6	明赤褐		4794
	950	深鉢	X c	E23	II a	口縁	丁寧な横ナデ・縦工具ナデ	摩滅(横ナデ)	○		△		△		褐色砂粒 △	5YR2/1	黒褐	5YR4/6	赤褐	スス	25629
	951	深鉢	X c	G30	II b	口縁	横縦ナデ	摩滅	○		△		△	△		5YR5/2	灰褐	5YR6/4	にぶい 橙		10929
	952	深鉢	X c	G24	II a	口縁	横ナデ・横ミガキ	横工具ナデ	○		△		○	△		7.5YR5/4	にぶい 褐	10YR6/6	明黄褐	スス	10709
	953	深鉢	X c	G40	II c	口縁	横ナデ・斜ミガキ	横ナデ	◎			○	○			5YR4/1	褐灰	5YR5/4	にぶい 赤褐		1450
	954	深鉢	X c	H41	II b	口縁 ～頸	丁寧な横ナデ	横工具ナデ	○			◎	△			5YR3/1	黒褐	5YR5/6	明赤褐		489
	955	深鉢	X c	F45	II b	口縁	横ナデ・横ミガキ	摩滅(横ナデ)	△					△	褐色砂粒 △	5YR6/6	橙	5YR6/4	にぶい 橙		4539
	304	956	深鉢	X c	E22	II a	口縁	横ナデ	横ナデ	○				○		5YR7/6	橙	5YR7/6	橙		25484 他
957		深鉢	X c	H27	II b	口縁	横ミガキ	横ミガキ	◎			△	◎		5YR4/1	褐灰	5YR4/1	褐灰		37606	
958		深鉢	X c	C8	II c	口縁	横ナデ	横ナデ	◎				△		褐色砂粒 △	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR7/4	にぶい 橙		42523
959		深鉢	X c	C22	II a	口縁	横ナデ	横ミガキ	◎			○	◎		5YR3/1	黒褐	5YR4/4	にぶい 赤褐	スス	28442 他	



第84表 第X類土器観察表⑤

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			
304	960	深鉢	X c	D21	II b	口縁	横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				△	△		2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR5/4	にぶい赤褐		29337 他
	961	深鉢	X c	C22	II a	口縁	横縦ナデ	丁寧な横ナデ	○			○	◎		褐色砂粒△	7.5YR5/8	明褐	7.5YR6/8	橙		28623 他
	962	深鉢	X c	F31	II b	口縁	縦ナデ	横ナデ	○				△	△	褐色砂粒△	5YR5/3	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	スス	8826
	963	深鉢	X c	E23	II a	口縁 ～頸	横ナデ・粗い横ミガキ	縦ナデ	○	△			△	△		7.5YR6/6	橙	10YR4/2	灰黄褐	スス	25432
	964	深鉢	X c	E22	II a	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	△				△	△	褐色砂粒△	5YR3/1	黒褐	5YR4/6	赤褐	スス 口径：(28.0)	29621 他
	965	深鉢	X c	E22	II a	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ	○	△			△	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/8	橙	スス	25512
	966	深鉢	X c	F23	II a	口縁 ～胴	横ミガキ	横ミガキ	○			△	○			5YR2/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		25601 他
967	深鉢	X c	H27			口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ	△	△		△	△		7.5YR3/2	黒褐	10YR3/2	黒褐		注記不明 他	
305	968	深鉢	X c	E22, F24	II a	口縁	粗い横ミガキ	粗い横ミガキ	○				△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/8	橙	口径：(30.0)	29618 他	
	969	深鉢	X c	G24	II b	胴	粗い横ミガキ	剥落	○	△	△		△		7.5YR4/4	褐	7.5YR7/6	橙	穿孔(補修孔?) スス	40583	
	970	深鉢	X c	F23	II a	口縁 ～頸	横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△	△		○		5YR4/6	赤褐	7.5YR3/1	黒褐		26393	
	971	深鉢	X c	G30・31	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	◎	△			△	砂礫△	10YR3/2	黒褐	7.5YR5/3	にぶい褐	波状口縁	13121-1 他	
	972	深鉢	X c	C22	II a	口縁	横ナデ	横ナデ	○	△		○			7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		28931 他	
	973	深鉢	X c	C22	II a	口縁	横ナデ	横ナデ	○	△		○			7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		27488 他	
	974	深鉢	X c	E24, F23	II a	口縁 ～胴	横斜ナデ・横ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	△				△	△		5YR3/2	暗赤褐	5YR3/1	黒褐	口径：(18.6) 底径：(5.6) 器高：(18.4)	25369 他
	975	深鉢	X c	G25	II c	口縁	粗い横ミガキ	横ミガキ	△	△			△	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR3/1	黒褐		164 他
	976	深鉢	X c	F31	II c	口縁	横ナデ	横工具ナデ	△				△	△		10YR4/2	灰黄褐	10YR5/6	黄褐		11023 他
	977	深鉢	X c	H28	II b	口縁 ～胴	横ナデ・横ミガキ	沈線・横ナデ	○	○			△	△	砂礫◎	10YR3/4	暗褐	10YR3/1	黒褐	スス 器高：4.8	37643
	978	深鉢	X c	E7	II b	口縁 ～頸	横ナデ	横ナデ	○				○	△	褐色砂粒 ○	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/8	赤褐		46156
	979	深鉢	X c	E7	II b	口縁 ～頸	横ミガキ	横ミガキ	△	△			△		褐色砂粒 △	5YR3/2	暗赤褐	5YR2/2	黒褐		45670 他
	980	深鉢	X c	C7	II c	口縁	横縦ミガキ	横ミガキ	△	△		◎			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/3	褐		42651	
981	深鉢	X c	G40	II b	口縁	横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△	△			△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/2	黒褐	スス	1272		
306	982	深鉢	X d	F23	II a	口縁 ～胴	摩滅(横ナデ・横ミガキ)	剥落	◎				◎	△	砂礫△	5YR3/2	暗赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐	スス 口径：(32.0)	25611 他
	983	深鉢	X d	B22	攪乱	口縁	横縦ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎	◎		5YR3/1	黒褐	5YR5/4	にぶい赤褐		一括
	984	深鉢	X d	G18・19	II a	口縁 ～頸	横斜ナデ・粗い斜ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎	△			○	△		7.5YR2/1	黒	7.5YR4/4	褐	スス	19968 他
	985	深鉢	X d	F23	II a	口縁 ～頸	横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△			○		砂礫△	10YR3/1	黒褐	10YR4/3	にぶい黄褐		26965 他
	986	深鉢	X d	B21	II b	口縁 ～頸	横斜ミガキ	横ミガキ・ナデ	△	△			△			10YR4/3	にぶい黄褐	2.5Y3/2	黒褐		18164
	987	深鉢	X d	C22	II a	口縁 ～頸	横斜ミガキ	横斜ミガキ	△	△			△			5YR6/8	橙	5YR4/1	褐灰		28641
	988	深鉢	X d	G17	II a	口縁	粗い横ナデ	横ナデ	○				△	△	褐色砂粒 △	2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR4/2	灰赤		21005 他
	989	深鉢	X d	D14	II b	口縁 ～胴	横ミガキ	横ナデ	○	△			○	△		5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	口径：(24.0)	8794 他
	990	深鉢	X d	F23	II a	口縁 ～頸	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△	△			△		5YR5/6	明赤褐	5YR2/3	極暗赤褐	口径：(26.1)	26825 他
307	991	深鉢	X d	F31	II b	口縁 ～胴	摩滅(横縦ミガキ)	摩滅(横ミガキ)	◎				○	△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/4	褐	スス 口径：(24.6)	9717 他
	992	深鉢	X d	C22	II a	口縁 ～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△				△	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/4	にぶい橙	口径：(21.9)	28638 他
	993	深鉢	X d	C22	II a	口縁 ～胴	剥落(横ナデ・横ミガキ)	剥落(横ナデ・横ミガキ)	◎	△			○	△		7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/3	褐	口径：(22.0)	28827 他

第85表 第Ⅹ類土器観察表⑥

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調				備考	取上 番号		
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面			備考	
307	994	深鉢	X d	F31	Ⅱ a・b	口縁～底	横縦ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	△				△	△		5YR3/4	暗赤褐	5YR6/6	橙	口径：(17.0) 底径：(5.7)	8834 他
	995	深鉢	X d	F31	Ⅱ b	口縁～胴	横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△			○			5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐		9760 他
	996	深鉢	X d	C22, F23	Ⅱ a	口縁	横ミガキ	横ミガキ	△				△	△		10YR3/4	暗褐	10YR2/2	黒褐	コゲ	26244 他
	997	深鉢	X d	B10	Ⅱ b	口縁	縦ミガキ	横ミガキ	△		○		○			7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	口径：(24.0)	36264
	998	深鉢	X d	F33・34	Ⅱ b・c	口縁	横工具ナデ・粗い横ミガキ	横工具ナデ・粗い横ミガキ	△				△	△		2.5YR3/4	暗赤褐	2.5YR4/4	にぶい赤褐		10468 他
	999	深鉢	X d	G30	Ⅱ b	口縁～胴	磨滅	剥落	○	△			△	砂礫◎		7.5YR3/2	黒褐	5YR4/2	灰褐	ス 器高：4.4	一括
	1000	深鉢	X d	F29	Ⅱ b	口縁	横ミガキ	横ミガキ	△	△						10R3/2	暗赤褐	10R3/3	暗赤褐		9698
1001	深鉢	X d	D22	Ⅱ a	口縁	横ミガキ	横ミガキ	○				○			7.5YR4/3	褐	2.5Y3/1	黒褐		29648	
308	1002	深鉢	X d	B22	Ⅱ a	口縁～頸	横ミガキ	横ミガキ	△				△		7.5YR4/6	褐	7.5YR4/6	褐	口径：(18.2)	17723	
	1003	深鉢	X d	F・G29	Ⅱ b	口縁～胴	横斜ミガキ	横ミガキ	○				△		5YR3/1	黒褐	5YR4/1	褐灰		10980 他	
	1004	深鉢	X d	C22	Ⅱ a	口縁～胴	横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△	△			○	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/1	黒褐		28870 他
	1005	深鉢	X d	C22	Ⅱ a	口縁～頸	剥落(横ミガキ)	剥落(横ミガキ)	○				◎	褐色砂粒 △		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR3/1	黒褐		29214
	1006	深鉢	X d	D22	Ⅱ b	口縁～胴	横工具ナデ・横縦ミガキ	横工具ナデ・横縦ミガキ	△	△			△		5YR3/2	暗赤褐	5YR4/6	赤褐	口径：(14.6)	28313 他	
	1007	深鉢	X d	F8	Ⅱ b	口縁	横縦ミガキ	横ミガキ	△				△		2.5YR2/2	極暗赤褐	2.5YR3/4	暗赤褐		37168	
	1008	深鉢	X d	C23	Ⅱ a	口縁～頸	横ミガキ	横ミガキ	△	△			△		10YR4/4	褐	10YR5/6	黄褐	波状口縁	28033	
	1009	深鉢	X d	H27	Ⅱ b	口縁～頸	粗い斜ミガキ	磨滅(粗い横ミガキ)	○	△			△		10R6/4	にぶい赤橙	10R5/3	赤褐		一括	
	1010	深鉢	X d	H30	Ⅱ b	口縁～底	剥落(横縦ミガキ・指オサエ)	剥落(横ナデ・横ミガキ)	◎	△			◎	△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/2	黒褐	口径：(14.3) 底径：(4.3) 器高：(13.5)	9023 他

第86表 第Ⅹ類土器胴部観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調				備考	取上 番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面			備考		
309	1011	深鉢	C・F22	Ⅱ a	口縁～胴	横縦ミガキ	磨滅(横ミガキ)	△	△					砂礫○	10YR3/2	黒褐	2.5Y4/4	オリブ褐		26686 他	
	1012	深鉢	G31	Ⅱ b	頸～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△	△				△		5YR6/8	橙	5YR5/4	にぶい赤褐		10402 他	
	1013	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△				○			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		28864	
	1014	深鉢	F31	Ⅱ b	頸～胴	横ナデ・横ミガキ	剥落(横ナデ・横ミガキ)	○				◎	◎	△		5YR3/3	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		13408 他
	1015	深鉢	C22, H24	Ⅱ a・c	頸	横ミガキ	横ミガキ	○	△			○			10YR2/2	黒褐	7.5YR2/1	黒		28637 他	
	1016	深鉢	H25	Ⅱ b	頸～胴	横ミガキ	横ミガキ	○				○			5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐	ス	38382 他	
	1017	深鉢	H26	Ⅱ a	胴	横縦ミガキ	横ミガキ	○	△				△		5YR5/6	明赤褐	7.5YR6/4	にぶい橙		10639	
	1018	深鉢	D31	Ⅱ b	頸	横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○				○	砂礫○		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/3	褐	ス	5951	
	1019	深鉢	G30	Ⅱ b・c	胴	横ミガキ	磨滅	○	△			◎			5YR3/2	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		10911 他	
	1020	深鉢	D14	Ⅱ c	頸～胴	横ミガキ	剥落(横ナデ・横ミガキ)	△					△	△		10YR3/2	黒褐	10YR4/4	褐	ス	8715
	1021	深鉢	C21	Ⅱ a	胴	横ナデ・横ミガキ	磨滅(横ミガキ)	◎					△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/6	褐		27773
	1022	深鉢	F23	Ⅱ a	頸～胴	横ミガキ	横ミガキ	△	△				△			5YR2/2	黒褐	5YR3/2	暗赤褐		26517 他
	1023	深鉢	G22	Ⅱ a	頸～胴	横斜ナデ	横工具ナデ・横ミガキ	◎	△	△			△			7.5YR3/3	暗褐	10YR3/4	暗褐	ス	21849 他
310	1024	深鉢	C7・8, D8	Ⅱ c	頸～胴	粗い横縦ミガキ	横ナデ	△	△	△		◎			5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/2	灰褐	ス	42532 他	
	1025	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△	△	△		○			2.5YR1.7/1	赤黒	2.5YR2/1	赤黒		28428	

※1011～1095 精製土器 1096～1179 粗製土器

第87表 第X類土器胴部観察表②

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調		備考	取上 番号				
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他			外面	内面		
310	1026	深鉢	B23	II a	頸~胴	横縦ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	○				○	△		5YR1.7/1	黒	5YR2/2	黒褐		17222
	1027	深鉢	E22	II b	頸~胴	横斜工具ナデ・横ミガキ	横斜ミガキ	△		△		△		褐色砂粒 ○	7.5YR4/4	褐	7.5YR6/6	橙		27274
	1028	深鉢	F23	II a	頸~胴	横縦ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	△				△		褐色砂粒 △	7.5YR2/1	黒	7.5YR2/1	黒	スス	27789
	1029	深鉢	F18	II a	頸~胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△				○		砂礫○	5YR4/8	赤褐	10YR2/3	黒褐		15642他
	1030	深鉢	G20	II a	胴	縦ミガキ	斜ミガキ	△				○	△	砂礫△	7.5YR4/6	褐	7.5YR3/1	黒褐	スス	19630
	1031	深鉢	F23	II a	頸~胴	横縦ミガキ	摩滅	○	△	△		○			5YR3/4	暗赤褐	5YR4/6	赤褐		27119他
	1032	深鉢	B9	II b	胴	縦ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	△		△		△	△	褐色砂粒 △	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/3	にぶい 赤褐		36291
	1033	深鉢	C7	II b	胴	粗い斜ナデ・斜ミガキ	摩滅(横ナデ)	◎	△		◎	◎			2.5YR4/4	にぶい 赤褐	2.5YR5/6	明赤褐	スス	42436他
	1034	深鉢	E5	II b	胴	縦ミガキ	摩滅	○	△	△		△			2.5YR4/6	赤褐	7.5YR4/1	褐灰		44629
	1035	深鉢	D12	II b・c	胴	粗い斜ナデ	粗い斜ナデ	◎				○	◎		7.5YR4/4	褐	7.5YR3/1	黒褐		42481他
	1036	深鉢	F7・8	II b	胴	斜ナデ・粗い縦ミガキ	摩滅	○	△			○	○		5YR4/4	にぶい 赤褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		45593他
1037	深鉢	D9	II c	胴	横縦ナデ	横ナデ	◎	△	△		○	○		5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		48774	
311	1038	深鉢	H29	II b	胴	摩滅(横ミガキ)	摩滅(横ミガキ)	○					褐色砂粒 ○ 黄色砂粒 ○	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/2	暗赤褐	スス	9000他	
	1039	深鉢	D29	II c	胴	横斜ミガキ	摩滅	△				○	△	褐色砂粒 △	10YR3/3	暗褐	7.5YR5/6	明褐	スス	6432他
	1040	深鉢	—	II a	胴	横縦ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△			△	褐色砂粒 △	5YR6/8	橙	5YR6/6	橙	スス	28764
	1041	深鉢	B22	II a	胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△		△					7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR4/2	灰褐		17268他
	1042	深鉢	D23	II a	胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△		△					7.5YR4/3	褐	10YR2/2	黒褐		29626
	1043	深鉢	D22	II b	胴	縦ミガキ	縦ミガキ	△				△	△		5YR4/6	赤褐	2.5YR3/1	暗赤灰		29006他
312	1044	深鉢	D10	II b	頸	横斜ミガキ	横ミガキ	○		△		△		砂礫△	7.5YR5/3	にぶい 褐	7.5YR4/3	褐		48852
	1045	深鉢	B7	II a	頸	粗い横ミガキ	横ナデ	△				○	△		7.5YR4/2	灰褐	5YR4/6	赤褐		24514他
	1046	深鉢	G24・25	II a・b	頸~胴	粗い横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○					△	△	10YR3/1	黒褐	10YR3/1	黒褐		10862他
	1047	深鉢	B11	II b	頸	横ナデ・縦ミガキ	横ミガキ	◎					△		5YR3/1	黒褐	5YR6/6	橙	スス	45065
	1048	深鉢	E31	II b	胴	剥落(横縦ミガキ)	横ナデ・横ミガキ	○	△	△		○	△		5YR5/6	明赤褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		13409他
	1049	深鉢	C22	II a	胴	横縦ミガキ	縦工具ナデ・横ミガキ	△		△		△	△		2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR4/4	にぶい 赤褐	スス	25770
	1050	深鉢	H29	II b	胴	丁寧な縦ミガキ	縦斜ミガキ	△		△			△	砂礫△	10R4/3	赤褐	2.5Y5/3	黄褐		9650他
	1051	深鉢	B22・23	II a・b	胴	縦ミガキ	斜ナデ	△	△	△			△		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/2	黒褐		18537他
	1052	深鉢	D22		胴	横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		○		砂礫△	5YR3/3	暗赤褐	7.5YR3/3	暗褐		一括
	1053	深鉢	C33	II c	胴	丁寧な縦ミガキ	摩滅(斜ナデ)	△		△		○			2.5YR3/6	暗赤褐	7.5YR3/1	黒褐		一括
313	1054	深鉢	C23	II a	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				△		10YR2/3	黒褐	2.5Y3/3	暗オリーブ 褐			27753他
	1055	深鉢	D8	II b・c	胴	縦ミガキ	摩滅	△				△	△		5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR5/6	明赤褐		46164他
	1056	深鉢	C7・8	II a・c	胴	粗い縦ミガキ	摩滅	○				○	△		5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR4/2	灰褐		42429他
	1057	深鉢	D14	II b	頸~胴	縦ナデ・横ミガキ	横ミガキ					△	△		5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐		一括
	1058	深鉢	E22	II a	頸~胴	横ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	○		△		○		褐色砂粒 △	7.5YR3/4	暗褐	7.5YR5/3	にぶい 褐		26268他
	1059	深鉢	C22	II a	頸~胴	横斜ミガキ	横ミガキ	△		△		△			5Y3/1	オリーブ 黒	5Y3/1	オリーブ 黒		26628他
	1060	深鉢	D22	II b	頸	横縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△			△	砂礫△	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/6	褐		27981
	1061	深鉢	G21	II a	頸~胴	横縦ミガキ	横ミガキ	△				○		褐色砂粒 △	7.5YR2/1	黒	7.5YR3/4	暗褐		22804
	1062	深鉢	E5	II c	頸	横ミガキ	横ナデ 横ミガキ	△				△	△		2.5YR4/3	にぶい 赤褐	2.5YR3/2	暗赤褐		44633
	1063	深鉢	B13	II b	頸	横ミガキ	摩滅(横ナデ)	○					○	△	5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		44815

※1011~1095 精製土器 1096~1179 粗製土器



第88表 第X類土器胴部観察表③

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面				
313	1064	深鉢	F8	II b	頸	丁寧な横ミガキ	横ミガキ	△				△	△		2.5YR2/1	赤黒	2.5YR4/2	灰赤		37169
	1065	深鉢	E5	II b	胴	横ミガキ	横ミガキ	△				△	褐色砂粒 △	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR4/4	にぶい 赤褐		44489	
	1066	深鉢	F23	II a	頸～胴	粗い横ミガキ	粗い横ミガキ・指 オサエ	△		△	○			7.5YR4/1	褐灰	7.5YR4/1	褐灰	スス	26215 他	
	1067	深鉢	E22	II b	頸～胴	横ナデ	横ナデ・横工具ナ デ	○		△			△	7.5YR4/3	褐	10YR4/2	灰黄褐		28700	
	1068	深鉢	C22	II a	頸～胴	横ミガキ	摩滅(横ナデ・横 ミガキ)	△				△	△	7.5YR2/3	極暗褐	10YR2/1	黒		28142	
	1069	深鉢	D19	II a	胴	横ミガキ	横ミガキ	△				△	△	2.5Y3/2	黒褐	7.5YR3/3	暗褐		18335	
	1070	深鉢	E41	II b	頸	横工具ナデ・横ミ ガキ	横工具ナデ	△					△	2.5YR2/1	赤黒	2.5YR3/1	暗赤灰		918	
	1071	深鉢	D33	II c	頸	縦ミガキ	摩滅(横ミガキ)	○				○	△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/4	褐		8262	
	1072	深鉢	G40	II c	頸～胴	摩滅(横ミガキ)	摩滅	○	△				△	砂礫△	7.5YR4/3	褐	5YR3/1	黒褐		1404
	1073	深鉢	B24	II a	頸～胴	横ミガキ	横ミガキ	△					○	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/1	黒褐		18570 他	
	1074	深鉢	B20	II b	頸～胴	縦ナデ	摩滅(横ナデ)	○	△		○	○		7.5YR4/3	褐	7.5YR3/2	黒褐		16761	
	314	1075	深鉢	C9・D12	II b	胴	横縦ナデ	斜ナデ	○				△	○	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR3/1	黒褐		42595 他
		1076	深鉢	C28	II c	胴	横ナデ・横ミガキ	横工具ナデ・斜ミ ガキ	△				△	△	10YR5/4	にぶい 黄褐	10YR6/4	にぶい 黄橙		3359
		1077	深鉢	C23	II a	胴	縦ミガキ	横ミガキ	○				△	△	5YR4/4	にぶい 赤褐	10YR3/2	黒褐		27758
1078		深鉢	D14	II a	胴	横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	△					△	5YR4/4	にぶい 赤褐	7.5YR3/3	暗褐		8672	
1079		深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△		○		5YR4/4	にぶい 赤褐	7.5YR4/3	褐		28397 他	
1080		深鉢	B22	II a	胴	粗い縦ミガキ	粗い横ミガキ	△		△			△	5YR5/6	明赤褐	10YR5/4	にぶい 黄褐		19045	
1081		深鉢	C18	II b	胴	縦ミガキ	横ナデ	△					△	褐色砂粒 △	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰		17558
1082		深鉢	C8	II b	胴	縦ミガキ	剥落	◎				△	○	褐色砂粒 ○	5YR3/1	黒褐	5YR3/4	暗赤褐		42439
1083		深鉢	E19	II a	胴	縦ミガキ	粗い斜ミガキ	○	△		○	○		7.5YR3/3	暗褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		20274	
1084		深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	縦ミガキ	○			◎	○		10YR4/3	にぶい 黄褐	10YR2/2	黒褐		28643	
1085		深鉢	B21	II b	胴	縦ミガキ	横ミガキ	△		△		◎		7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		17670	
1086		深鉢	C23	II a	胴	縦ミガキ	粗い横ミガキ	△		△		○		5YR3/4	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐		28722	
1087		深鉢	E13	II b	胴	縦ミガキ	剥落(横ミガキ)	△				○	△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR4/6	褐		24048	
1088		深鉢	C18	II b	胴	粗い縦ミガキ	粗い縦ミガキ	△		△		△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰	スス	17750	
1089		深鉢	C19	II b	胴	縦ミガキ	斜ミガキ	△		△		○		5YR4/4	にぶい 赤褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		16993	
1090		深鉢	C22	II b	胴	縦ミガキ	横ナデ・縦ミガキ	△		△		○		10YR2/3	黒褐	7.5YR2/3	極暗褐		29572	
1091		深鉢	G21・22	II a・b	胴	剥落(縦ミガキ)	粗い横斜ミガキ	○		△		○	△	7.5YR4/3	褐	10YR2/2	黒褐		22372 他	
1092		深鉢	B12	II a	胴	縦ミガキ	摩滅	△		△			砂礫△	5YR4/4	にぶい 赤褐	7.5YR4/1	褐灰		16685	
1093		深鉢	F23	II a	胴	剥落(縦ミガキ)	横ミガキ	△				○	△	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR3/2	黒褐		26257	
1094		深鉢	C20	II b	胴	横斜ミガキ	横ナデ	△		△			褐色砂粒 △	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰		17771	
1095		深鉢	F23	II a	胴～底	横縦ミガキ・指オ サエ	横ナデ・指オサエ	△		△		○	砂礫○	7.5YR5/3	にぶい 褐	7.5YR5/3	にぶい 褐		25966	
315	1096	深鉢	F25	II c	頸～胴	横斜ミガキ	横ミガキ	◎		△		△	△	褐色砂粒 △	7.5YR5/6	明褐	10YR5/4	にぶい 黄褐		43404 他
	1097	深鉢	C22	II a	頸～胴	横ナデ・粗い横ミ ガキ	摩滅(横ミガキ)	◎	△		○	○		10YR4/2	灰黄褐	10YR5/3	にぶい 黄褐		28153 他	
	1098	深鉢	C22	II a	頸～胴	横ミガキ	横工具ナデ・横ミ ガキ	○	△		○	○	△	10YR3/2	黒褐	10YR5/3	にぶい 黄褐	スス	28490 他	
	1099	深鉢	C22	II a	頸～胴	斜工具ナデ	摩滅(横ミガキ)	○		△		△	砂礫△	7.5YR4/3	褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		28945	
	1100	深鉢	C22	II a	頸～胴	丁寧な横縦ナデ	横ナデ	◎	△		◎	◎		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/4	褐		28886 他	
	1101	深鉢	E23	II a	胴	縦斜工具ナデ	摩滅(横ナデ)	○		△		○	砂礫△	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐	スス	25406 他	
	1102	深鉢	G21	II a・b	頸～胴	横ナデ・斜ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△		△		5YR3/2	暗赤褐	5YR5/3	にぶい 赤褐		22460 他	

※1011～1095 精製土器 1096～1179 粗製土器

第89表 第Ⅹ類土器胴部観察表④

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調		備考	取上 番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他			外面	内面	
315	1103	深鉢	F・G45	Ⅱ a・b	胴	横ミガキ・粗い斜ミガキ	摩滅(横ミガキ)	○	△		△	△		5YR7/6	橙	10YR7/3	にぶい黄橙	1534他	
	1104	深鉢	B31	Ⅱ b・c	頸～胴	縦ミガキ	横ミガキ	◎	△		△	△	砂礫△	5YR6/6	橙	5YR6/6	橙	39626他	
316	1105	深鉢	F44・45	Ⅱ a・b	胴	横工具ナデ・粗い縦ミガキ	横斜ナデ	◎	△		△			5YR6/6	橙	7.5YR5/2	灰褐	スス 1697他	
	1106	深鉢	G27	Ⅱ c	胴	斜ミガキ	横ミガキ	○			○	○	砂礫△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/6	褐	11611	
	1107	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	丁寧な・横ナデ横ミガキ	横ナデ	◎	△	△	◎			2.5Y4/3	オリーブ褐	2.5Y6/4	にぶい黄	28441	
	1108	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	横ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	◎	△		◎	◎		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐	スス 28810他	
	1109	深鉢	G31	Ⅱ b	頸～胴	粗い横縦ミガキ	摩滅	△	△		○		褐色砂粒△	5YR3/2	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	11317	
	1110	深鉢	D22	Ⅱ b	胴	縦ミガキ	横ミガキ	○	△		○			10YR5/4	にぶい黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙	スス 29158	
	1111	深鉢	C19	Ⅱ b	胴	摩滅(横ナデ・縦ミガキ)	粗い横ミガキ	○	△		△			7.5YR4/6	褐	10YR2/3	黒褐	スス 17471他	
	1112	深鉢	C22	Ⅱ a	胴	横縦ミガキ	横ミガキ	○	△		○			7.5YR4/3	褐	2.5Y3/1	黒褐	28946他	
	1113	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	横縦ミガキ	横ミガキ	○	△		△	砂礫○		7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/4	にぶい褐	28629他	
	1114	深鉢	F23	Ⅱ a	胴	摩滅(沈線・縦ナデ・縦ミガキ)	横ナデ	◎	△		○	△		7.5YR5/8	明褐	10YR6/6	明黄褐	コゲ 27641他	
	1115	深鉢	C22	Ⅱ a	頸～胴	横ミガキ	摩滅(横ミガキ)	○			△	△	褐色砂粒△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	28956	
	1116	深鉢	E22	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	横工具ナデ	○			○	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR4/1	褐灰	26757他	
	317	1117	深鉢	D34	Ⅱ a	頸～胴	横縦ミガキ	摩滅(横ミガキ)	○	△		○	△		5YR3/2	暗赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス 3416
		1118	深鉢	H29	Ⅱ b	頸～胴	丁寧な横縦ナデ	横ナデ	○	△		◎	◎	△	2.5YR3/3	暗赤褐	5YR3/1	黒褐	スス 37698
1119		深鉢	G30	Ⅱ c	胴	横ナデ・粗い縦ミガキ	摩滅	○			○			5YR3/1	黒褐	2.5YR4/6	赤褐	スス 補修孔 11845	
1120		深鉢	C23	Ⅱ b	胴	縦工具ナデ・縦ミガキ	横ナデ・粗い横ミガキ	○			○	◎		7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	スス 29521	
1121		深鉢	E12	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	斜ナデ	○			○	△		5YR4/6	赤褐	5YR1.7/1	黒	30036	
1122		深鉢	B23	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	斜ミガキ	○	△	△		○		7.5YR4/3	褐	7.5YR5/4	にぶい褐	17205他	
1123		深鉢	B22・23	Ⅱ a	胴	摩滅(縦ミガキ)	斜ミガキ	○	△	△		△	△	2.5YR4/6	赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐	18253他	
1124		深鉢	C23	Ⅱ a	胴	摩滅(縦ミガキ)	摩滅(斜ミガキ)	△	△		△			7.5YR5/2	灰褐	10YR4/2	灰黄褐	28716	
1125		深鉢	C22	Ⅱ a	胴	横ナデ・縦ミガキ	横工具ナデ	○	△		○	△	褐色砂粒△	7.5YR6/6	橙	7.5YR7/6	橙	スス 29225	
1126		深鉢	F23	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	横縦ミガキ	△	△		△	△		5YR4/8	赤褐	7.5YR2/1	黒	25358他	
318		1127	深鉢	E19	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	粗い縦ミガキ	△	△		△			5YR5/4	にぶい赤褐	5YR3/1	黒褐	20734他
	1128	深鉢	F23	Ⅱ a	胴	摩滅(横ミガキ)	摩滅(横ナデ)	○	△			△	褐色砂粒△	5YR4/6	赤褐	5YR3/1	黒褐	27642他	
	1129	深鉢	F13	Ⅱ a	胴	粗い斜ミガキ	横ナデ	○	△	△		○	△	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/4	褐	23054他	
	1130	深鉢	E16	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	横ナデ	△			△	△		5YR4/6	赤褐	5YR2/2	黒褐	8744	
	1131	深鉢	G31	Ⅱ b	胴	斜ミガキ	横ミガキ	◎	△	△		◎		5YR3/3	暗赤褐	5YR3/1	黒褐	スス 10370他	
	1132	深鉢	C16	Ⅱ a	胴	斜ナデ	剥落	△			○	△		7.5YR4/4	褐	7.5YR5/4	にぶい褐	一括	
	1133	深鉢	E22, F23	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	剥落	△	△		△			2.5YR4/4	にぶい赤褐	7.5YR5/3	にぶい褐	26740他	
	1134	深鉢	C22	Ⅱ a	胴	摩滅(縦ミガキ)	横ナデ	◎	△					7.5YR5/8	明褐	7.5YR6/6	橙	29090他	
	1135	深鉢	D22	Ⅱ b	胴	縦ミガキ	横ミガキ					△	△	7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR3/2	黒褐	28277	
	1136	深鉢	E31	Ⅱ b	胴	摩滅(横縦ミガキ)	摩滅(横縦ミガキ)	△			○		褐色砂粒△	5YR4/3	にぶい赤褐	7.5YR2/2	黒褐	スス 5766	
	1137	深鉢	E13	Ⅱ b	胴	摩滅(縦ナデ・縦ミガキ)	横ナデ	◎	△				褐色砂粒△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	スス 一括	
	1138	深鉢	B22	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	粗い横ナデ・粗い横ミガキ			△	△	△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	16643	
	1139	深鉢	F23	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	剥落	○	△		○			5YR4/6	赤褐	10YR5/4	にぶい黄褐	26786	
1140	深鉢	C22・23	Ⅱ a	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△			△	褐色砂粒△	2.5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/2	灰褐	26944他		

※1011～1095 精製土器 1096～1179 粗製土器

第90表 第X類土器胴部観察表⑤

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土					色調				備考	取上 番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面					
318	1141	深鉢	B20	II a	胴	粗い斜ミガキ	横ナデ	○	△	△	△	△			5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐		16199	
	1142	深鉢	F25	II b	胴	粗い斜ミガキ	粗い横ミガキ	○	△	△	◎	○			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR2/1	黒		43056	
	1143	深鉢	C20	II a	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○		△			△		7.5YR3/2	黒褐	2.5Y5/2	暗灰黄	スス	16170 他	
	1144	深鉢	D22	II a	胴	横ミガキ	横ナデ	○					△	△	7.5YR4/3	褐	7.5YR5/3	にぶい褐		25136 他	
319	1145	深鉢	C33	II c	胴	縦斜ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	○	△		○	○	△	砂礫○	5YR5/6	明赤褐	5YR5/8	明赤褐		6785 他	
	1146	深鉢	B22	II a	胴	縦ミガキ	斜ナデ・粗い斜ミガキ	△					△	△	10YR5/6	黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙		18240 他	
	1147	深鉢	C22	II a	胴	縦工具ナデ	横ナデ	◎	△	△	○				7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR2/2	黒褐	スス	28251	
	1148	深鉢	C32	II c	胴	縦斜ミガキ	横工具ナデ・縦ミガキ	△					△	黄色砂粒△	7.5YR4/4	褐	7.5YR3/2	黒褐		6240 他	
	1149	深鉢	C15	II b	胴	横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△	△					砂礫△	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/6	褐		8797	
	1150	深鉢	B23	II a・b	胴	斜ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△			○	△		5YR4/8	赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐		17362 他	
	1151	深鉢	D28	II a	胴	縦工具ナデ・ミガキ	横縦ナデ	△	△					砂礫○	5YR6/6	橙	10YR6/4	にぶい黄橙		3066 他	
	1152	深鉢	D22	II a	胴	縦ミガキ	摩滅(横ミガキ)	△	△			△	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/2	灰褐		25803	
	1153	深鉢	C32	II a	胴	縦工具ナデ	丁寧な縦工具ナデ	○	△			○	△		2.5YR4/6	赤褐	5YR6/6	橙	弥生?	39018	
	1154	深鉢	D14	II b	胴	横縦ミガキ	摩滅(横ナデ)	○				△	◎	△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/4	にぶい褐	スス	一括	
	1155	深鉢	E22	II b	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△				○	○	褐色砂粒△	7.5YR4/3	褐	10YR2/2	黒褐	スス	27220 他	
	1156	深鉢	F23	II a	胴	縦ナデ・粗い縦ミガキ	横斜工具ナデ	○	△			△	△		7.5YR5/6	明褐	5YR3/1	黒褐		26966 他	
320	1157	深鉢	G22	II a	胴	縦斜ミガキ	摩滅	△	△			○	△		7.5YR4/3	褐	10YR6/4	にぶい黄橙	スス	21909 他	
	1158	深鉢	C21・22・23	II a	胴	縦ミガキ	縦斜ミガキ	△	△			△			5YR4/6	赤褐	7.5YR5/3	にぶい褐		26138 他	
	1159	深鉢	B22	II a	胴	縦工具ナデ・粗い縦斜ミガキ	摩滅(粗い斜ミガキ)	△	△			○	△	砂礫○	10YR4/6	褐	10YR2/2	黒褐	コゲ	17839 他	
	1160	深鉢	G22	II a	胴	縦ミガキ	摩滅	○	△			○	○	砂礫△	5YR6/6	橙	7.5YR7/4	にぶい橙		21907 他	
	1161	深鉢	B18	II b	胴	斜ミガキ・斜ナデ	丁寧な横工具ナデ	△				○	△	△	2.5YR4/3	にぶい赤褐	2.5YR3/2	暗赤褐		16332	
	1162	深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	摩滅(斜ナデ)	○	△				△	砂礫△	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/8	赤褐		28486	
	1163	深鉢	D22	II a	胴	縦ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△				△	△	2.5YR4/4	にぶい赤褐	2.5YR3/1	暗赤灰		27110 他	
	1164	深鉢	F23	II a	胴	縦ミガキ	斜ナデ・斜ミガキ	○	△					砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/2	灰褐		25959 他	
321	1165	深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	剥落	△	△			○			5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		28429	
	1166	深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	縦ナデ	△				○	○		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		28151 他	
	1167	深鉢	C13・14	II a・b	胴	縦ミガキ	剥落(横縦ミガキ)	△				△	△		5YR4/2	灰褐	5YR3/2	暗赤褐		8786 他	
	1168	深鉢	G22	II b	胴	斜ナデ・粗い横斜ミガキ	横工具ナデ・粗い斜ミガキ	○	△			○	◎	△		5YR5/6	明赤褐	5YR4/6	赤褐		22313
	1169	深鉢	G22	II a	胴	縦斜ミガキ	摩滅	○	△	△		○			5YR5/6	明赤褐	10YR7/3	にぶい黄橙		21910 他	
	1170	深鉢	C19	II a	胴	粗い横ミガキ	粗い横ミガキ	○	△				△		5YR4/8	赤褐	5YR4/6	赤褐	スス	16060	
	1171	深鉢	E19	II a	胴	横ミガキ・横ナデ	斜ナデ	○	△				△	褐色砂粒△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		21405	
	1172	深鉢	H26	II b	胴	縦ミガキ	摩滅	△	△				△	褐色砂粒△	5YR4/4	にぶい赤褐	2.5Y6/3	にぶい黄		37557	
	1173	深鉢	F18	II a	胴	縦ミガキ	横ナデ	△	△					砂礫△	10YR4/2	灰黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙	スス	19155 他	
	1174	深鉢	G16	II a	胴	縦ミガキ	粗い斜ミガキ	△	△			△			7.5YR4/6	褐	10YR5/3	にぶい黄褐		21225	
	1175	深鉢	E18	II a	胴	縦ミガキ	斜ナデ	△	△			△	△		2.5YR4/3	にぶい赤褐	2.5YR5/2	灰赤		20209	
	1176	深鉢	G40・41	II c	胴	剥落(縦ミガキ)	剥落(斜ミガキ)	△				○	△		5YR4/6	赤褐	5YR2/1	黒褐	コゲ	990 他	
	1177	深鉢	B22	II a	胴	横斜ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△	△			○	△		7.5YR4/4	褐	10YR3/3	暗褐		17843	
	1178	深鉢	C22	II a	胴	縦ミガキ	摩滅	△					△	△		5YR5/6	明赤褐	5YR4/2	灰褐		29404
	1179	深鉢	C22	II a	胴	摩滅(縦ミガキ)	横ナデ	△				○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR3/1	黒褐		28922	

※1011～1095 精製土器 1096～1179 粗製土器



第91表 第Ⅺ類土器観察表

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
322	1180	深鉢	F30	II b	口縁	凹線・横ミガキ	横ミガキ	△					褐色砂粒 △		7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR6/4	にぶい 橙		13229
	1181	深鉢	E16	II a	口縁	横ナデ・縦ミガキ	摩滅	△	△	△			○		10YR5/3	にぶい 黄褐	5YR6/6	橙		一括
	1182	深鉢	E18	II a	口縁	凹線・横ナデ	横ナデ	○		△			△	砂礫○	10YR7/4	にぶい 黄橙	10YR6/2	灰黄褐		20200
	1183	深鉢	F13	II a	口縁	凹線・丁寧な横ミ ガキ	摩滅(横ミガキ)	○		△			△	砂礫△	7.5YR4/6	褐	5YR5/6	明赤褐		23018
	1184	深鉢	F43	II b	口縁	凹線・丁寧な横ミ ガキ	丁寧な横ミガキ	○	△	△			△		7.5YR6/3	にぶい 褐	7.5YR5/2	灰褐		536
	1185	深鉢	C9	II c	口縁	凹線・横ナデ・丁 寧な斜ミガキ	丁寧な横ナデ・ 横ミガキ	△	△	△			△		2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		42638
	1186	深鉢	C7	表土	口縁	凹線・凹点・横ナ デ・丁寧な斜ミガ キ	丁寧な横ナデ・ 横ミガキ	△	△	△			△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		一括
	1187	深鉢	H28	II b	口縁	凹線・粗い横ミガ キ	粗い横ミガキ			△				褐色砂礫 △	7.5YR7/6	橙	7.5YR5/3	にぶい 褐		10112
	1188	深鉢	G20	II a	口縁	凹線・丁寧な横ミ ガキ	丁寧な横ミガキ	○		△		△	△		7.5YR4/2	灰褐	5YR4/3	にぶい 赤褐		20301
	1189	深鉢	G19	II a	口縁	沈線・摩滅(横ミ ガキ)	摩滅(横ミガキ)	○	△	△		○	△	砂礫△	7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/8	明褐		19967
	1190	深鉢	G18	II a・b	口縁	沈線・横ナデ・粗 い横ミガキ	凹線・横ミガキ	△	△	◎				砂礫○	5YR6/6	橙	5YR6/6	橙	赤色顔料	21127 他
	1191	深鉢	C22	II a	口縁	沈線・刻目・横ナ デ	横ナデ	○			○	○	△	砂礫○	7.5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		28109
	1192	深鉢	C22	II b	口縁	沈線・横ミガキ	横ナデ	◎	△	△		△	△		7.5YR4/1	褐灰	7.5YR6/3	にぶい 褐		29580
	1193	深鉢	C28	II b	口縁	凹線・横ナデ・丁 寧な横ミガキ	横ナデ	△						砂礫◎	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/2	灰褐		3155
	1194	深鉢	H28	II b	口縁	沈線・刺突・横ナ デ	横ナデ	△	△				△	砂礫△	7.5YR6/6	橙	7.5YR7/6	橙		9204
	1195	深鉢	F32	攪乱	口縁	沈線・横ナデ・丁 寧な横ミガキ	横ミガキ	△	△	△			△		5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		一括
	1196	深鉢	H30	II b	口縁	丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	○	△			△	△		10YR4/2	灰黄褐	10YR3/1	黒褐		13082
1197	深鉢	F17	II a	口縁	横縦ミガキ	沈線・横ミガキ	○	△	△			△		5YR2/1	黒褐	5YR2/1	黒褐		23205	

第92表 第Ⅺ類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面		
323	1198	深鉢	XII a	E21	II b	口縁	凹線・凹点・粗 い横ミガキ	凹線・横ミガ キ	◎		△	△	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR4/1	褐灰	スス	28372
	1199	深鉢	XII a	G28	II a	口縁	凹線・横ミガ キ	横ミガキ	△		△			砂礫○	7.5YR8/3	浅黄橙	7.5YR8/3	浅黄橙		一括
	1200	深鉢	XII a	G29	II b	口縁	凹線・横ミガ キ	横ミガキ	△					褐色砂礫 ○	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/4	褐		11941
	1201	深鉢	XII a	G17・18	II a	口縁～ 頸	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	摩滅(凹線・ 横ナデ)	△	△	△			○	10YR2/2	黒褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		20842 他
	1202	深鉢	XII a	D35	II c	口縁	凹線・横ミガ キ	凹線・横ミガ キ	○	△	△		△		5YR3/3	暗赤褐	5YR4/2	灰褐		2183
	1203	深鉢	XII a	G17・18	II a	口縁	凹線・横縦ナ デ	摩滅(凹線・ 横ナデ)	○	△	△		○	△	7.5YR6/4	にぶい 橙	7.5YR5/4	にぶい 褐	口径：(30.4)	20843 他
	1204	深鉢	XII a	D27	II c	口縁	沈線・横ナデ	凹線・横ミガ キ・指オサエ	△					赤色砂礫 ◎	5YR5/4	にぶい 赤褐	5YR5/4	にぶい 赤褐		5094
	1205	深鉢	XII a	G18	II a	口縁	凹線・横ナデ	摩滅(凹線)	○	△	△		△	砂礫△	7.5YR3/3	暗褐	7.5YR4/3	褐		20085 他
	1206	深鉢	XII a	H28	II a	口縁～ 頸	沈線・横ミガ キ	凹線・粗い横 ミガキ	△				△	褐色砂粒 △	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		9198
	1207	深鉢	XII a	C7	II b	口縁	凹線・横縦ミ ガキ	摩滅(凹線)	○	△	△		△	砂礫○	10YR6/4	にぶい 黄橙	10YR6/4	にぶい 黄橙		42418
	1208	深鉢	XII a	E30	II c	口縁	凹線・横ミガ キ	凹線・横ミガ キ	△	△	○		△		7.5YR5/4	にぶい 褐	7.5YR5/4	にぶい 褐		4684
	1209	深鉢	XII a	F6	II b	口縁	沈線・横縦ミ ガキ	横ミガキ	○	△	△		△	砂礫○	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/1	黒褐		44628
	1210	深鉢	XII a	C15	II b	口縁～ 頸	沈線・横ナデ・ 縦ミガキ	横ナデ・横ミ ガキ	○	△	△				10YR4/2	灰黄褐	10YR5/3	にぶい 黄褐		8698
	1211	深鉢	XII a	F32	II b	口縁	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	凹線・横ナデ・ 横ミガキ	○	△			△	砂礫○	7.5YR3/2	黒褐	10YR2/2	黒褐		9806
	1212	深鉢	XII a	A8	II b	頸	凹線・刻目・横 ナデ・横ミガキ	横ナデ	○	△	△		△	△	5YR4/3	にぶい 赤褐	5YR4/6	赤褐		36304

第93表 第四類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm、( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	外面			内面
323	1213	深鉢	XII a	H31	II b	胴	凹線・横ナデ	横ナデ	○	△	△	△	△			7.5YR7/6	橙	7.5YR5/2	灰褐		10346
	1214	深鉢	XII a	G32	II b	頸	凹線・横ナデ・横ミガキ	摩滅	○	△	△		△	砂礫△	2.5YR7/4	淡赤橙	10YR5/2	灰黄褐		9357	
	1215	深鉢	XII a	B26	II a	頸	凹線・横縦ミガキ	摩滅(横ナデ)	○			△	○		10YR4/3	にぶい黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐		15532	
	1216	深鉢	XII a	F40	II b・表土	胴	横工具ナデ	横工具ナデ	△		△			△	砂礫△	5YR3/1	黒褐	5YR6/6	橙		661 他
	1217	深鉢	XII a	F31	II c	頸	凹線・丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	○		△		△		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐		11677	
	1218	深鉢	XII a	C33	II b	頸	凹線・丁寧な横ミガキ	横ミガキ	○	△	△		○	砂礫○	10R3/1	暗赤灰	10R4/2	灰赤	スス	8285	
	1219	深鉢	XII a	F23	II a	頸	横ミガキ	横ミガキ	△		△			砂礫○	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR5/3	にぶい褐		25596 他	
324	1220	深鉢	XII b	E16	II a・b	口縁～胴	沈線・凹線・凹点・横ナデ・横ミガキ	摩滅(凹線・横ナデ・横ミガキ)	○	△	△		△	○		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/8	橙	口径：(24.4)	8749 他
	1221	深鉢	XII b	E30	II c	口縁	凹線・横ナデ・横斜ミガキ	凹線・横ナデ・横ミガキ	△	△	△		△		5YR3/1	黒褐	5YR3/2	暗赤褐	スス	4667	
	1222	深鉢	XII b	B10	II b	口縁	横ナデ・横ミガキ	横ナデ	○			△	○		7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/2	灰褐		36261	
	1223	深鉢	XII b	D27・F28	II a・b	口縁	凹線・横ナデ・横ミガキ	摩滅(凹線・横ミガキ)	○	△	△			△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		4981 他	
	1224	深鉢	XII b	G31	II b	口縁	凹線・凹点・横ナデ・横ミガキ	凹線・横ナデ	○	△	△			△	5YR3/2	暗赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス	11077	
	1225	深鉢	XII b	C33	II c	口縁	凹線・凹点・横ミガキ	凹線・横ミガキ	○		△		△		5YR3/2	暗赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	スス 口径：(36.0)	7043 他	
	1226	深鉢	XII b	F28	II b	口縁	凹線・横ナデ・横ミガキ	凹線・横ナデ	◎	△	△		△	○	△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/3	にぶい褐		11270
	1227	深鉢	XII b	H31	II b	口縁	凹線・横ナデ	横ナデ	○	△	△			△	5YR3/1	黒褐	5YR4/3	にぶい赤褐		10353	
	1228	深鉢	XII b	F30	II a・b	口縁	凹線・凹点・横ナデ	横ナデ	◎	△	△			△	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙		9695 他	
	1229	深鉢	XII b	F32	II b	口縁	凹線・横ナデ・横縦ミガキ	凹線・横ナデ	○	△	△		○	△	7.5YR4/3	褐	7.5YR4/2	灰褐		9295 他	
	1230	深鉢	XII b	D24	II a	口縁	凹線・横縦ミガキ	横ミガキ			△				褐色砂粒 ○ 砂礫△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/2	灰褐	口	一括
	1231	深鉢	XII b	F25	II b	口縁	突帯・凹線・凹点・横ミガキ	沈線・横ミガキ	○	△	△				2.5YR3/1	暗赤灰	5YR4/2	灰褐		42831	
	1232	深鉢	XII b	C・D19	II b	口縁	沈線・斜ナデ	横ナデ	○	△	△			△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/3	にぶい褐		17463 他	
	1233	深鉢	XII b	F29・30	II a	口縁	凹線・横ナデ	摩滅	◎	△	△			△	5YR5/4	にぶい赤褐	7.5YR3/1	黒褐		一括	
	1234	深鉢	XII b	D22	II b	口縁	凹線・凹点・横ナデ・横ミガキ	凹線・横ナデ・横ミガキ	○		△	△	○		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		29177	
	1235	深鉢	XII b	F22	II a	口縁	凹線・横工具ナデ・横ミガキ	横工具ナデ	△	△	△				褐色砂粒 △	5YR3/1	黒褐	5YR3/1	黒褐	口径：(29.8)	26692 他
	325	1236	深鉢	XII b	H32	II b	頸	凹線・横縦ミガキ	摩滅	○	△	△		△	褐色砂粒 ○	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR6/6	橙		9990
1237		深鉢	XII b	E29	II c	頸～胴	凹線・横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	○	△			△		10YR3/2	黒褐	10YR4/3	にぶい黄褐	スス	6023	
1238		深鉢	XII b	C33	II b	頸	凹線・横ミガキ	摩滅	○		△		△	砂礫△	5YR4/2	灰褐	5YR5/3	にぶい赤褐		8284	
1239		深鉢	XII b	E30	II c	胴	凹線・横縦ナデ	横工具ナデ	○	△		△	△		2.5YR5/2	灰赤	2.5YR4/1	赤灰		4527	
1240		深鉢	XII b	F33	II b	胴	凹線・横ナデ	横ナデ	◎	△	△			△	10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙		10461	
1241		深鉢	XII b	F32	II b	胴	凹線・刻目・横ナデ・横ミガキ	摩滅	◎	△	△			△	2.5YR3/4	暗赤褐	5YR3/2	暗赤褐	スス	9293 他	
1242		深鉢	XII b	D12	II b	頸	沈線・凹線・横ナデ・横縦ミガキ	横ミガキ	○	△	△			△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR4/1	褐灰		42640	
1243		深鉢	XII b	C10	II b	頸	沈線・凹線・横ナデ・横縦ミガキ	横ミガキ	○	△	△				砂礫△	7.5YR6/6	橙	7.5YR3/1	黒褐		42652
1244		深鉢	XII b	H31	II c	胴	凹線・横ミガキ	横ミガキ	△	△					5YR3/2	暗赤褐	5YR2/2	黒褐		11107	
1245		深鉢	XII b	C29	II c	胴	凹線・横ミガキ	横ミガキ	△		△			△	10YR5/6	黄褐	10YR5/6	黄褐		3702	

第94表 第Ⅷ類土器観察表③

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
325	1246	深鉢	XII b	F31	II a	類	凹線・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎	△	△	○	△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/3	にぶい褐		一括
	1247	深鉢	XII b	B10	II b	類		横ナデ	○	△	△	○			10YR5/3	にぶい黄褐	10YR3/2	黒褐		44069	
	1248	深鉢	XII b	F21	II a	類	横縦ミガキ	横ミガキ	△		△			砂礫○	7.5YR3/2	黒褐	10YR5/3	にぶい黄褐	スス	27892 他	
	1249	深鉢	XII b	F32	II b	類~胴	凹線・横ミガキ	摩滅	○	△	△		△		7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/1	褐灰		9298	
	1250	浅鉢	XII	F23	II a	口縁~類	沈線・丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	△				△	褐色砂粒○	5YR4/2	灰褐	5YR4/2	灰褐	口径：(25.3)	25963	
	1251	浅鉢	XII	C33	攪乱	口縁~胴	丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	△		△				7.5YR8/4	浅黄橙	7.5YR4/2	灰褐		一括他	
	1252	浅鉢	XII	F18	II a	類	沈線・横ミガキ	横ミガキ	△		△	△	△		10YR4/2	灰黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐		20110	

第95表 底部観察表①

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	底径	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
326	1253	深鉢	G30・31	II c	(9.3)	縦ミガキ	剥落	△	△	△	○		砂礫○	10YR4/3	にぶい黄褐	7.5YR4/4	褐	底：剥落	118	
	1254	深鉢	B13	II b	(8.8)	縦ミガキ	摩滅	◎	△			○	△	5YR3/2	暗赤褐	5YR3/1	黒褐	底：粗いミガキ	36037	
	1255	深鉢	B22	II a	(8.6)	横縦ミガキ	粗い縦ミガキ・横ミガキ	△	△	△		○		10R3/2	暗赤褐	10R3/1	暗赤灰	コゲ底：ミガキ	17983	
	1256	深鉢	C22	II a	7.9	摩滅(横ナデ)	摩滅(横ナデ・指オサエ)	◎	△			○	△	5YR5/6	明赤褐	5YR3/2	暗赤褐	コゲ底：ナデ	28876 他	
	1257	深鉢	C22	II a	7.7	摩滅(縦ミガキ)	摩滅(指オサエ)	○		△		○	△	砂礫△	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/4	褐	コゲ底：ミガキ	26030 他
	1258	深鉢	C22	II a	(7.0)	横縦ミガキ	横工具ナデ・指オサエ	○		△		△	△	5YR5/6	明赤褐	10YR4/3	にぶい黄褐	コゲ底：ナデ	28146	
	1259	深鉢	I42	II b	(7.4)	剥落(斜ミガキ)	摩滅	△				△	△	2.5YR4/3	にぶい赤褐	2.5YR3/1	暗赤灰	コゲ底：丁寧なナデ	1789	
	1260	深鉢	F22	II a	7.1	横ナデ・縦ミガキ	横ナデ・指オサエ	○		△		○	△	砂礫○	5YR4/6	赤褐	7.5YR4/2	灰褐	底：ナデ	26431
	1261	深鉢	G24	II a	7.3	横ミガキ	摩滅	○	△	△		○	△	2.5YR3/4	暗赤褐	2.5YR3/3	暗赤褐	コゲ底：ミガキ	10710	
	1262	深鉢	C19	II b	7.2	横ナデ・横工具ナデ	ナデ	○	△	△		○	△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/4	にぶい橙	底：ナデ	17514	
	1263	深鉢	H26	II a	(7.0)	丁寧な横縦ミガキ	縦ミガキ	△		△		△	△	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR2/1	赤黒	コゲ底：ミガキ	10658	
1264	深鉢	E22	II b	(6.7)	横ナデ・丁寧な縦ミガキ	横ナデ	△	△			△	△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR3/2	黒褐	底：ミガキ	27284		
327	1265	深鉢	D31	II c	(6.7)	摩滅(縦ミガキ・指オサエ)	縦ナデ	○		△		○		7.5YR5/6	明褐	7.5YR3/1	黒褐	底：摩滅	6527	
	1266	深鉢	F31	II b	(6.6)	横ミガキ	横ミガキ	△		△		△		5YR4/6	赤褐	5YR4/6	赤褐	底：ミガキ	8829	
	1267	深鉢	H29	II b	(6.6)	横ナデ・丁寧な縦ミガキ	斜ミガキ	○	△				△	5YR5/8	明赤褐	10YR5/4	にぶい黄褐	底：剥落	9631	
	1268	深鉢	G45	II b	6.5	横縦ミガキ	粗い縦ミガキ	△	△			○	△	2.5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	底：ミガキ	3941	
	1269	深鉢	H28・29	II b	6.3	剥落(縦ミガキ)	剥落	○	△	△		○	△	2.5YR3/6	暗赤褐	2.5YR3/3	暗赤褐	底：ナデ	9530 他	
	1270	深鉢	E23	II a	(6.2)	縦ミガキ・指オサエ	縦ミガキ・指オサエ	△	△			△	△	5YR5/6	明赤褐	7.5YR3/1	黒褐	底：ナデ	25453	
	1271	深鉢	E22	II a	(6.2)	横ナデ・横ミガキ	横ミガキ	△				○	△	5YR4/8	赤褐	7.5YR2/1	黒	底：ナデ	26550 他	
	1272	深鉢	E23	II a	(6.2)	丁寧な縦ミガキ	横ナデ	△		△		△		2.5YR3/3	暗赤褐	10R2/1	赤黒	底：ミガキ	25559	
	1273	深鉢	F18	II a	5.9	丁寧な縦ミガキ	丁寧なミガキ	△		△		△	砂礫△	7.5YR4/6	褐	5YR2/1	黒褐	底：丁寧なミガキ	20914	
	1274	深鉢	B22	II a	(5.9)	丁寧な縦ミガキ	丁寧な縦ミガキ	△				○	△	5YR4/4	にぶい赤褐	5YR3/1	黒褐	コゲ底：ミガキ	17939	
	1275	深鉢	H26	II a	(5.6)	縦ミガキ	縦ミガキ	○		△		○	△	7.5YR4/4	褐	7.5YR4/4	褐	底：ミガキ	一括	
	1276	深鉢	D33	II c	5.5	丁寧な縦ミガキ	摩滅	○	△			○	○	2.5YR3/4	暗赤褐	2.5YR4/4	にぶい赤褐	底：摩滅	8214 他	
	1277	深鉢	D22	II	(5.5)	横縦ミガキ	摩滅	○				○	△	7.5YR4/6	褐	7.5YR3/2	黒褐	底：ナデ	29174	
	1278	深鉢	D22	II a	(5.5)	縦ミガキ・指オサエ	縦ナデ・指オサエ	△		△		△	△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/2	灰褐	底：ミガキ	26108	



第96表 底部観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	器種	区	層位	底径	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上 番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			
327	1279	深鉢	E31	II b	5.3	横ナデ・丁寧な縦ミガキ	縦ミガキ	○	△	△		○			5YR3/4	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐	底：ミガキ	5688
	1280	深鉢	B9	II b	(5.0)	剥落	剥落	○	△	△		○	△		2.5YR5/6	明赤褐	10YR5/2	灰黄褐	底：剥落	36281
	1281	深鉢	F29	II a・b	(4.8)	横ナデ・縦ミガキ	斜ミガキ	○	△	△		○			5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	底：ミガキ	9106他
	1282	深鉢	B23	II a	(6.0)	横ナデ・横ミガキ	横ナデ	△		△			△		10YR6/6	明黄褐	10YR8/4	浅黄橙	底：ナデ	18009
328	1283	深鉢	B23	II a	4.5	縦ミガキ・指オサエ	横ナデ・指オサエ	△		△			△	砂礫○	7.5YR4/6	褐	7.5YR5/4	にぶい褐	底：ナデ	18490
	1284	深鉢	H41	表土	(5.0)	縦ミガキ	縦ナデ	○	△	△		△	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/4	にぶい赤褐	底：ナデ	一括
	1285	深鉢	C23	II a	(4.8)	縦ミガキ	斜ナデ	○	△			△	△	砂礫○	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	底：ナデ	24962
	1286	深鉢	D17	II a	(10.4)	縦ミガキ	剥落(横ナデ)	○		△	◎	△			5YR4/6	赤褐	5YR3/3	暗赤褐	底：摩滅	29823他
	1287	深鉢	F23	II a	(7.6)	縦ナデ・縦ミガキ	工具ナデ	○	△			○			7.5YR4/6	褐	10YR2/1	黒	コゲ底：ナデ	26716
	1288	深鉢	D17	II a	(7.1)	縦ミガキ	横ミガキ	△				△	△	褐色砂粒○	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	底：ミガキ	29775
	1289	深鉢	F31	II c	6.3	摩滅(横ナデ)	摩滅	◎	△	△		○	△		10YR7/4	にぶい黄橙	10YR2/2	黒褐	コゲ底：摩滅(ナデ)	11390
	1290	深鉢	B・C22	II a	(6.3)	丁寧な縦ミガキ	横ミガキ	○		△		○	△		5YR3/3	暗赤褐	5YR2/1	黒褐	底：摩滅	16676他
	1291	深鉢	F45	II a	6.9	粗い縦ミガキ・指オサエ	剥落	○	△	△		△	△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	底：摩滅	1665
	1292	深鉢	C22	II a	6.0	剥落(縦ミガキ)	剥落	○				△	△	砂礫△	2.5YR4/6	赤褐	7.5YR5/6	明褐	コゲ底：摩滅	28813
	1293	深鉢	D7	II c	(6.2)	摩滅	摩滅	○	△	△	○	◎			7.5YR6/6	橙	7.5YR4/3	褐	底：摩滅	46159他
	1294	深鉢	E30	II c	(6.2)	粗い横ミガキ	粗い横ミガキ	◎	△		◎	○	△		7.5YR4/2	灰褐	7.5YR5/4	にぶい褐	底：ミガキ	4644
	1295	深鉢	F21	II a	(5.5)	丁寧な縦ミガキ	縦ミガキ	△	△			△	△		10YR3/2	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐	底：ミガキ	27865
	1296	深鉢	B6	II a	4.4	縦ナデ	横ナデ・指オサエ	○	△	△		○	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐	底：ナデ	37780
	1297	深鉢	H31	II b	(4.2)	縦ミガキ	縦ナデ	○	△	△			△		5YR5/8	明赤褐	10YR5/2	灰黄褐	底：ナデ	10356
329	1298	深鉢	G26	II a	(9.0)	横ナデ・粗い縦ミガキ	縦ナデ・粗い横ミガキ	○	△	△		△	△		2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR4/3	にぶい赤褐	底：ミガキ	10206
	1299	深鉢	B20	II b	(8.1)	横ナデ	剥落	◎	△	△	○	○	△		5YR5/6	明赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	底：ナデ	16503
	1300	深鉢	C22	II a	(8.0)	剥落(横縦ミガキ)	縦ナデ	○				○	△		5YR5/6	明赤褐	7.5YR2/1	黒	コゲ底：摩滅	28853
	1301	深鉢	H27	II a	(7.8)	摩滅	摩滅	△		△		○	△		5YR4/4	にぶい赤褐	7.5YR4/2	灰褐	底：摩滅	9222
	1302	深鉢	H30	II b	7.4	横縦ミガキ	剥落	○	△		○	○	△		7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐	底：ナデ	37827
	1303	深鉢	D21	II a	(5.3)	横ナデ	縦ナデ	○		△	○	○			7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR4/3	褐	底：ナデ	27970
	1304	深鉢	D22, E23	II a	(5.6)	剥落(縦ナデ)	斜工具ナデ	△	△	△		△			2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐	底：ナデ	24973他
	1305	深鉢	D21・22	II a	(5.6)	摩滅(縦ミガキ・指オサエ)	摩滅	○	△	△		○			7.5YR6/6	橙	7.5YR6/4	にぶい橙	底：ナデ	26498他
	1306	深鉢	C23	II a	6.3	摩滅(縦ミガキ)	摩滅	○	△	△		△	△		10YR6/4	にぶい黄橙	7.5YR3/1	黒褐	コゲ底：摩滅	26137他
	1307	深鉢	C12	II c	5.3	摩滅	摩滅	○				○	△		5YR5/4	にぶい赤褐	10YR5/2	灰黄褐	底：ナデ	44905
	1308	深鉢	F31	II b	(9.6)	横縦ミガキ	横ナデ	△	△	△		△	△	砂礫△	5YR3/4	暗赤褐	5YR3/3	暗赤褐	底：粗いミガキ	13217
	1309	深鉢	C31	II c	(7.7)	粗い縦ミガキ・指オサエ	摩滅	◎		△		△	△		5YR6/6	橙	5YR6/6	橙	底：摩滅	6158
	1310	深鉢	C24	II a	5.9	縦ナデ・指オサエ	横ナデ	○		△		△	△		10YR6/4	にぶい黄橙	7.5YR3/2	黒褐	コゲ底：ナデ	27705他
	1311	深鉢	F31	II b	(6.2)	横ナデ・縦ミガキ	横ナデ	○		△		○	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR3/3	暗赤褐	底：ミガキ	8846
	330	1312	深鉢	H27	II b	(5.5)	摩滅(縦ミガキ)	縦ミガキ	◎	△	△		△	△		2.5YR6/4	にぶい橙	2.5YR2/4	極暗赤褐	底：ナデ
1313		深鉢	G24	II b	3.2	縦ミガキ	摩滅	◎	△	△		○	△		10YR6/4	にぶい黄橙	10YR2/2	黒褐	コゲ底：ナデ	11304
1314		深鉢	C25	II a	(3.0)	摩滅(縦ミガキ)	横ナデ	△		△		△	△		2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR4/3	にぶい赤褐	底：ナデ	-
1315		深鉢	E6	II a	(8.0)	縦ミガキ	摩滅	△				△			10R3/4	暗赤	5YR3/2	暗赤褐	底：摩滅	24433
1316		深鉢	C20	II a・b	(7.8)	斜ナデ	斜ナデ・指オサエ	◎	△		○	○			7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	底：摩滅	16169他

第97表 台付皿形土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図 番号	掲載 番号	分類	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上 番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面		
331	1317	III	D23	II a	口縁	横ナデ	連続刺突文・横ナデ	○				△	△		5YR6/6	橙	5YR6/6	橙	波状口縁	27071
	1318	III	C24		口縁	横ナデ	横ナデ	○		△		△	△		5YR7/6	橙	5YR7/6	橙		一括
	1319	III	F29	II b	口縁	横ナデ	横ナデ・横ミガキ	○	△		△	○			10YR5/3	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐		10975
	1320	III	F44	II b	口縁	横ミガキ	横ナデ	○	△		○	○			7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐		1690
	1321	IV	D22・23	II a	口縁	横ナデ	貝殻腹縁文・横ナデ・横ミガキ	○		△		○	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/2	灰褐	口径：(27.5)	27052 他
	1322	IV	D22	II b	口縁	貝殻条痕・横ナデ	貝殻腹縁文・貝殻条痕	○	△		○	△	△		7.5YR3/2	黒褐	7.5YR4/6	褐		29258
	1323	IV	D30	II c	口縁	横ミガキ	短沈線・横ミガキ	◎		△		△	△		2.5YR4/6	赤褐	2.5YR5/3	にぶい赤褐		4454
	1324	IV	E31	II b	口縁	横ナデ	押し文・貝殻条痕	○		△		○	△		5YR5/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		5717
	1325	IV	F41	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	◎			◎	△	△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		645
332	1326	VI	B21・C16・17・19	II a・b	口縁～胴	横ナデ・丁寧な縦ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		△		5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/4	にぶい赤褐	口唇：粘土帯貼付穿孔 口径：(34.8)	17679 他	
	1327	VI	C・D19	II a・b	口縁～胴	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	△		△		△		5YR4/6	赤褐	5YR3/4	暗赤褐	口唇：粘土帯貼付 口径：(34.5)	16129 他	
333	1328	VI	I42	攪乱	口縁	横ナデ	沈線・横ナデ	△				△	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐		一括
	1329	VI	G31	II b	口縁	沈線・刺突・横ナデ	横ナデ	△		△		△			10YR6/6	明黄褐	7.5YR6/8	橙	口唇：沈線・刺突	10398
	1330	VI	D19	II a	口縁	横ナデ	横ナデ	△		△			砂礫△	5YR5/8	明赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		18307	
	1331	VI	H25	II b	口縁	横ナデ	横縦ナデ	◎		△		△	△		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/3	にぶい赤褐	口唇：突帯	38154
	1332	VI	G30	II c	口縁	横ミガキ	縦ミガキ	△		△		△			5YR2/1	黒褐	5YR2/1	黒褐	口唇：突帯	一括
	1333	VI	D28	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	△		△		△	△		7.5YR5/6	明褐	7.5YR6/6	橙		3724
	1334	VI	G32	II b	口縁～胴	横ナデ	横ナデ・粗い横ミガキ	○	△	△		○	△		2.5YR5/6	明赤褐	2.5YR5/6	明赤褐		9364 他
	1335	VI	C19	II b	口縁	横ナデ	横ナデ	△		△	△		△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		17440
	1336	VI～X	C15	II b	口縁～胴	粗い斜ミガキ	連続刺突文・横縦ナデ	○		△		△			10YR6/4	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐		8722
	1337	VI～X	D32	II c	口縁	横ナデ	連続刺突文・横ミガキ	◎		△		△			5YR7/8	橙	5YR7/8	橙	口唇：沈線	8607
	1338	VI～X	C7	II b	口縁	横ナデ	連続刺突文・横ナデ	○			◎	△	△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	口唇：沈線	42446
	1339	VI～X	F20	II a	口縁	摩滅	摩滅(連続刺突文)	◎		△		△	△		7.5YR7/4	にぶい橙	10YR7/4	にぶい黄橙		19464
	1340	VI～X	E45	II a	口縁	摩滅	摩滅(沈線)	○		△		△			10YR5/4	にぶい黄褐	10YR3/4	暗褐		一括
	1341	VI～X	G41	表土	口縁	横ナデ	短沈線・横ナデ	△			○	△			7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/2	黒褐		一括
1342	VI～X	E21・F22	II a・b	口縁	横ナデ	横ミガキ	△					△	褐色砂粒△	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		26870 他	
334	1343	VI～X	C12	II c	口縁	横ナデ	横ナデ・横ミガキ	△		△		△	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		44931
	1344	VI～X	G41	表土	口縁	横ナデ	横ナデ	◎	△		○	○			10YR4/3	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐		一括
	1345	VI～X	B9	II c	脚	横ナデ	横工具ナデ	△		△	○	△			5YR6/8	橙	5YR6/8	橙	底径：(16.6)	42514
	1346	VI～X	G40	II b	口縁	横ナデ	短沈線・横ナデ	○		△		△			5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	口唇：短沈線	816
	1347	VI～X	B22	II a	口縁	横ナデ・指オサエ	横ナデ	○				△	△		5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		17333
	1348	VI～X	C22	II a	口縁	横ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	◎		△		△	△		5YR3/1	黒褐	5YR4/6	赤褐		28409
	1349	VI～X	F45	II a	口縁	斜ミガキ	横工具ナデ・横ミガキ	○			○	○	△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR6/6	橙		1665-1

第98表 台付皿形土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	分類	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
334	1350	VI~X	B24	II b	脚	横ナデ	横ナデ・斜ミガキ	◎	△	△			△	砂礫○	5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		17025
	1351	VI~X	E34	II c	脚	横ミガキ	摩滅(横ミガキ)	△	△	△			△		5YR6/6	橙	5YR5/6	明赤褐	底：ミガキ 底径：(14.2)	8378
	1352	VI~X	G45	II b	口縁	横ミガキ	横ミガキ	△	△				△		5YR4/4	にぶい赤褐	2.5YR5/6	明赤褐	波状口縁	3934
335	1353	VI~X	G26	II a	胴	摩滅(横ミガキ)	摩滅(斜ミガキ)	◎	△	△		△	○		7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR7/4	にぶい橙		10201 他
	1354	VI~X	D34	攪乱	底	連続刺突文・横ナデ	ナデ	○	△		◎	△	△		5YR5/8	明赤褐	10YR5/4	にぶい黄褐		一括
	1355	VI~X	F22	II a・b	底	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・粗い縦ミガキ	◎	△		○	◎	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐	底径：(8.7)	27814 他
	1356	VI~X	G31	II c	脚	沈線・斜ナデ	横ナデ	○	△		△	○	△		7.5YR6/8	橙	7.5YR6/8	橙	穿孔	11441
	1357	VI~X	G31・H32	II b・c	脚	沈線・丁寧な横ナデ	丁寧な横ナデ	○					△	△	2.5YR4/6	赤褐	2.5YR4/4	にぶい赤褐	底径：(15.8)	9413 他
	1358	VI~X	E21		脚	沈線・穿孔・横ミガキ	ナデ	◎				○	△	△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		
	1359	VI~X	B9	II b	脚	沈線・横ナデ	横ナデ	△	△				○	△	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/4	にぶい橙		36284
	1360	VI~X	C29	II a	脚	摩滅(沈線・横ナデ・横ミガキ)	摩滅	○	△					砂礫○	7.5YR5/6	明褐	7.5YR4/6	褐	底径：(15.2)	2779
	1361	VI~X	D16	II a	脚	摩滅	摩滅	◎	△			○	△		10YR5/8	黄褐	10YR3/2	黒褐	底径：(11.8)	8629
	1362	VI~X	D31・G29	II c・攪乱	脚	横ナデ	横ナデ・横ミガキ	△					△	褐色砂粒○	5YR6/8	橙	5YR6/6	橙	底径：(13.7)	12096 他
	1363	VI~X	A11	II b	脚	横ナデ	斜ナデ	○				○	○		5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	底径：(11.1)	36219
	1364	VI~X	D12	II b	脚	横斜ナデ	横ナデ	◎	△			○	○		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐	底径：(8.8)	48956
	1365	VI~X	F20	II a	脚	摩滅	摩滅	◎	△			○	○	△	7.5YR5/8	明褐	7.5YR6/6	橙		19208
	1366	VI~X	F23	II a	脚	横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	○	△	△				△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐		25322
1367	VI~X	D19・22	II a・b	脚	横ナデ	横ナデ	○						○	褐色砂粒○	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/6	明赤褐		18337 他

第99表 第XII類土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
336	1368	深鉢	入佐	D17	II b・III	口縁～頸	貝殻条痕	貝殻条痕	○	△	△			△		7.5YR7/6	橙	10YR7/4	にぶい黄橙		30183 他
	1369	深鉢	入佐	E28	II b	胴	丁寧な斜ミガキ	丁寧な横ミガキ	△	△	△			△	褐色砂粒△	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	橙		4986 他
	1370	深鉢	黒川	C34	II b・c	口縁	横ミガキ	横ミガキ	◎	△				△		7.5YR6/6	橙	5YR5/8	明赤褐		3584 他
	1371	浅鉢	黒川	B22	II a	口縁	丁寧な横ミガキ	凹線・丁寧な横ミガキ	△	△	△					7.5YR4/3	褐	7.5YR4/3	褐		17305
	1372	浅鉢	黒川	E24	II a	口縁	丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	△				△	△	7.5YR2/2	黒褐	7.5YR3/3	暗褐		25566	
	1373	浅鉢	黒川	C11	II b	口縁	沈線・環状浮文・横斜ミガキ	横ミガキ	△		○			△	5YR5/6	明赤褐	10YR5/3	にぶい黄褐	穿孔スス	44794 他	
	1374	浅鉢	黒川	G31	II b	口縁	丁寧な横ミガキ	丁寧な横ミガキ	△	△	△			△	10YR5/4	にぶい黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐		9341	
	1375	マリ形土器	黒川	H27	II b	口縁	丁寧な横縦ミガキ	丁寧な横ミガキ	△	△	△			△	5YR4/6	赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		37318	
	1376	浅鉢	黒川	C29	II a	胴	組織痕	摩滅	○	△	△		○	△	7.5YR6/6	橙	7.5YR6/6	橙		2851	
	1377	浅鉢	黒川	E30	II a	底	組織痕	ミガキ	○	△	△			○	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR6/6	橙		2624	



第100表 第XIII類土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ()内は復元値

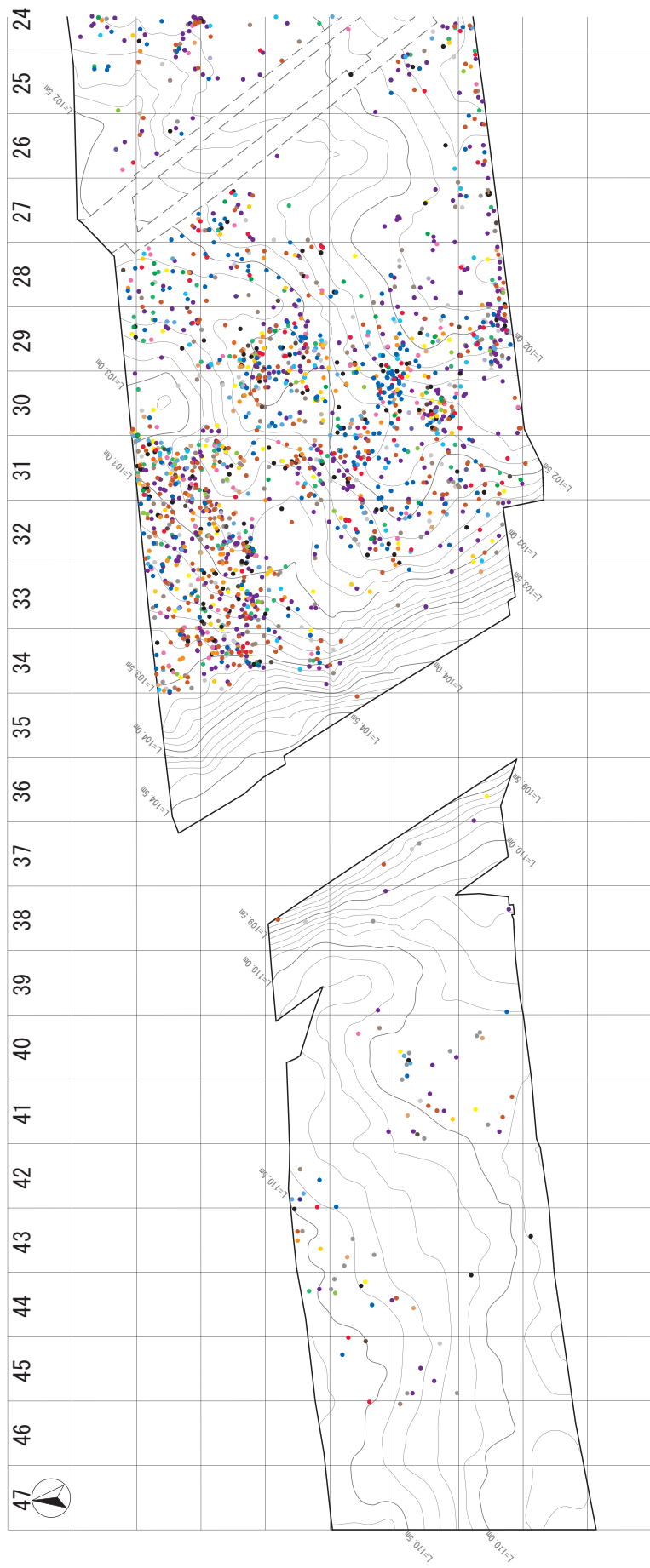
挿図番号	掲載番号	器種	細分	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面		
337	1378	甕	刻目突帯	G14	II a	口縁	刻目突帯・横ナデ	摩滅	△	△			△	砂礫○	10YR4/3	にぶい黄褐	10YR3/2	黒褐		22919 他
	1379	甕	刻目突帯	G32	II b	口縁	刻目突帯・横ナデ	横ナデ・横工具ナデ	○	△	△			砂礫○	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR6/4	にぶい橙		9827
	1380	甕	刻目突帯	D32	II b	口縁	刻目突帯・横工具ナデ	横ナデ	○	△				砂礫○	10YR5/4	にぶい黄褐	10YR5/2	灰黄褐		5342
	1381	甕	刻目突帯	G・H36	表土	口縁～胴	刻目突帯・横工具ナデ・横ナデ	横ナデ・横ミガキ	○	△	△		△		7.5YR4/2	灰褐	5YR4/3	にぶい赤褐		一括他
	1382	甕	刻目突帯	G・H36	表土	口縁	突帯・横ナデ・縦ミガキ	摩滅	○	△	△		○	砂礫○	7.5YR3/2	黒褐	7.5YR3/1	黒褐	スス ユゲ	一括
	1383	甕	刻目突帯	G36	II b	口縁	刻目突帯・横縦ミガキ	摩滅	△	△		△			7.5YR3/1	黒褐	7.5YR4/2	灰褐		9602
	1384	甕	刻目突帯	E7	II b	口縁	刻目突帯・横ミガキ	横ナデ	△	△			△		7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR6/4	にぶい橙		45677
	1385	甕	刻目突帯	C29・30	表土	口縁	刻目突帯・横ナデ	横ナデ	○	△	△		△	砂礫△	5YR4/6	赤褐	10YR6/4	にぶい黄橙		一括
	1386	甕	刻目突帯	C29	II a	口縁	刻目突帯・横ナデ	横ナデ	○	△	△		△	砂礫△	5YR6/4	にぶい橙	10YR7/4	にぶい黄橙		一括
	1387	甕	刻目突帯	D21	II a	口縁～胴	刻目突帯・横ナデ・縦ミガキ	摩滅	○	△	△		○	△	5YR2/1	黒褐	5YR4/4	にぶい赤褐	スス	25197 他
	1388	甕	刻目突帯	E6	II a	口縁	刻目突帯・横ミガキ	横工具ナデ	○	△	△		△	△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/3	にぶい褐		24432
	1389	甕	刻目突帯	F42	II b	口縁	摩滅(刻目突帯・横ミガキ)	摩滅(横ミガキ)	△	△			△	褐色砂粒△	5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/3	にぶい赤褐		2664
	1390	鉢	刻目突帯	E6	II b	口縁	刻目突帯・縦ミガキ	横ナデ	◎	△	○		△	砂礫△	10YR2/1	黒	10YR4/3	にぶい黄褐	スス	44539
	1391	甕	刻目突帯	H36	II b	胴	刻目突帯・横工具ナデ	横工具ナデ	○	△	△		△	△	7.5YR2/1	黒	7.5YR4/3	褐		9581
	1392	甕	刻目突帯	E33	II b	胴	刻目突帯・横ナデ	横ナデ	○	△			△	砂礫△	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR5/4	にぶい褐		2733
	1393	甕	刻目突帯	E6	II a	胴	摩滅(刻目突帯)	横ナデ	○	△	△			砂礫○	10YR3/1	黒褐	10YR6/3	にぶい黄橙		一括
	1394	甕	刻目突帯	D21	II a	胴	刻目突帯・横ナデ	横ナデ	△	△	△		△		10YR3/3	暗褐	10YR6/6	明黄褐	スス	25790
	1395	甕	刻目突帯	C22	II a	頸	刻目突帯・横ナデ	横ナデ	△	△	△		△		7.5YR4/4	褐	7.5YR4/4	褐		27667
	1396	甕	刻目突帯	H25	II a	胴	刻目突帯・横縦ミガキ	縦ミガキ	△	△			△		2.5YR3/1	暗赤灰	2.5YR4/8	赤褐		10126
1397	甕	刻目突帯	B～D・28～36	I	胴	刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ	摩滅	△	△			△	△	7.5YR5/8	明褐	7.5YR6/8	橙		一括	

第101表 円盤状土製品

挿図番号	掲載番号	区	層位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号
				長径	短径	厚さ	外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	表面		裏面		
338	1398	F23	II a	5.9	4.9	1.0	摩滅(横ナデ)	摩滅	◎	△	△	○		砂礫○	7.5YR6/6	橙	10YR5/3	にぶい黄褐		25527
	1399	E22	II a	5.1	4.2	0.7	縦ミガキ	横ナデ	◎	△	△				7.5YR6/6	橙	7.5YR5/2	灰褐		26463
	1400	C11	II b	4.5	4.0	1.0	摩滅	摩滅	◎	△	△	△	○		5YR5/6	明赤褐	5YR3/1	黒褐		44882
	1401	F23	II a	4.5	3.0	0.9	摩滅	摩滅	◎	○			△		5YR6/6	橙	7.5YR7/6	橙		26213
	1402	H45	II b	3.7	3.1	1.0	摩滅	摩滅	○	△	△		△		7.5YR6/4	にぶい橙	10YR3/2	黒褐		一括
	1403	D20	II a	3.3	2.9	1.1	縦ミガキ	横ナデ	○	△	△		△	△	10YR4/3	にぶい黄褐	10YR4/6	褐		22109

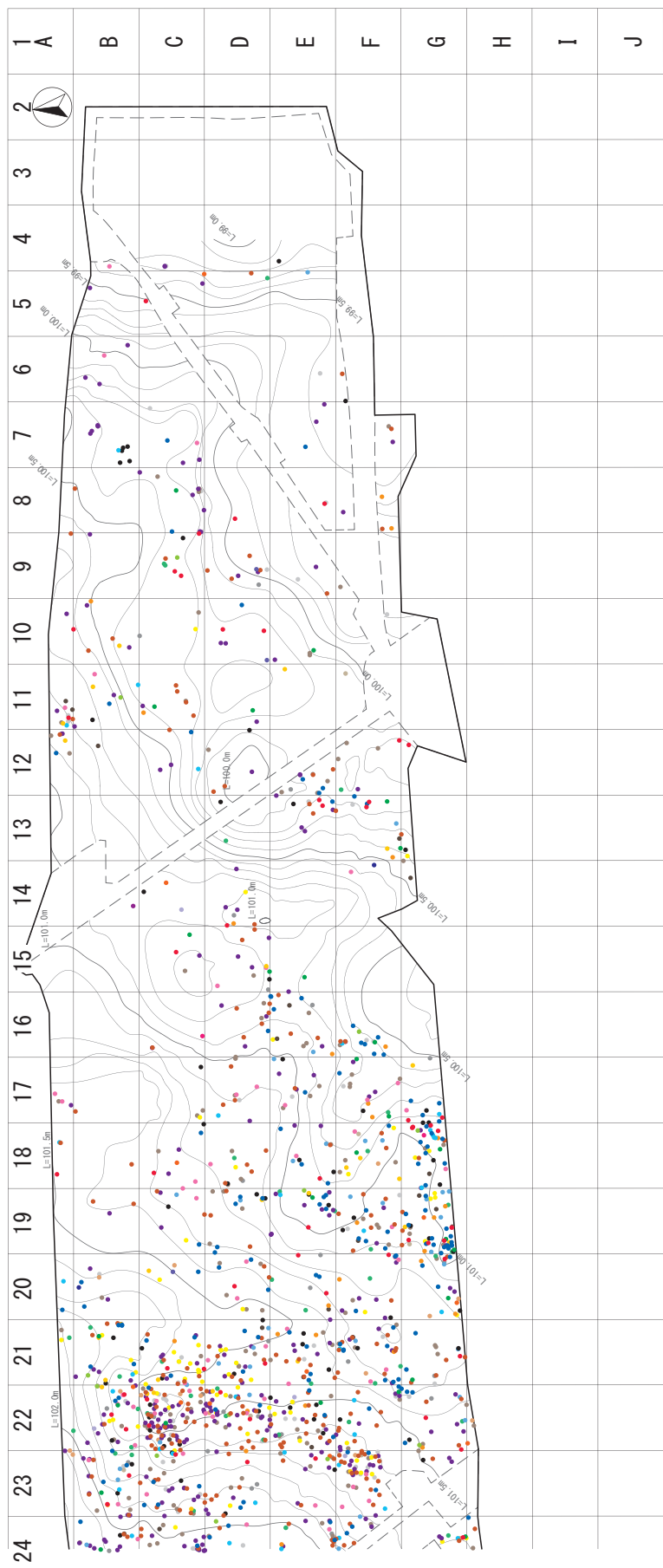
第102表 その他

挿図番号	掲載番号	区	層位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号	
				長径	短径	厚さ	表面	裏面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面		内面			
338	1404	B・C31	II b	5.3	4.6	1.3	ナデ	ナデ	○	△		△	○	△		10YR6/3	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙	足形付土版?	39457 他



- 凡例 —
- ホルンフェルス 1
  - ホルンフェルス 2
  - ホルンフェルス 3
  - ホルンフェルス 4
  - ホルンフェルス 5
  - 頁岩 1
  - 頁岩 2
  - 頁岩 3
  - 頁岩 4
  - 頁岩 5
  - 頁岩 6
  - 頁岩 7
  - 頁岩 8
  - チャート
  - 安山岩 A
  - 安山岩 B
  - 凝灰岩
  - 花崗岩
  - 軽石
  - 滑石
  - 黒曜石 A
  - 黒曜石 B
  - 黒曜石 C
  - 黒曜石 D
  - 玉髄
  - 石英
  - 砂岩
  - 水晶
- ※皿層コンタ
- 0 25 50m  
[1:1,000]

第339図 縄文時代後期～晩期 全石器石材別分布図（1）



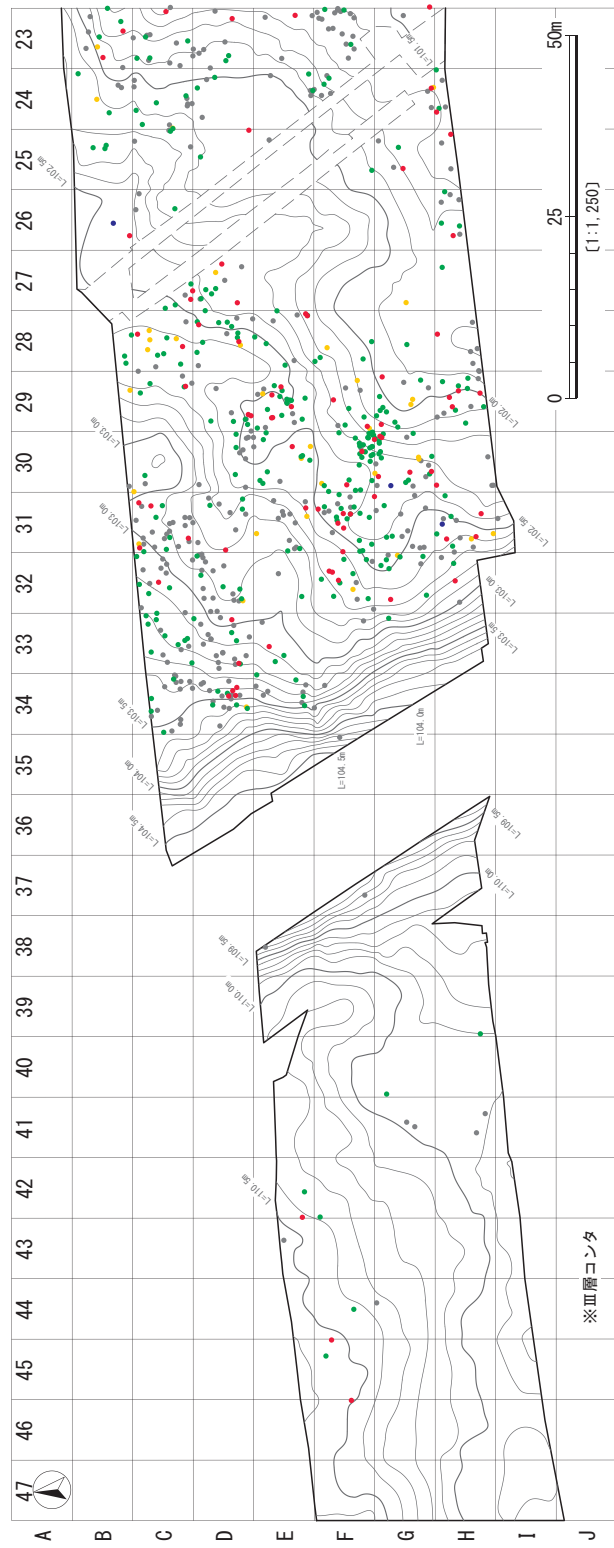
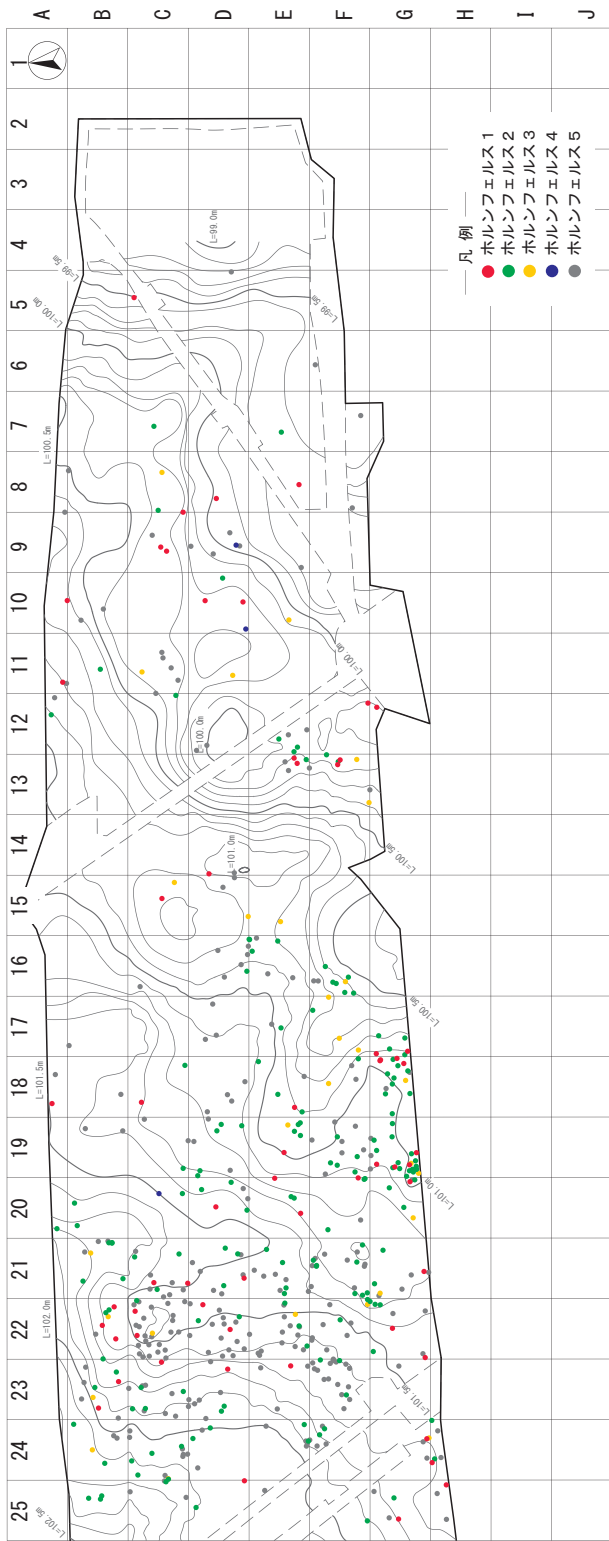
※Ⅲ層コンタ

凡例

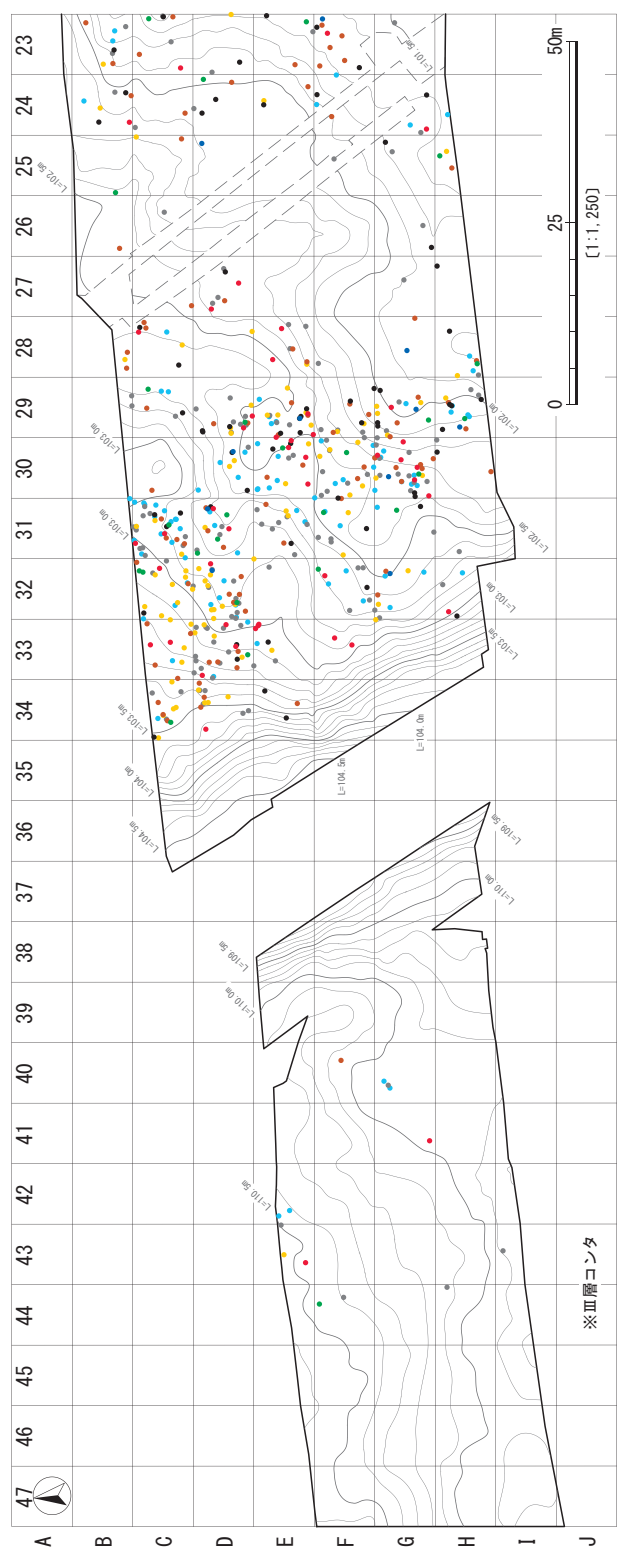
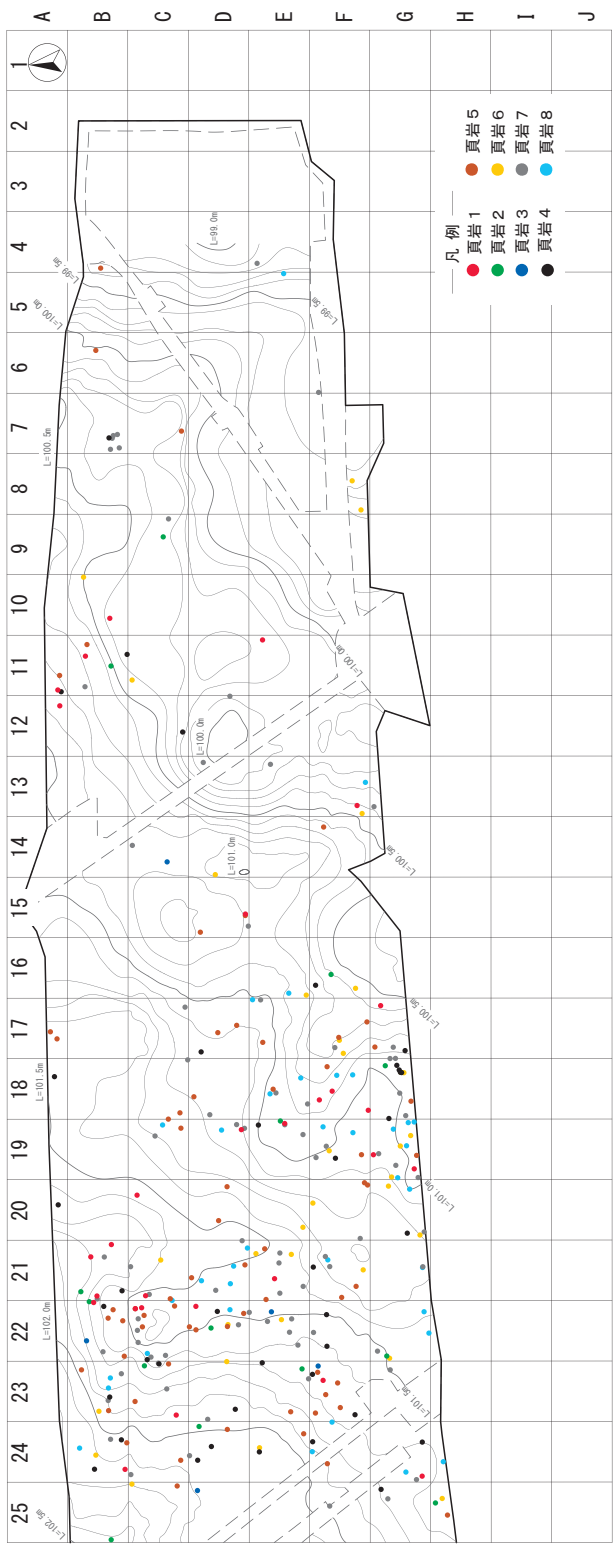
- ホルンフェルス 1
- ホルンフェルス 2
- ホルンフェルス 3
- ホルンフェルス 4
- ホルンフェルス 5
- 頁岩 1
- 頁岩 2
- 頁岩 3
- 頁岩 4
- 頁岩 5
- 頁岩 6
- 頁岩 7
- 頁岩 8
- チャート
- 安山岩 A
- 安山岩 B
- 凝灰岩
- 花崗岩
- 輝石
- 黒曜石 A
- 黒曜石 B
- 黒曜石 C
- 黒曜石 D
- 玉髓
- 石英
- 砂岩
- 水晶

第340図 縄文時代後期～晩期 全石器石材別分布図（2）





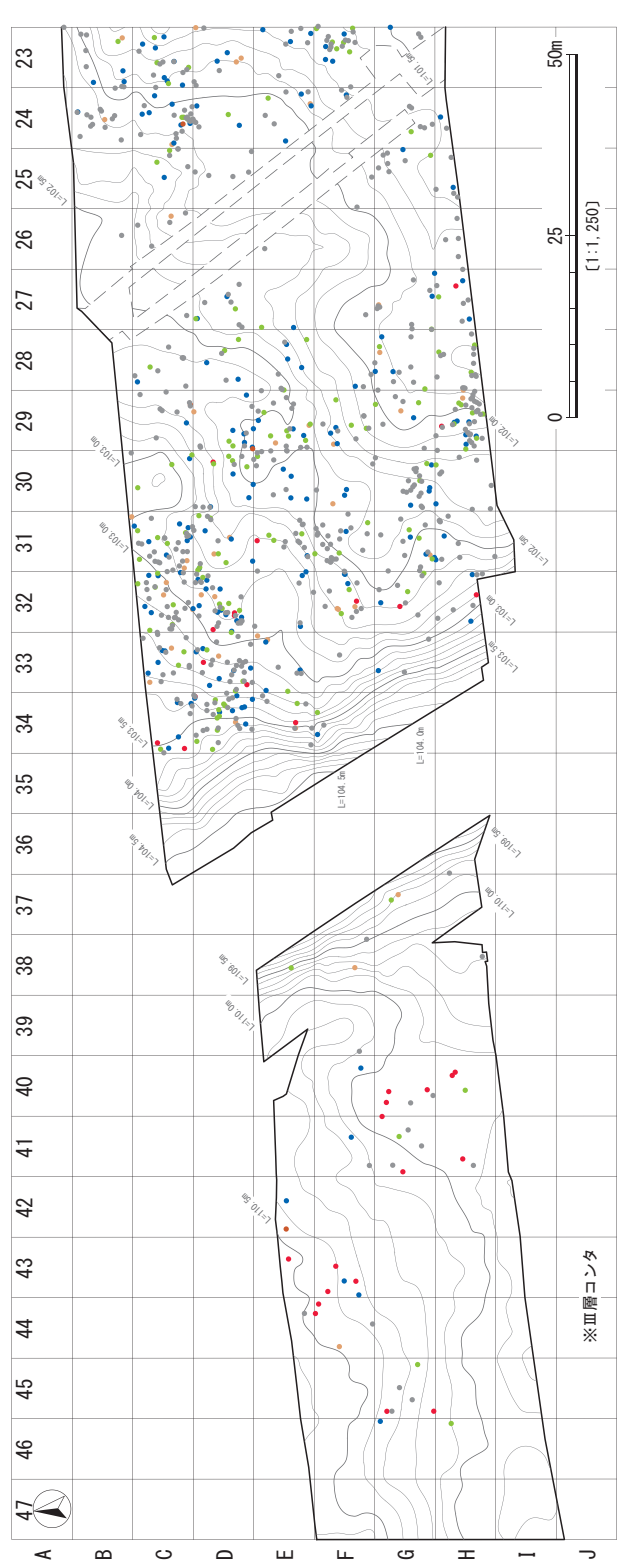
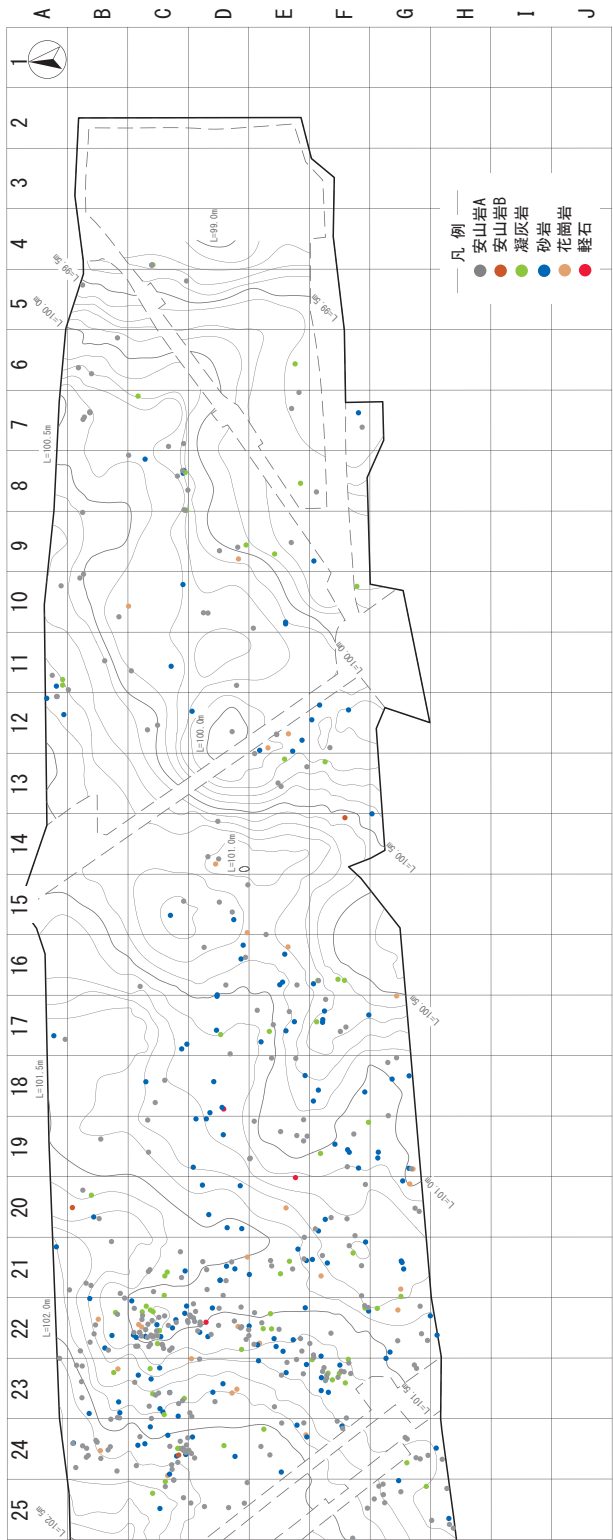
第341図 縄文時代後期～晩期 石器石材別分布図 (ホルンフェルス)



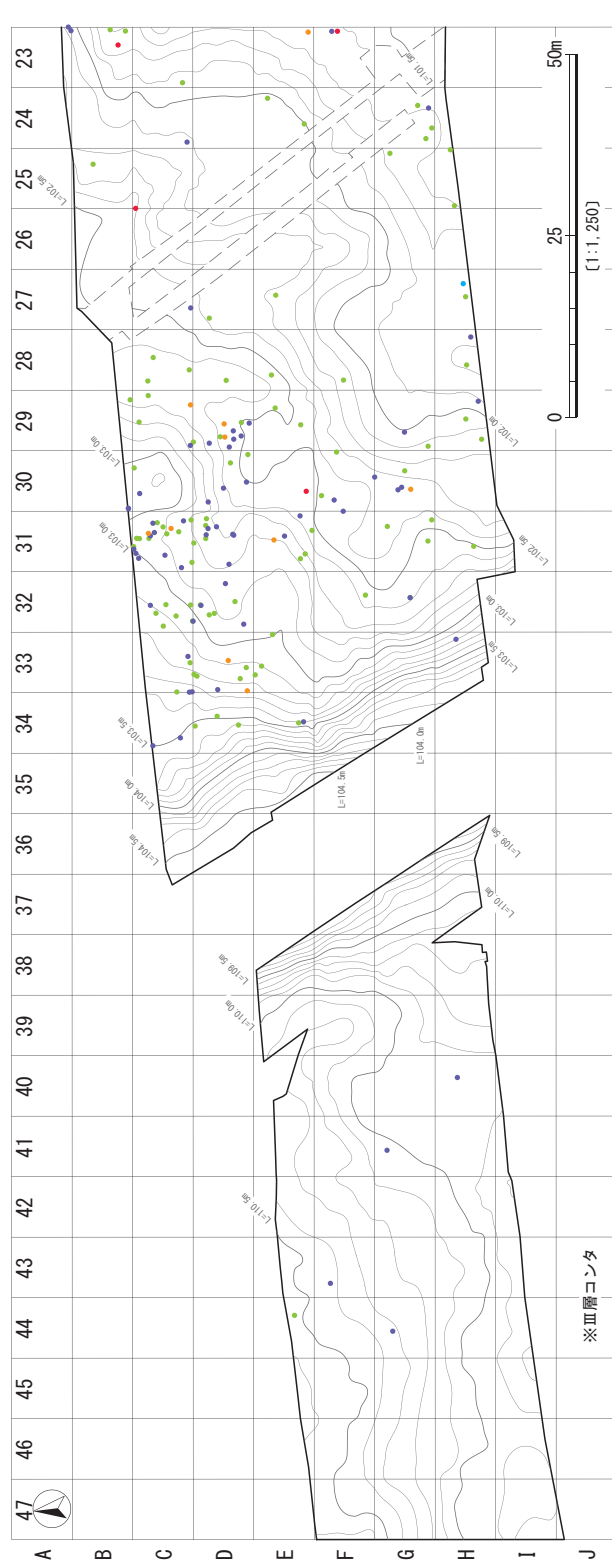
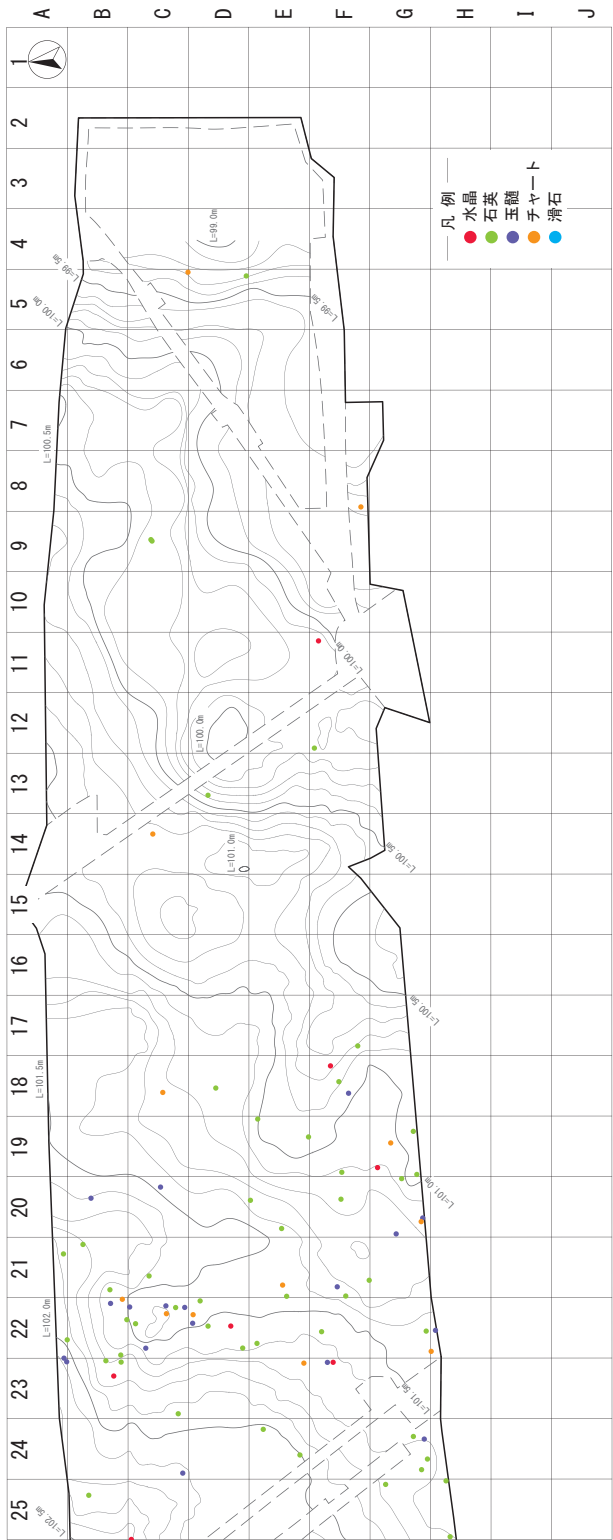
第342図 縄文時代後期～晩期 石器石材別分布図 (頁岩)



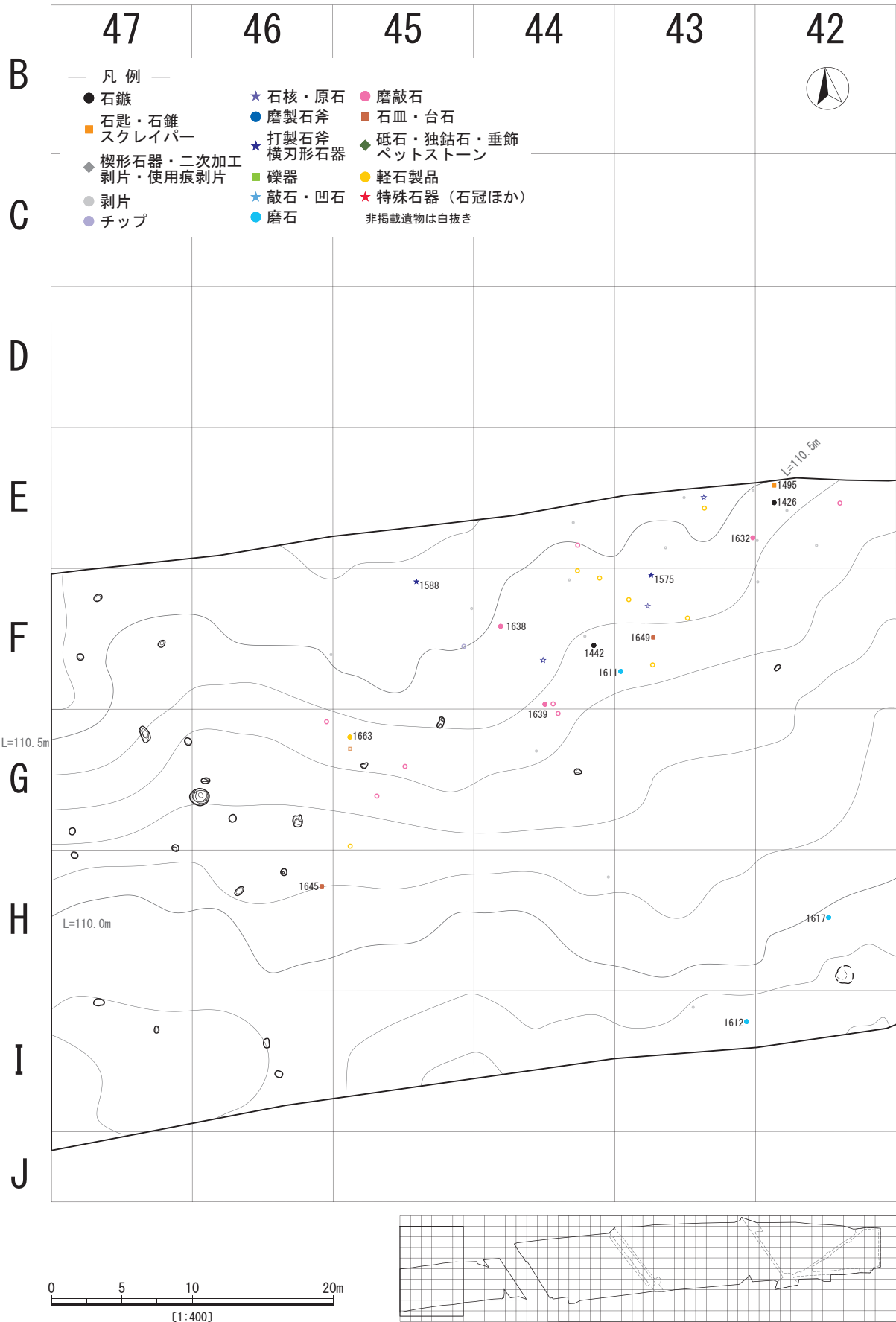




第344図 縄文時代後期～晩期 石器石材別分布図 (安山岩・凝灰岩・砂岩・花崗岩・軽石)

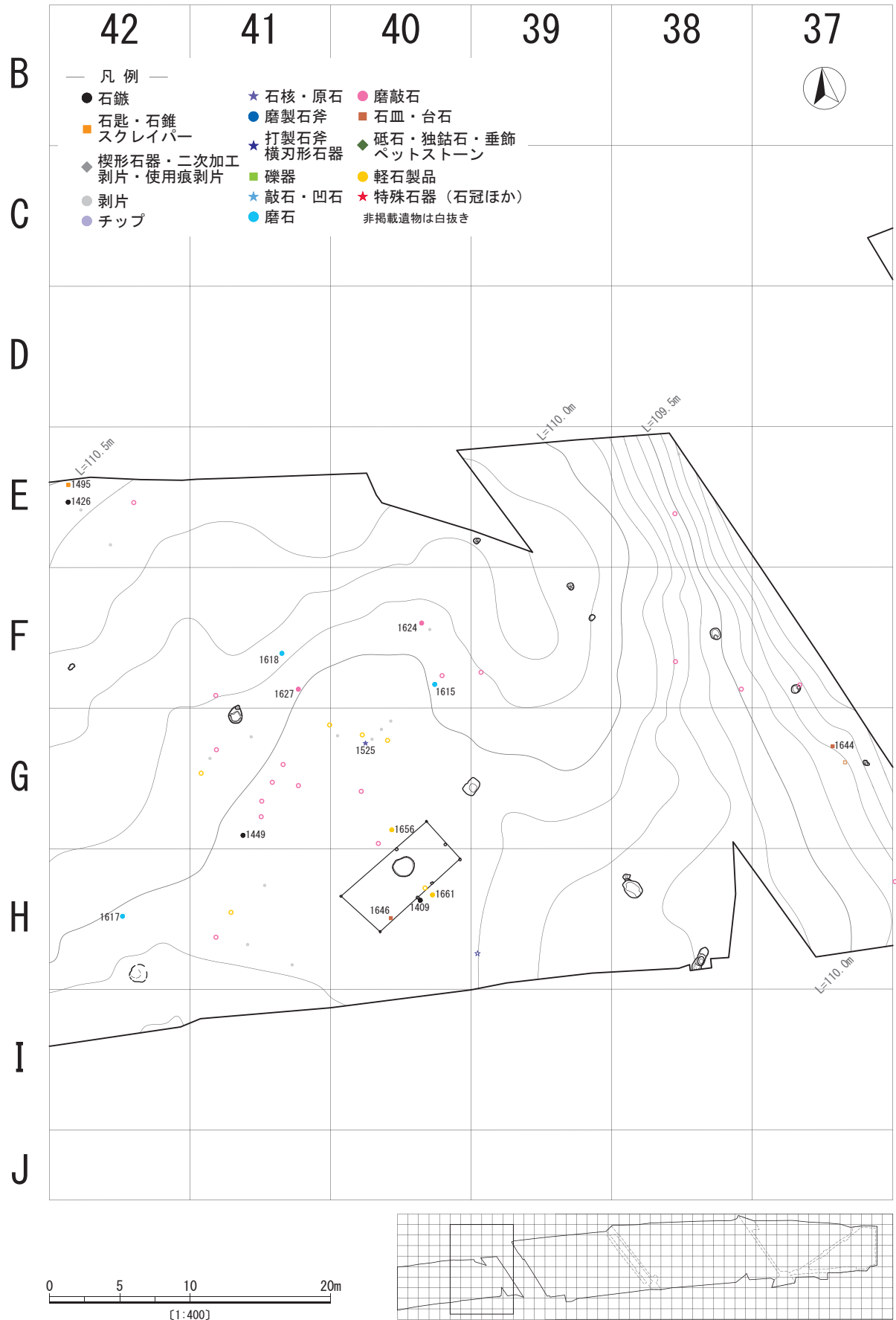


第345図 縄文時代後期～晩期 石器石材別分布図 (水晶・石英・玉髄・チャート・滑石)

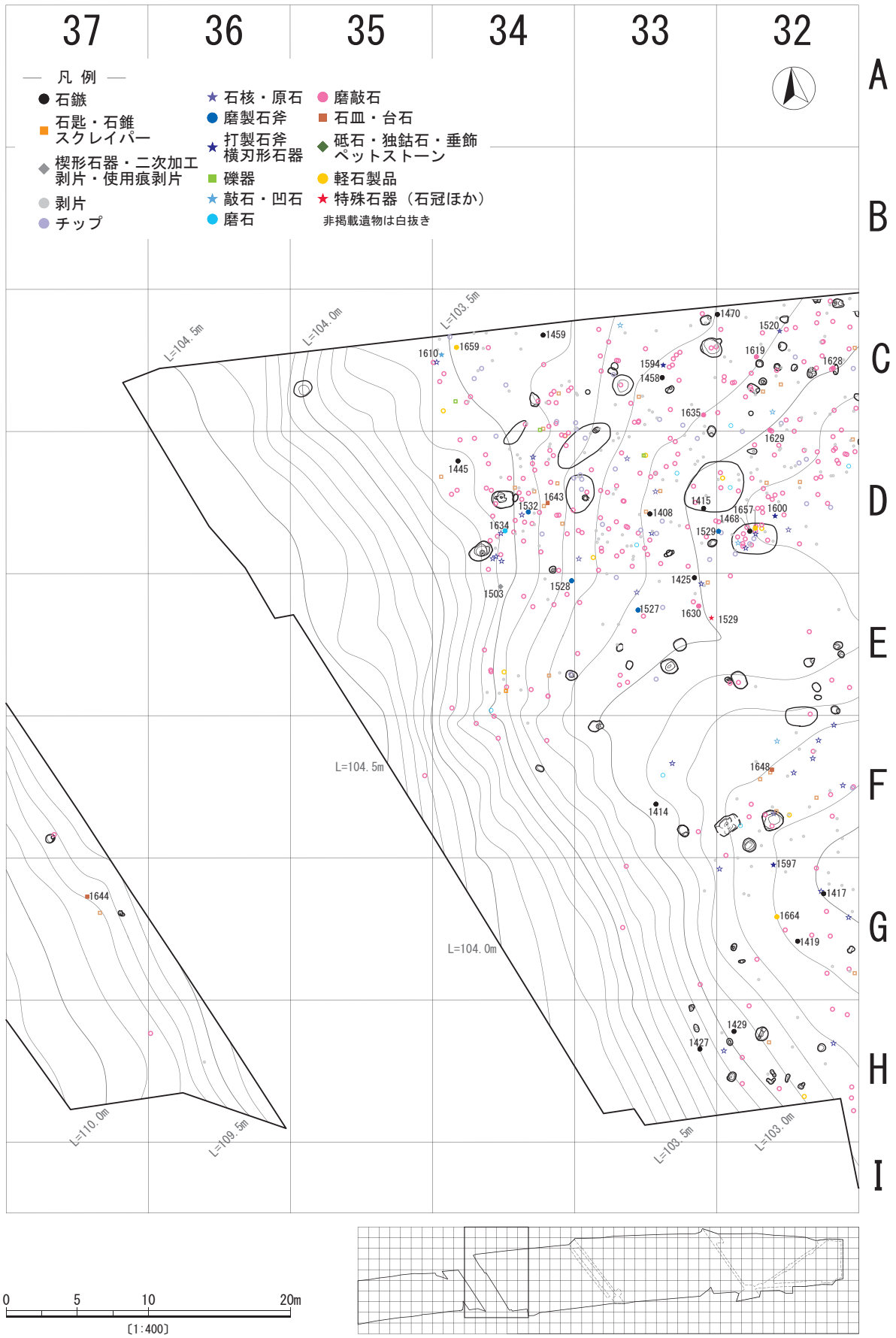


第 346 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（1）

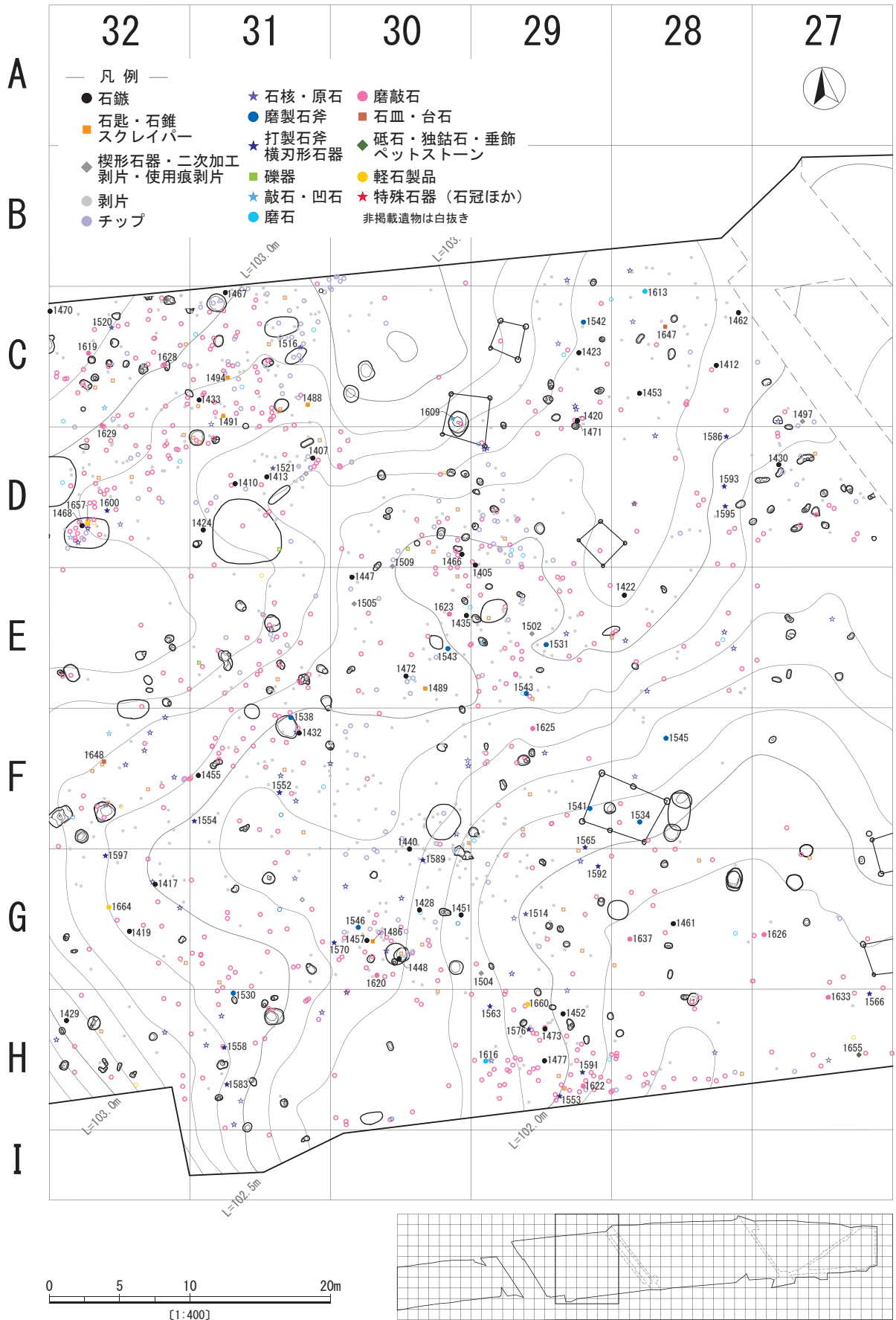


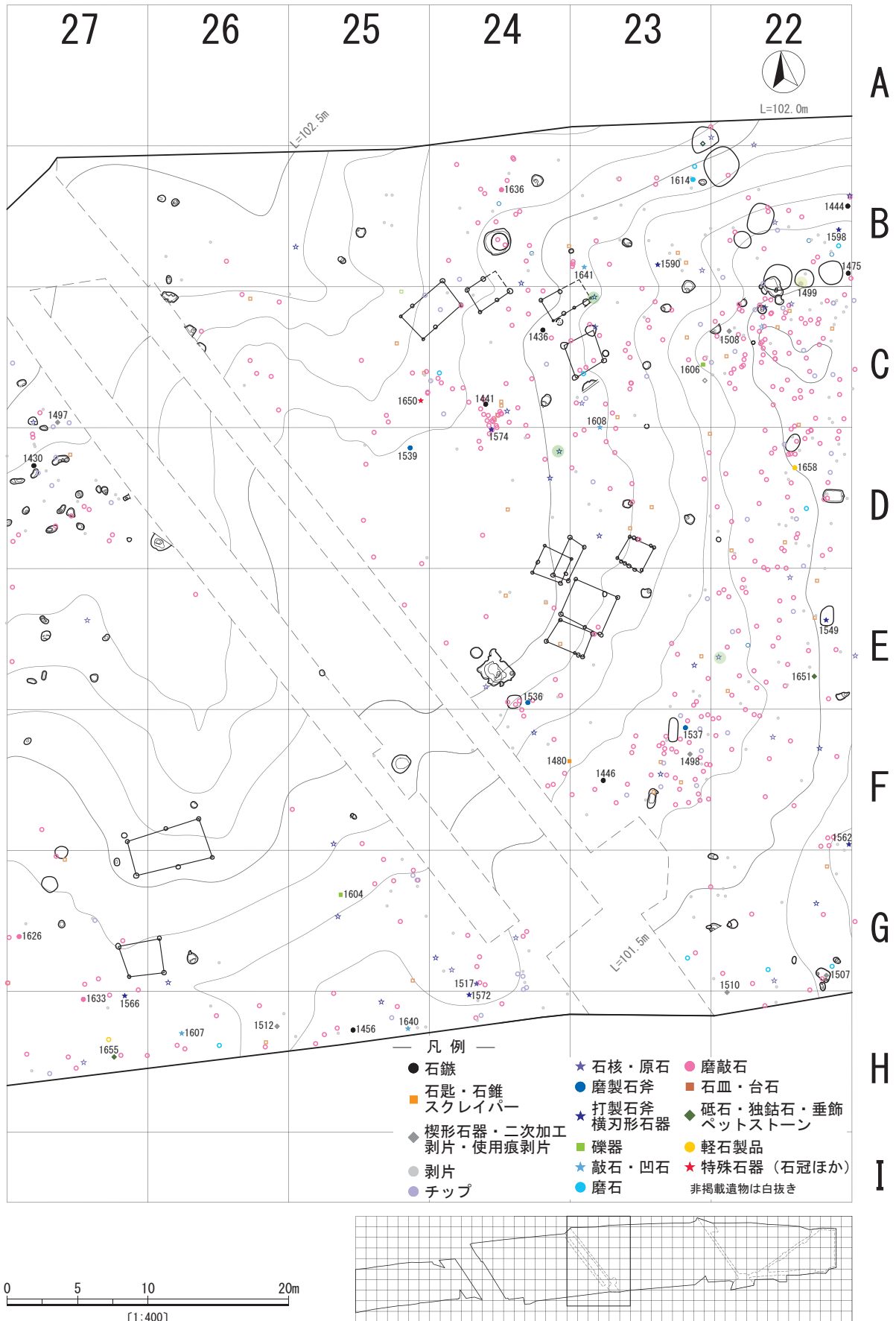


第 347 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（2）



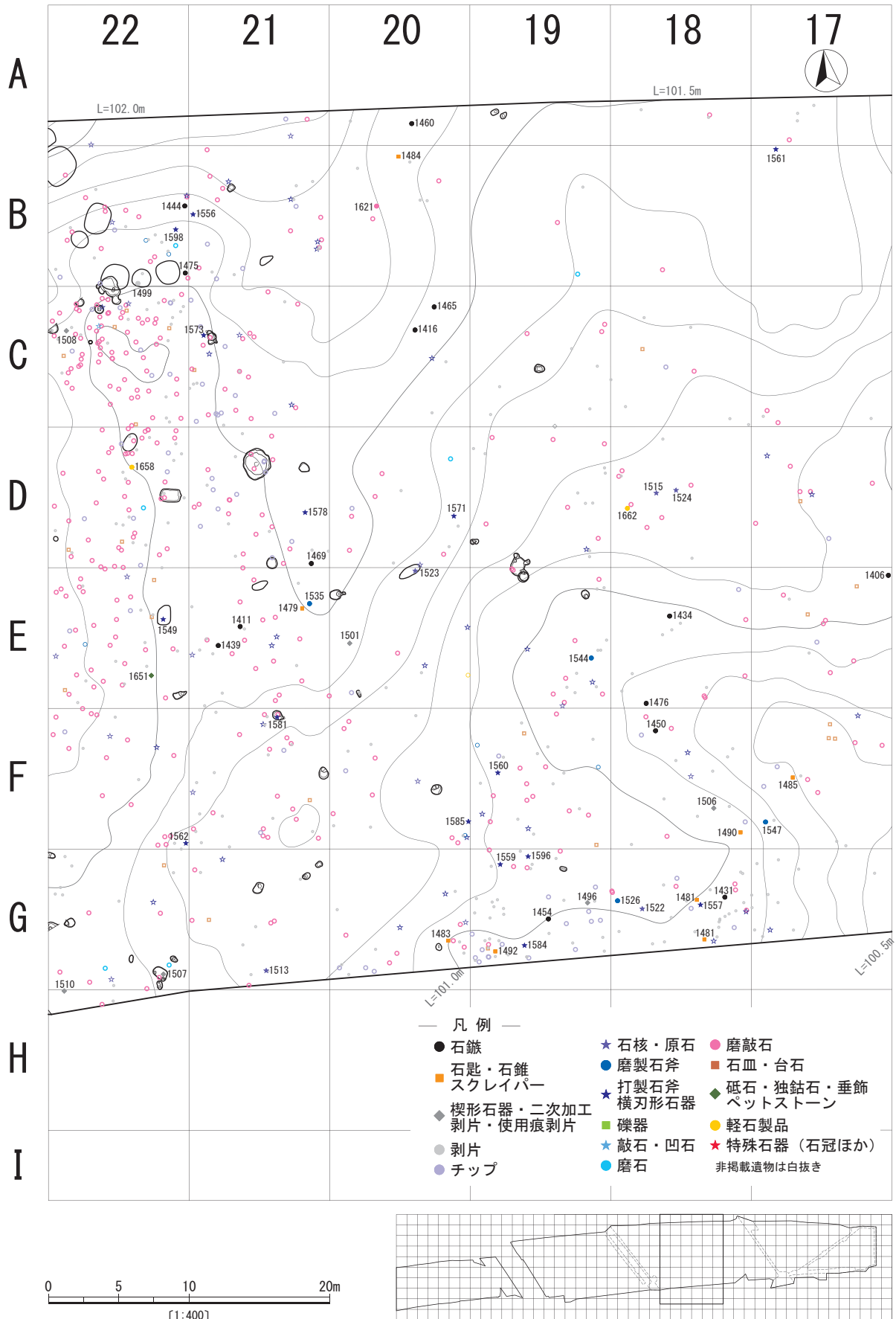
第 348 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（3）



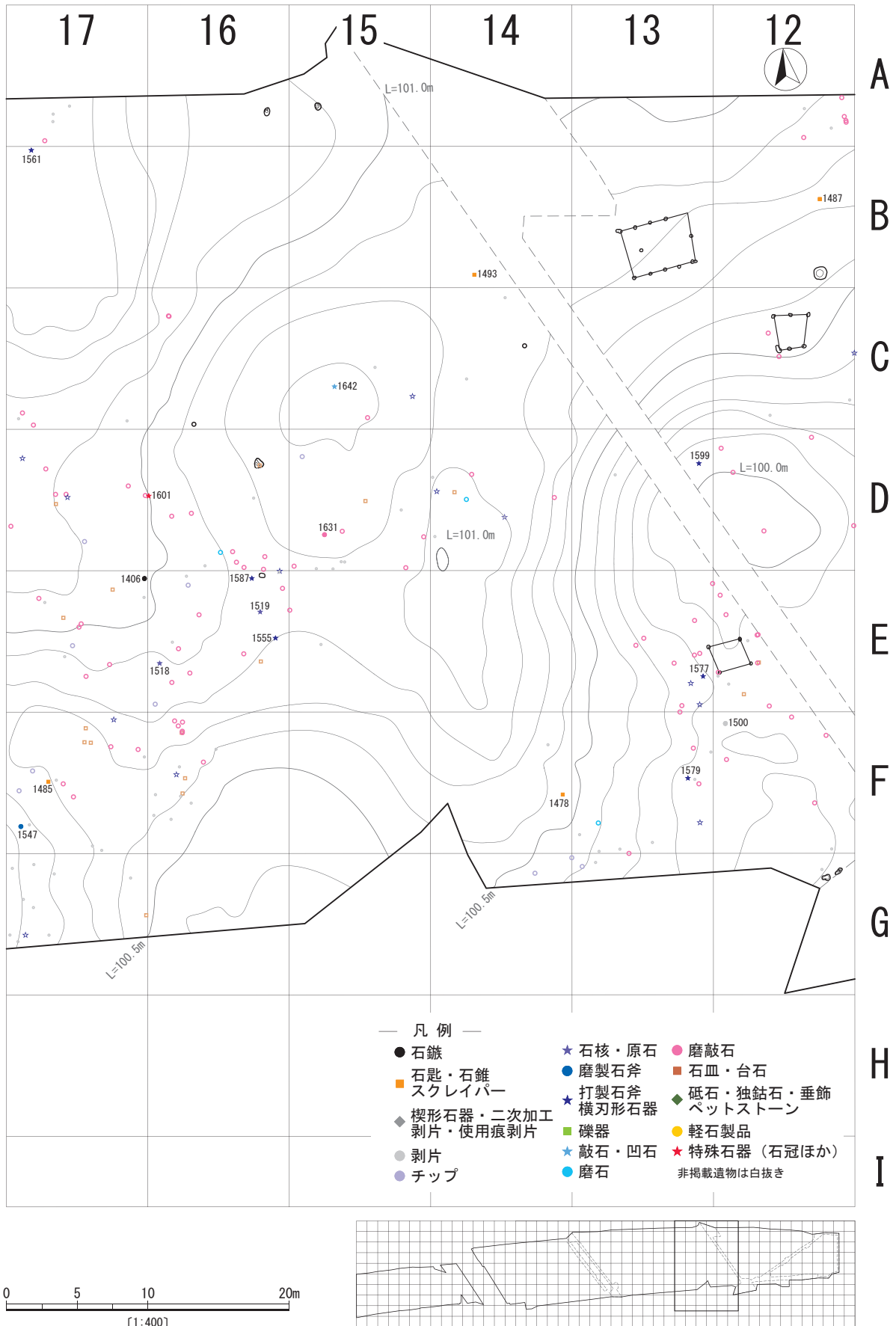


第 350 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（5）

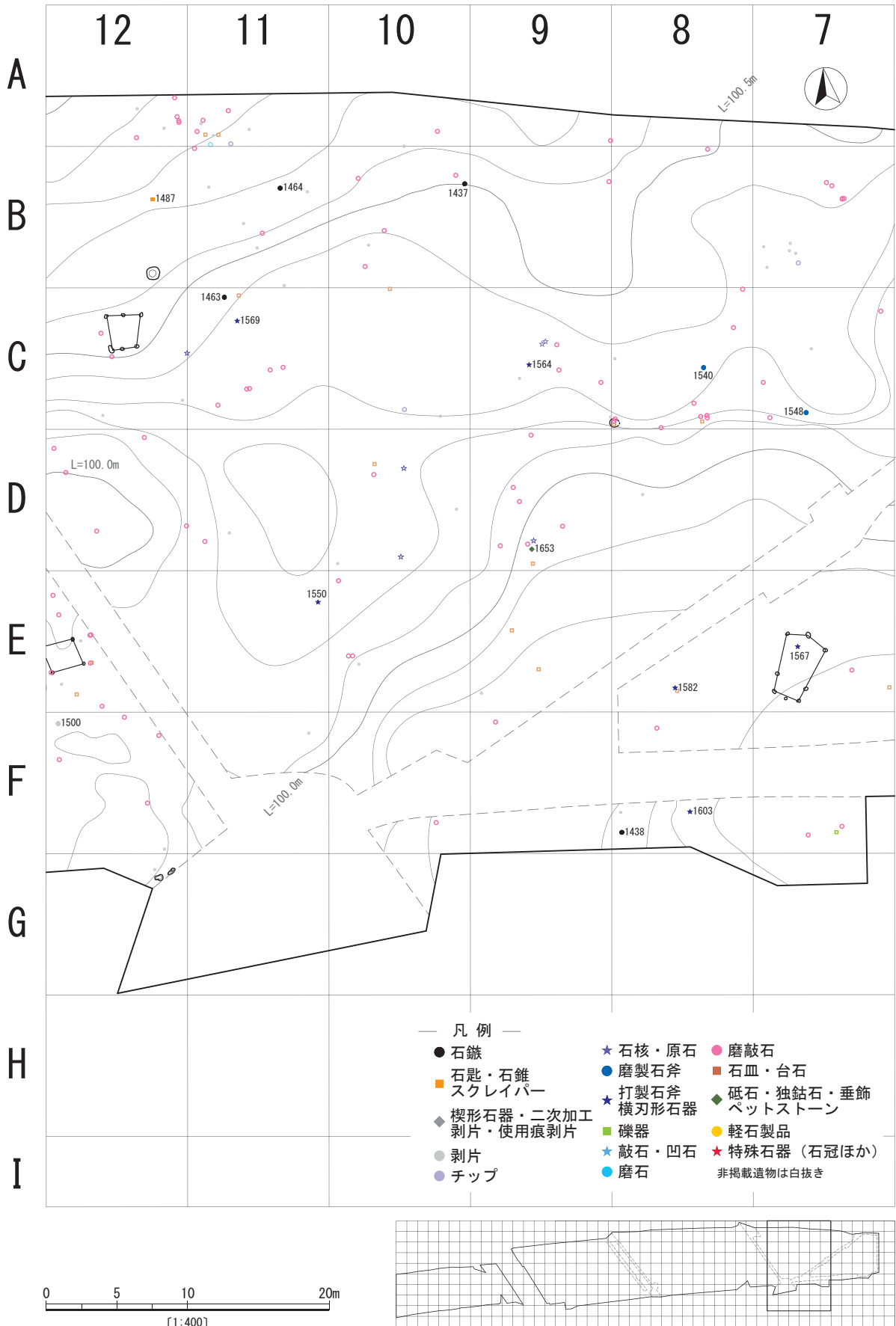




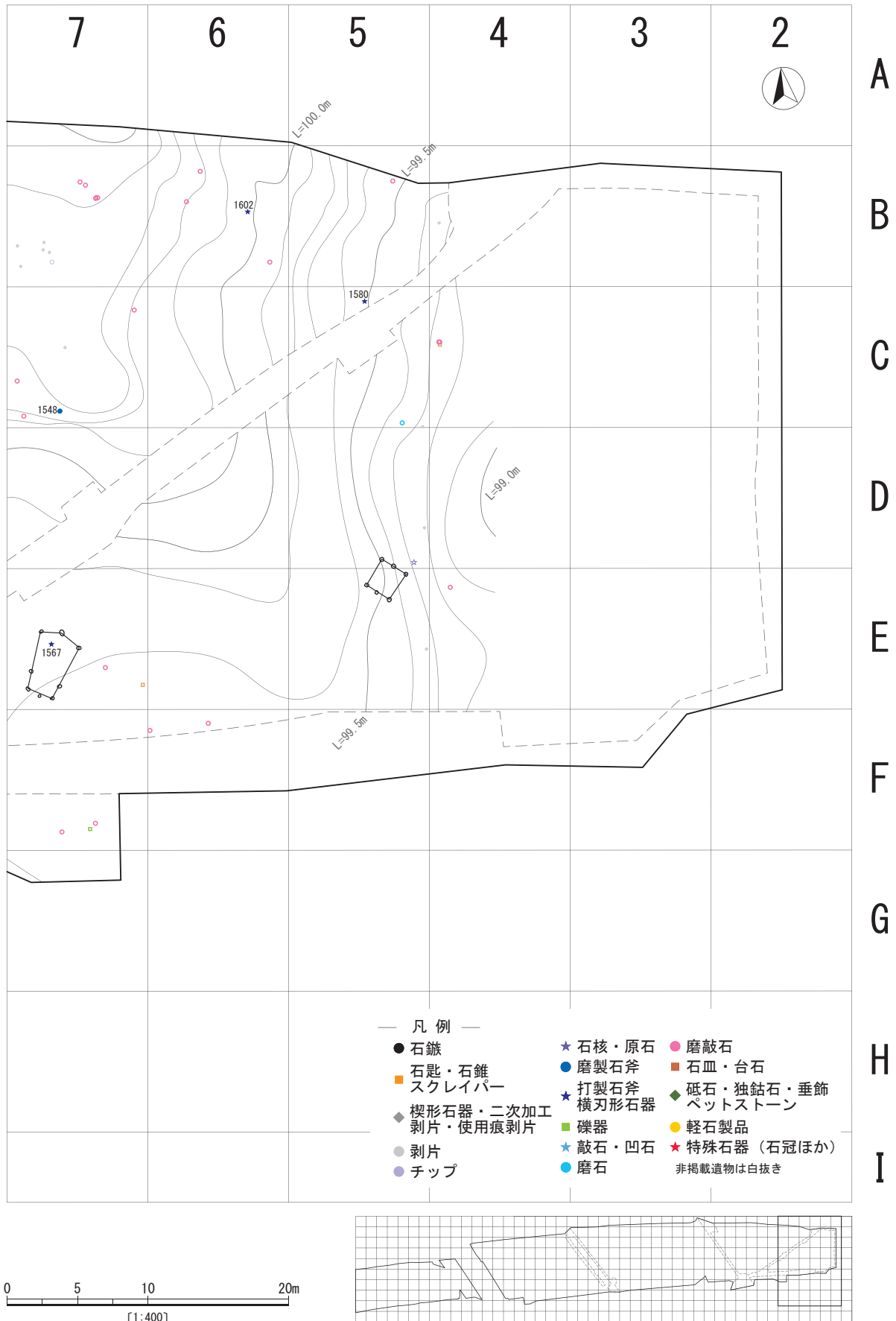
第 351 図 縄文時代後期～晚期 石器器種別分布図（6）



第 352 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（7）



第 353 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図（8）



第 354 図 縄文時代後期～晩期 石器器種別分布図 (9)



## (2) 包含層出土石器

### ア 概要

当該期のⅡ a層からⅡ c層の包含層出土石器については、石器の時期区分が明確でないため、縄文時代前期から晩期、及び一部弥生時代に帰属する可能性がある石器を一括して報告する。しかしながら出土石器の総量が比較的多い縄文時代後期の石器類が主体をなすものと考えられる。包含層からの出土石器総数は3,884点であり、そのうちの260点を図化した。

図化した石器と石製品の器種別の内訳は、石鏃73点、石匙3点、スクレイパー類7点、石錐8点、楔形石器3点、二次加工剥片・剥片類15点、石核13点、磨製石斧23点、打製石斧40点、横刃形石器9点、礫器3点、敲石4点、磨石・磨敲石・凹石類32点、石皿7点、石冠1点、垂飾1点、軽石製品9点、その他等である。なお、石材鑑定は肉眼観察による。石材については石器観察表を参照していただきたい。

### イ 包含層出土石器の状況

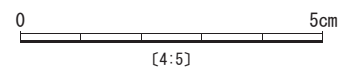
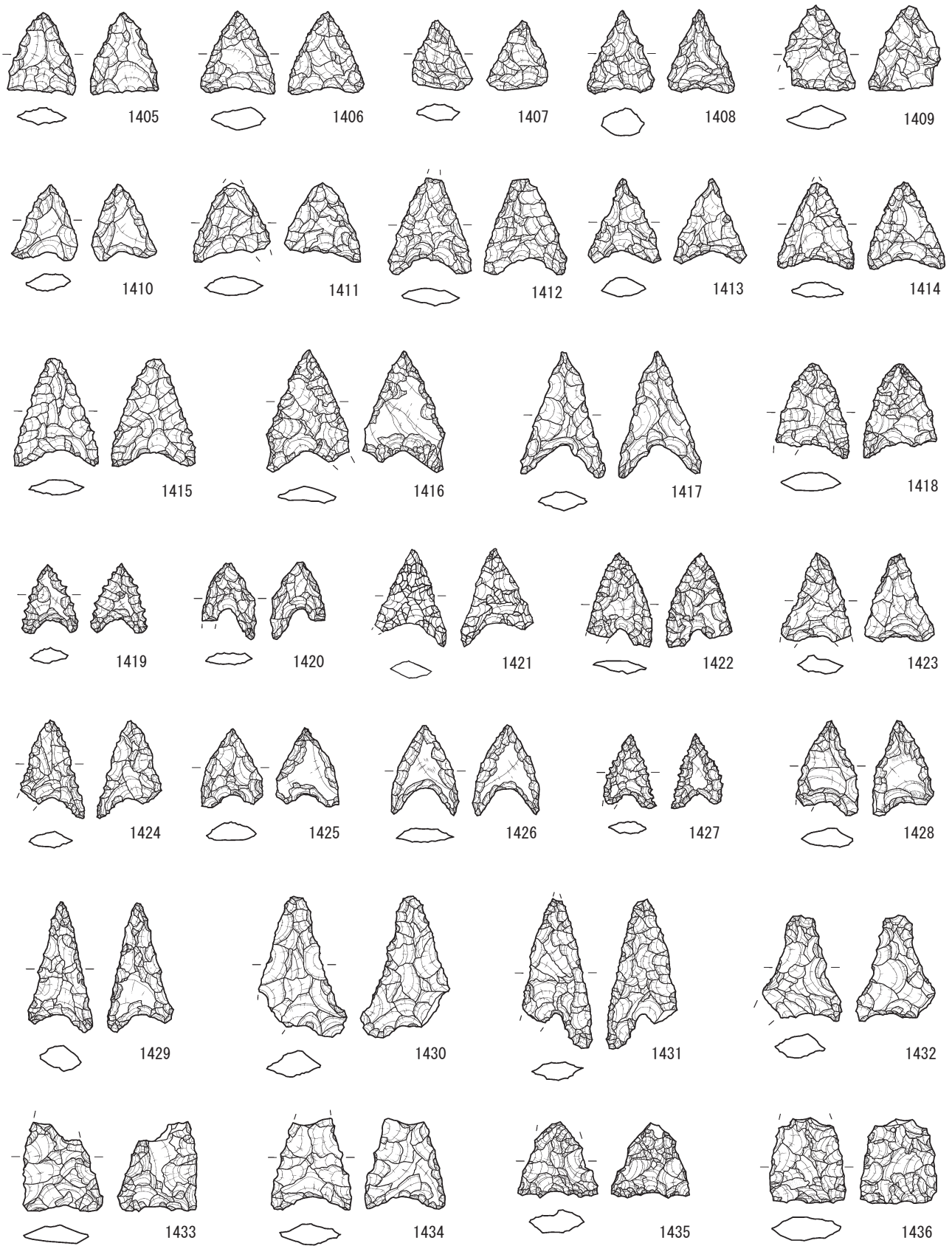
#### 石鏃 (第355～357図 1405～1477)

1405～1477は石鏃である。1405～1409は平基鏃である。1405は安山岩製で、周縁調整がなされている。1406は珪質頁岩で、1407は石英、1408はチャートで整形剥離のみで身が厚い。1409は玉髓で、片脚を欠く。1410～1414は基部に浅い抉りをもつものである。1410は頁岩の石鏃で、剥片形状がよく残る。1411は頁岩の石鏃で、先端と片脚を欠く。1412は珪質頁岩の石鏃で、先端を欠く。1413は珪質頁岩の石鏃で、1408と同様にコロコロとした感じで身が厚い。1414は珪質頁岩の石鏃で、扁平に仕上げられているが、先端を欠く。1415からは基部の抉りが深くなる。1415は珪質頁岩の石鏃で、先端を欠く。1416は上牛鼻産黒曜石の石鏃で、先端が突出する形で両脚端を欠く。1417は頁岩の石鏃で、先端が突出し、長い脚をもつ。1418は玉髓の石鏃で、片脚を欠く。1419は玉髓の小型の石鏃で、鋸歯縁をつくる。1420は安山岩の石鏃で、脚が長く先端と片脚を欠く。1421は玉髓、1422は黒曜石の身の薄い石鏃で、両脚端部を欠く。1423は珪質頁岩の石鏃で、両脚を欠く。1424は頁岩の石鏃で、長い脚をもつが片脚を欠く。1425は頁岩の石鏃で、主要剥離面がそのまま残り、周縁調整で形づけられる。1426は安山岩の石鏃で、抉りが深く脚端が尖る。1427は玉髓の小型の石鏃で、鋸歯縁をなす。両脚端部をわずかに欠く。1428は珪質頁岩の石鏃で、主要剥離面が残り、剥片形状をよく残す。片脚端部を欠く。1429～1432は大型の石鏃である。1429は珪質頁岩の圭頭部の長い石鏃である。1430は石英の圭頭部が長い石鏃で、脚部が外に開く。先端と片脚を欠く。1431は針尾産黒曜石の圭頭部の長い石鏃で、

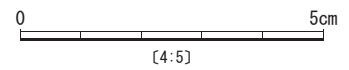
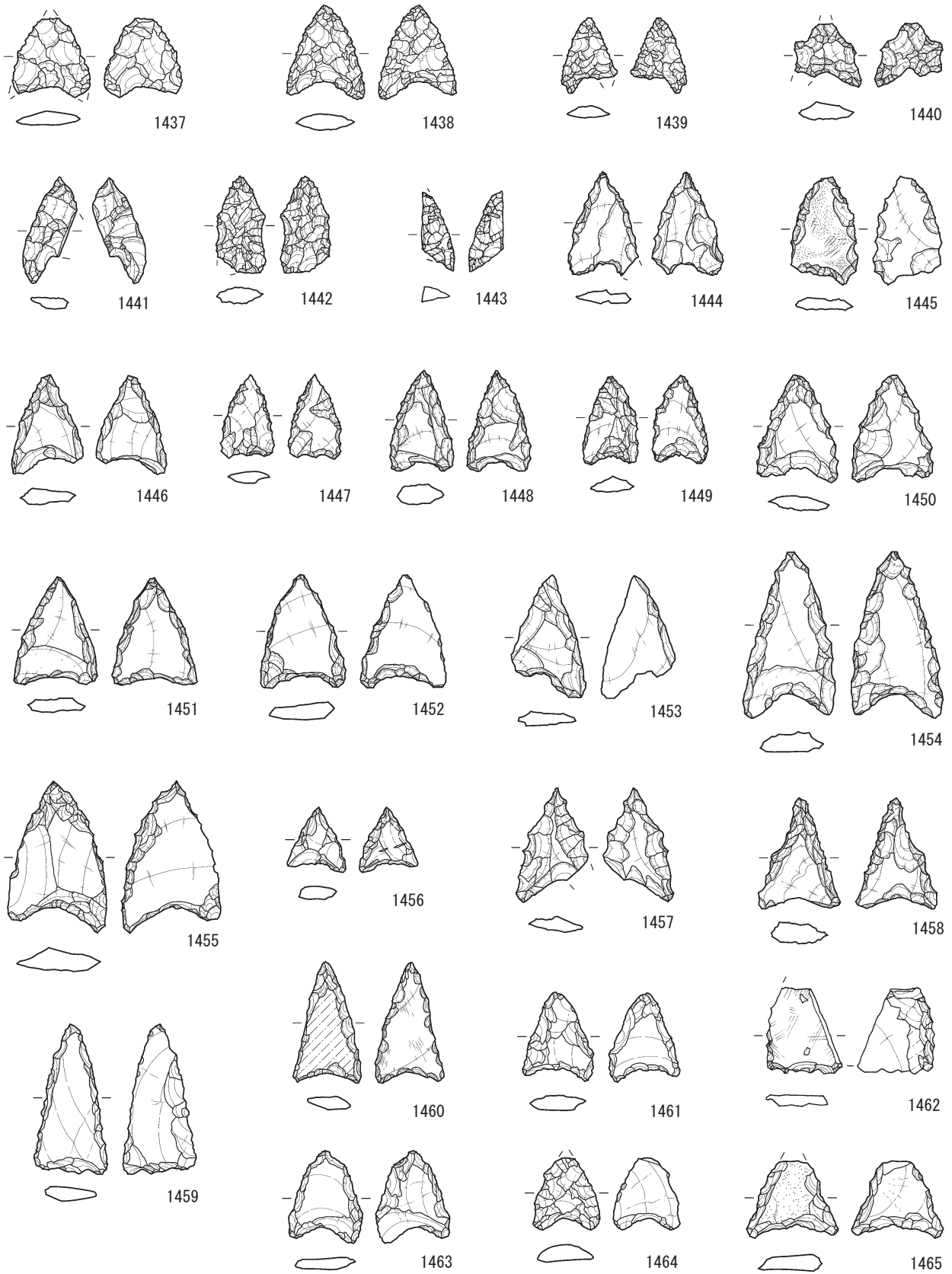
深い抉りの脚部で、先端と片脚を欠く。1432は節理の多い珪質頁岩の石鏃で、先端と片脚を欠く。1433は玉髓の石鏃の基部で、浅い抉りがあり、主要剥離面が残る。1434は珪質頁岩の石鏃の先端部を欠くものである。1435は三船産黒曜石の石鏃の先端部を欠くものである。1436は三船産黒曜石の石鏃で、平基のやや身の長い石鏃で、先端部を欠く。1437は頁岩の石鏃で先端を欠く。1438は珪質頁岩の石鏃で、平坦剥離で仕上げられている。1439はチャートの石鏃で、脚が翼状になり特徴的である。片脚を欠く。1440は玉髓の小型鏃で、肩に突出部がある。先端と肩脚端を欠く。1441は安山岩の石鏃で、先端が突出し脚端部が尖り、抉りの深いもので、半欠品である。1442は上牛鼻産黒曜石の五角形鏃で片脚を欠く。1443は腰岳産黒曜石の石鏃で、半欠品である。1444～1465は頁岩の石鏃の未製品である。目的剥片を剥離し、周縁に整形剥離を施した段階のものである。1445は頁岩の礫皮をもつ剥片を利用して整形している。1447は珪質頁岩である。頁岩とやや珪質が強い黒色の頁岩の未製品である。1458・1460・1462は研磨痕がみられることから、磨製石鏃の製作の未製品の可能性が高い。1446は石英の石鏃の尖頭部である。1467は珪質頁岩の石鏃未製品としたが、ドリルの可能性もある。1468は珪質頁岩の石鏃未製品であろう。1469も珪質頁岩の石鏃の未製品としたが、ドリルの可能性がある。1470は珪質頁岩の尖頭器の可能性がある。1471はチャートの石鏃の欠損品である。1472は三船産黒曜石の石鏃の基部である。1473は珪質頁岩の石鏃の基部である。1474～1476は両面に研磨痕があり磨製石鏃で、1474は基部、1475・1476は先端部である。1477は石英の石鏃で、先端部と片脚を欠く。

#### 石匙・スクレイパー類 (第358・359図 1478～1487)

1478・1482・1485は石匙、石匙を除いた1479～1487はスクレイパーである。1478は安山岩の石匙で、素材と形状からは早期の可能性が高い。1479はホルンフェルスの削器である。上部に折断痕があり、つまみ部の痕跡がうかがわれ石匙の可能性が高い。背面は摩滅している。1480は節理の多い珪質頁岩の削器で、横長剥片の末端部に刃部を形成する。1481は赤色砂岩の削器で、背面は磨石として使用されたため研磨がみられる。1482は珪質頁岩の縦型の石匙で、縦長剥片の打点側に刃部を形成し、礫皮面が残る剥片末端側につまみ部を作り出している。1483は珪質頁岩の削器で、木葉形状の縦長剥片の形状をそのまま用いて、長い側縁に刃部を作り出す。1484は安山岩の削器で、剥片形状に合わせて、長い側縁部に刃部を作り出している。1485は珪質頁岩の削器で、明確なつまみ部がないが、形状から石匙としたい。1486は頁岩の小型の搔器で、縦長剥片の折れたものを急角度の刃部が作れる側縁を利用した。1487は三船産

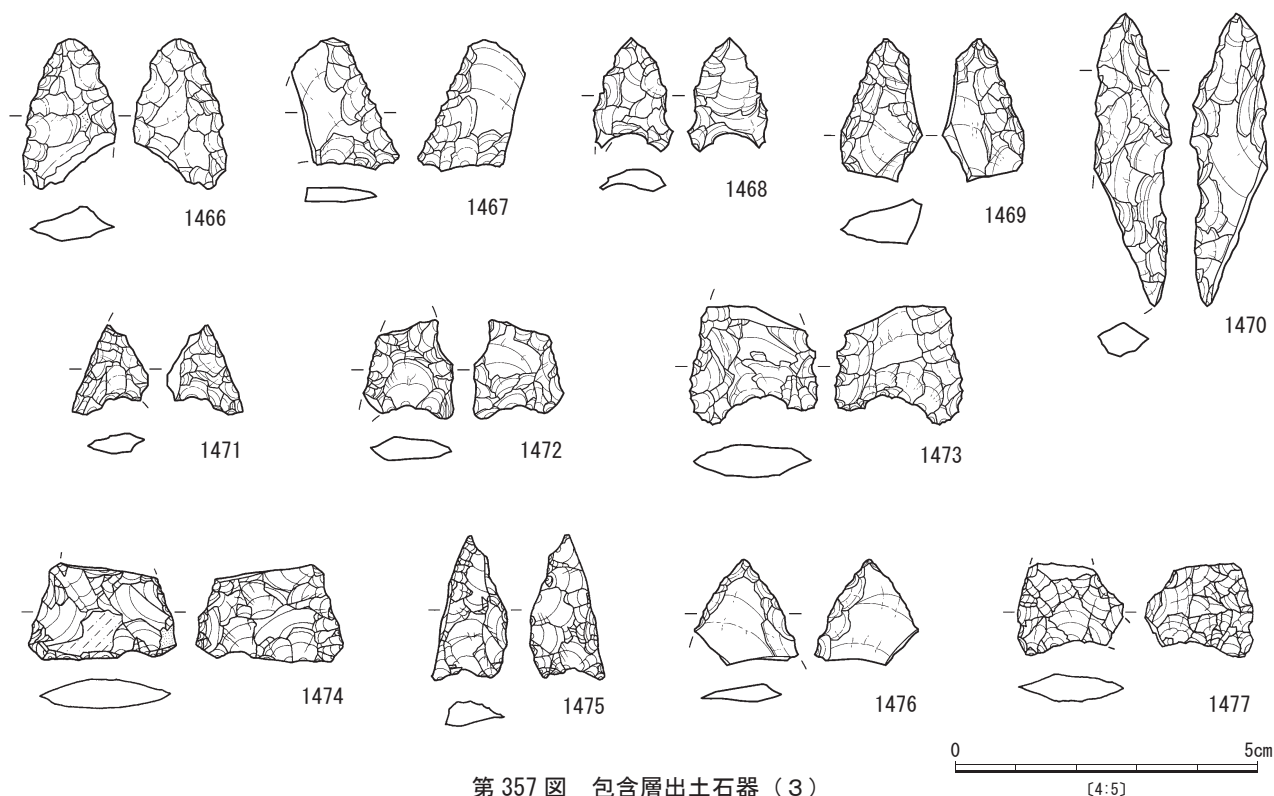


第 355 图 包含層出土石器 (1)



第 356 图 包含層出土石器 (2)





第 357 図 包含層出土石器 (3)

黒曜石の搔器で、剥片形状をあまり変えず、長い二側縁に刃部を形成している。

#### 石錐 (第 359 図 1488 ~ 1495)

1488 ~ 1495 は石錐である。1488 は玉髓の石錐の錐部である。1489 は珪質分の強い頁岩の石錐で、基部の一部が欠ける。1490 は桑ノ木津留産黒曜石の石錐である。1491 はホルンフェルスの石錐で、剥片先端部に両側から抉り、錐部を作り出す。1492 は頁岩製で、石鏃の形状をなすが、先端部に回転痕跡が顕著である。1493 は姫島産黒曜石のドリルである。早期で多用されていた石材であり、早期の可能性も残す。1494 は節理の多い頁岩の石錐で、錐部が折れている。扁平な基部の周縁調整等で石錐であると判断した。1495 は頁岩の石錐で錐部が欠いているが錐部を作り出す抉りと基部の周縁調整から石錐とした。

#### 楔形石器 (第 359 図 1496 ~ 1498)

1496 ~ 1498 は楔形石器である。1496 は頁岩の楔形石器で、上下端に細かい打突痕がある。1497 は玉髓の楔形石器で、上下端に細かい打突痕がある。1498 は桑ノ木津留産黒曜石の楔形石器で、横長であるが上下端にたくさんの細かい打突痕がある。

#### 二次加工剥片・剥片 (第 359・360 図 1499 ~ 1512)

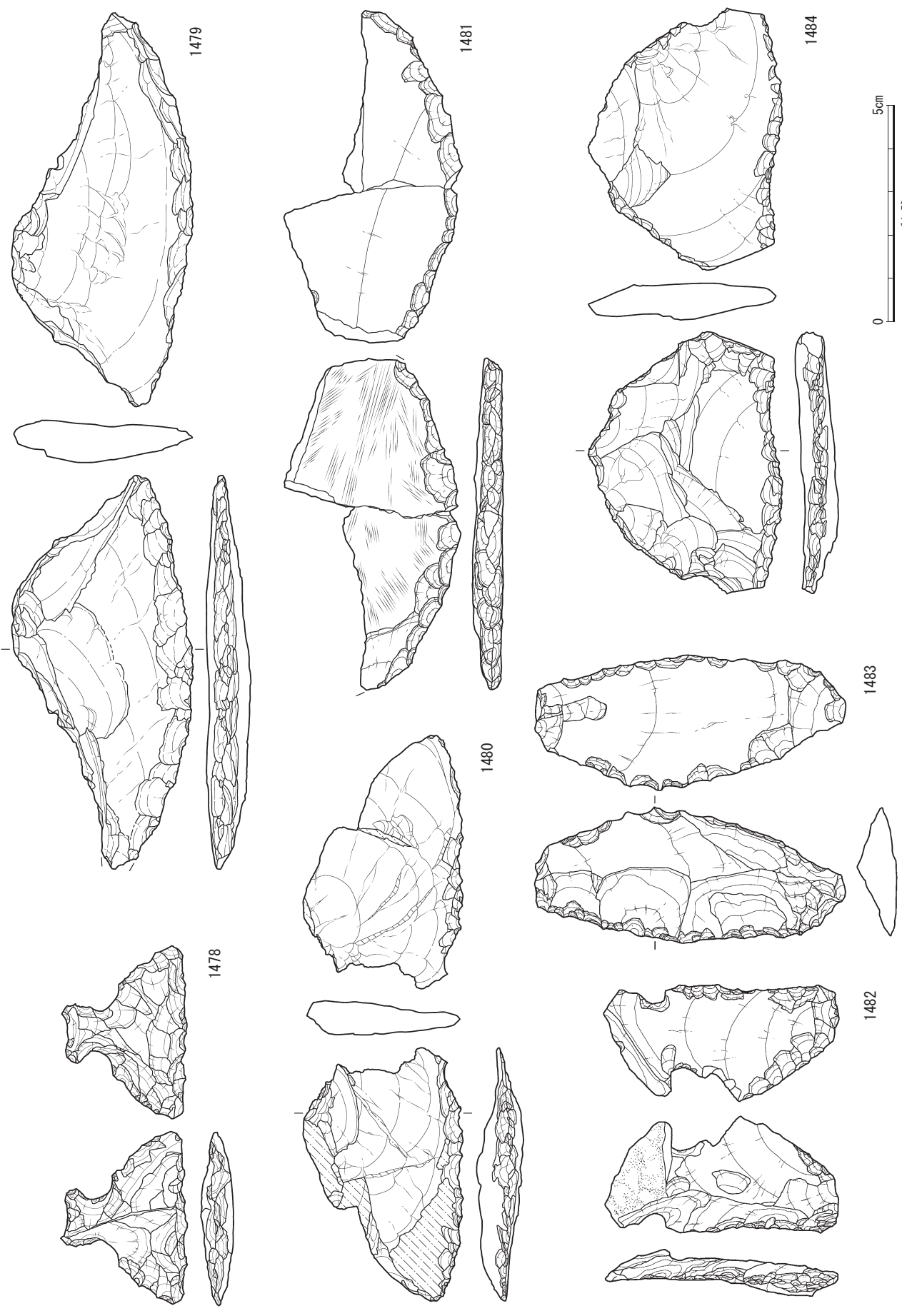
1499 ~ 1512 は二次加工剥片、剥片である。1499 ~ 1501 は石英の剥片で、剥片の大きさがうかがわれる。1501 は下部に二次加工がある。1502 は三船産黒曜石の二次加工剥片で、下縁部に二次加工がなされる。1503

も三船産黒曜石の二次加工剥片であり、下縁の刃部に抉り部が作出されている。1504 は石英の横長剥片で、下縁部に二次加工がなされる。1505 は節理の多い頁岩の二次加工剥片である。1506 は頁岩の二次加工剥片であるが、下部が節理で割れている。節理で割れた面を上にして楔形石器としても使用された可能性もある。1507 は節理の多い珪質頁岩の縦長剥片で、1508 も同じ頁岩の大きな剥片である。1508 は下縁に二次加工がある。1509 は砂岩の円礫を打ち欠いた剥片を、二側縁を二次加工して石鏃様に仕上げている。1510 はチャートで、一側縁に二次加工がみられる。1511 は頁岩の二次加工剥片で、打面を除き、下縁から両側縁にかけて加工がなされている。1512 は礫皮面をもつホルンフェルスの大型剥片で、剥片の鋭い縁辺に使用痕がみられる。

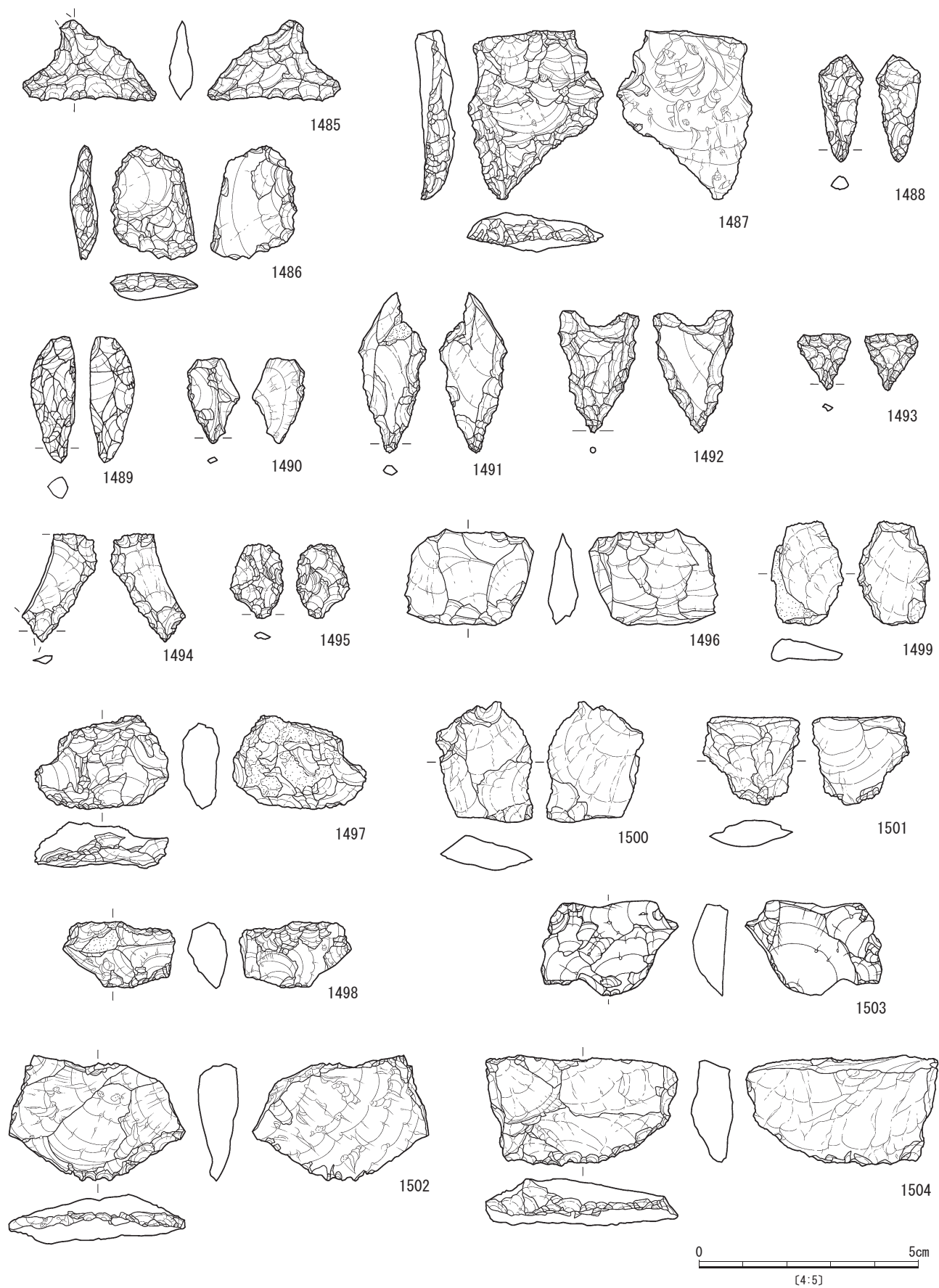
#### 石核 (第 361・362 図 1513 ~ 1525)

1513 ~ 1525 は石核である。1513 は珪質頁岩の石核で、節理で剥がれた面から、小剥片の剥出を試みる。1514 は桑ノ木津留産黒曜石の石核で、礫皮面を打面として剥出する。1515 は腰岳産黒曜石の石核で、小円礫を素材とし、1516 は三船産黒曜石の石核で、拳大の円礫を素材とし、礫皮面側を打面として剥片を剥出する。1517 は石英の石核である。硬いが形状が不安定な剥出となる。1518 は珪質頁岩の石核で、あらゆる面を打面として剥片を取ろうとしている。1519 は三船産黒曜石の石核で、小円礫を素材とし、礫皮面を打面として剥出している。1520 は石英質が強い玉髓の石核である。1521 は三船産

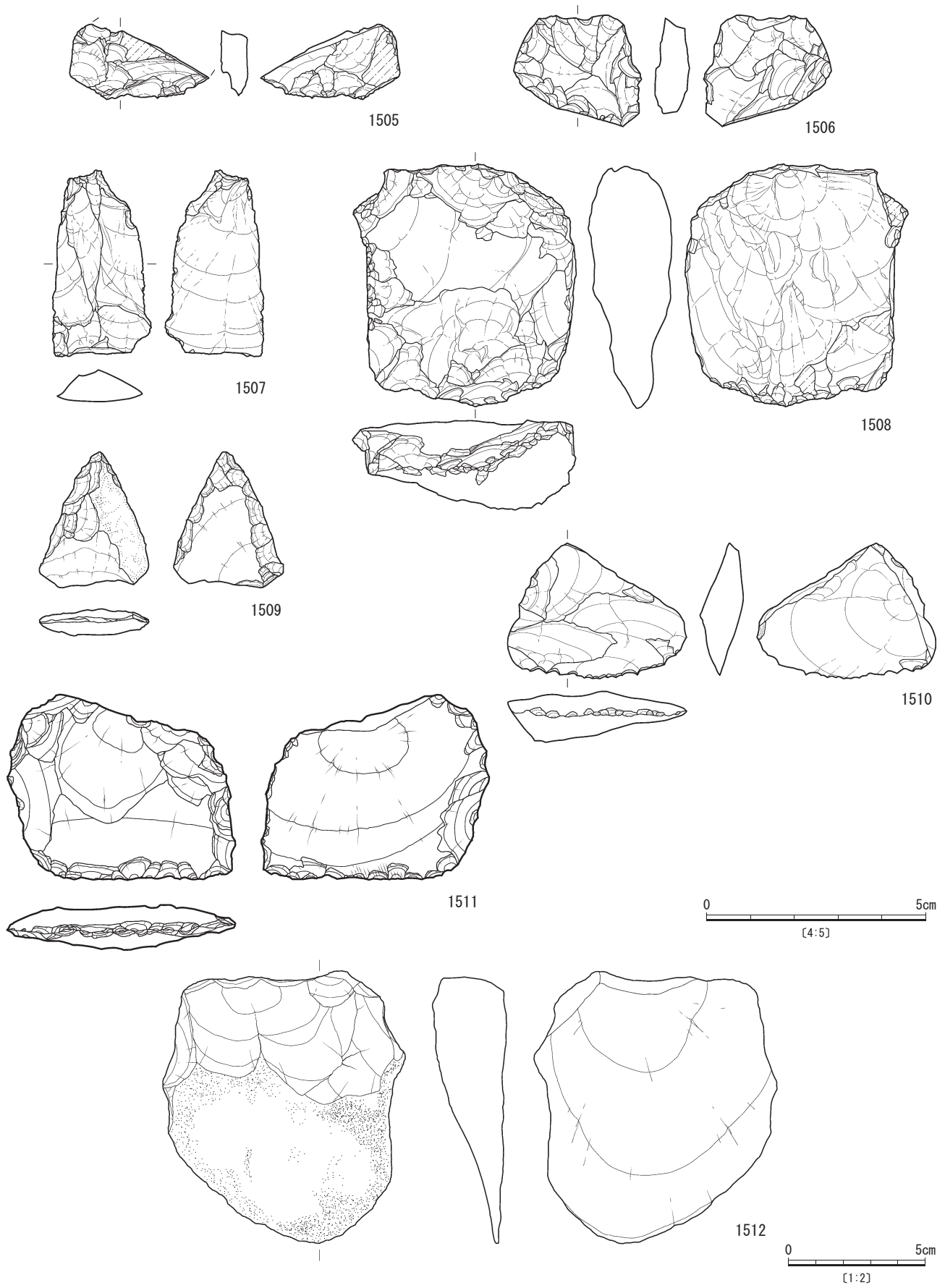




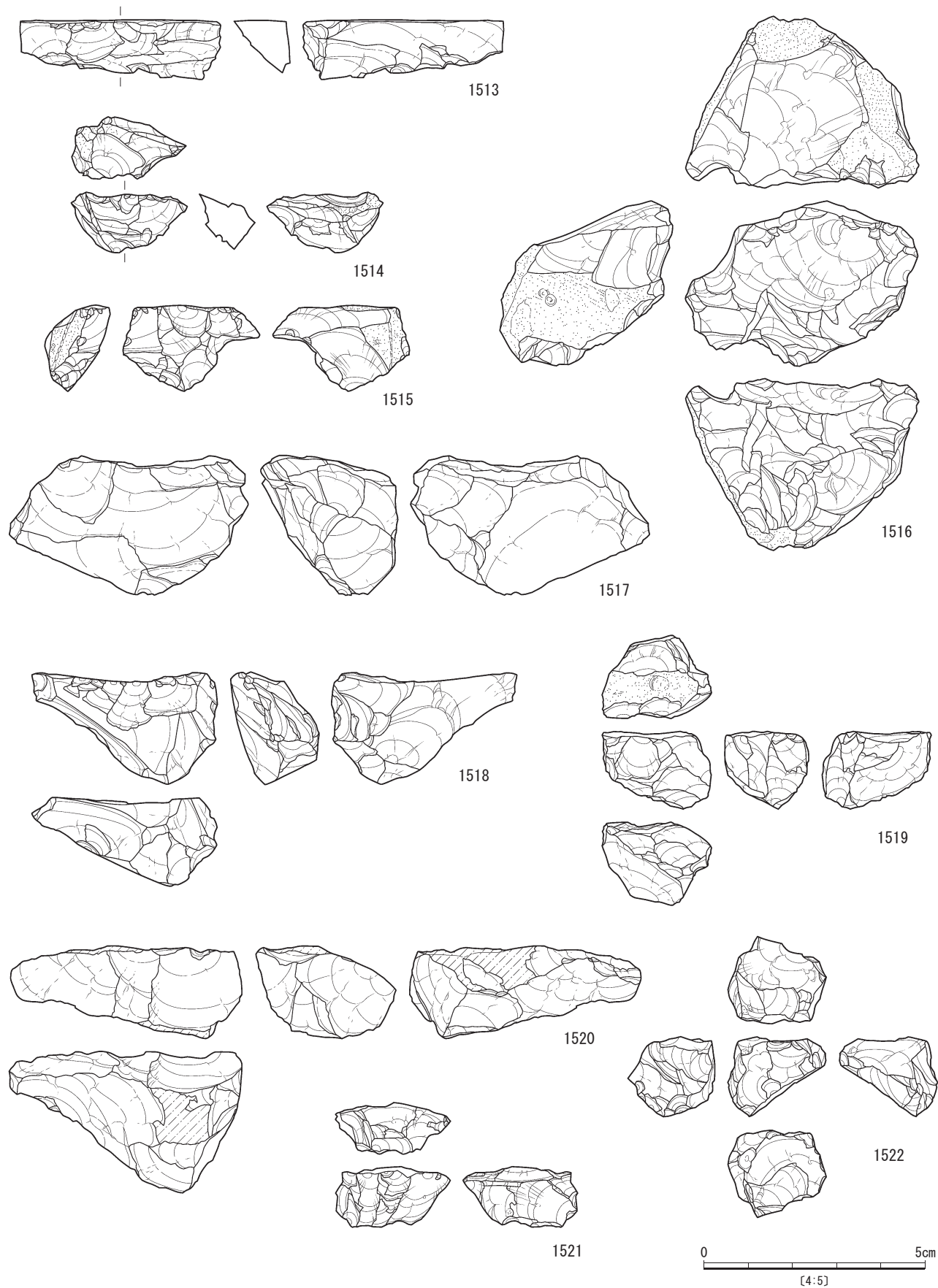
第 358 図 包含層出土石器 (4)



第 359 图 包含層出土石器 (5)

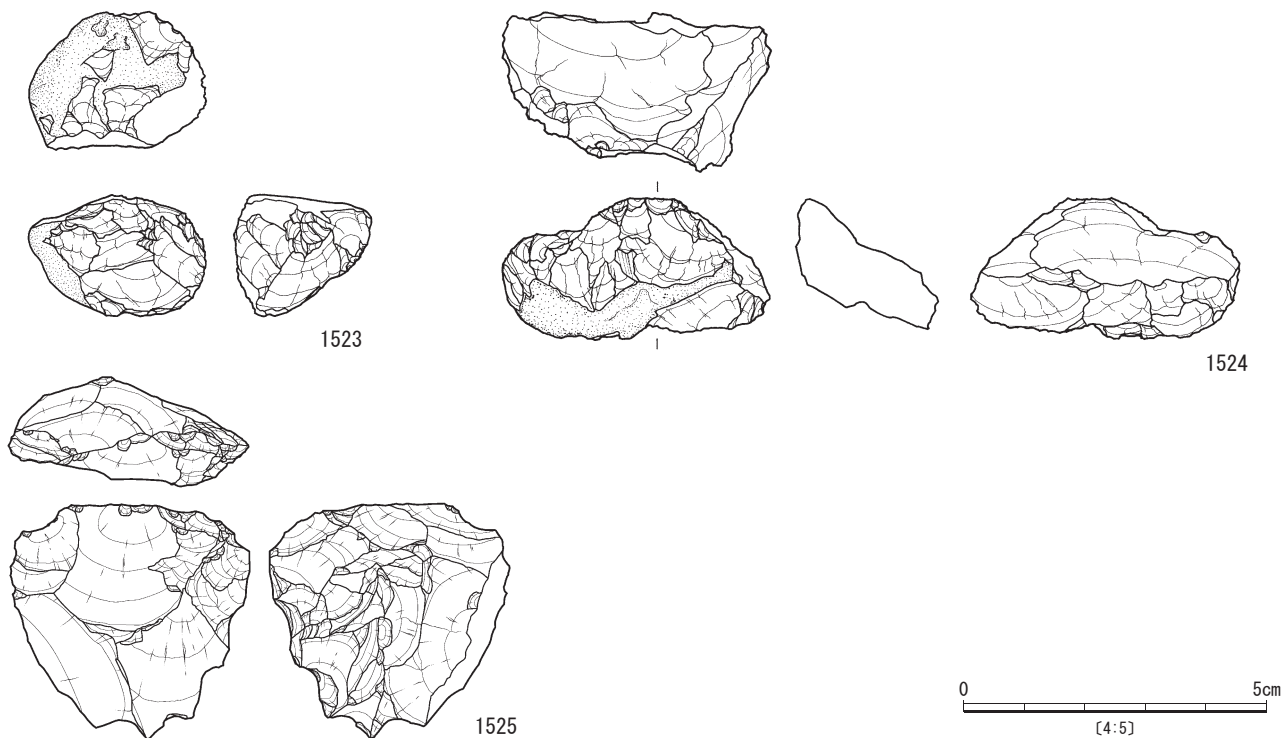


第 360 图 包含層出土石器 (6)



第 361 图 包含層出土石器 (7)





第 362 図 包含層出土石器 (8)

黒曜石の石核で、剥片素材で剥離面を打面として、打面調整は行わずに剥片を剥出する。1522 は三船産黒曜石の石核で、剥片素材で打面を転移しながら剥片を剥出する。1523 と 1524 は石英の石核で 1523 は円礫を素材として、1524 は剥片素材の石核である。1525 は珪質の節理の多い頁岩の石核で、剥片素材で剥離面を打面として、打面調整は行わずに剥片を剥出する。

#### 磨製石斧 (第 363 ~ 365 図 1526 ~ 1548)

1526 ~ 1548 は磨製石斧である。1526 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部である。基部に敲打痕が顕著に残り、使用により折断したものと考えられる。1527 はホルンフェルスの磨製石斧で、刃部が複数回の打突により欠損している。1528 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部で、全面に擦痕が残る。1529 は伐採斧の基部で、破損後に再利用による上下端部に潰れがみられる。1530 はホルンフェルスの磨製石斧の基部で、基部の端部と刃部を欠く。以上伐採斧である。1531 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部で、敲打により整形され刃部を研ぎ出している。基部を欠損する。1532 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部で、使用により欠損したものとみられる。1533 はホルンフェルスの磨製石斧の基部で、全周がよく研磨されている。1534 はホルンフェルスの小型の磨製石斧である。1535 は頁岩の小型の磨製石斧で全体がよく磨かれて、基部が欠損している。1536 は砂岩の礫を用いて、周縁を整形し研磨して刃部を作り出している。基部が欠損する。1537 はホルンフェルスの石斧の基部で、

刃部が欠損する。身が厚く伐採斧の基部の可能性がある。1538 はホルンフェルスの磨製石斧で、刃部からのダメージでの剥離が複数回みられ、そのたびに研ぎ直し等で修復して使用したものと考えられる。1539 は頁岩の磨製石斧の基部である。未製品の可能性がある。1540 は頁岩の磨製石斧の基部である。1541 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部で、ノミ形石器と考えられる。1542 は頁岩の磨製石斧の刃部で、全周が研磨されている。1543 は頁岩の磨製石斧の刃部である。1544 はホルンフェルスの磨製石斧の刃部の破片である。使用により欠損したものとみられる。1545 はホルンフェルスの磨製石斧の基部で、着柄による摩滅痕がみられる。ソケット状の柄が想定される。1546 はホルンフェルスの磨製石斧の基部が欠損したものである。1547 はホルンフェルスの磨製石斧で、刃部と基部を欠く。敲打調整が著しい。1548 は頁岩の磨製石斧で、薄身で下半部の刃部に研磨を施している。両面共に磨耗と線状痕が著しい。線状痕は縦方向に入る。1537 を除いて加工斧と考えられる。

#### 打製石斧類 (第 366 ~ 371 図 1549 ~ 1588)

1549 ~ 1588 は打製石斧類である。着柄の有無や形状から I 類 ~ V 類に分類した。

1549 ~ 1551 は I 類である。基部が最も細くなる形状をし、抉りをもたず、刃部にかけて広がっていく形状を呈す。明確な柄の装着痕が確認できない一群である。1549 は正面の刃部に一部自然面を残しており、両側辺にも一部磨耗がみられるが、短辺の刃部には刃こぼれや、

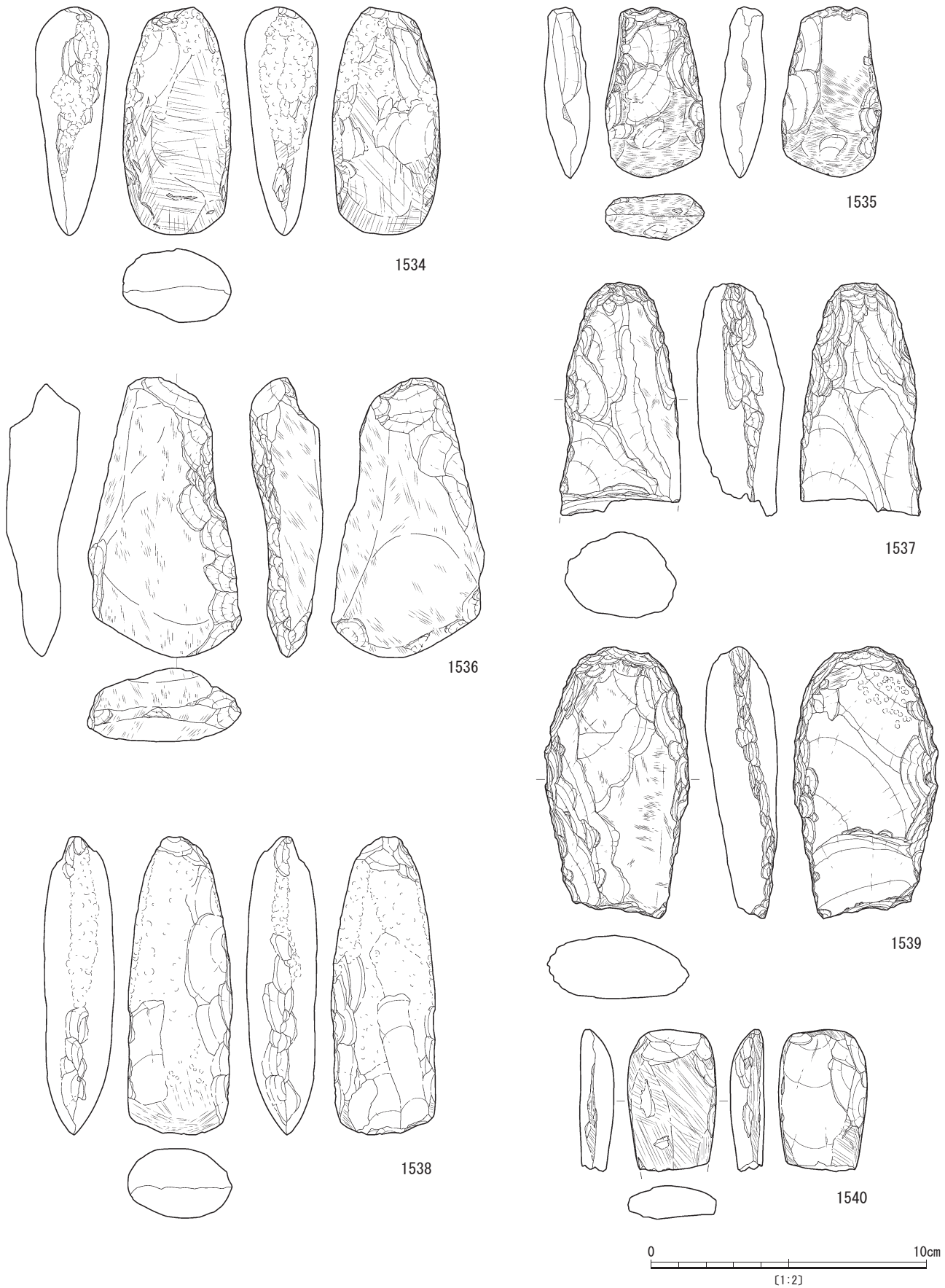


第 363 図 包含層出土石器 (9)

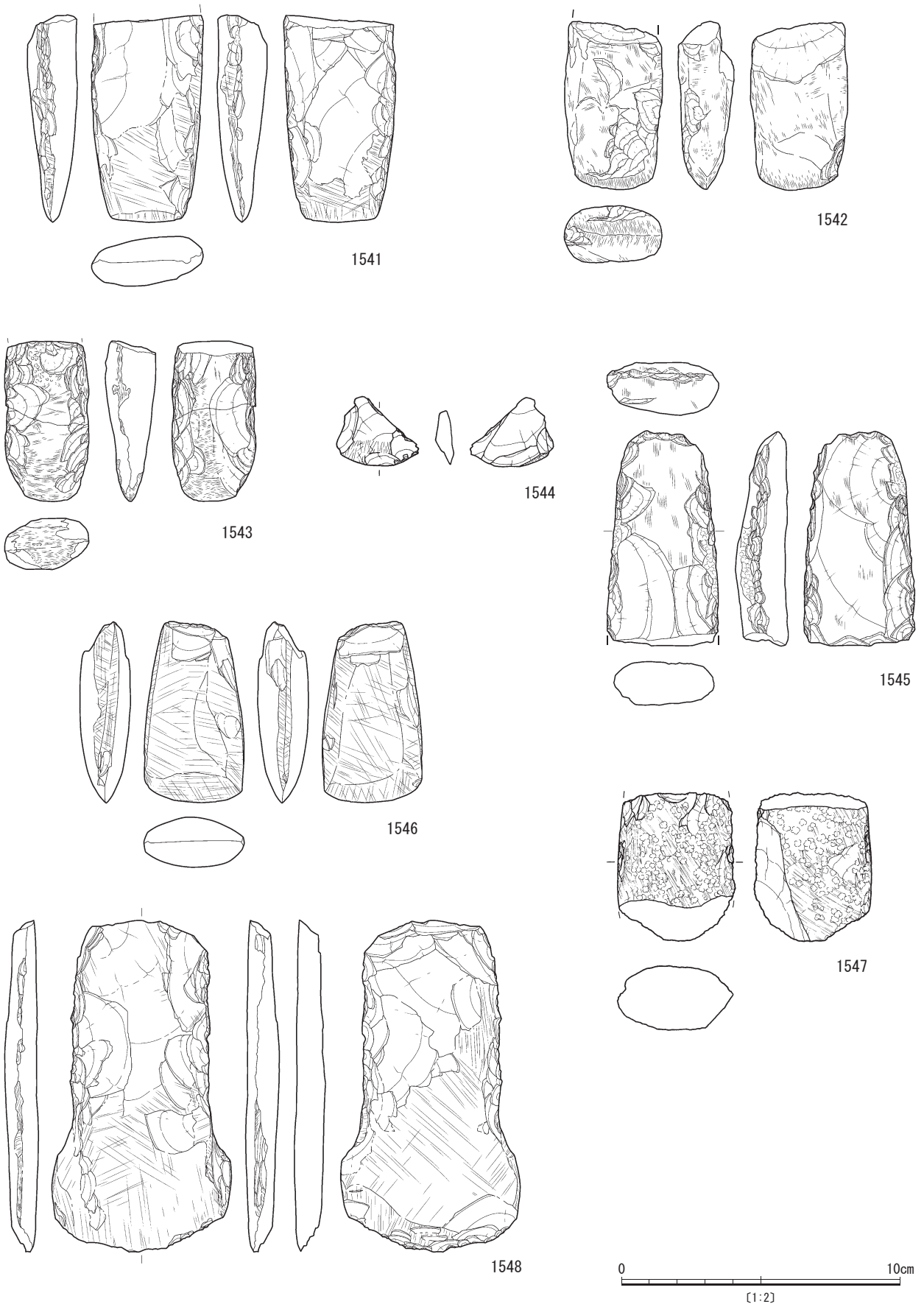
側辺以上に摩耗がみられるため、主として短辺を刃部として使用していたと考えられる。基部下半は潰れており、一部は摩滅している。基部上半はやや鋭利である。1550 は幅広な短辺に刃部をもち、刃こぼれや摩耗がみられる。特に刃部中央は刃こぼれが激しく、刃部の両端は激しく摩耗している。基部下半は、両側辺ともに摩滅しているが、左側辺は特に摩滅が激しく光沢がみられる。1551 は磨製石斧の転用品である。正面下半や背面の多くには研磨された面が残るが、側辺は潰れており、研磨面はわずかにしか残存していない。短辺の刃部は激しく刃こぼれし、摩耗している。基部右側辺は、大きく抉れ、潰れている。

1552 ～ 1556 はⅡ類である。いわゆる短冊形の打製石斧類であり、基部や刃部が広がらず、全体的に幅に大きな差がみられないため、長方形に近い形状となる一群である。Ⅱ～Ⅴ類は全て柄を装着していたと考えられる資料である。1552 の刃部側の短辺は、刃部を潰すように

研磨されている。接合資料であり、中ほどで破損している。側辺はこの破損部分を境目とし、下位は鋭利に調整し刃部を作り、上位は摩滅している。1553 は基部端部がやや尖るが、最大幅と最小幅の差が 3 mm 程度であるため短冊形とした。横断面でみるとわずかに湾曲している。刃部は短辺に確認でき、損耗が激しい。側辺は全体的に摩滅している。やや鋭利な部分とそうでない部分がみられ、鋭利ではない部分は摩滅が強い。1554 は刃部がわずかに広がる形状を呈す。横断面でみるとわずかに湾曲している。刃部は短辺に形成されているが、側辺下端にも 2 cm ほど刃部が確認できる。刃部は側辺も含めて完全に摩滅しており、丸みを帯びている。正面の刃部には縦方向の線状痕が明確に残り、使用痕と考えられる。背面刃部には使用痕は確認できない。側辺の中ほどより上位には摩滅や潰れた部分がみられる。基部短辺は磨製石斧のような丁寧な調整が行われており、鋭利であるが、明確な刃こぼれや摩耗はみられない。1555 は刃部がわ

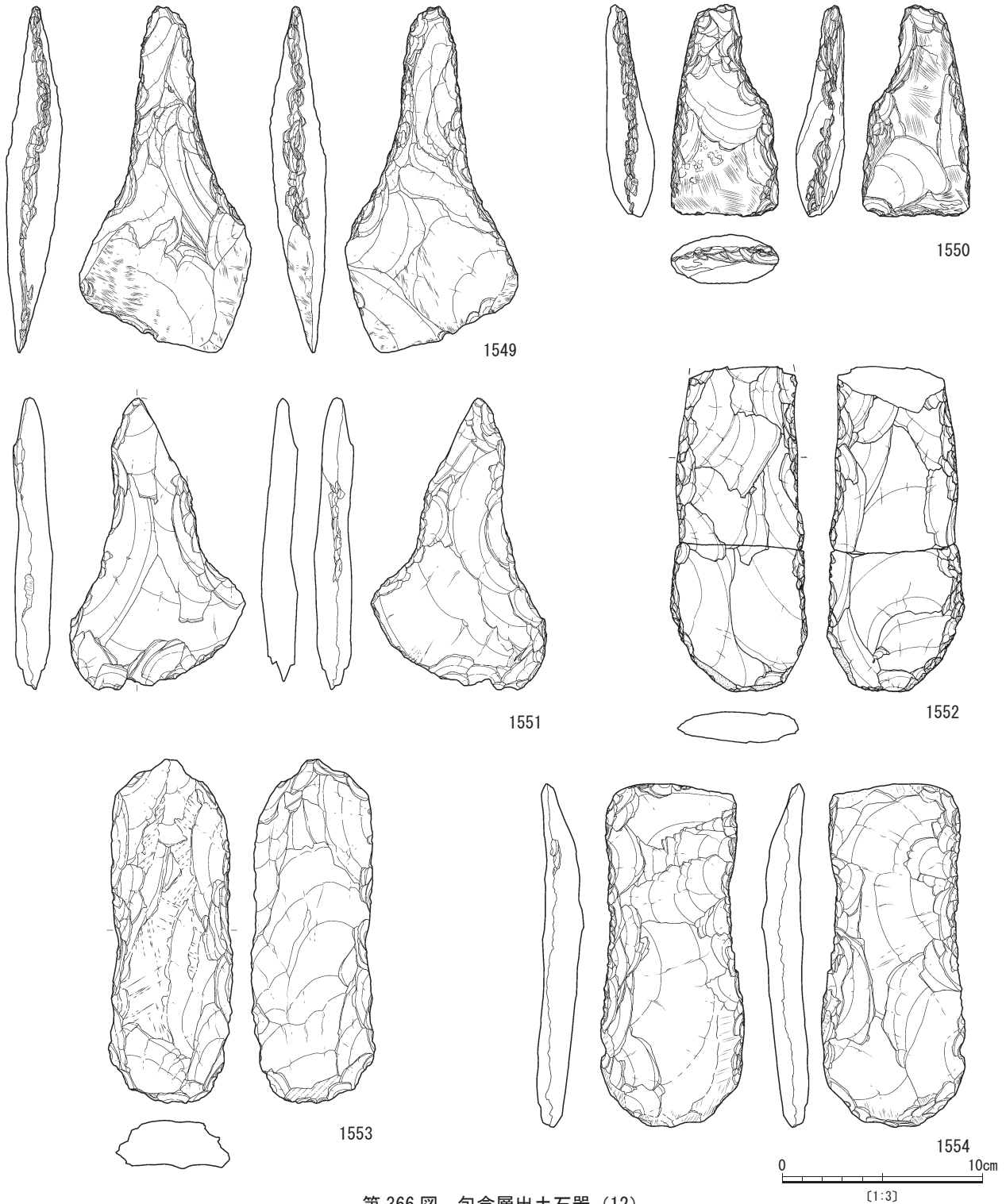


第 364 图 包含层出土石器 (10)



第 365 图 包含層出土石器 (11)



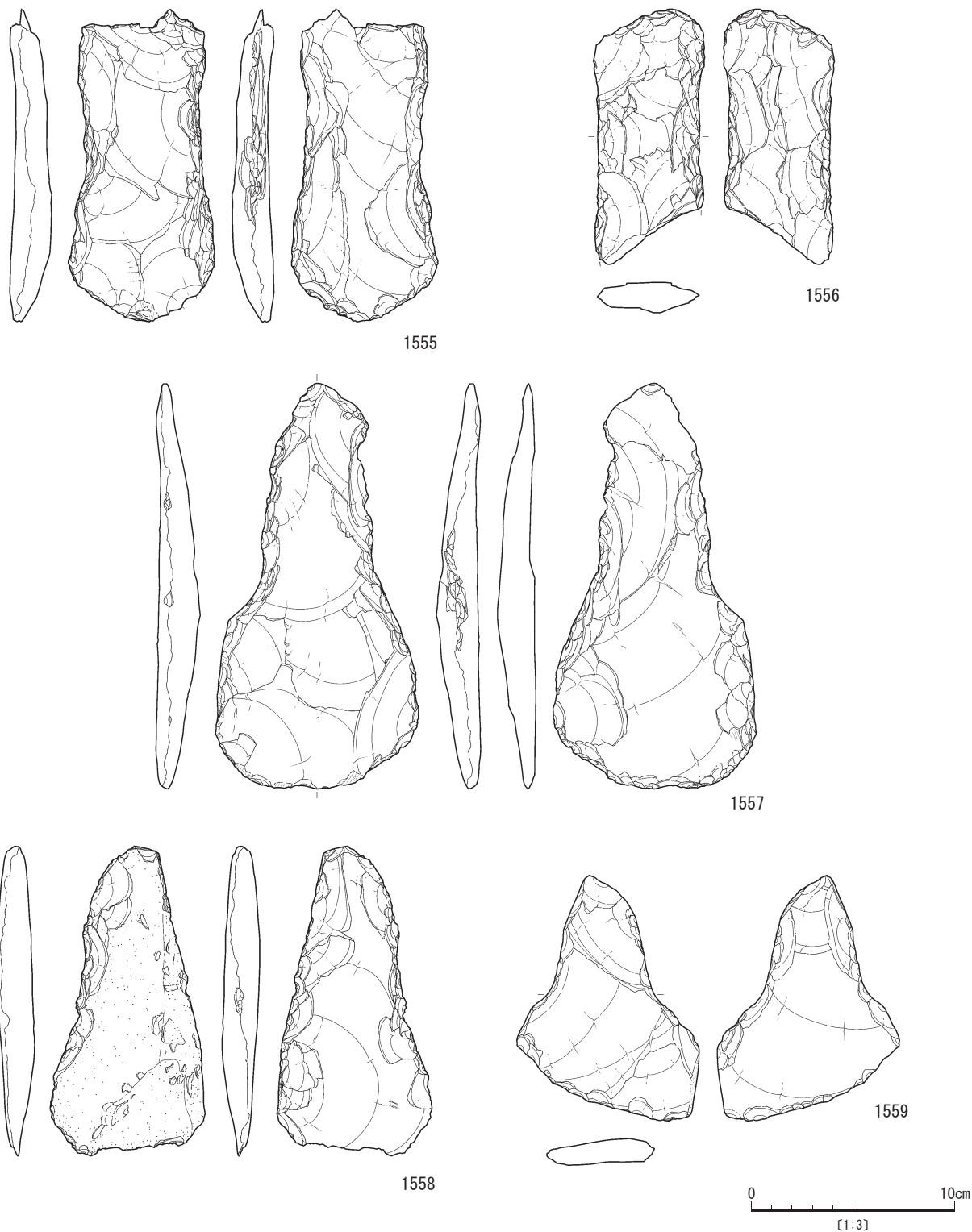


第 366 図 包含層出土石器 (12)

ずかに広がる形状を呈す。横断面でみるとわずかに湾曲している。短辺に刃部をもつが、側辺にも両側ともに短辺から 2 cm ほど上まで鋭利な刃部が確認できる。刃部には刃こぼれはみられるが、あまり摩耗しておらず、鋭利な刃部が残存している。基部側辺下端には摩滅痕が確認できる。1556 は刃部が欠損しているが、残存部分か

ら短冊形と判断した。破損部直上 2 cm ほどの側辺は両辺ともに激しく摩滅しており光沢をもつ。側辺の中ほどにも、両辺ともに摩滅部分が確認できる。基部短辺は鋭利である。

1557 ~ 1564 はⅢ類である。幅狭な基部と幅広な刃部をもつものを基本とし、その形状から、Ⅲ a 類：基部の

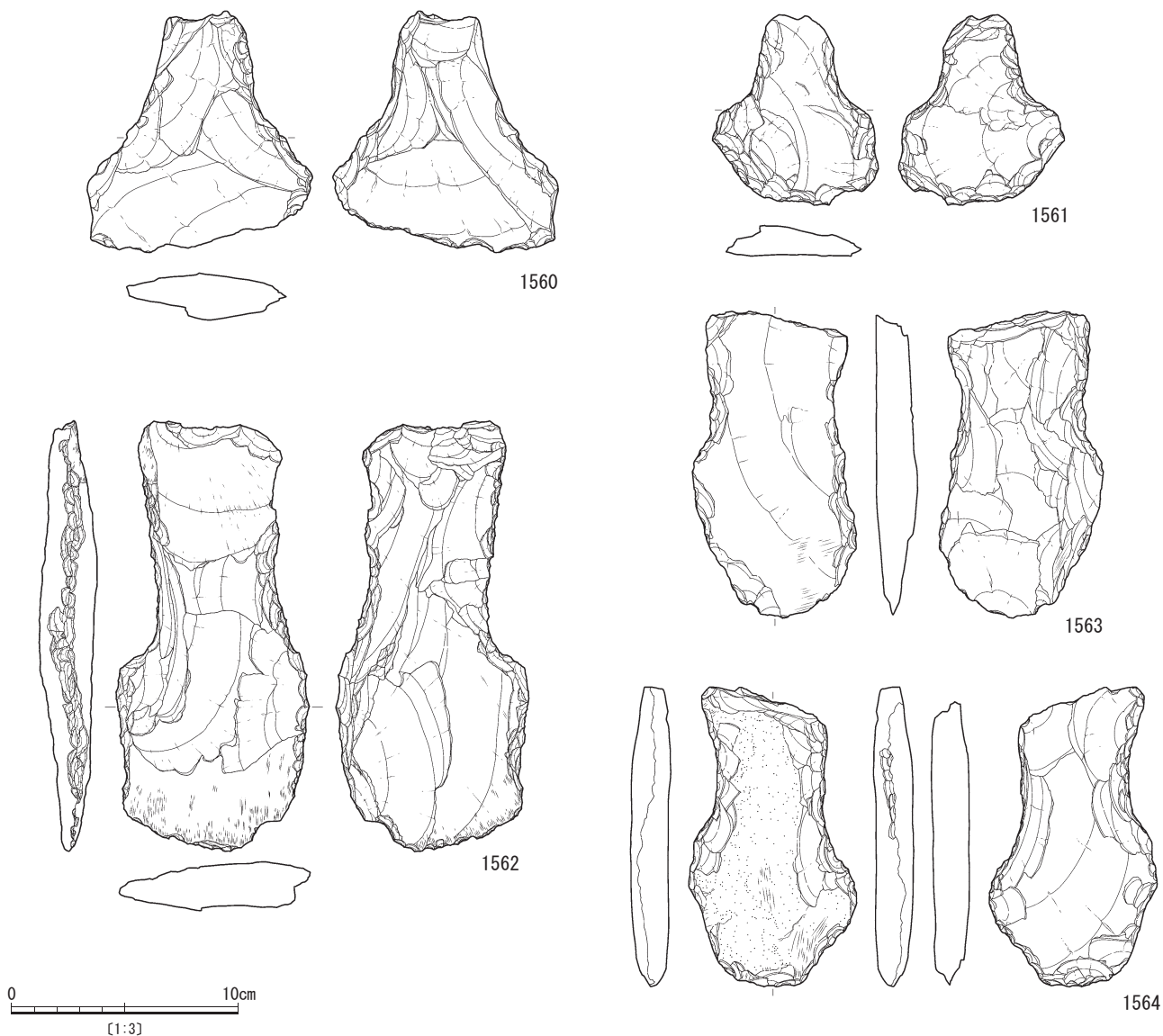


第 367 図 包含層出土石器 (13)

幅が刃部と比べ大きく狭くなるもの (逆三角形状), III b 類: 基部に抉り部をもつもの, に細分した。

1557 ~ 1561 は基部端部が尖る形状を呈す III a 類である。1557 は横断面でみるとわずかに湾曲している。刃部は右側辺下部から短辺にかけて確認できる。わずかに摩耗しているが, 鋭利な部分が目立つ。短辺右端は摩耗

し丸みを帯びている。左側辺は短辺際から抉れ部付近まで激しく摩滅しており, 丸みを帯び光沢がみられる。基部下端には両側に激しく摩滅している範囲が確認できる。摩滅部分より上位は, 基部端部にかけて鋭利である。1558 は正面に大きく自然面を残す資料である。刃部は左側辺の下部と, 短辺に作られている。短辺の刃部は刃



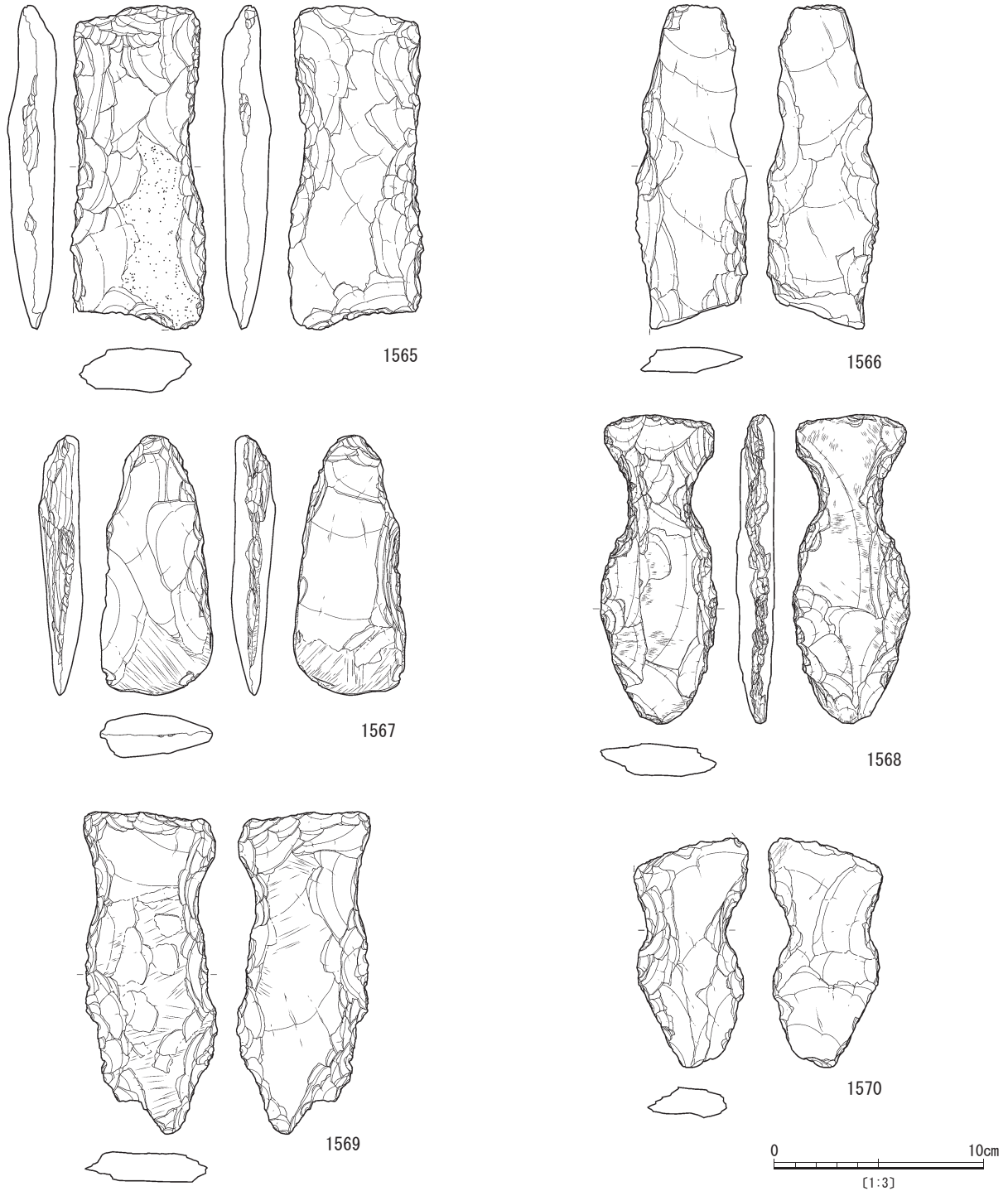
第 368 図 包含層出土石器 (14)

こぼれもみられるが、刃が鋭利なままで先端部に摩耗が確認できる。側面も割と鋭利なままで摩耗が確認できる。基部端部は潰れている。1559 は短刃に刃部が形成されており、刃部は摩耗している。刃部両側辺は研磨されており、平坦に成形されている。基部は全体的に摩滅している。横断面でみると、わずかに湾曲している様にもみえる。1560 は短刃に刃部が形成されている。刃部の先端は鋭利な刃の形状を保ったまま摩耗している。基部側辺には摩滅や潰れがみられる。1561 は短刃に刃部が形成されている。基部右側辺は摩滅しており、基部左側辺には部分的に潰れている。基部左側面の他の部分から基部端部にかけては鋭利である。

1562 ～ 1564 はⅢ b 類：基部に挟り部をもつ一群である。1562 は明確な挟り部は左側辺にしかみられないがⅢ c 類とした。左側辺の挟り部付近には摩滅がみられ、反対側の右側辺にも摩滅痕が確認できる。刃部は短刃に

確認でき、刃こぼれやわずかな摩耗がみられる。短刃刃部先端はやや背面側に湾曲し、背面には縦方向の線状痕が確認できる。刃部正面下部は弧状に摩滅した範囲が広く確認できる。基部は右側辺から基部端部にかけて鋭利であり、左側辺はやや潰れている。1563 は風化が激しく、観察中も部分的に剥落がみられた。刃部は短刃に確認でき、摩耗している。挟り部は潰れている。挟り部より上位の基部端部は、全体的に潰れている。1564 は刃部両側辺から短刃にかけて刃部が確認できる。左側辺は摩耗が激しく、右側辺は刃こぼれがみられる。挟り部は広く摩滅している。

1565 ～ 1567 はⅣ類である。刃部が側辺にのみ確認される一群である。1565 は形状からするとⅡ類：短冊形の打製石斧類である。ただし、短刃刃部の左半部分に丁寧な調整により刃部を潰しており、短刃の右半分から刃部右側辺にかけて鋭利な刃部が形成されている。この刃

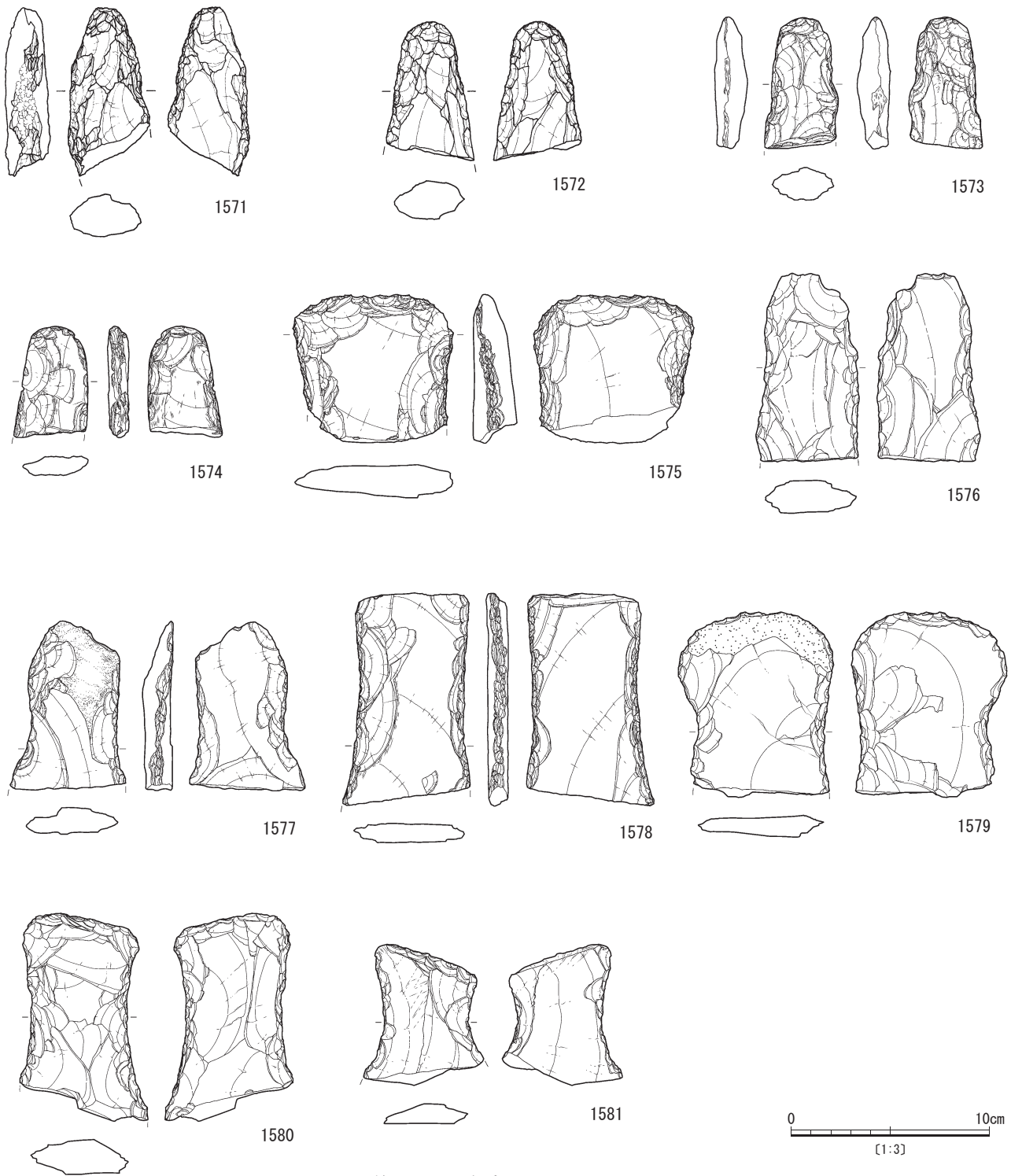


第 369 図 包含層出土石器 (15)

部は鋭利な形状を保ったまま先端部には摩耗がみられる。また、左側辺にも部分的に鋭利な部分が確認できることから、本来は打製石斧類Ⅱ類として作成したものを、側辺刃のⅣ類に転用した可能性が考えられる。両側辺の中央部には摩滅痕が確認できる。摩滅範囲より上位は潰れており、基部端部は一部鋭利な部分もみられる。1566は右側辺の3/4ほどが刃部であり、摩耗している。基部には刃部に隣接して2 cmほど摩滅している範囲が確認

でき、左側辺のほぼ同じ位置にも摩滅痕が確認できる。左側辺は下1/3は潰れている。1567は磨製石斧もしくは局部磨製石斧の転用品と考えられる。本来の刃部があったと考えられる短辺部分は摩耗が激しく丸みを帯びている。刃部は左側辺を大きく打ち欠いて成形している。側辺中央部に摩滅痕と潰れ部分が見られたため、柄を装着していたと考えたが、左側辺の下端部が激しく摩滅し、光沢をもっており、横刃型石器として使用していた可能



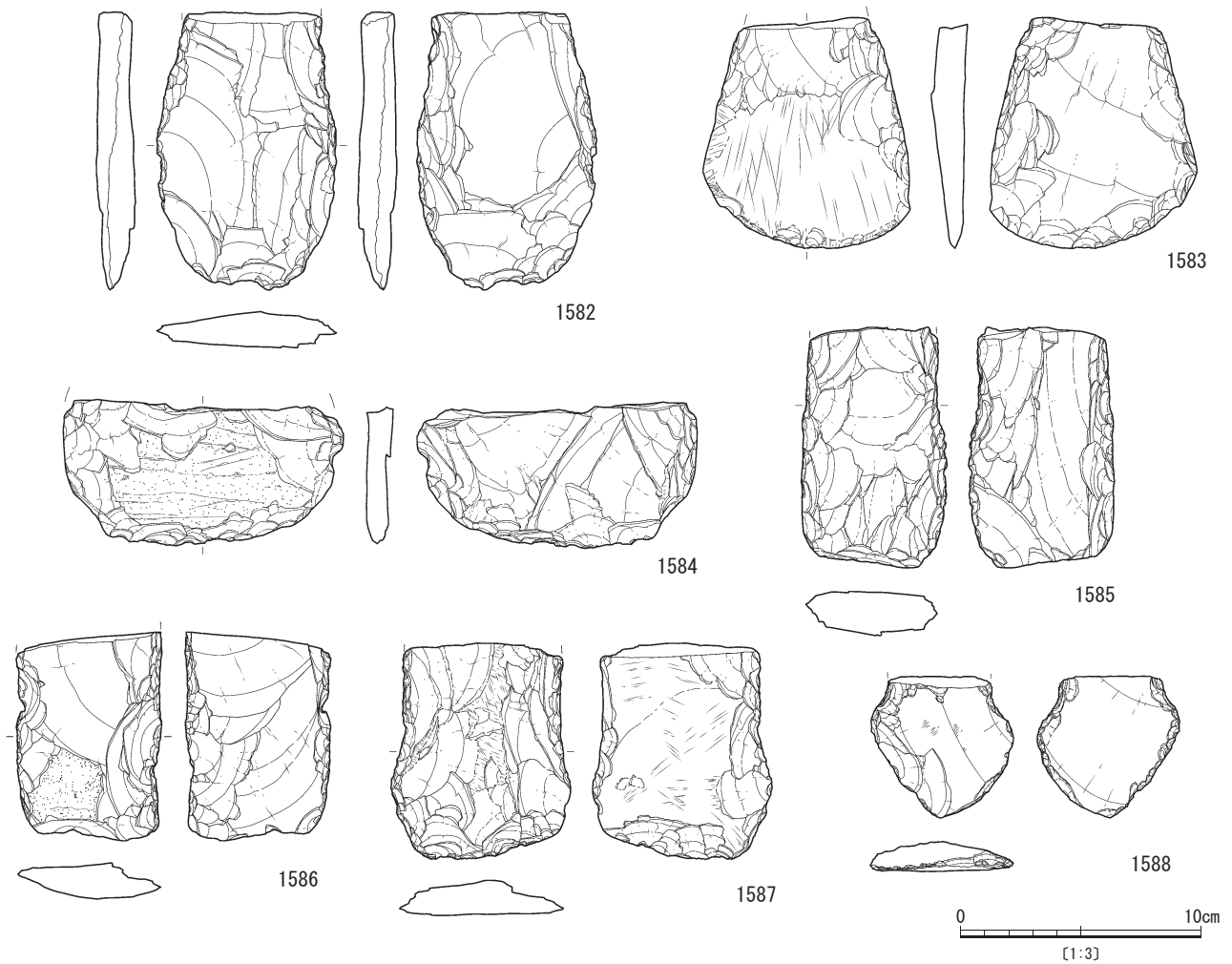


第 370 図 包含層出土石器 (16)

性も考えられる。

1568～1570はV類である。幅狭な基部の両側が抉れ、両側辺に刃部をもつ一群である。両側辺が曲線的に合流するため、明確な刃部短辺をもたない。1568は両側辺に刃部をもち、部分的に摩耗がみられる。先端部付近は摩耗が激しく丸みを帯びている。抉り部は摩滅している。基部左側辺端部は丁寧な調整が施されており、右側辺端

部は摩滅し、光沢をもつ。基部端部も摩滅し一部光沢をもつ。1569は刃部左側辺端部が大きく破損しているが、両側辺に刃部をもっていたと考えられる。右側辺の刃部は鋭利なままで、明確な摩耗は確認できない。抉れ部は摩滅している。破損していない右側辺をみると、抉れ部の下位3cmほどは潰れている。また、抉れ部より上位も潰れがみられる。1570は1563と同様に風化の激しい



第 371 図 包含層出土石器 (17)

資料である。刃部右側辺から先端部にかけては大きく欠損している。左側辺は摩耗した刃部が確認できる。挟り部は摩滅し、基部端部は潰れている。

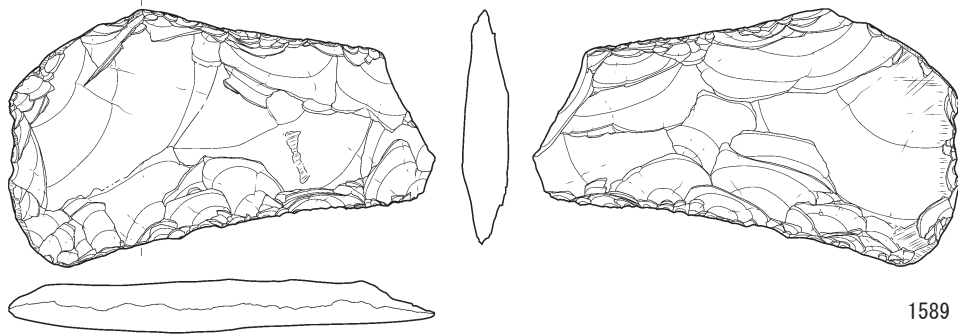
1571～1581は打製石斧類の基部片である。1571～1574はⅠ類の基部、1575はⅡ～Ⅳ類の基部、1576～1581はⅢ・Ⅳ類の基部と考えられる。

1582～1587は打製石斧類の刃部片である。1582～1584はⅠ・Ⅲ類の刃部、1585・1586はⅡ類の刃部、1587はⅡ・Ⅲ類の刃部、1588はⅢ・Ⅴ類の刃部と考えられる。1584は当初、横刃型石器の可能性も考えていたが、上辺の破損部分に摩滅や調整痕が確認できないため、欠損した刃部片とした。

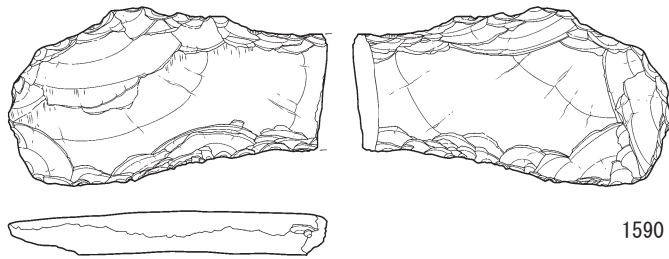
#### 横刃型石器等 (第 372～374 図 1589～1603)

1589～1597は横刃型石器である。1589は打製石斧類Ⅲ類の転用品である。やや内湾する下辺全体を刃部としており、摩耗している。正面や背面の剥離調整痕からみても、下辺部分を薄くし、刃部を形成しようとしているのが分かる。左側辺は打製石斧類本来の刃部であった部分であるが、全体的に摩滅し、丸みを帯びている。上辺は左端部がカーブを描いており、その部分は激しく摩滅

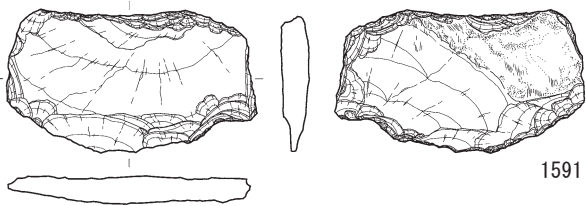
し、光沢をもつ。上辺中央部から右端部へかけては、中央部は摩耗し光沢をもつ、その隣は打製石斧類の装着部位であり、潰れている。上辺右端部は鋭利であるが、摩滅している部分もみられる。1590は1589とほぼ同じ形状の横刃型石器である。1589と同じく打製石斧類Ⅲ類の転用品と考えられる。下辺の中ほどより左側辺の中ほどまでを刃部としている。刃部は摩耗している。上辺は1589と同様に左端部が欠損しカーブを描き、摩滅している。上辺中央部は鋭利な部分が残るが、上辺下辺ともに右半分は摩滅している。1591は打製石斧類からの転用品である。下辺は打製石斧類としての挟り部であった部分のみ摩滅し、それ以外の部分は正面と背面の両側から剥離調整が行われ、鋭利に調整されている。刃部に摩滅はみられない。右側辺は激しく摩滅し、特に下位は光沢をもつ。上辺は全体的に潰れているが、中央より左側辺は特に丁寧に叩打調整が施されている。左側辺は潰れている。1592は楕円形の横刃型石器である。下辺全体を刃部とし、摩耗している。上辺は全体的に潰れており、左側辺は摩滅が激しく丸みを帯びる。1593は左右の短辺を打ち欠き、外湾する下辺を正面・背面の両面から剥



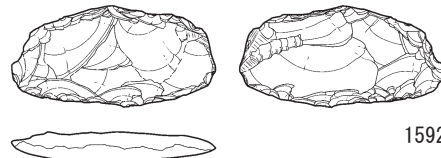
1589



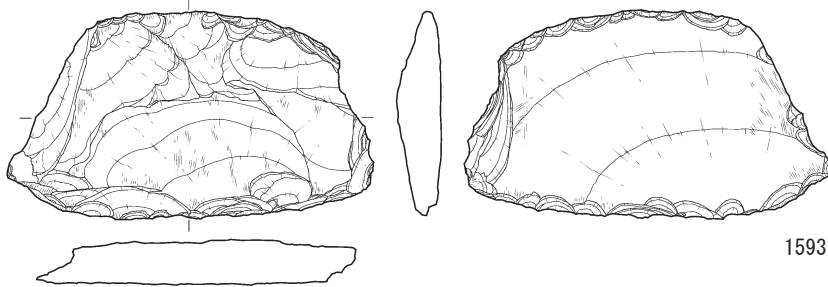
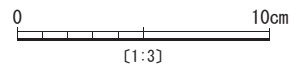
1590



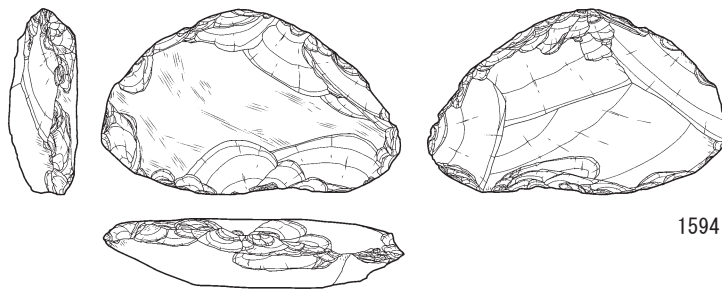
1591



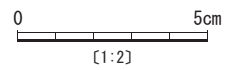
1592



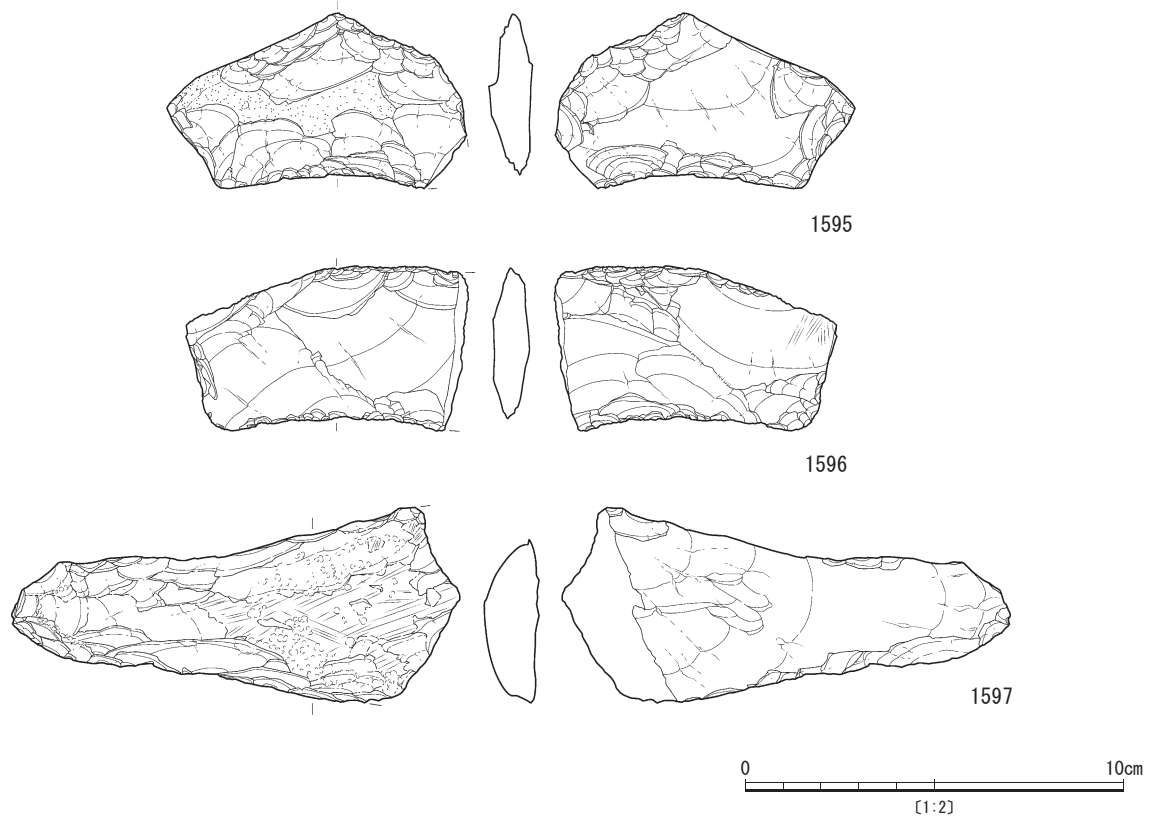
1593



1594



第 372 图 包含層出土石器 (18)



第 373 図 包含層出土石器 (19)

離調整を行い刃部としている。刃部は摩耗が激しい。上辺は全体的に摩滅し、特に左側が激しく、光沢をもつ。1594 は外湾する下辺全体を刃部としている。摩耗が激しい。上辺は大部分が潰れているが、右端部のみ摩滅している。1595 は内湾する下辺全体を刃部としている。一部摩耗しているが、鋭利なまま残存している。左側辺が潰れている。上辺は中央部分を頂点とし、上辺左側は摩滅が激しく光沢をもつ。上辺右側は潰れた部分と摩滅部分がみられる。1596 は内湾した下辺全体から左側辺下端を刃部としている。刃部は鋭利なままで摩耗している。上辺は左端部のみ摩滅し光沢をもつ。1597 は磨製石斧の転用品の可能性がある横刃型石器である。形状は基部が細くなる打製石斧類 I 類の様な形状をしており、正面右側には研磨痕が残り、その周囲には丁寧な叩打調整痕が残る。正面左端部にも丁寧な叩打調整痕が残る。下辺は両面から剥離調整が行われており、刃部が作られている。背面は下辺側のみ刃部調整のための剥離調整がみられる。刃部は下辺の 5/6 を占め、下辺右端部のみ叩打調整がみられる。刃部はわずかに摩耗がみられる。刃部の極一部のみ激しく摩滅しており、正面や上辺の同じ位置にも摩滅痕が確認できる。上辺は鋭利であるが、左端部のみ摩滅が激しい。

1598 ~ 1603 は打製石斧に準じる石器群である。1598 は先端のみに刃部をもつノミ形石器である。刃部は摩耗している。刃部や正面刃部左端付近には一部、研磨され

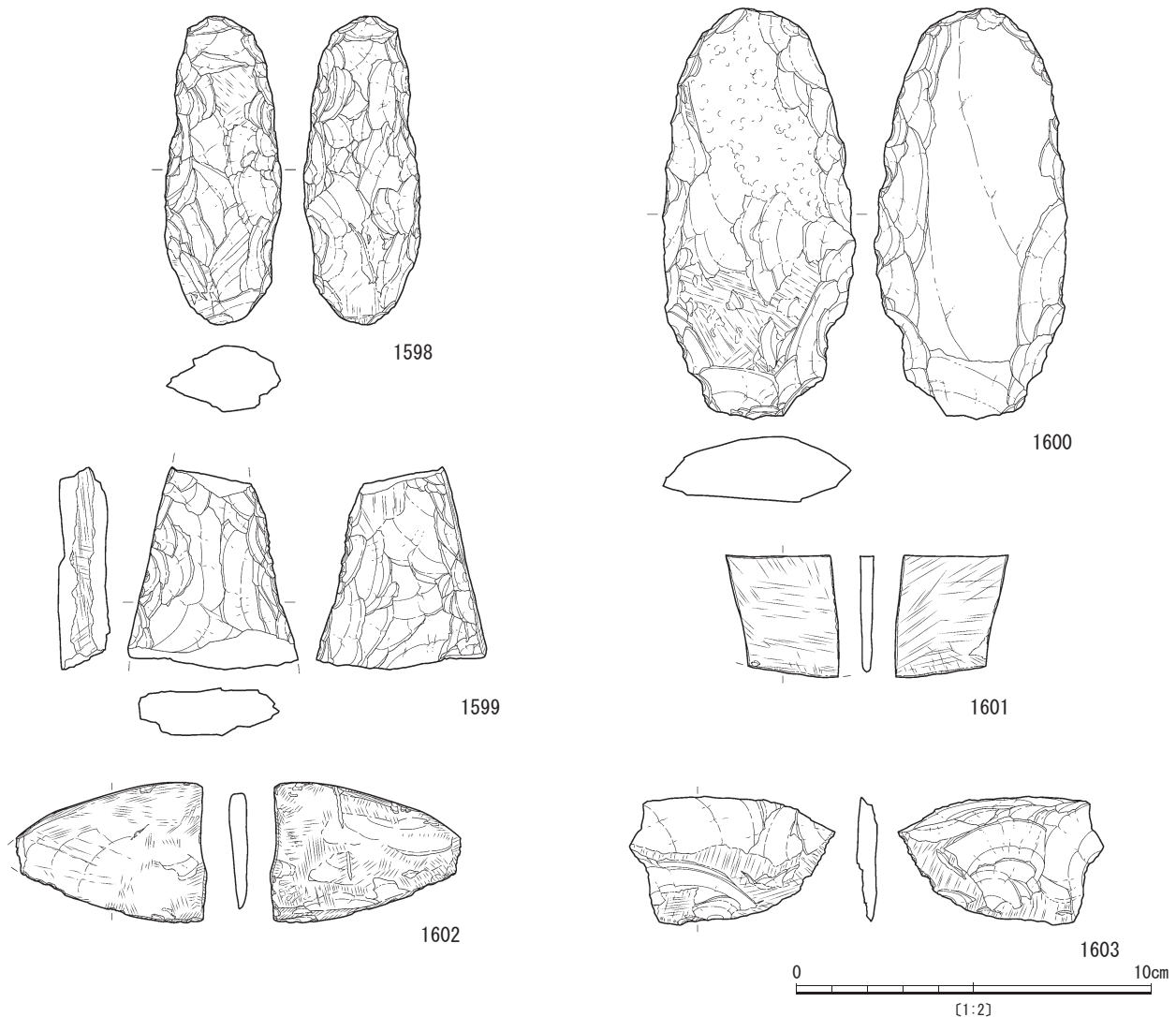
た部分も確認できる。背面刃部付近は摩滅が激しく光沢をもつ。側辺は全体的に潰れており、基部には左右同じ位置に摩滅痕が確認できる。また、正面にも左右の摩滅痕をつなぐように、光沢をもつ摩滅範囲が帯状に確認でき、この部分が装着部であることが明らかである。基部端部は鋭利である。小型ながらも着柄がなされていた可能性が高い石器である。

1599 は打製石斧類の基部に近い形状をした石器片である。左側片は丁寧に研磨されており、平坦である。右側片は潰れており、一部に摩滅もみられる。

1600 は磨製、もしくは局部磨製石斧の転用品と考えられる。正面の下半の一部に研磨痕が残り、正面の他の部分は丁寧な叩打調整が行われている。側辺は両辺ともに潰れている。右側辺については背面から剥離が行われているが、側辺部分は鋭利にならないように細かな叩打調整が確認できる。1601 は擦り切り石器の欠損品である。表裏に薄く扁平な擦り面をもち、下縁の刃部は擦れて丸みを帯びた断面形を呈する。

1602・1603 は磨製石斧であるが、横刃型石器に類似した使い方を想定できる石器である。1602 の刃部は摩耗がみられる。上辺は平坦に研磨されている。1603 は刃部が鋭利なままで激しく摩滅し光沢をもつ。一部には細かな刃こぼれがみられる。





第374図 包含層出土石器 (20)

**礫器 (第375図 1604～1606)**

1604～1606は礫器である。1604は円礫を素材として一端に刃部をもつ両刃礫器である。裏面の平坦剥離が先行し、表面への鈍角な剥離を施して不整な刃部が作出されている。刃部再生により小形化した可能性がある。1605は砂岩の剥片の縁辺を利用した礫器である。角張った円礫の礫皮面から直接はぎ取っている。1606は表面に自然面をもつ礫片を素材とした両刃礫器であり、下縁を刃部として打製石斧様の撥形の形状を呈する。肥厚した破断面の左側面には厚みを減じる側縁の剥離がみられるが、右側面は未加工で自然面を残している。

**敲石 (第376図 1607～1610)**

1607～1610は敲石である。1607は棒状に長い角柱形の礫を用いている。整形加工はなされておらず、上下端に敲打痕をもち剥離が生じている。1608はやや歪な角柱形の礫を用いており、上下端に敲打痕をもつ。1609は楕円形の礫を用いており、特に下端の敲打痕が左右に面を違えて顕著である。1610は不整な方形で板状の礫

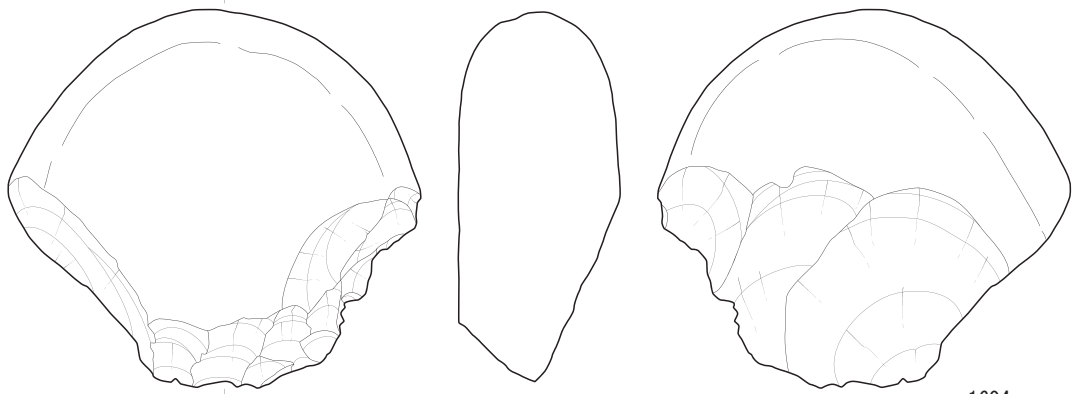
を素材としており、周縁に粗割り面と敲打痕がみられる。

**磨石 (第377図 1611～1618)**

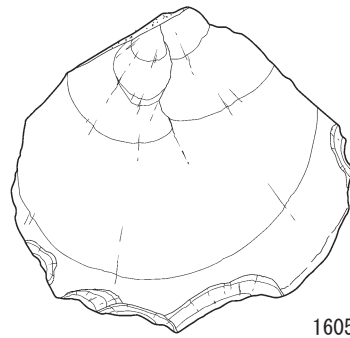
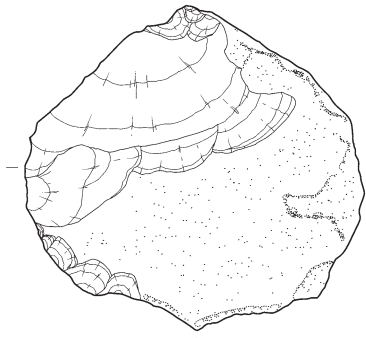
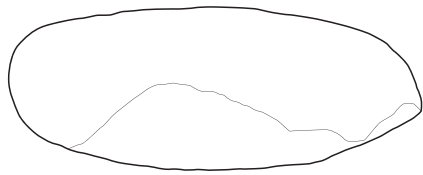
1611～1618は磨石である。1611～1616は平面形が円形ないし楕円形を呈し、表裏面に擦り面をもつ。1611～1613は小型の磨石で、1611・1612は薄手の扁平な礫を用いた磨石である。1611は被熱赤化している。1614は円形で、表裏面に平滑な擦り面と周縁に粗い擦り面がみられる。1615・1616は半円に欠損しており、1616は被熱赤化している。1617は小型の球形の磨石で、全体が擦り面である。1618は不定形な歪角礫をそのまま用いた磨石で、平面に弱い擦り面がみられる。

**磨敲石 (第378～380図 1619～1639)**

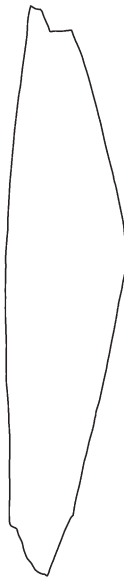
1619～1639は磨敲石である。擦り痕・敲打痕を併せもったものであり、磨敲石として一括した。これらは平面形が円形ないし楕円形を呈し、全てのものが表裏面に擦り面をもち、敲打痕のあり方に差異がある。1619～1624は小型で、周縁や表裏面に弱く部分的な敲打痕をもつ磨敲石である。1620は半円に欠損し、1621は被熱



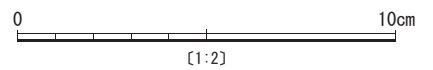
1604



1605

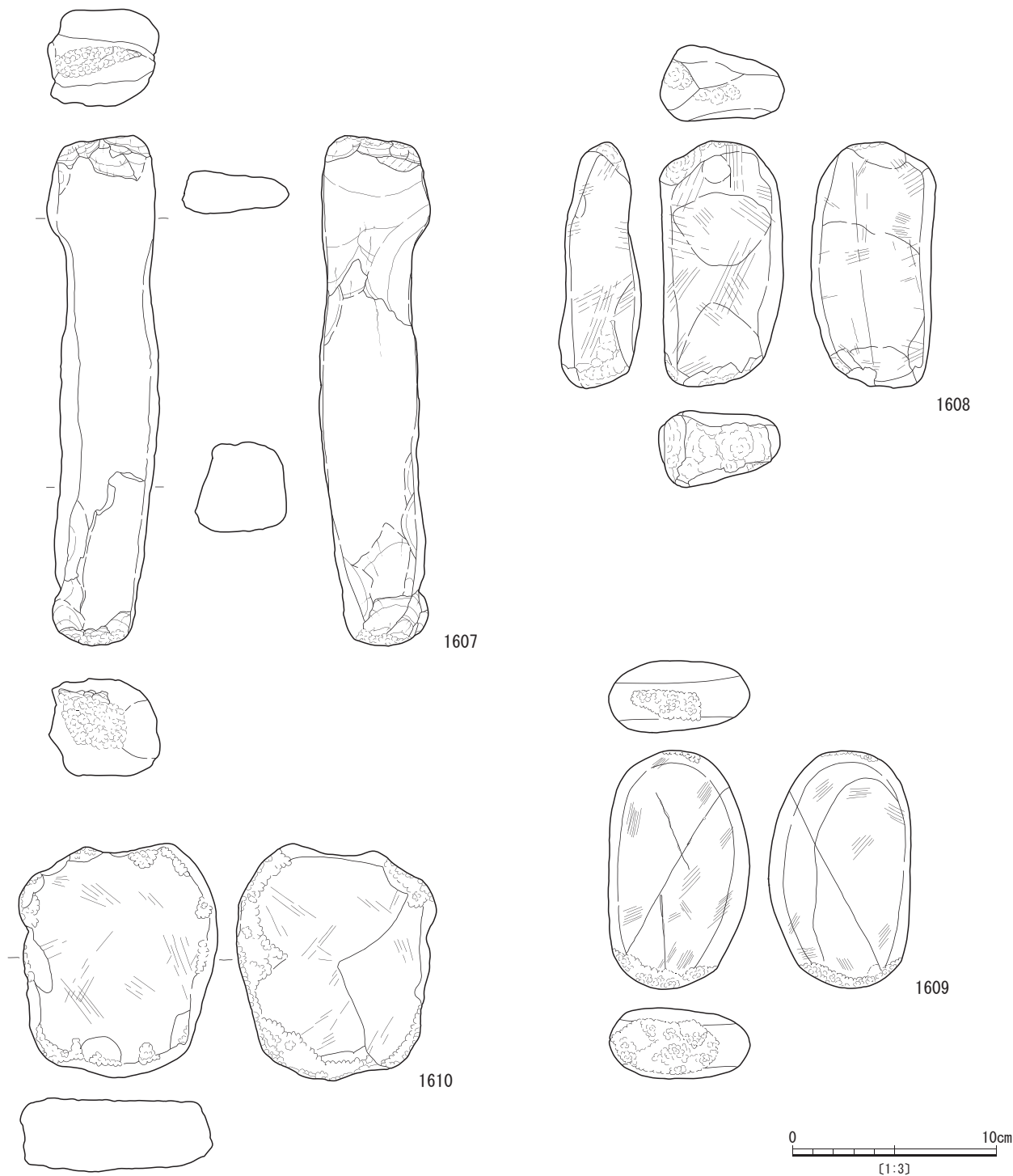


1606



[1:2]

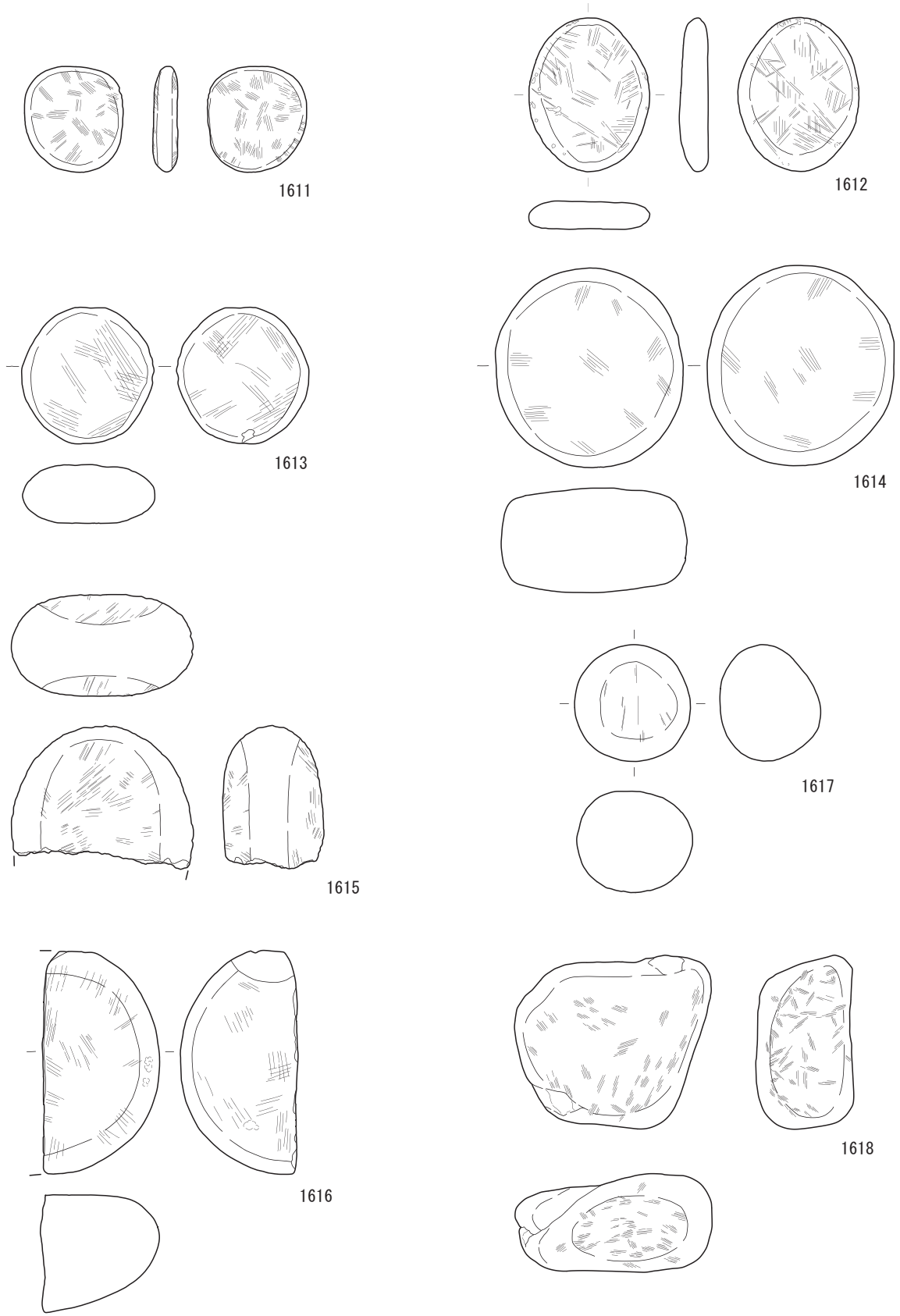
第 375 图 包含層出土石器 (21)



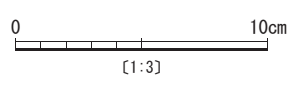
第 376 図 包含層出土石器 (22)

赤化している。1625～1627は主として両側縁に敲打痕をもつ磨敲石である。1627は半円に欠損し、敲打痕が顕著である。1628～1632は上下端あるいは一端に強い敲打痕をもつ磨敲石であり、1628・1629は楕円形で、側縁にも弱い敲打痕を残している。1630は半円に欠損する。1631はやや歪な円形で、表裏面に滑らかに光沢を帯びた擦り面がみられる。1632は一部を欠損し、割れ面に敲打痕が顕著である。1633・1634は周縁の一部

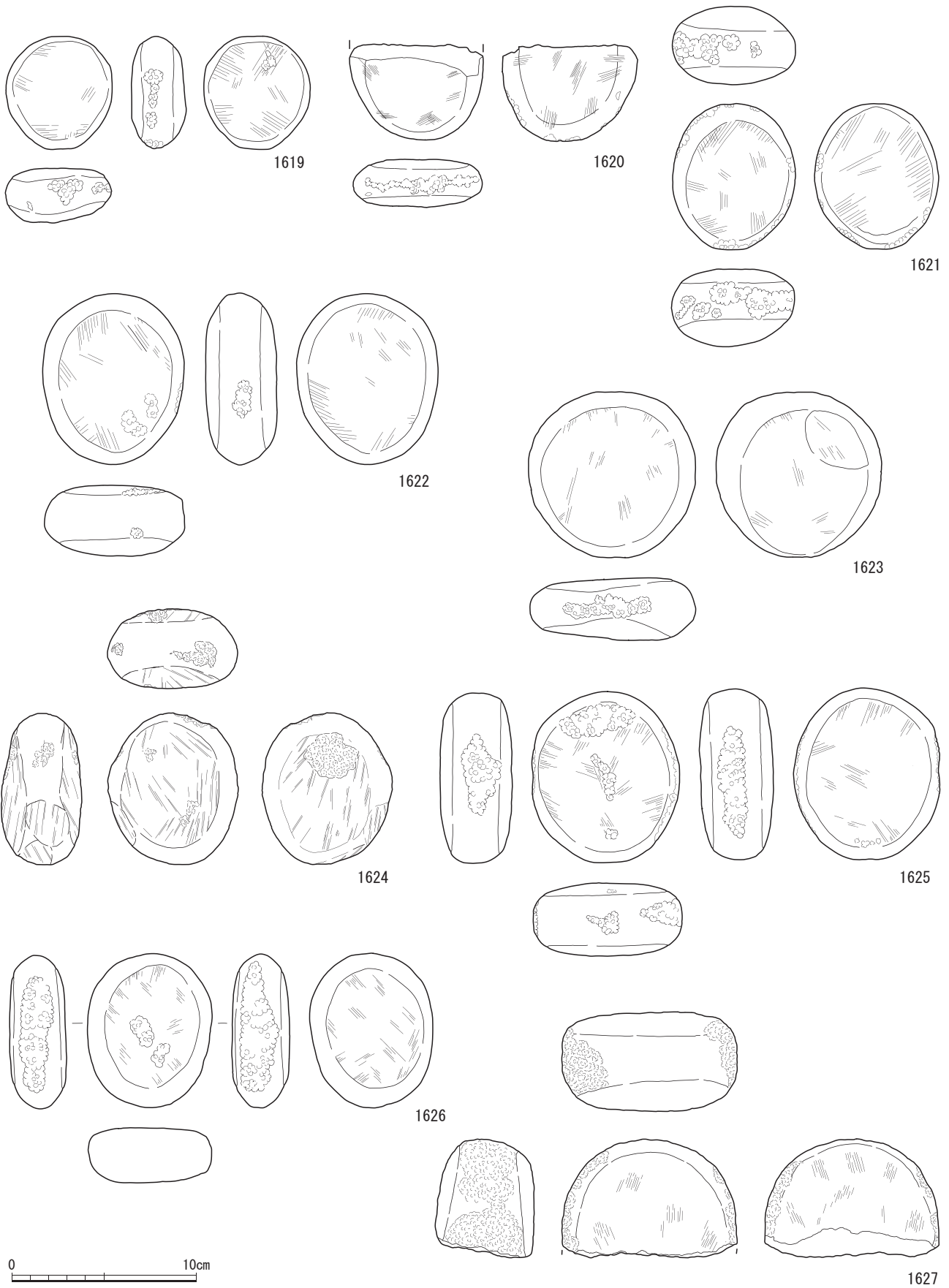
分を残して広く強い敲打痕をもつ磨敲石である。1633は被熱赤化している。1634は半円に欠損し、割れ面の一部にも敲打痕がみられる。1635は円形で、周縁に細く帯状の敲打痕をもつ。1636は周縁の3か所に均等に敲打痕がみられる。被熱赤化している。1637は楕円の球形の磨敲石で、全体に擦り面をもち、表面の粗い敲打痕が顕著である。1638は楕円形で縦に欠損している。下端と側縁に顕著な敲打痕をもち、敲打によって欠損し



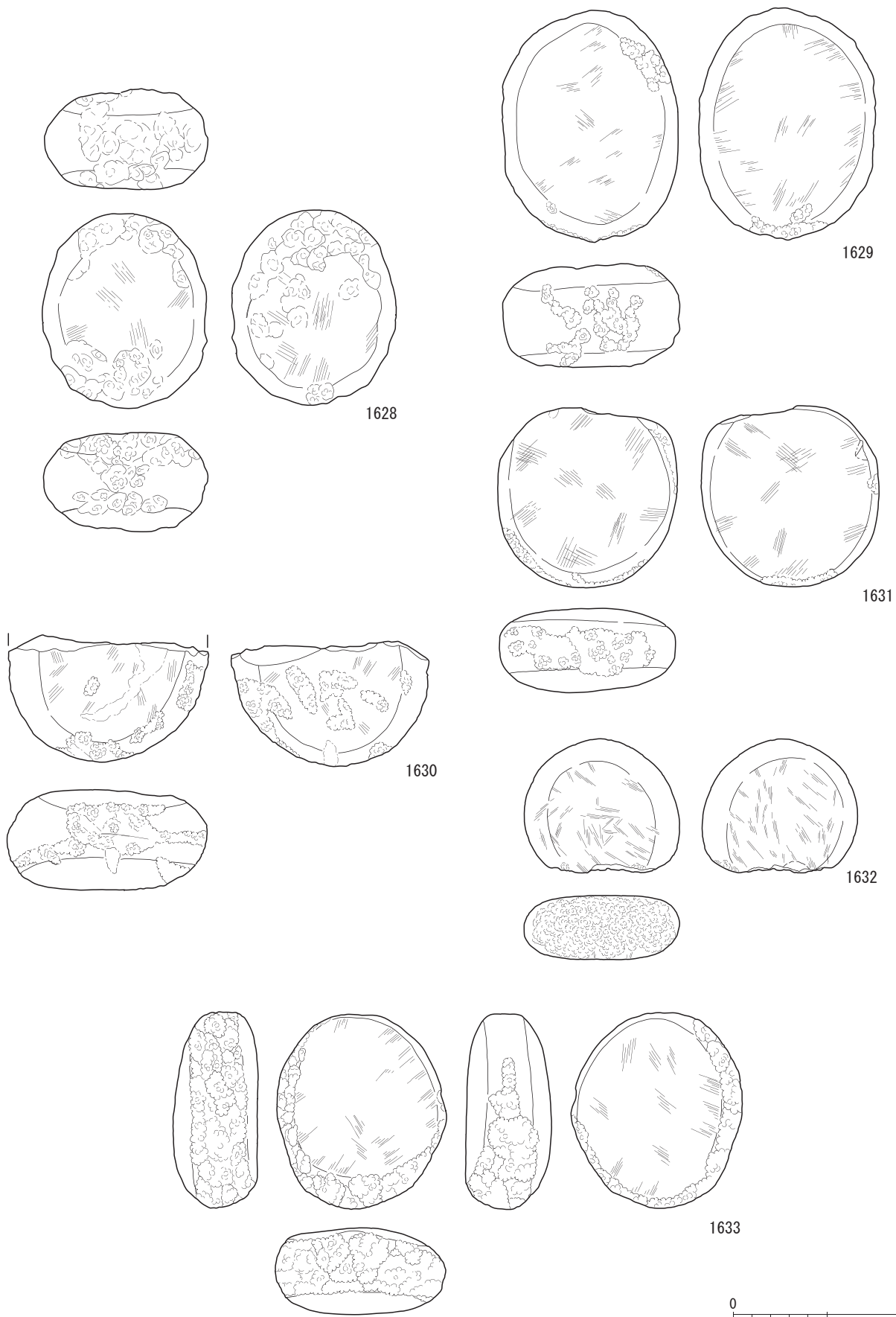
第 377 图 包含層出土石器 (23)



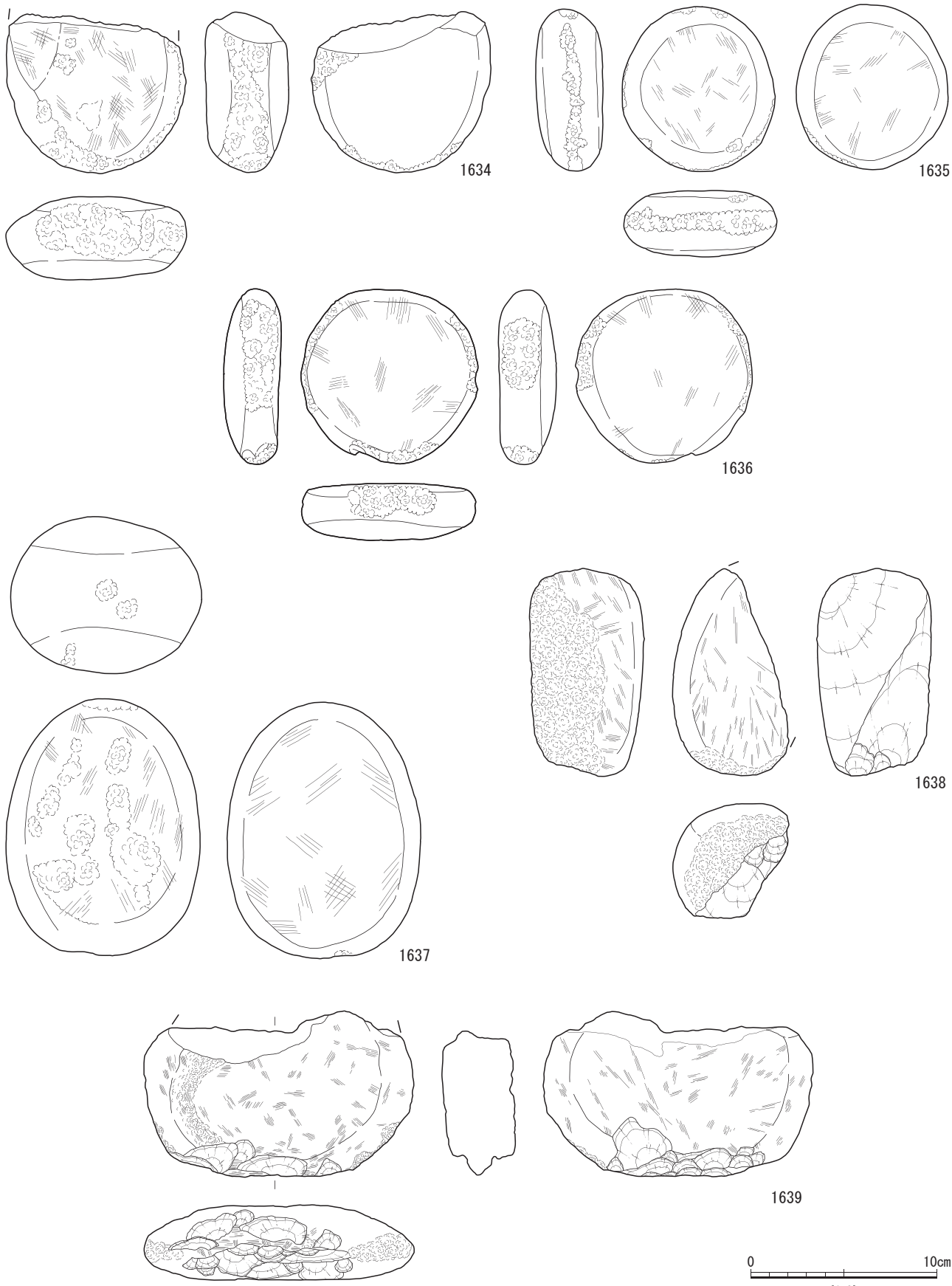




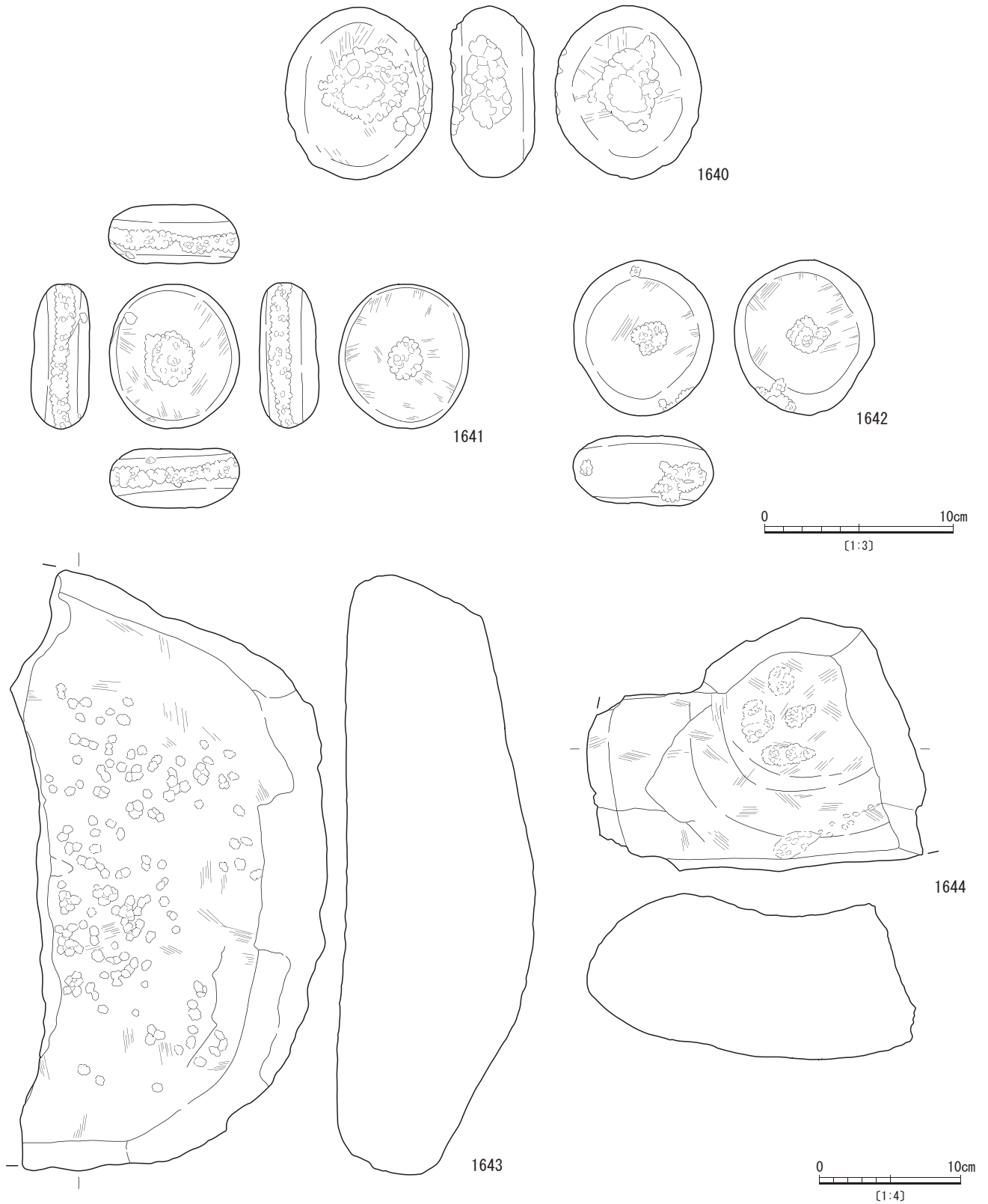
第 378 图 包含層出土石器 (24)



第 379 图 包含層出土石器 (25)



第 380 图 包含層出土石器 (26)



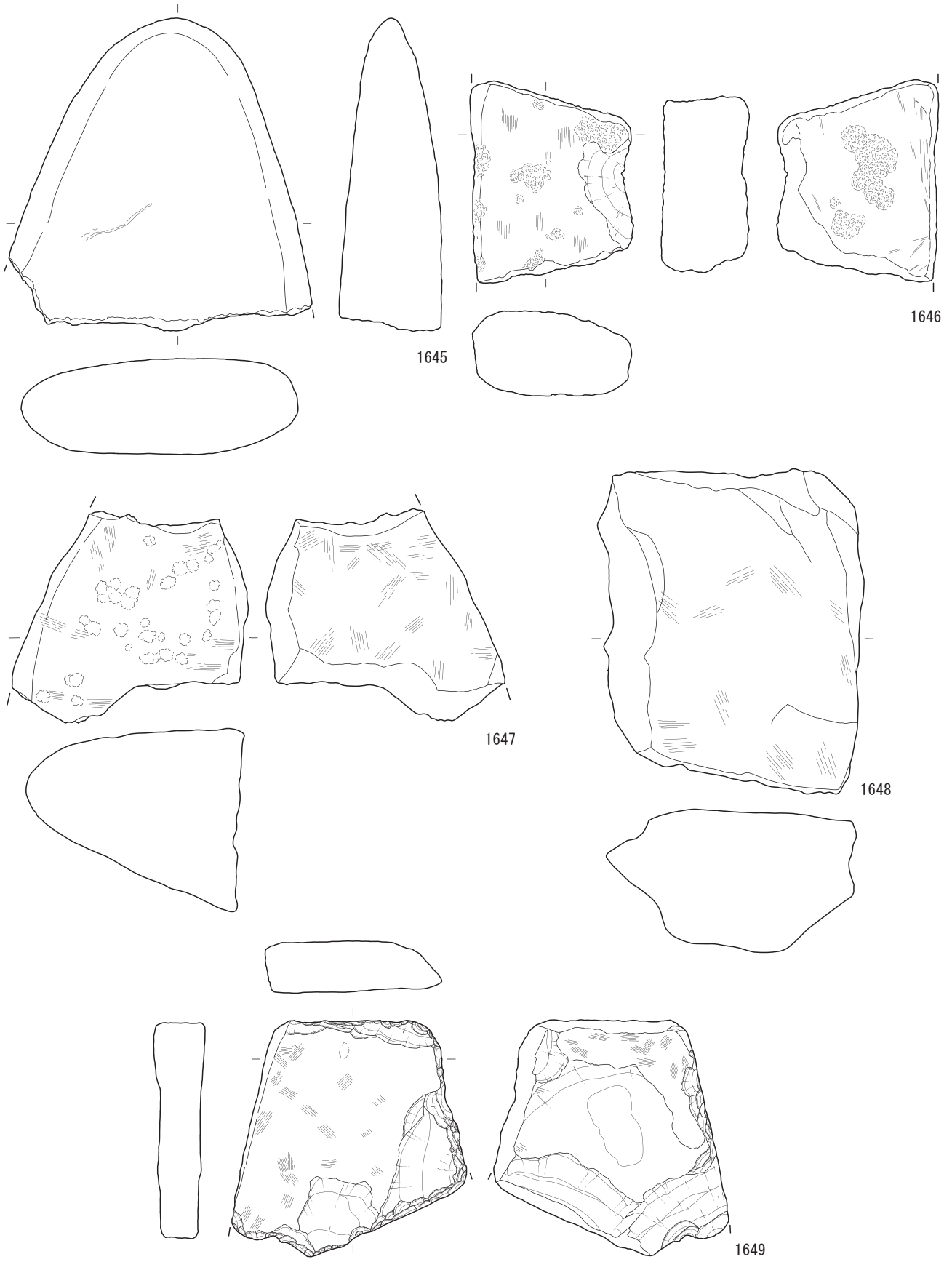
第381図 包含層出土石器 (27)

たものとみられる。1639は歪な楕円形の比較的大型の磨敲石で、下端に敲打による楔状の剥離が生じている。一部欠損し、被熱赤化している。

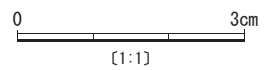
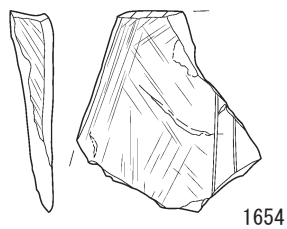
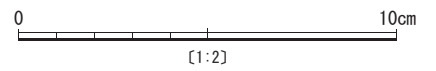
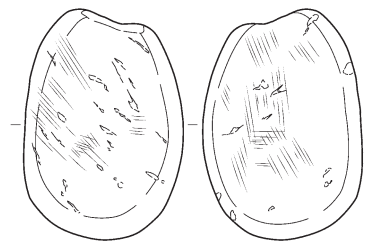
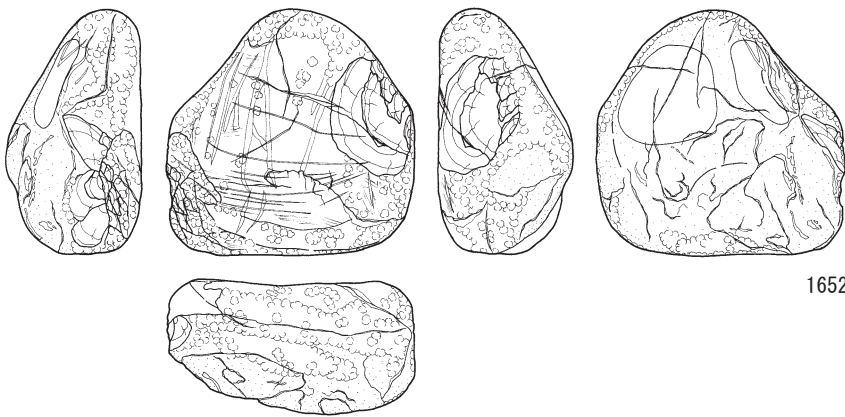
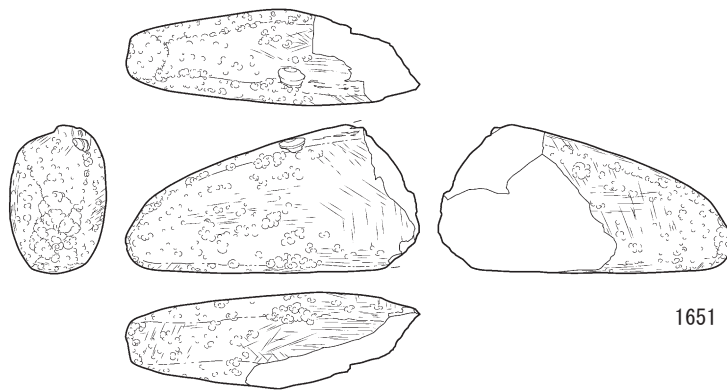
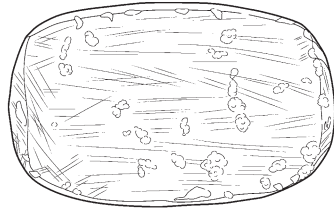
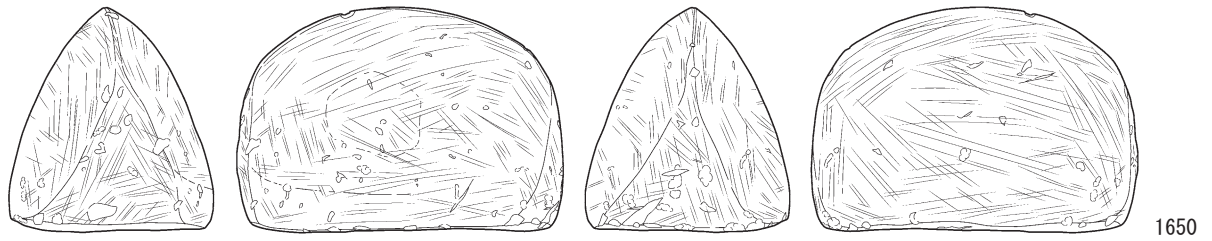
凹石 (第381図 1640～1642)

1640～1642は凹石である。1640は円形で、表裏面の擦りは顕著ではなく、表裏面中央に比較的深い凹をもつ。

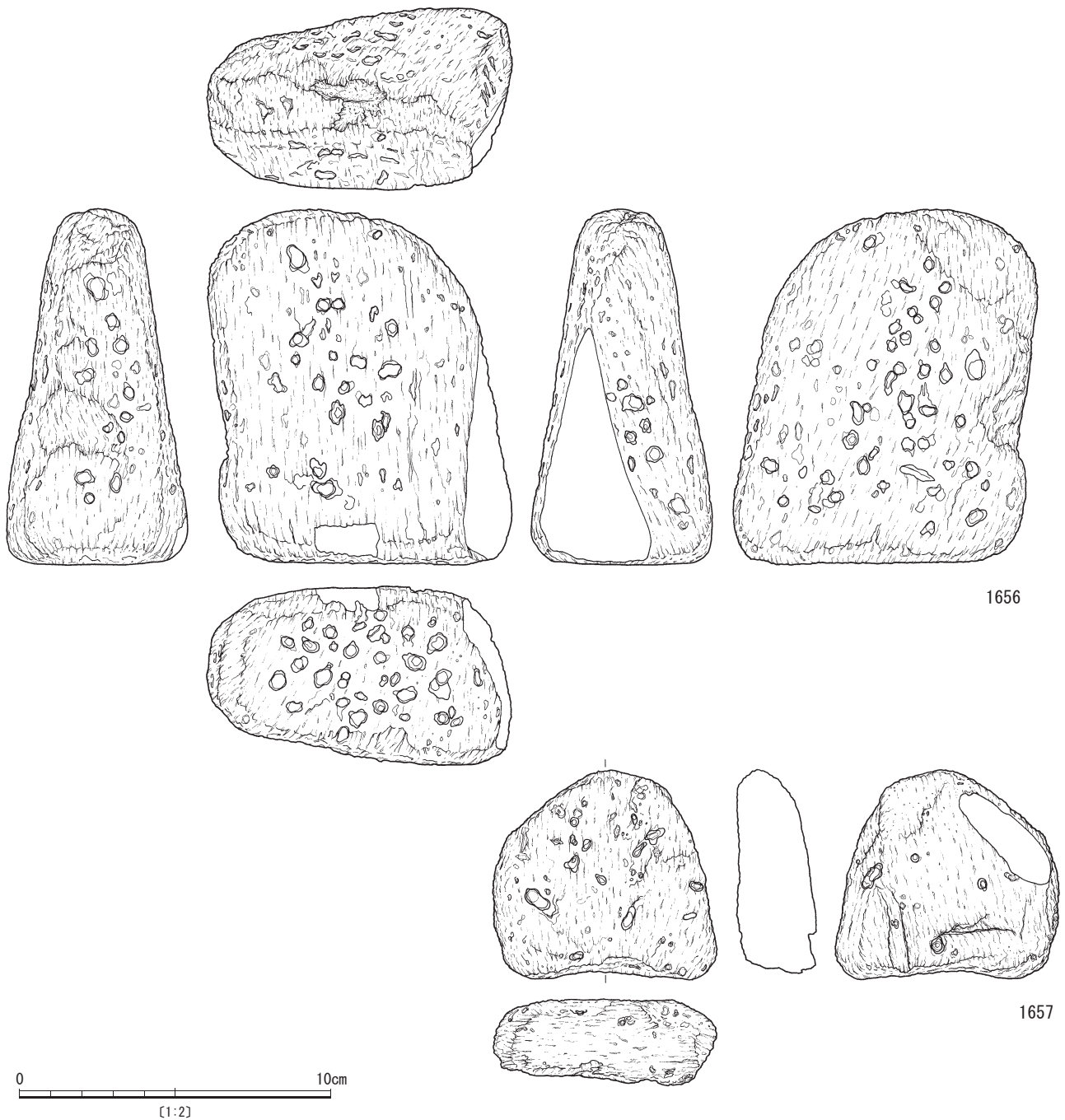




第 382 图 包含層出土石器 (28)



第 383 图 包含層出土石器 (29)



1656

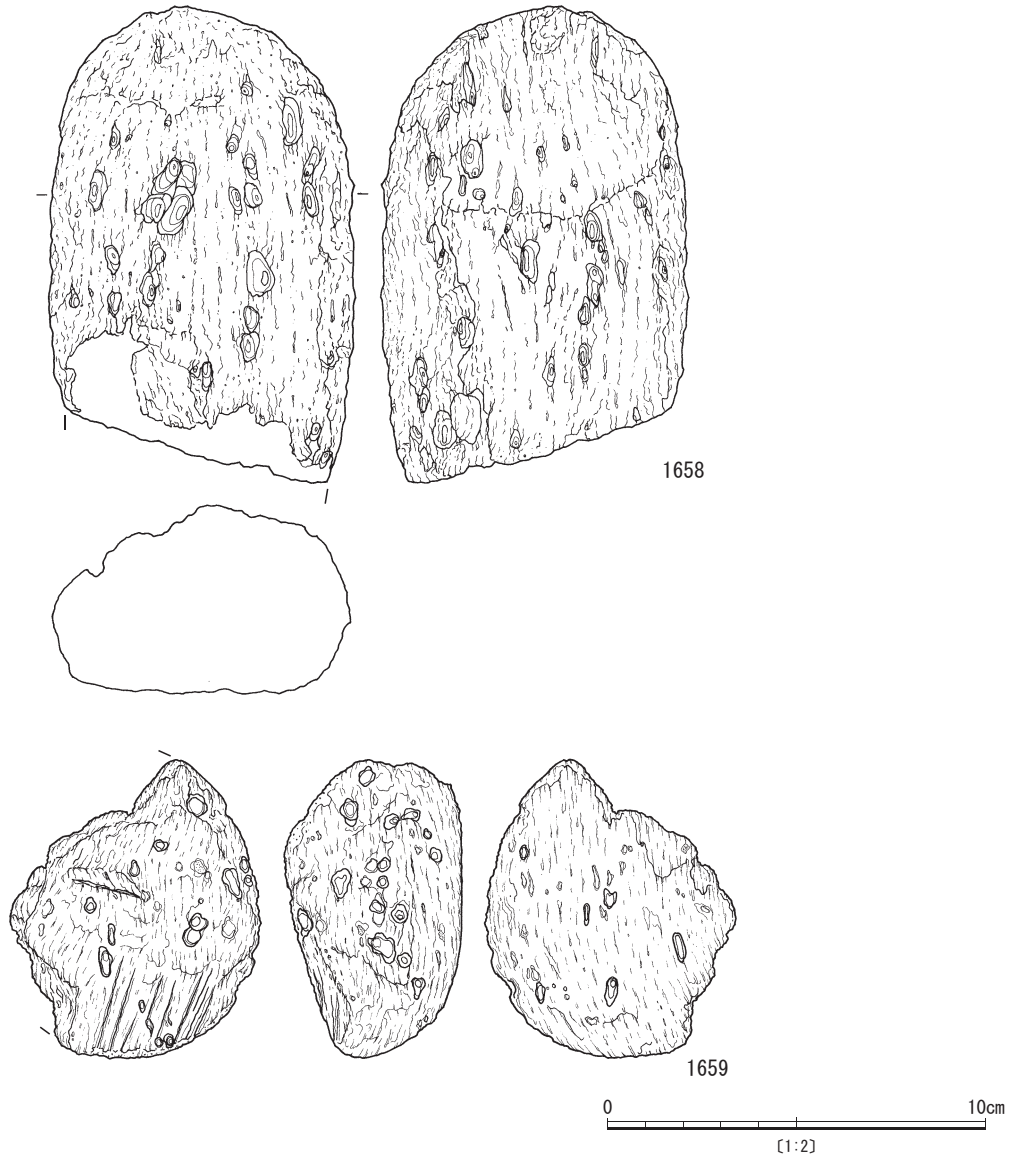
1657

第 384 図 包含層出土石器 (30)

片方の側縁に敲打痕を残す。1641 も円形で、表裏面に擦り面と凹をもち、周縁に細く帯状の敲打痕がみられる。被熱赤化している。1642 はやや歪な円形で、表裏面に擦り面と浅い凹がみられる。周縁の一部に敲打痕を残す。  
**石皿 (第 381・382 図 1643 ~ 1649)**

1643 ~ 1649 は石皿である。いずれも欠損品であり、台石的なものを含む。1645 を除く全てに被熱赤化がみられる。1643 は長径 40 cm ほどの大型品である。表面の平坦な擦り面に顕著な敲打痕をもち使用面の再生とみられる。また、裏面にも斜めに形成された擦り面をもつ。

1644 は下面と左側面に石皿縁辺を留めた破片である。表面に擦り窪んだ使用面をもち、裏面にも擦り面がみられる。1645 は扁平な長円形礫の欠損品であり、表裏面にやや弱い擦り使用面がみられる。1646・1647 は右側面に石皿縁辺を留めた破片である。表裏面に平な擦り使用面をもつ。1648 は表面に平な擦り面をもち、裏面にも擦り窪んだ使用面がみられる。1649 は板状の礫を素材としている。右側面と上面に石皿縁辺を留めており、左側面と下面に剝離状の割れがみられることから、再生品の可能性がある。主に表面を使用面として光沢のある



第385図 包含層出土石器(31)

平滑な擦り面をもつ。

#### 石冠(第383図1650)

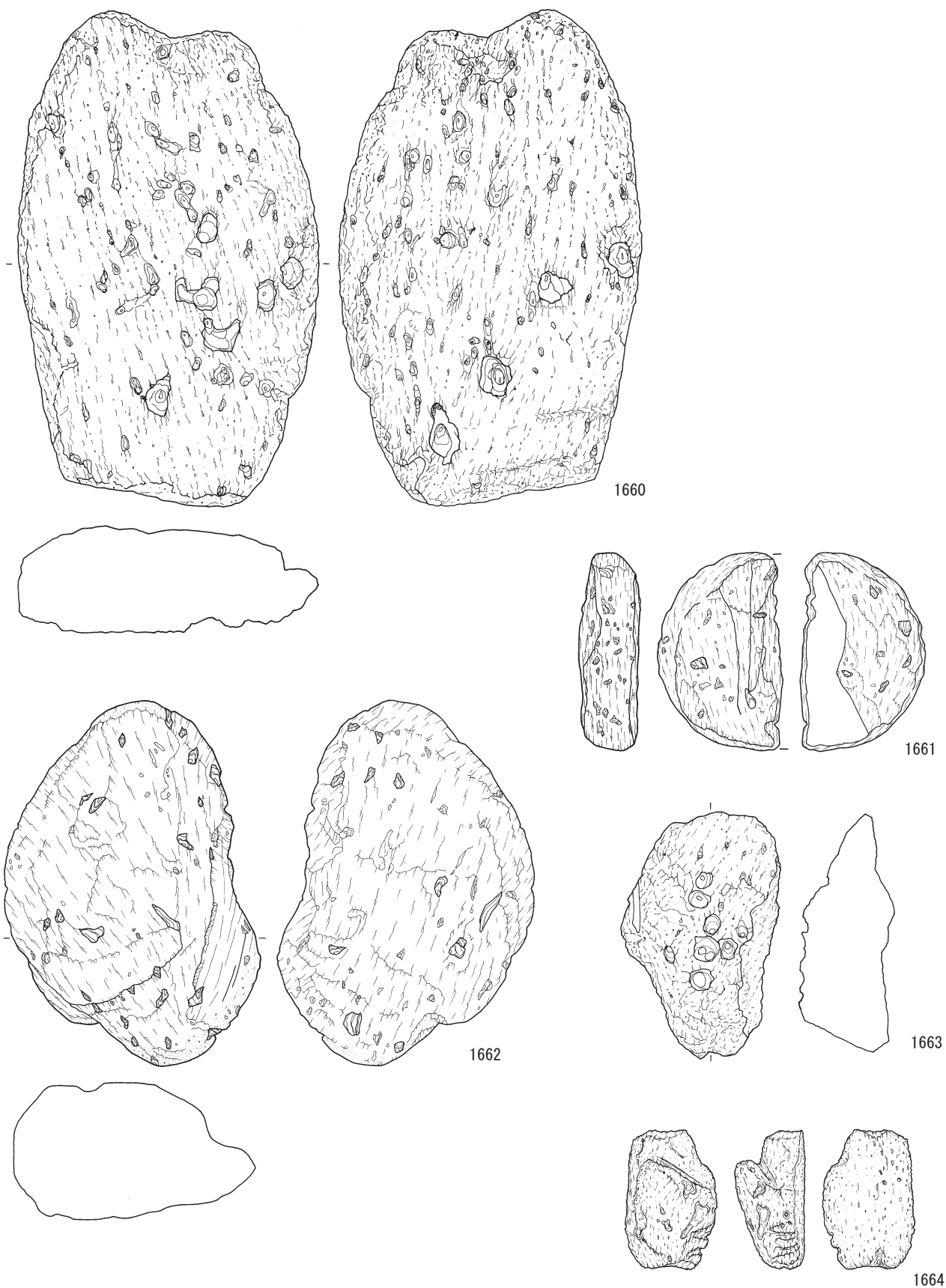
石冠が1点検出された。C-25区、II a層から刃部状の頭部が下向きの状態で検出された。包含層出土遺物であったため、遺構の有無を確認するため断ち割りをを行った。石冠直下にピットが検出されたものの、関連性は認められなかった。

1650の石冠は完形品で、石材は頁岩5である。頭部は丁寧に調整・研磨され、刃部状に加工されている。一見するとハマグリ型の磨製石斧が折れたようにもみえるが、底部も平坦となるよう丁寧に研磨されており安定性がある。凹みはない。側面も横方向を主体に丁寧に研磨され、点もしくは沈線などはないが、全面に研磨による線状痕が明瞭に残る。

#### 石製品(第383図1651~1655)

1651は独鈷石の可能性のある欠損品である。丸みを帯びた角柱状に研磨されており、先が窄まって角の落ちた端部をもつ。一方、刃部を欠損した磨製石斧の可能性もある。1652は石英の原石で歪な亜角礫である。表面に数条の線状痕がみられ、横は太めで縦は細めの線状痕が組み合わせるといふ線刻礫の特徴をもつ。しかし、石英という石材の特性上、明瞭な線状痕は入りにくく、線刻ではなく摩滅痕の可能性も考えられる。どちらにせよ、人為的に手が加えられたことは確実である。1653は楕円形の小礫の表裏に研磨を施した製品であり、光沢のある磨り面を有する。一般的な磨石とは異なる用途も考えられ、ペットストーンの可能性もある。1654は平坦な研磨面をもつ剥片であり、何らかの磨製成品の一部と考えられる。1655は灰オリーブ色の滑石製の垂飾である。





1660

1661

1662

1663

1664

0 10cm  
[1:2]

第 386 图 包含层出土石器 (32)

細長い小片を研磨して一端に尖らせており、穿孔を施した中央部からはほぼ半分に欠損したものとみられる。三万田型垂飾（大坪 2015）で、県内では他に柘原遺跡での出土例がある。

**軽石製品（第 384 ～ 386 図 1656 ～ 1664）**

1656 ～ 1664 は軽石製品である。1656 は角の落ちた台形を呈する四角錐状の製品である。平らな底面と丸みを帯びた上端をもち、表裏面は平坦で、上端に向かって薄く形作られている。また、表裏面、両側面、底面には刺突による数多くの小穴がみられ、浅く不規則に施されており、意匠的なものとみられる。1657 は 1656 に類似した小型品であるが、刺突痕はみられない。1658 は平面が長円形を呈する製品とみられ、上端が丸く整形されており、下端は欠損している。不整な楕円形の断面形をも

つ。1659 右側面から下面にかけて丸みを帯びた整形面がみられ、左側面は欠損面である。1660 は扁平に加工された製品で、上下両端が窄まった長方形を呈する。特に上端には浅い抉りを施している。1661 は円盤形の製品で、半円に欠損している。表裏面は平面であり、穿孔はうかがわれない。1662 は左側面が丸みを帯びた整形面とみられるが、不整な形状を呈する。1663・1664 は不定形ながら擦り面によって構成された小型の製品である。

**引用・参考文献**

大坪志子 2015 「縄文玉文化の研究 - 九州ブランドから縄文文化の多様性を探る -」『第 V 章 九州縄文時代後期の玉 - 九州ブランドの成立』雄山閣 pp.63-69

**第 103 表 包含層出土石器観察表①**

挿図番号	掲載番号	区	層位	器種	石材	黒曜石	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上番号	
355	1405	D29	II c	石鎌	安山岩 B		1.85	1.55	0.40	0.90		4131	
	1406	E17	II a	石鎌	頁岩 8		1.85	1.65	0.50	1.20		30251	
	1407	D31	II b	石鎌	石英		1.55	1.35	0.40	0.70		5893	
	1408	D33	II c	石鎌	チャート		1.85	1.50	0.60	1.20		8258	
	1409	H40	II c	石鎌	玉髄		1.90	(1.55)	0.55	1.10		1741	
	1410	D31	II a	石鎌	頁岩 2		1.70	1.50	0.40	0.70		2967	
	1411	E21	II a	石鎌	頁岩 1		(1.80)	(1.70)	0.45	1.00		26635	
	1412	C28	II c	石鎌	頁岩 8		(2.15)	1.85	0.40	1.20		3678	
	1413	D31	II a	石鎌	頁岩 8		1.90	1.70	0.40	0.90		2968	
	1414	F33	II b	石鎌	頁岩 1		1.90	1.75	0.35	0.80		9374	
	1415	D33	II b	石鎌	頁岩 1		2.40	1.90	0.35	1.20		5257	
	1416	C20	II b	石鎌	黒曜石 D	上半鼻	(2.70)	(1.90)	0.30	1.30		17696	
	1417	G32	II b	石鎌	頁岩 3		2.85	1.90	0.45	1.30		11200	
	1418	C33	攪乱	石鎌	玉髄		(2.10)	(1.70)	0.40	1.20		一括	
	1419	G32	II b	石鎌	玉髄		1.50	1.30	0.35	0.40		9831	
	1420	C29	II c	石鎌	安山岩 B		(1.70)	(1.30)	0.20	0.40		3345	
	1421	M トレンチ	II	石鎌	黒曜石 C		2.10	1.60	0.40	0.71		M トレ-16	
	1422	E28	II a	石鎌	黒曜石 A	三船	(2.15)	(1.50)	0.25	0.60		2472	
	1423	C29	II b	石鎌	頁岩 8		(1.95)	(1.55)	0.40	0.90		3212	
	1424	D31	II b	石鎌	頁岩 8		(2.15)	(1.40)	0.35	0.80		5665	
	1425	E33	II b	石鎌	頁岩 1		1.75	1.40	0.40	0.90		5413	
	1426	E42	II b	石鎌	安山岩 B		2.00	1.55	0.30	0.80		1141	
	1427	H33	II c	石鎌	玉髄		(1.65)	(1.20)	0.25	0.40		10021	
	1428	G30	II c	石鎌	頁岩 1		(2.20)	(1.40)	0.40	1.10		11461	
	1429	H32	II b	石鎌	頁岩 1		2.90	1.45	0.55	1.50		10011	
	1430	D27	II b	石鎌	石英		(3.15)	(2.00)	0.55	2.70		4861	
	1431	G18	II a	石鎌	黒曜石 B	針尾	(3.35)	(1.60)	0.40	1.40		21374	
	1432	F31	II c	石鎌	頁岩 8		(2.35)	(1.75)	0.55	1.80		11514	
	1433	C31	II c	石鎌	玉髄		(2.00)	1.80	0.40	1.50		8040	
	1434	E18	II a	石鎌	頁岩 8		(2.00)	1.80	0.45	1.50		20649	
	1435	E30	II c	石鎌	黒曜石 A	三船	(1.70)	1.80	0.50	1.10		4515	
	1436	C24	III	石鎌	黒曜石 A	三船	(1.90)	1.70	0.50	1.70		32738	
	356	1437	B10	II b	石鎌	頁岩 6		(1.72)	(1.68)	0.30	0.81		36276
		1438	F8	II b	石鎌	頁岩 6		2.06	1.68	0.38	1.01		37180
		1439	E21	II a	石鎌	チャート		(1.65)	1.18	0.32	0.44		27423
1440		G30	II b	石鎌	玉髄		(1.40)	(1.40)	0.40	0.50		10035	
1441		C24	II a	石鎌	安山岩 B		(2.30)	(1.20)	0.20	0.40		27434	
1442		F44	II b	石鎌	黒曜石 D	上半鼻	(2.05)	(1.10)	0.40	0.70		1723	
1443		N トレンチ	II	石鎌	黒曜石 D	腰岳	1.70	0.72	0.35	0.28		N トレ-99	
1444		B22	II a	石鎌	頁岩 1		(2.30)	(1.60)	0.30	0.80		19069	
1445		D34	II b	石鎌	頁岩 1		(2.30)	1.50	0.30	1.00		2708	
1446		F23	II a	石鎌	頁岩 5		(2.10)	1.60	0.40	0.90		26658	
1447		E30	II c	石鎌	頁岩 8		1.75	1.15	0.25	0.50		4372	
1448		G30	II c	石鎌	頁岩 5		2.20	1.35	0.45	1.20		11708	
1449		G41	II b	石鎌	頁岩 1		1.90	1.20	0.35	0.70		764	
1450		F18	II a	石鎌	頁岩 1		2.30	1.75	0.30	1.30		20300	
1451		G30	II c	石鎌	頁岩 1		2.40	1.80	0.30	1.30		11717	
1452		H29	II b	石鎌	頁岩 6		2.50	1.90	0.40	1.70		9639	
1453		C28	II b	石鎌	頁岩 4		2.60	1.70	0.30	1.10		3700	

第 104 表 包含層出土石器観察表②

挿図 番号	掲載 番号	区	層位	器種	石材	黒曜石	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上番号
356	1454	G19	II a	石鏃	頁岩 6		3.60	2.00	0.45	3.40		19987
	1455	F31	II b	石鏃	頁岩 6		(3.30)	(2.20)	0.50	3.10		8810
	1456	H25	II b	石鏃	頁岩 5		1.41	1.26	0.30	2.40		37519
	1457	G30	II b	石鏃	頁岩 7		(2.50)	(1.60)	0.30	0.90		10591
	1458	C33	II b	石鏃	頁岩 1		2.40	1.80	0.45	1.40		5211
	1459	C34	II a	石鏃	頁岩 7		3.27	1.60	0.30	1.77		39064
	1460	A20	II a	石鏃	頁岩 4		2.60	1.50	0.30	1.00		15931
	1461	G28	II a	石鏃	ホルンフェルス 2		1.93	1.52	0.33	0.96		9141
	1462	C28	II c	石鏃	頁岩 5		1.83	1.65	0.23	0.69		3535
	1463	C11	II b	石鏃	頁岩 6		2.00	1.58	0.30	0.97		45013
	1464	B11	II b	石鏃	頁岩 1		(1.57)	1.45	0.35	0.82		36185
	1465	C20	II a	石鏃	頁岩 1		(1.60)	1.95	0.35	1.31		16184
	1466	D30	II c	石鏃	石英		(2.45)	(1.50)	0.60	1.95		4596
	357	1467	C31	II b	石鏃	頁岩 1		(2.10)	(1.75)	0.25	1.14	
1468		D32	II c	石鏃	頁岩 8		(1.85)	1.25	0.35	0.38		6264
1469		D21	II b	石鏃	頁岩 8		2.30	1.30	0.70	2.45		29332
1470		C32	II b	石鏃	頁岩 8		4.80	1.32	0.75	3.66		39192
1471		C29	II b	石鏃	チャート		(1.45)	(1.20)	0.35	0.58		3224
1472		E30	II c	石鏃	黒曜石 D	三船	(1.60)	(1.45)	0.40	1.01		4506
1473		H29	II b	石鏃	頁岩 8		(1.90)	2.10	0.55	2.12		9626
1474		F31	II c	石鏃	頁岩 8		2.60	2.40	0.50	2.20		一括
1475		B22	II b	石鏃	チャート		2.35	1.20	0.40	1.10		19314
1476		E18	II a	石鏃	頁岩 7		(1.75)	(1.70)	0.30	0.69		20608
1477		H29	II b	石鏃	石英		1.50	1.70	0.45	1.24		9573
1478		F14	II a	石匙	安山岩 B		2.90	4.00	0.70	6.20		22867
1479		E21	II a	削器	ホルンフェルス 2		4.15	9.07	1.03	33.76		26649
358		1480	F24	II a	削器	頁岩 8		3.67	5.82	1.05	16.50	
	1481	G18	II a	削器	赤色砂岩		4.10	7.70	0.70	19.60		20059 20064
	1482	G32	カクラン	石匙	頁岩 3		5.40	2.70	1.10	8.30		一括
	1483	G20	II a	削器	頁岩 8		7.20	3.10	0.90	21.50		20010
	1484	B20	II b	削器	安山岩 B		4.44	6.02	0.80	23.69		16505
	1485	F17	II a	削器	頁岩 8		2.95	2.00	0.40	2.10		23185
359	1486	G30	II b	搔器	頁岩 1		2.58	1.92	0.60	3.00		11221
	1487	B12	II b	搔器	黒曜石 A	三船	3.83	3.07	0.83	8.10		36429
	1488	C31	II c	石錐	玉髓		2.42	1.00	0.58	1.28		7943
	1489	E30	II c	石錐	頁岩 1		2.85	1.05	0.65	1.79		4509
	1490	F18	II a	石錐	黒曜石 D	桑ノ木津留	1.90	1.15	0.48	0.80		21295
	1491	C31	II a	石錐	ホルンフェルス 1		3.67	1.52	0.80	3.14		2984
	1492	G19	II a	石錐	頁岩 1		2.75	1.85	0.50	2.20		20584
	1493	B14	III	石錐	黒曜石 C	姫島	1.25	1.30	0.30	0.40		32283
	1494	C31	II b	石錐	頁岩 8		2.43	1.65	0.42	1.26		5816
	1495	F42	II a	石錐	頁岩 8		1.70	1.21	0.48	0.67		2676
	1496	G19	II a	楔形石器	頁岩 8		2.14	2.90	0.82	5.72		21090
	1497	D27	II c	楔形石器	玉髓		2.10	3.02	1.02	5.43		4424
	1498	F23	II a	楔形石器	黒曜石 D	桑ノ木津留	1.52	2.52	0.75	3.10		27168
	1499	B22	II a	剥片	石英		2.33	1.61	0.56	2.20		18531
	1500	F12	II a	剥片	石英		2.73	2.20	0.74	4.47		29748
	1501	E20	II a	二次加工剥片	石英		2.00	2.15	0.58	2.50		18836
	360	1502	D29	II c	二次加工剥片	黒曜石 A	三船	2.84	4.00	0.97	9.31	
1503		E32	II c	二次加工剥片	黒曜石 A	三船	2.15	3.10	0.79	5.24		8544
1504		G29	II a	二次加工剥片	石英		2.49	4.30	1.00	11.82		9122
1505		E30	II c	二次加工剥片	頁岩 8		1.68	3.16	0.66	3.56		4489
1506		F18	II a	二次加工剥片	頁岩 8		2.50	2.89	0.95	6.65		21293
1507		G22	II b	縦長剥片	頁岩 8		4.19	2.23	0.74	6.93		22524
1508		C22	II a	二次加工剥片	頁岩 8		5.52	5.06	2.08	62.00		28359
1509		D30	II c	二次加工剥片	砂岩		3.10	2.50	0.60	3.80		4221
1510		G22	II a	二次加工剥片	チャート		3.07	4.08	1.15	9.63		21714
1511		I43	II b	二次加工剥片	頁岩 3		4.20	5.20	0.90	22.20		一括
1512		H26	II a	使用痕剥片	ホルンフェルス 5		9.90	9.00	2.70	206.70		10659
361		1513	G21	II a	石核	頁岩 8		1.32	4.49	1.96	10.85	
	1514	G29	II b	石核	黒曜石 D	桑ノ木津留	1.38	2.59	1.42	3.28		12016
	1515	D18	II b	石核	黒曜石 D	腰岳	1.92	3.07	1.46	6.31		17793
	1516	C31	II b	石核	黒曜石 A	三船	3.90	5.23	3.90	57.73		5621
	1517	G24	II b	石核	石英		3.11	5.37	3.08	46.08		11301
	1518	E16	II a	石核	頁岩 8		2.49	4.17	1.99	16.49		30006
	1519	E16	II a	石核	黒曜石 A	三船	1.72	2.44	1.90	7.95		8757
	1520	C32	II b	石核	玉髓		2.08	5.25	3.17	28.38		5280
	1521	D31	II b	石核	黒曜石 A	三船	1.35	2.58	1.17	3.77		5904
	1522	G18	II a	石核	黒曜石 A	三船	1.80	2.21	1.92	6.56		21386
362	1523	E20	II a	石核	石英		2.00	2.95	2.25	14.30		22115
	1524	D18	II b	石核	石英		2.35	4.40	2.60	20.10		17620
	1525	G40	II b	石核	頁岩 8		3.90	4.00	1.80	21.00		702

第 105 表 包含層出土石器観察表③

挿図 番号	掲載 番号	区	層位	器種	石材	黒曜石	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上番号
363	1526	G18	II a	磨製石斧	砂岩		9.50	5.49	3.15	236.56		21113
	1527	E33	II b	磨製石斧	ホルンフェルス 1		11.70	5.22	3.10	239.24		5452
	1528	E34	II b	磨製石斧	ホルンフェルス 2		7.60	4.00	2.12	85.33		5399
	1529	D33	II c	磨製石斧	頁岩 7		6.10	3.70	3.00	261.50		7365
	1530	H31	II b	磨製石斧	砂岩		8.98	5.62	3.30	245.98		11100
	1531	E29	II c	磨製石斧	砂岩		6.83	4.80	2.49	108.19		4770
	1532	D34	II c	磨製石斧	ホルンフェルス 2		5.85	5.08	1.15	45.59		7807
1533	I42	カクラン	磨製石斧	砂岩		7.60	4.32	2.75	129.31		一括	
364	1534	F28	II c	磨製石斧	ホルンフェルス 2		8.23	3.90	2.66	110.56		11906
	1535	E21	II a	磨製石斧	頁岩 5		6.20	3.60	1.60	43.10		26280
	1536	E24	II a	磨製石斧	砂岩		10.10	5.50	2.65	148.20		25575
	1537	F23	II a	磨製石斧	ホルンフェルス 5		8.40	4.45	3.10	140.50		25967
	1538	F31	II b	磨製石斧	ホルンフェルス 1		10.80	3.78	2.57	148.58		13413
	1539	D25	II a	磨製石斧	頁岩 3		9.75	5.30	2.60	159.80		26888
	1540	C8	II b	磨製石斧	頁岩 3		(5.11)	(3.20)	1.23	31.95		42394
365	1541	F29	II b	磨製石斧	ホルンフェルス 3		7.39	4.00	1.78	68.28		10983
	1542	C29	II b	磨製石斧	頁岩 2		6.00	3.50	2.00	55.50		3204
	1543	E29・30	II b	磨製石斧	頁岩 1		5.70	3.00	1.85	38.00		4317 4885
	1544	E19	II a	磨製石斧	ホルンフェルス 3		2.45	2.95	0.65	4.90		20699
	1545	F28	II c	磨製石斧	頁岩 3		7.70	4.00	1.90	76.00		11635
	1546	G30	II b	磨製石斧	砂岩		6.50	3.58	1.79	60.00		10907
	1547	F17	II a	磨製石斧	ホルンフェルス 3		5.30	4.20	2.30	78.48		23204
	1548	C7	II b	磨製石斧	頁岩 5		11.90	6.43	1.22	115.81		42411
372	1589	G30	II c	横刃型石器	頁岩 7		16.80	10.15	2.11	376.77		10616
	1590	B23	II a	横刃型石器	ホルンフェルス 1		(12.62)	(7.08)	1.74	192.06		17227
	1591	H29	II b	横刃型石器	頁岩 7		5.60	9.90	1.10	84.40		9503
	1592	G29	II b	横刃型石器	ホルンフェルス 1		8.05	4.00	1.18	45.74		10070
	1593	D28	II b	横刃型石器	ホルンフェルス 2		5.50	9.70	1.20	81.50		3723
373	1594	C33	II b	横刃型石器	ホルンフェルス 2		4.90	8.00	1.85	77.80		5193
	1595	D28	II b	横刃型石器	ホルンフェルス 2		4.60	7.89	1.20	49.51		4116
	1596	G19	II a	横刃型石器	頁岩 1		(4.38)	(7.44)	1.10	43.77		19936
	1597	G32	II c	横刃型石器	頁岩 5		11.85	5.10	1.50	79.70		11176
374	1598	B22	II a	ノミ形石器	頁岩 4		8.67	3.30	1.90	68.02		17947
	1599	D13	II b	打製石斧類	頁岩 7		(5.68)	(4.80)	(1.48)	47.19		42676
	1600	D32	II c	局部磨製石斧の転用品	頁岩 5		11.58	5.42	2.10	145.51		8100
	1601	D16	II a	擦り切り石器	砂岩		3.39	3.19	0.40	5.58		29844
	1602	B6	II a	磨製石斧	頁岩 5		(5.35)	3.91	0.59	14.53		37790
375	1603	F8	II a	磨製石斧	頁岩 6		(3.59)	(5.80)	0.56	14.53		37167
	1604	G25	II a	礫器	ホルンフェルス 5		10.00	11.00	4.40	604.50		10192
	1605	H38	II c	礫器	砂岩		8.60	9.10	1.90	153.10		一括
	1606	C23	II c	礫器	ホルンフェルス 1		15.20	9.36	3.65	553.24		29549
376	1607	H26	II b	蔽石	ホルンフェルス 1		24.90	5.45	4.70	774.00		11285
	1608	D23	II a	蔽石	ホルンフェルス 5		11.80	6.00	3.80	381.50		25743
	1609	C30	II c	蔽石	砂岩		11.70	6.90	3.50	448.50		3491
	1610	C34	II b	蔽石	凝灰岩		11.80	9.80	3.50	649.50		39119
377	1611	F43	II b	磨石	砂岩		5.30	5.00	1.30	55.10		1074
	1612	I43	II b	磨石	ホルンフェルス 5		7.80	6.10	1.50	114.10		1774
	1613	C28	II c	磨石	安山岩 A		6.80	6.70	2.90	178.00		3522
	1614	B23	II a	磨石	安山岩 A		10.00	9.50	5.30	876.00		18486
	1615	F40	II b	磨石	安山岩 A		(7.20)	9.20	5.10	431.10		673
	1616	H29	II b	磨石	砂岩		(11.10)	(6.00)	(6.00)	553.50		8878
	1617	H42	II b	磨石	安山岩 B		5.90	5.90	5.10	252.80		483
	1618	F41	II b	磨石	砂岩		8.75	9.90	4.85	631.10		1227
378	1619	C32	II c	磨蔽石	安山岩 A		6.10	5.70	3.00	143.70		7658
	1620	G30	II b	磨蔽石	砂岩		5.15	7.30	2.55	124.00		10539
	1621	B20	II b	磨蔽石	砂岩		7.80	6.60	4.20	291.50		16522
	1622	H29	II b	磨蔽石	安山岩 A		9.20	7.50	3.90	370.60		38038
	1623	E30	II c	磨蔽石	安山岩 A		8.90	8.90	3.40	397.60		4815
	1624	F40	II b	磨蔽石	安山岩 A		8.20	7.00	4.30	323.70		920
	1625	F29	II c	磨蔽石	安山岩 A		9.20	7.90	4.00	506.50		9938
	1626	G27	II c	磨蔽石	安山岩 A		8.30	6.70	3.10	248.50		11495
379	1627	F41	II b	磨蔽石	安山岩 A		(6.40)	(9.40)	(5.30)	453.20		1230
	1628	C32	II c	磨蔽石	花崗岩		10.20	8.80	5.40	705.00		6216
	1629	C32	II c	磨蔽石	花崗岩		12.20	9.40	5.40	1000.50		7009
	1630	E33	II b	磨蔽石	花崗岩		9.75	10.50	5.40	557.50		2731
	1631	D15	II b	磨蔽石	砂岩		9.50	9.40	4.50	651.50		8737
	1632	E43	II b	磨蔽石	安山岩 B		8.20	7.10	3.40	329.20		1101
	1633	H27	II b	磨蔽石	凝灰岩		10.20	9.00	4.55	507.50		10117
380	1634	D34	II c	磨蔽石	花崗岩		8.70	9.50	4.50	553.90		7803
	1635	C33	II c	磨蔽石	安山岩 A		8.80	8.10	3.50	402.00		7059
	1636	B24	II b	磨蔽石	安山岩 A		9.25	9.40	3.10	447.50		17162
	1637	G28	II b	磨蔽石	安山岩 A		11.30	8.50	6.90	1029.60		12102
	1638	F44	II b	磨蔽石	花崗岩		11.10	6.15	6.10	488.40		1687
1639	F44	II b	磨蔽石	安山岩 A		8.85	14.40	4.00	521.80		4511	



第 106 表 包含層出土石器観察表④

挿入 番号	掲載 番号	区	層位	器種	石材	黒曜石	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考	取上番号
381	1640	H25	II b	凹石	安山岩 A		9.25	7.75	4.50	441.00		38737
	1641	B23	II a	凹石	砂岩		7.60	6.80	3.10	227.50		17188
	1642	C15	II b	凹石	砂岩		8.10	7.40	3.70	308.70		8732
	1643	D34	II c	石皿	凝灰岩		42.50	22.50	13.80	15000.00		8411
	1644	G37	II b	石皿	凝灰岩		24.00	17.80	13.00	4810.00		9612
382	1645	H45	II b	石皿	凝灰岩		(22.80)	(22.00)	7.40	4400.00		2052
	1646	H40	II b	石皿	凝灰岩		14.70	11.80	6.45	1075.80		1558
	1647	C28	II c	石皿	凝灰岩		15.40	17.40	13.50	3330.00		3366
	1648	F32	II b	石皿	花崗岩		23.50	19.60	10.50	7460.00		9301
	1649	F43	II b	石皿	砂岩		17.50	17.40	3.90	1700.00		1026
383	1650	C25	II a	石冠	頁岩 5		5.90	8.63	5.40	372.01		29300
	1651	E22	II b	独鈷石	ホルンフェルス 3		(3.89)	(7.72)	(2.55)	90.97		27291
	1652	E33	II a	線刻礫	石英		6.45	6.55	3.60	200.70		2392
	1653	D9	II c	ペットストーン	ホルンフェルス 5		6.10	4.20	2.25	90.17		48711
	1654	G23	攪乱	剥片	粘板岩		2.62	(2.39)	0.58	2.74		一括
384	1655	H27	II b	垂飾	滑石		1.60	0.90	0.40	0.65		37590
	1656	G40	II c	軽石製品	軽石		11.45	9.35	5.80	147.50		1254
385	1657	D32	II c	軽石製品	軽石		6.70	7.20	2.75	23.57		7235
	1658	D22	II a	軽石製品	軽石		12.60	8.15	6.00	170.50		26437
386	1659	C34	II b	軽石製品	軽石		7.85	6.55	4.70	58.00		39128
	1660	H29	II b	軽石製品	軽石		17.40	10.60	3.75	144.00		9660
	1661	H40	II b	軽石製品	軽石		7.00	4.35	2.15	11.30		1551
	1662	D18	II a	軽石製品	軽石		12.35	9.50	4.85	186.40		18188
	1663	G45	II b	軽石製品	軽石		8.65	5.65	3.35	46.98		4163
	1664	G32	II b	軽石製品	軽石		4.90	3.25	2.50	7.80		9834

第 107 表 包含層出土打製石斧観察表

挿入 番号	掲載 番号	分類	着柄	区	層位	計測値 (cm)					石材	重量 (g)	備考	取上番号	
						基部	頸部	刀部	長軸	厚み					
366	1549	I 類		E22	II a	1.8	3.3	8.7	17.4	2.7	頁岩 3	251.1		27095	
	1550			E11	II b	2.4	4.2	8.6	14.7	1.8	頁岩 1	186.0		48875	
	1551		B・C33	攪乱	2.1	2.7	5.1	10.5	2.4	ホルンフェルス 3	143.9		一括		
	1552	II 類	○	F31	II b	5.4	6.0	6.6	17.6	1.5	ホルンフェルス 1	245.2		9235 他	
	1553		○	H29	II b	5.4	5.7	5.7	17.1	2.1	頁岩 4	313.4		37880	
367	1554	II 類	○	F31	II b	6.3	5.7	6.9	17.1	1.8	ホルンフェルス 2	293.6		11590	
	1555		○	E16	II a	6.3	5.6	7.4	15.3	1.8	ホルンフェルス 2	251.1		8765	
	1556	○	B21	II a	5.1	4.8	5.1	12.6	1.5	頁岩 7	128.5		19070		
	1557	III 類	○	G18	II a	3.6	4.8	9.6	20.0	2.1	ホルンフェルス 2	349.3	III a 類	19427	
	1558		○	H31	II c	1.8	4.5	7.5	15.3	1.8	ホルンフェルス 5	184.8	III a 類	11567	
368	1559	III 類	○	G19	II a	2.1	3.9	9.0	12.0	1.2	ホルンフェルス 1	124.4	III a 類	19725	
	1560		○	F19	II a	3.6	4.5	9.6	10.5	2.1	ホルンフェルス 2	151.9	III a 類	19192	
	1561	○	B17	II a	2.7	3.6	7.2	8.4	1.2	ホルンフェルス 5	90.0	III a 類	15618		
	1562	○	F22	II b	6.3	4.8	7.8	19.2	2.4	ホルンフェルス 2	368.8	III b 類	27909		
	1563	○	H29	II b	6.0	5.1	6.9	13.5	1.8	頁岩 4	192.1	III b 類	9020		
369	1564	IV 類	○	C9	II b	(6.0)	4.7	7.2	13.2	1.5	ホルンフェルス 1	201.5	III b 類	42601	
	1565		○	F29	II b	6.0	5.1	6.3	15.6	2.3	頁岩 4	284.1	形状は II 類短冊形	12043	
	1566	○	H27	II a	4.3	5.7	3.0	15.6	2.1	頁岩 4	160.0		10623		
	1567	V 類	○	E7	II a	2.7	3.9	5.4	12.6	2.1	ホルンフェルス 2	156.0	磨製石斧転用品	45672	
	1568		○	H36	II a	5.1	3.0	5.4	15.0	1.5	頁岩 2	176.2		一括	
370	1569	III 類	○	C11	II b	6.3	4.7	6.3	15.5	1.4	ホルンフェルス 3	218.9		44801	
	1570		○	G30	II b	5.1	3.8	5.1	10.8	1.2	頁岩 4	99.5		13143	
	1571	基部		D20	II a	1.8	(4.1)	—	(8.4)	2.1	頁岩 5	85.4	I 類	18366	
	1572			H24	II a	2.5	(4.4)	—	(7.0)	1.9	ホルンフェルス 1	75.0	I 類	10816	
	1573			C21	II b	2.1	3.0	(3.6)	(6.6)	1.5	ホルンフェルス 7	46.1	I 類	29312	
	1574			D24	II a	2.1	3.3	(3.6)	(5.7)	0.9	ホルンフェルス 7	30.0	I 類	26073	
	1575		○	F43	II b	7.8	6.9	—	(7.5)	1.5	ホルンフェルス 5	165.0	II・III・IV 類	1000	
	1576		○	H29	II b	3.6	4.7	(4.8)	(9.6)	1.7	ホルンフェルス 1	116.6	III・IV 類	8972	
	1577		○	E13	II a	4.5	4.2	(5.7)	(8.6)	1.4	ホルンフェルス 1	74.9	III・IV 類	29756	
	1578		○	D21	II a	5.7	5.3	(6.5)	(10.8)	0.9	ホルンフェルス 2	109.4	III・IV 類	25196	
	1579		○	F13	II a	7.8	6.3	(7.1)	(9.5)	1.1	ホルンフェルス 1	111.7	III・IV 類	23015	
1580	○		C5	II c	5.7	4.8	(6.3)	(10.5)	1.8	ホルンフェルス 1	129.2	III・IV 類	42335		
1581	○	F21	II a	5.1	4.2	(6.0)	(7.2)	0.9	ホルンフェルス 2	52.6	III・IV 類	28192			
371	1582	刃部	—	E8	II b	—	(5.4)	7.2	(10.1)	1.5	ホルンフェルス 1	160.0	I・III 類	45630	
	1583		—	H31	II b	—	(4.2)	8.4	(9.3)	1.4	ホルンフェルス 1	165.8	I・III 類	10319	
	1584		—	G19	II a	—	—	11.7	(5.7)	1.2	ホルンフェルス 2	125.2	I・III 類	19828	
	1585		—	F20	II a	—	—	5.4	5.9	(9.9)	1.8	ホルンフェルス 1	178.5	II 類	19924
	1586		—	D28	II b	—	—	6.0	5.7	(8.3)	1.5	ホルンフェルス 2	102.0	II 類	4110
	1587		—	E16	II a	—	—	(6.5)	7.4	(9.0)	1.4	ホルンフェルス 2	138.7	II・III 類	30281
	1588		—	F45	II a	—	—	—	(5.8)	(1.25)	ホルンフェルス 2	46.0	III・V 類	1514	

### 第3節 弥生時代以降の調査

#### 1 調査の概要

本節では、B地点～D地点にかけての弥生時代以降の調査成果について報告する。A地点は「牧山遺跡1」ですすでに報告済みである。

弥生時代以降の調査で対象とした層位はⅡ層であるが、耕作の影響により、層位によって明確に検出遺構の帰属時期が判断できないものが多かったことから本節にまとめて報告する。

弥生時代以降の遺構は、古墳時代の土坑1基、古代～中世の炭化物集中部1か所、古代以降の古道跡7条、溝状遺構1条、時期不明の土坑1基が検出された。遺物は弥生時代、古墳時代該当の土器が少量と中世以降の陶磁器、薩摩焼、金属製品が少量出土した。

#### 2 遺構

##### (1) 土坑

##### ア 検出の状況

古墳時代該当の土坑1基、時期不明の土坑1基が検出され、古墳時代該当の土坑からは、土器が7点出土し、そのうちの2点を図化した。

#### イ 各土坑の状況

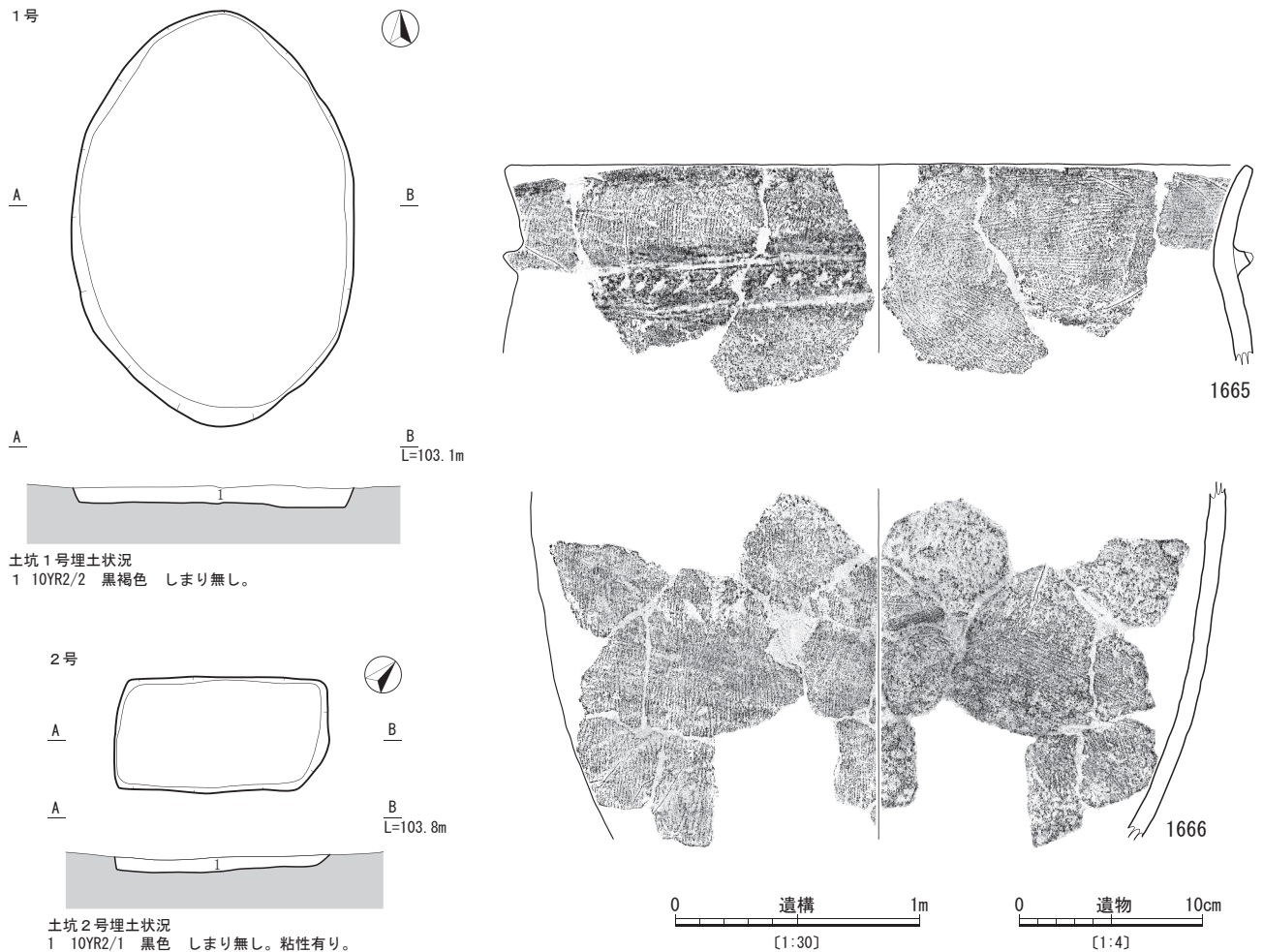
##### 土坑1号(第387図)

E-29区、Ⅱa層で検出された。平面形状は楕円形、長径170cm、短径116cmで、深さは10cmであった。埋土は1層でしまりはなかった。遺構内から土器が出土しているが、検出面よりやや浮いた状態であったため本来の掘り込み面はさらに上位だった可能性が高く、遺物は流れ込みによる可能性もある。

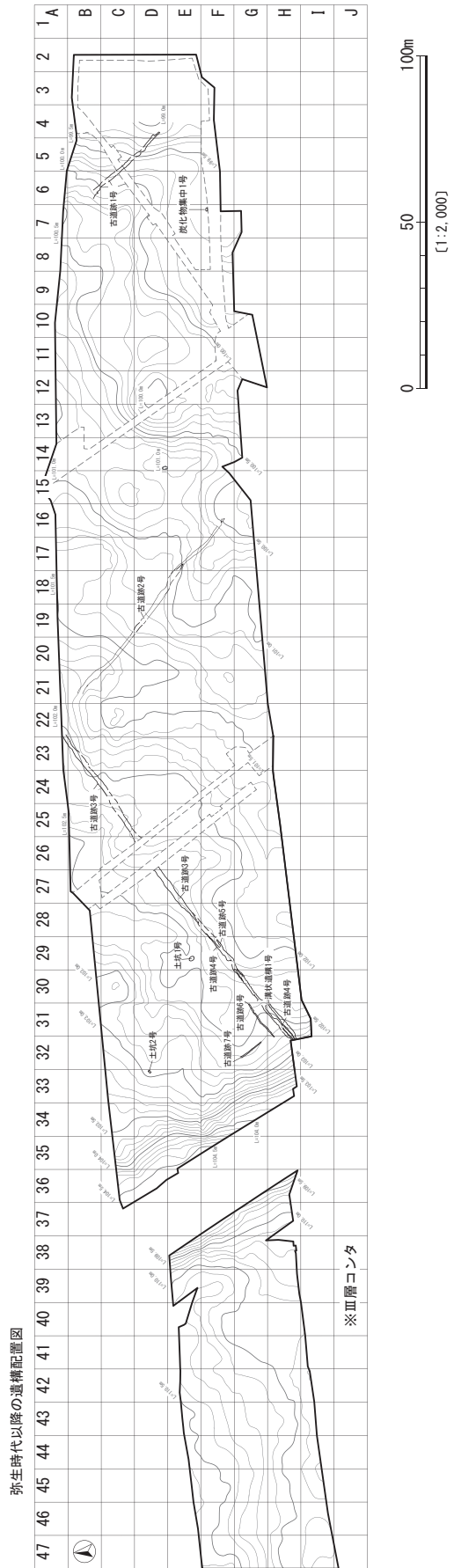
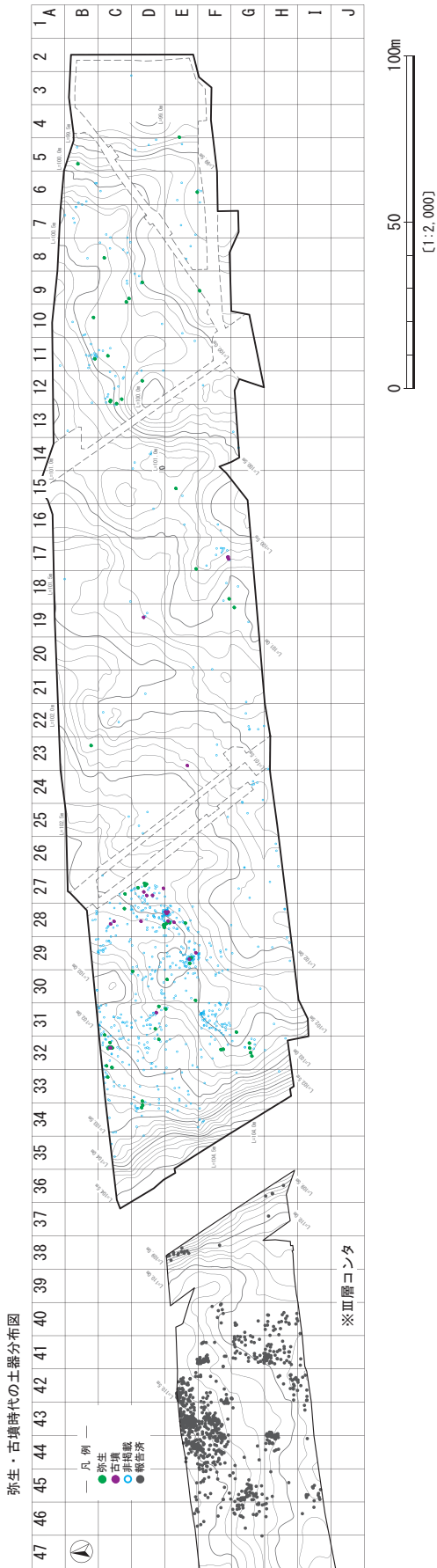
1665は成川(東原)式土器の古手の甕の口縁部と思われる。口縁部は外反し、頸部内面にやや不明瞭ながらも稜がみられる。内外面ともにハケ目による調整がみられる。1666は甕の胴部である。外面に直接刻目を施している。内外面ともにハケ目調整がある。胎土、調整から1665と同じ成川式土器と推測される。

##### 土坑2号(第387図)

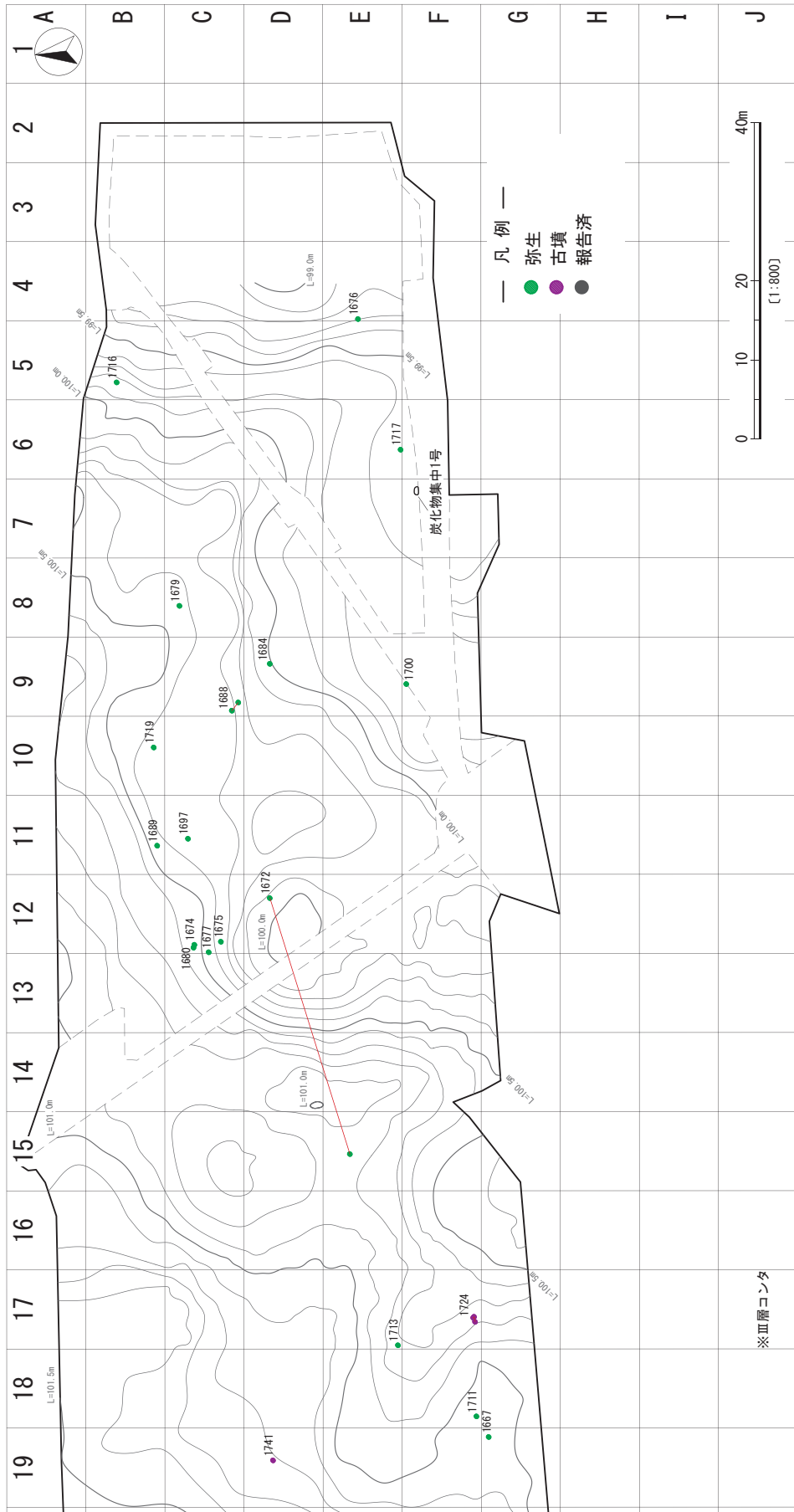
D-33区、Ⅱa層で検出された。平面形状は長方形で長径88cm、短径47cm、深さは10cmであった。遺物の出土はなく、埋土は1層で黒色土を呈し、しまりはなかった。埋土状況や遺構形状だけでは時期を判断することは難しく、時期不明とした。



第387図 土坑1・2号

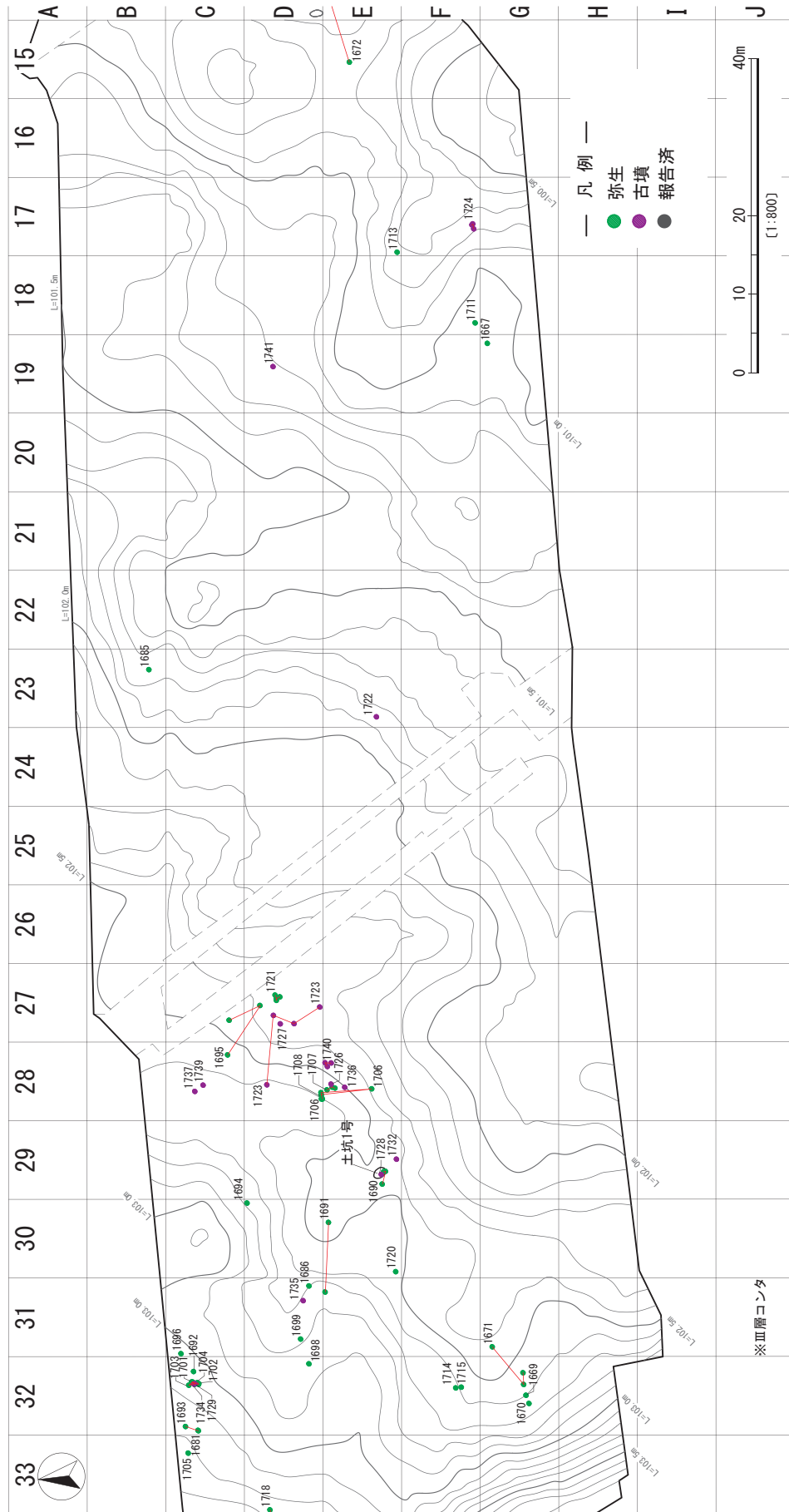


第388図 弥生時代以降の遺物分布図(上)と遺構配置図(下)

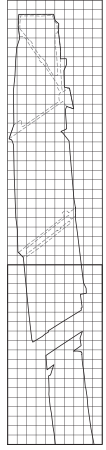
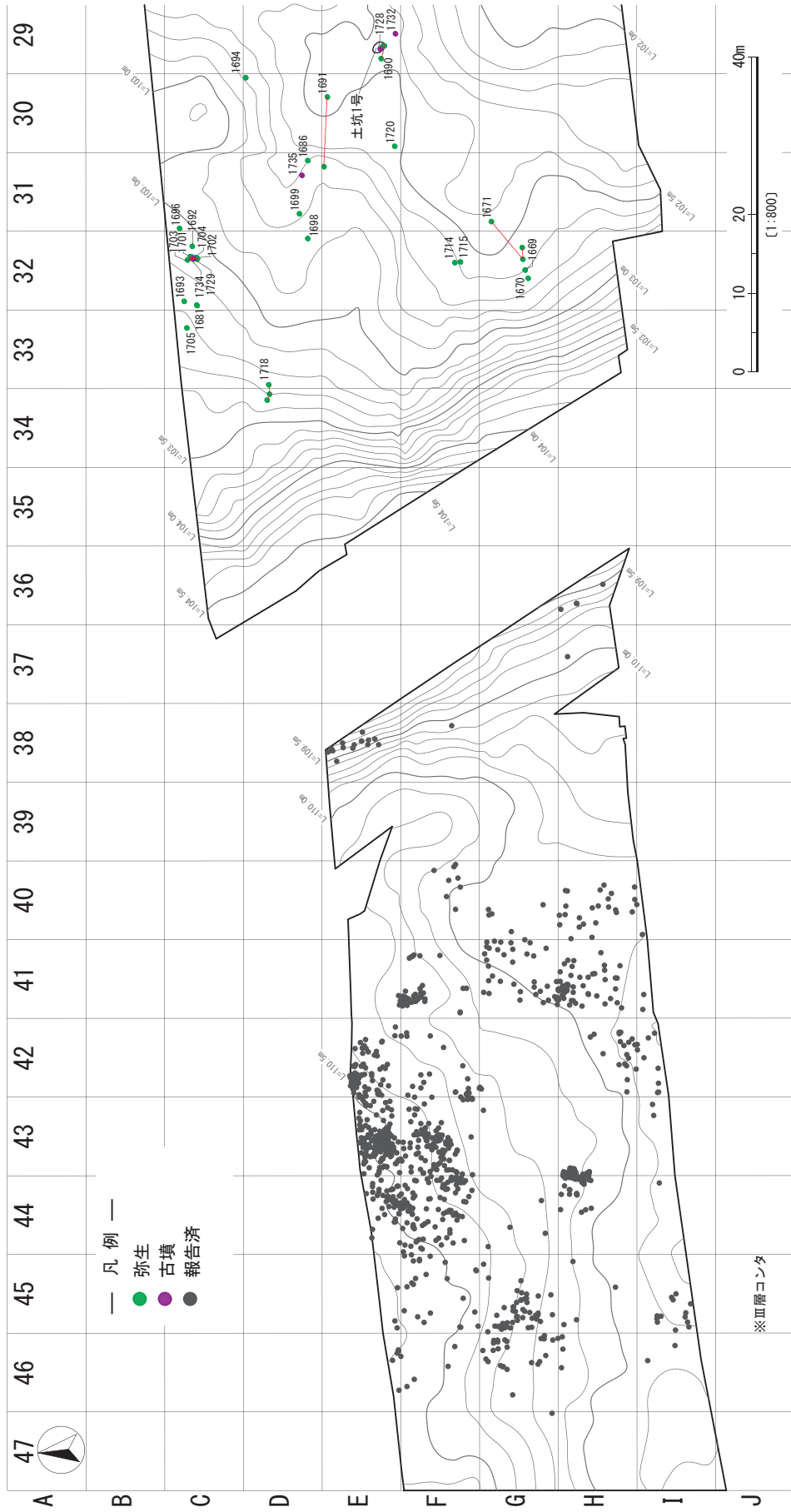


第389図 弥生時代以降の遺物分布図（1）





第390図 弥生時代以降の遺物分布図（2）



第391図 弥生時代以降の遺物分布図（3）

## (2) 炭化物集中部 (第 393 図)

F-7区, II b層より炭化物が集中して出土した。炭化物は約 90 × 40cm の範囲に広がっており, 10cm 以下の小片 27 点が集まったものである。炭化物以外の遺物は出土していない。炭化物 1 (試料 1) の放射性炭素年代測定 (AMS 法) と樹種同定を行ったところ, 2σ 値で 1178 ~ 1008 (cal BP), 9 ~ 10 世紀代という値が得られ, 樹種はクヌギ節という結果が得られた。

## (3) 古道跡・溝状遺構 (第 394 ~ 396 図)

### ア 概要

古道跡は II 層上面において検出された。その中で, 硬化面が帯状に伸びるものと連続した楕円形の凹み (波板状凹凸) を伴うものを古道跡とし, 硬化面を形成せず, 土質の異なる埋土が帯状に伸び, 埋土除去後に溝状になるものは溝状遺構とした。検出時は明確な掘り込みを伴っているものと硬化面のみが残存している箇所が混在していたため遺構図作成は状況に合わせて行った。

### イ 各古道跡・溝状遺構の状況

#### 古道跡 1 号 (第 394 図)

B ~ D-4 ~ 6 区, II b 層で検出された。検出範囲は長さ 26.9m, 幅 1.0m で, 北西から南東方向へ伸びる。掘り込みはなく 5 cm 厚程度の非常に薄い硬化面で形成された遺構である。古道跡 2 号とは約 100m 離れて, 平行に検出された。

#### 古道跡 2 号 (第 394 図)

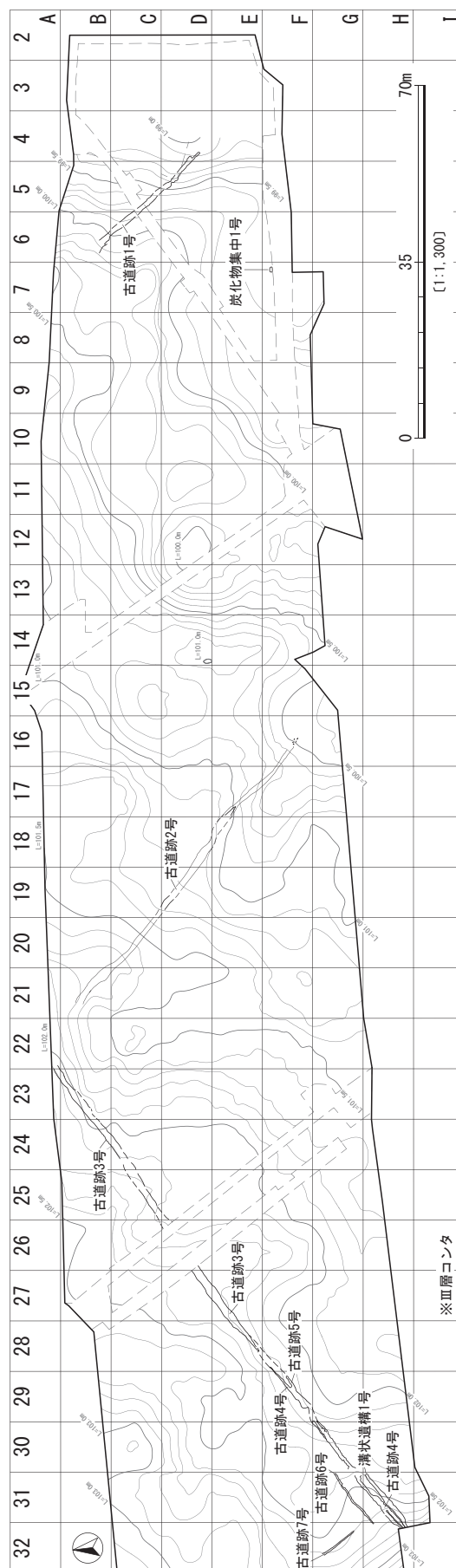
B ~ F-16 ~ 22 区, II b 層で検出された。検出範囲は長さ 58.3m, 幅 0.5m で, 北西から南東方向へ若干蛇行しながら伸びる。古道跡 1 号と同様に掘り込みはなく硬化面が形成されて帯状になった遺構である。

#### 古道跡 3 号 (第 395 図)

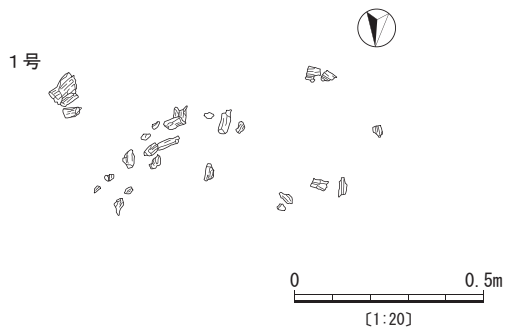
A ~ E-22 ~ 28 区, II a 層で検出された。検出範囲は長さ 38.5m, 幅 1.3m で, 北東から南西方向へ伸びる。古道 1・2 号の軸と約 100° の角度で交わるように検出された。遺構中央部は現代の道路跡が直交していたため消滅していた。古道跡 1・2 号と異なり明確な掘り込みを有していた。さらに遺構底面には上部と異なる連続する楕円形の掘り込み (波板状凹凸) が検出されたが遺物もなく性格は不明である。埋土は IV 層で, 遺構上部から一貫して硬化しているため, 埋没する過程で硬化面を形成していったと考えられる。本遺構の南西方向同軸上では古道跡 5・6 号が検出されており, 接続はしていないため判然とはしないが, 同一もしくは関連遺構と考えられる。

#### 古道跡 4 号 (第 396 図)

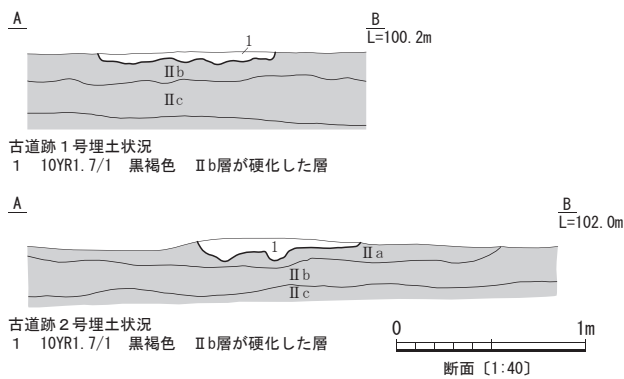
F ~ H-28 ~ 32 区, II a 層で検出された。古道跡 5 号と平行して検出された。検出範囲は長さ 25.5m, 幅 0.2m



第 392 図 炭化物集中部・古道跡・溝状遺構配置図



第 393 図 炭化物集中部



で、北東から南西方向へ延びる。掘り込みはなく硬化面で形成された遺構である。北東方向には古道跡 3号が位置する。

**古道跡 5号 (第 396 図)**

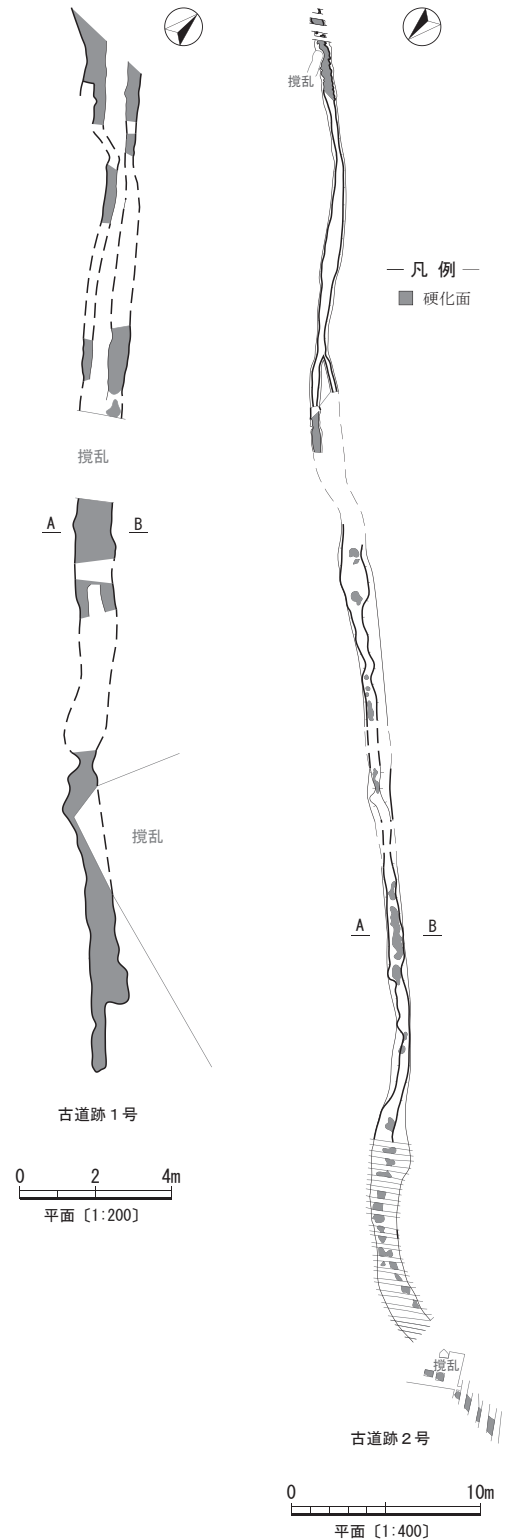
F ~ G - 28 ~ 30 区, II a 層で検出された。古道跡 4号と平行して検出された。検出範囲は長さ 22.3m, 幅 0.2m で、北東から南西方向へ延びる。掘り込みはなく硬化面で形成された遺構である。北東方向には古道跡 3号が位置する。南西方向の調査区際付近では古道跡 4・5号の硬化面が同一化する部分も確認された。

**古道跡 6号 (第 396 図)**

G · H - 31 · 32 区, II a 層で検出された。検出範囲は長さ 7.7m, 幅 0.3m で、北東から南西方向へ延びる。掘り込みはなく薄い硬化面で形成された遺構である。古道跡 4号に平行する。

**古道跡 7号 (第 396 図)**

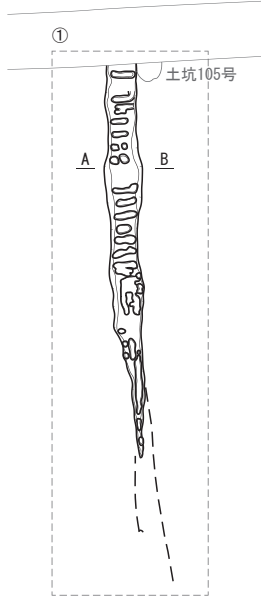
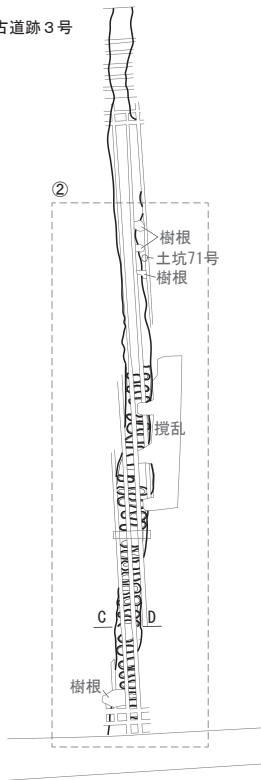
G - 32 区, II a 層で検出された。検出範囲は長さ 11.8m, 幅 0.3m で、北西から南東方向へ延びる。掘り込みはなく薄い硬化面層で形成された遺構である。古道跡 6号に直交するように位置するが接続した状態で検出はされなかった。



第 394 図 古道跡 1・2号



古道跡3号

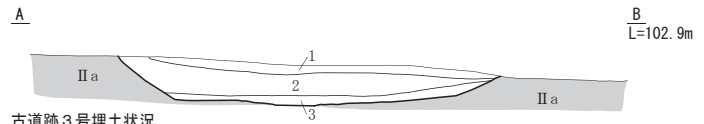


0 10m  
[1:400]

古道跡3号



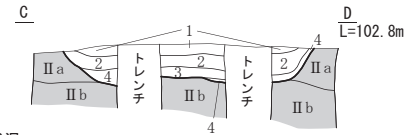
古道跡3号 A-B断面



古道跡3号埋土状況

- (A-B断面) 1 10YR2/1 黒色 しまり有り。径3~5mm程の白粒が少量混じる。朱色土を含む。  
 2 10YR2/3 黒褐色 しまり有り。径3~5mm程の白粒が少量混じる。朱色土を含む。  
 3 10YR2/3 黒褐色 しまり有り。径3~5mm程の白粒が少量混じる。朱色土を含む。

古道跡3号 C-D断面

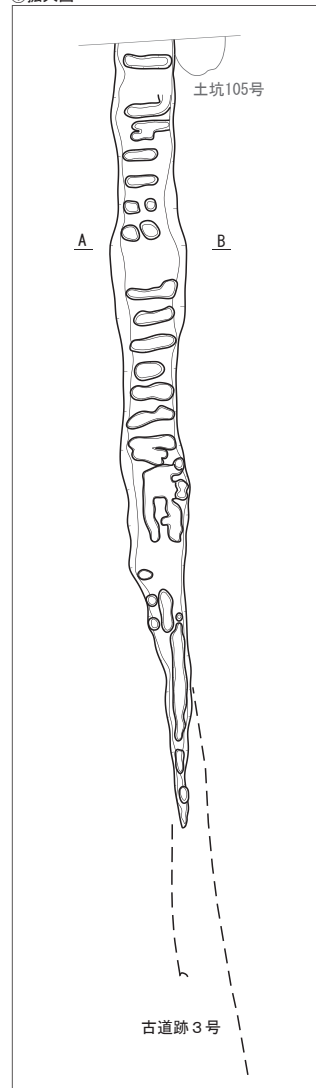


古道跡3号埋土状況

- (C-D断面) 1 10R2/1 赤黒色 しまり有り。酸化鉄を含み赤褐色の土が層状に混じる。砂粒や礫を多く含む。  
 2 10R2/1 赤黒色 しまり有り。径1~30mmの小角礫混じる。赤褐色が強く砂粒や礫を多く含む。  
 3 10R1.7/1 赤黒色 しまり有り。白い粒が混じる。  
 4 10R1.7/1 赤黒色 しまり有り。

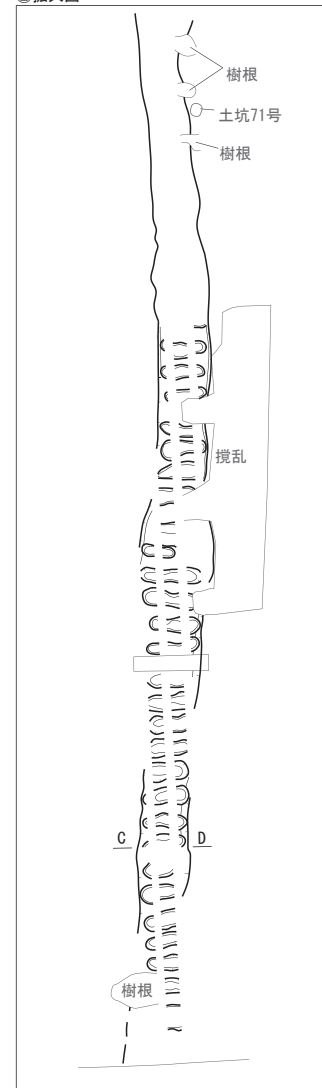
0 1m  
[1:40]

①拡大図



古道跡3号

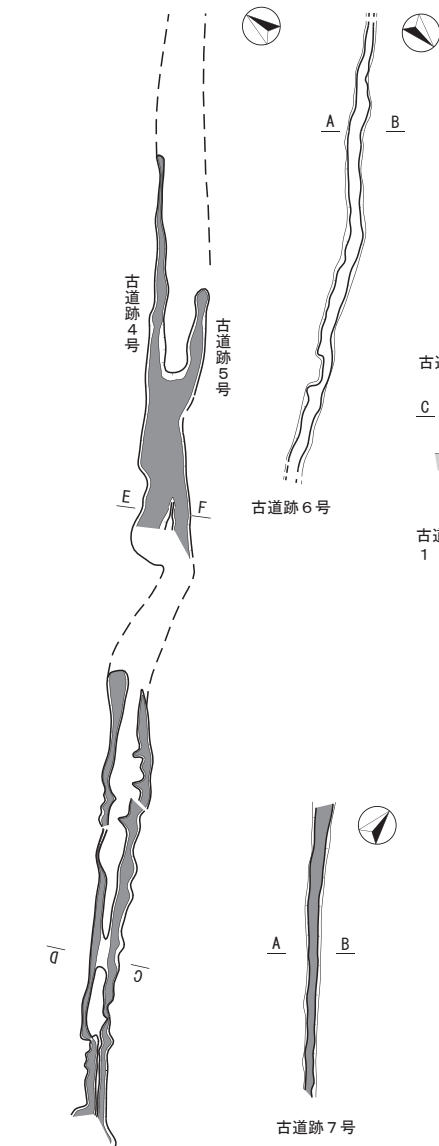
②拡大図



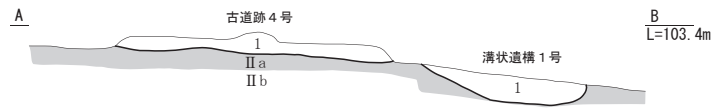
0 2 4m  
[1:200]

第395図 古道跡3号

古道跡4・5, 6・7号, 溝状遺構1号



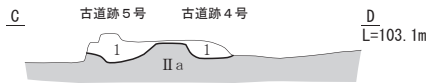
古道跡4号・溝状遺構1号 A-B断面



古道跡4号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 しまり有り。  
径10~20mm程の朱色の土がラミナ状  
に混じる。径1mm程の白粒を含む。

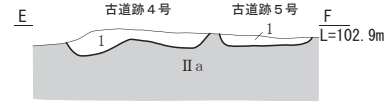
溝状遺構1号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 しまりやや強い。

古道跡4・5号 C-D断面



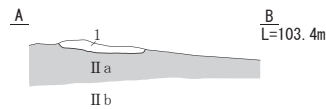
古道跡4・5号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 しまり有り。  
径10~20mm程の朱色の土がラミナ状に  
混じる。径1mm程の白粒を含む。

古道跡4・5号 E-F断面



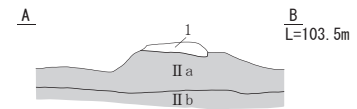
古道跡4・5号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 しまり有り。  
径10~20mm程の朱色の土がラミナ状に  
混じる。径1mm程の白粒を含む。

古道跡6号

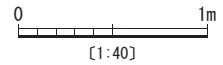


古道跡6号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 やや硬質しまりあり。  
埋土断面の中央部に厚さ2mm程度  
の白砂がラミナ状に3層程度堆積  
している。

古道跡7号



古道跡7号埋土状況  
1 10YR3/3 暗褐色 やや硬質しまりあり。



### 溝状遺構1号 (第396図)

H-31・32区, II a層で検出された。検出範囲は長さ13.0m, 幅0.9mで, 古道跡4・5号に平行して北東から南西方向へ延びる。古道跡4・5号の検出面から20cm程下がった位置で検出された。掘り方は明瞭で, 埋土には硬化土がブロック状に点在していたが面を形成してはいなかったため溝状遺構とした。

### ウ 小結

II層上面において古道跡7条と溝状遺構1条を検出した。硬化面を伴うもの, 連続する楕円形の掘り込み(波板状凹凸)を伴うもの, 硬化面を形成しないものがあり, 同じ条件下で形成されたものかどうかは不明である。古道跡2号と3号, 6号と7号は約100°の角度で交わるように検出されており, 古道跡が区切りとなり区画を形成しているようにもみえる。

第396図 古道跡4~7号

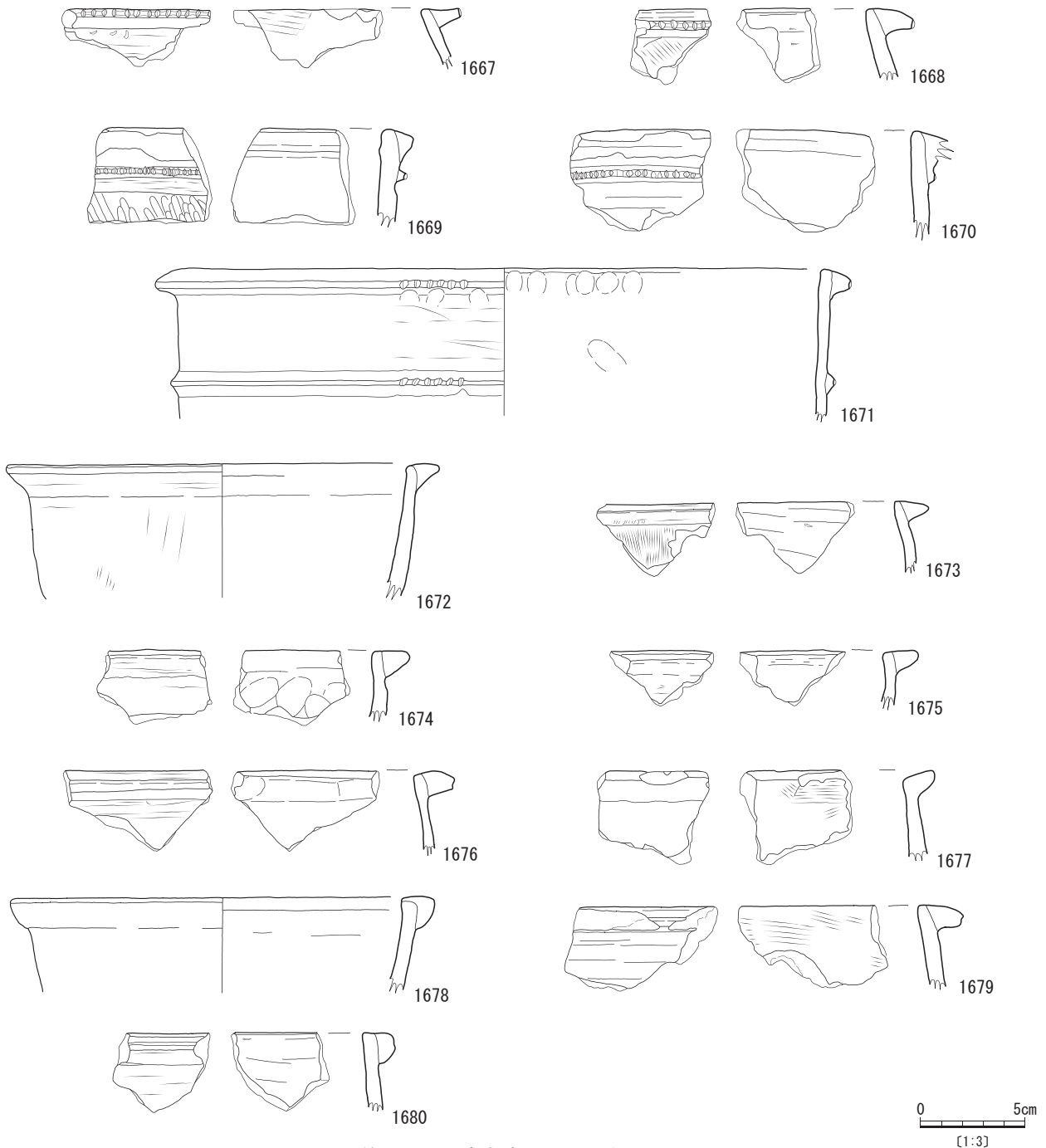
(3) 遺物

ア 概要

本遺跡において、弥生以降の遺物は、牧山1で報告しているA地点を除けば、主にB地点のⅡa層より出土しており、遺物総数は905点である。全て破片で出土しており、完形に復元できたものはない。この中から、弥生時代の土器55点、古墳時代の土器20点、中世以降の陶磁器15点、鉄製品2点の92点を図化した。

イ 弥生時代の遺物（第397～401図）

1667～1697は甕形土器で、そのうち1667～1689は甕形土器の口縁部である。1667は口縁部突帯の端をつまみ上げるように成形し、口唇部は刻目を施している。口縁部上端は平坦で、ナデの調整痕がみられる。1668は口縁部に貼り付けた突帯が下がり、刻目を施している。胴部には斜め方向にハケ目の調整がみられる。1669と1670は口縁部と胴部の三角突帯が近接し、三角突帯には刻目が施されている。内面には横ナデの調整がみられる。1671は口縁部と三角突帯との間隔がやや離れて



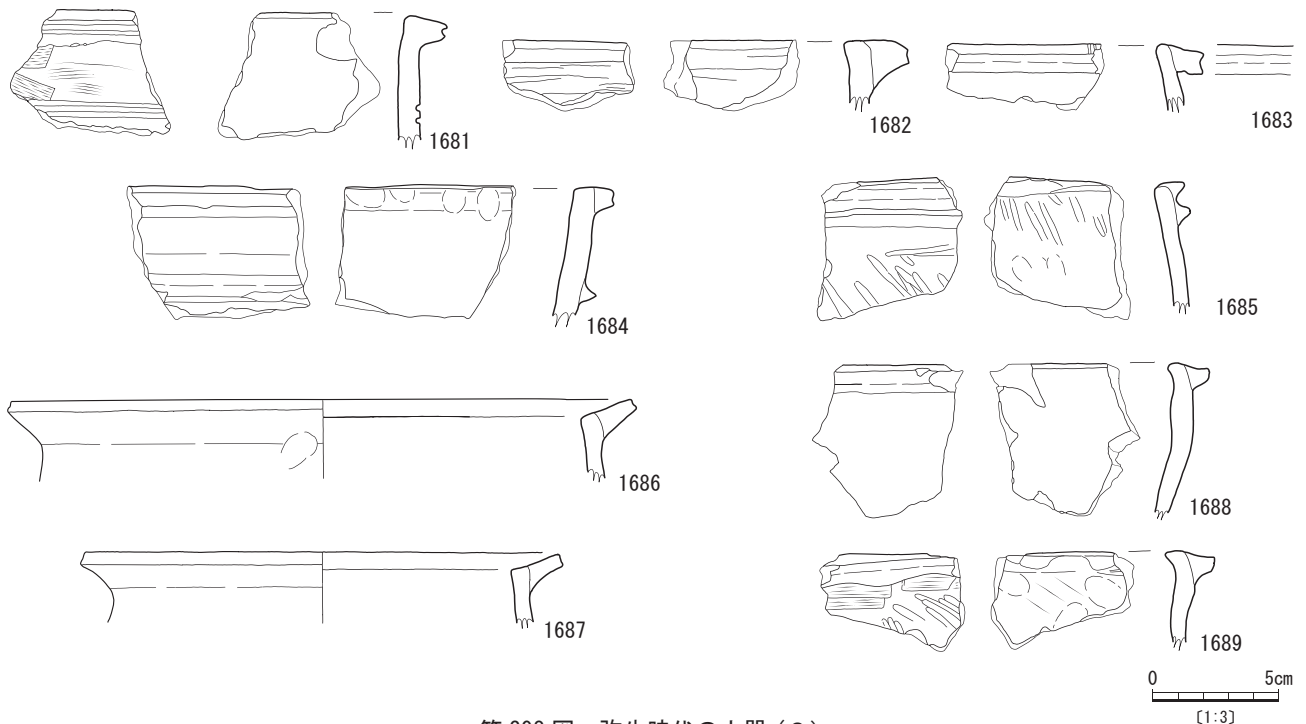
第397図 弥生時代の土器（1）

おり、どちらにもほぼ等間隔で刺突された刻目突帯を貼り付けている。1672～1675は口縁部に刻目のない三角突帯を貼り付け、水平またはやや上向いた丸みのある三角形を形成する。1676は口縁部は丸みをおびてやや下がる。成形後、口唇部に凹線を巡らせている。1677は口縁部にやや上向いた丸みのある三角突帯を巡らせている。内外面ともに横ナデで丁寧に調整されている。1678の口縁部は水平で丸みがあり、短く厚みもある。1679の口縁部は丸みを帯びてやや下がる。成形後、口唇部に凹線を巡らせている。胎土に金雲母を多く含む。1680の口縁部の断面はやや丸みを帯びた四角形で、口唇部に浅い凹線を1条巡らせている。1681の口縁部は下方に垂れ下がる三角形を呈しており、口唇部に凹線を巡らせている。口縁部下に2条の沈線が施されている。1682は口縁部がやや厚く、口唇部に凹線を巡らせている。口縁内部に浅い凹線が施されている。1683は口縁部の屈曲がきつく、他と比べ角をつくるような平らな成形の後、口唇部外端に凹線を巡らせている。胎土に多くの金雲母を含む。1684は厚手で、口唇部が浅く凹む。胴部には三角突帯が1条確認できる。外面は粗い横ナデ調整が施されている。1685は口縁部と胴部の三角突帯が近接する。口縁部上面は波うち平坦ではない。内外面ともに丁寧なミガキ調整である。1686・1687は、口縁部が「く」の字状に伸び、上方に立ち上がる。断面形状は四角形で、端部の中央部をやや凹ませるものである。胎土に金雲母を多く含む。1688・1689は鋤形に口縁部が成形されており、水平に張り出し、内面への突出が強い。口縁部上面にはナデ調整がみられ、浅く凹んでいる。

1690～1696は甕形土器の胴部から底部にかけてである。1690は直口する形状で全面が縦方向のハケ目調整である。1691は2条の三角突帯が確認できる。突帯より下部に縦方向のハケ目を施す。内面は丁寧なナデ調整である。1692は1条の三角突帯が確認できる。突帯より下部に縦・斜め方向のハケ目を施す。1693～1695は底部に向かって直線的に窄まる形状であり、器形に沿ったハケ目が施される。1696は長胴の器形をなす。内面は全体的に、外面は下部にススが付着している。

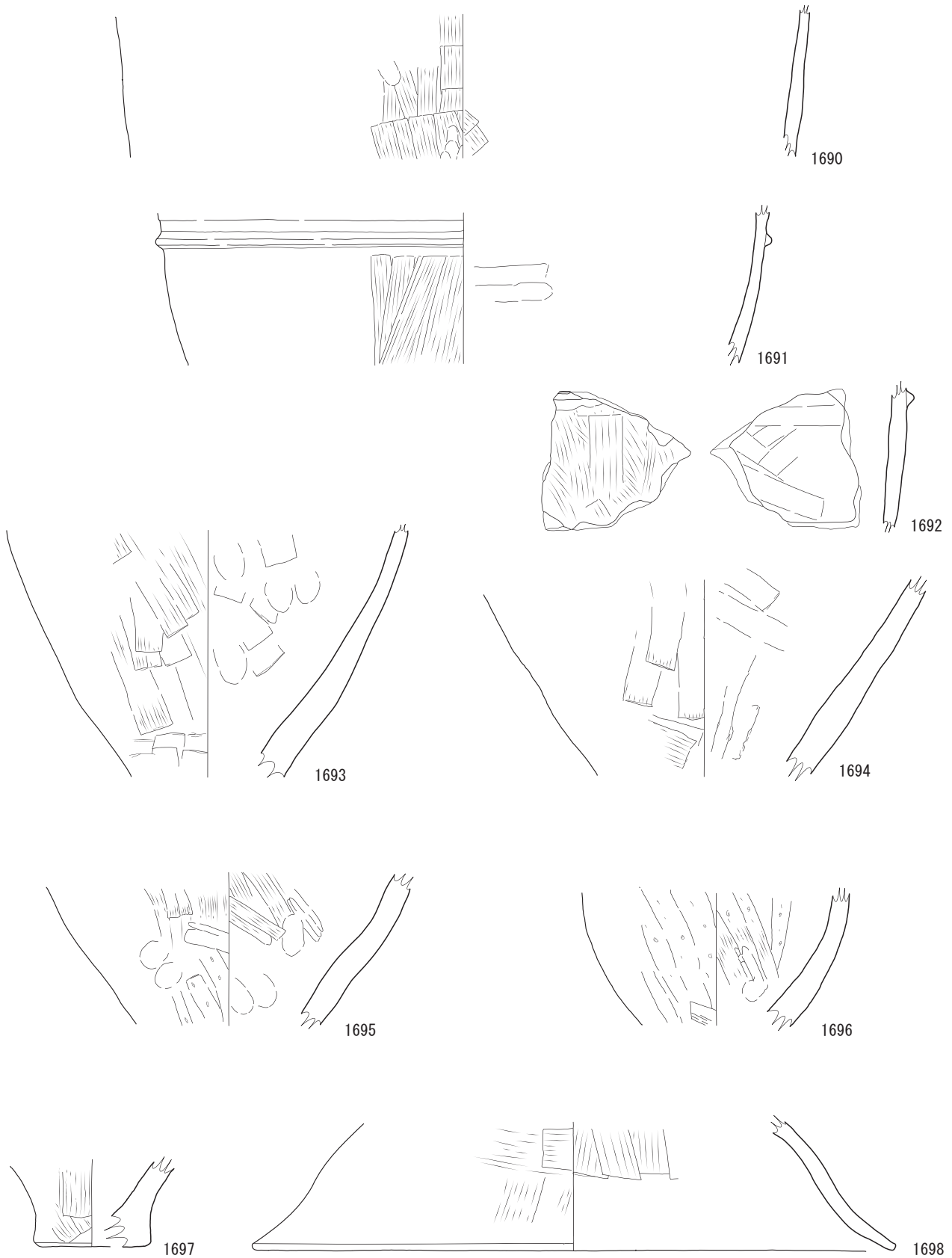
1697は甕形土器の底部である。平底で外面に縦ナデ調整がみられる。1698は甕形土器の蓋である。外面は縦のハケ目の上から横のハケ目を施し、内面上部にナデ後のハケ目による浅い段が形成される。

1699～1721は壺形土器である。1699は壺の口縁部である。頸部から口縁部にかけて外反する。1700は頸部がゆるく屈曲する球形の胴部と推定される。外面は器壁が荒れ、調整が不明瞭である。内面はナデ調整がみられ、頸部下に縦位にしぼり痕がみられる。1701は頸部から胴部にかけてである。頸部が明確な稜をもって「く」の字状に外側へ屈曲し、外面は縦のハケ目が施されている。1702は球形の胴部で内面は斜位に工具ナデ、外面に縦位のハケ目が施される。1703・1704は壺の胴部の破片である。外面にはどちらも1条の刻目突帯を横位に巡らせ、縦方向のハケ目がみられる。1705は無文の胴部である。外面は斜位のナデが施され、内面は丁寧な工具ナデがみられる。1706は長胴部の器形をなす。1707・1708は小さく刻目突帯が貼り付けられている。どちらも内面は工具ナデと指ナデがみられる。1709は胴部に



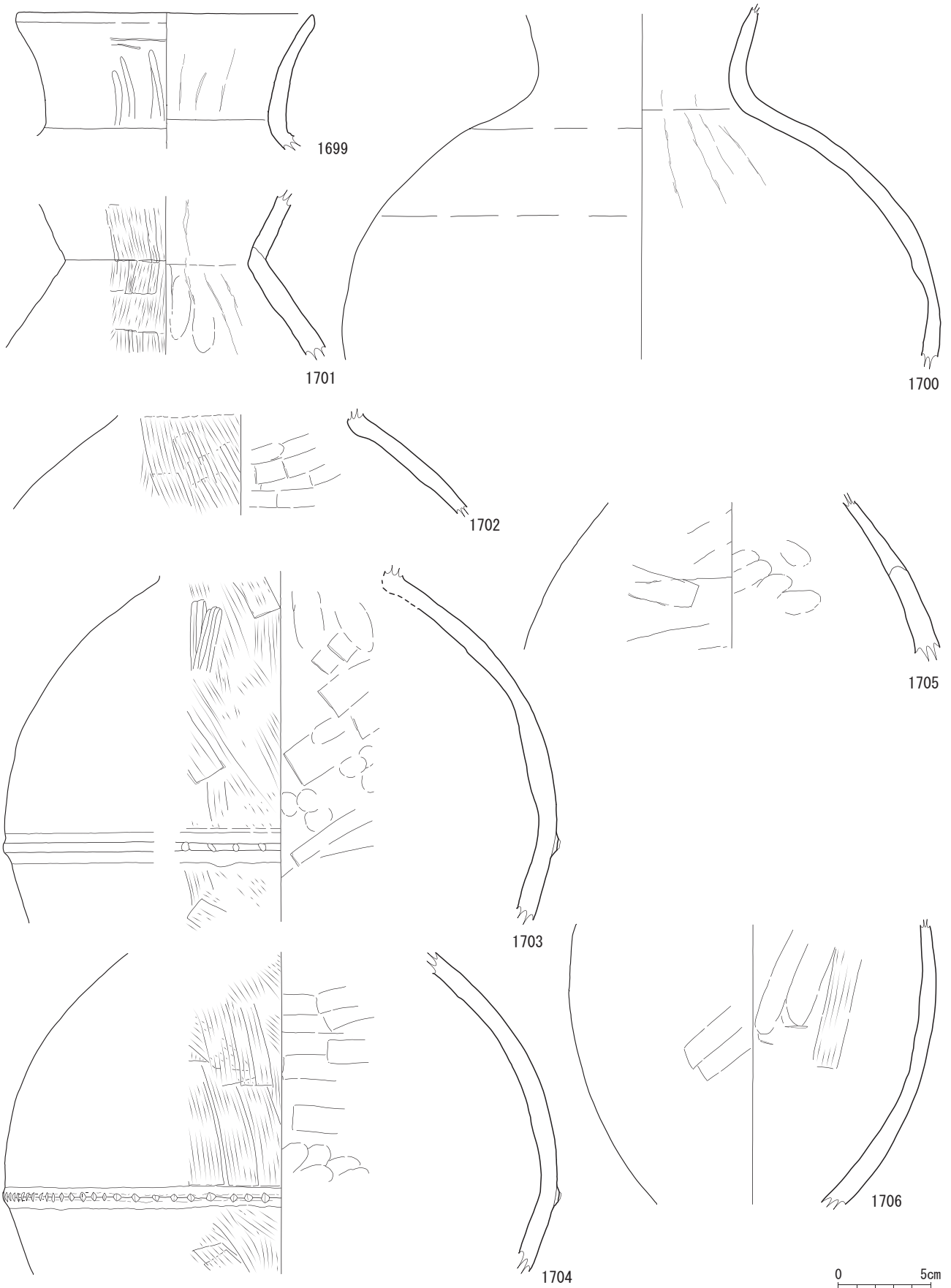
第 398 図 弥生時代の土器 (2)



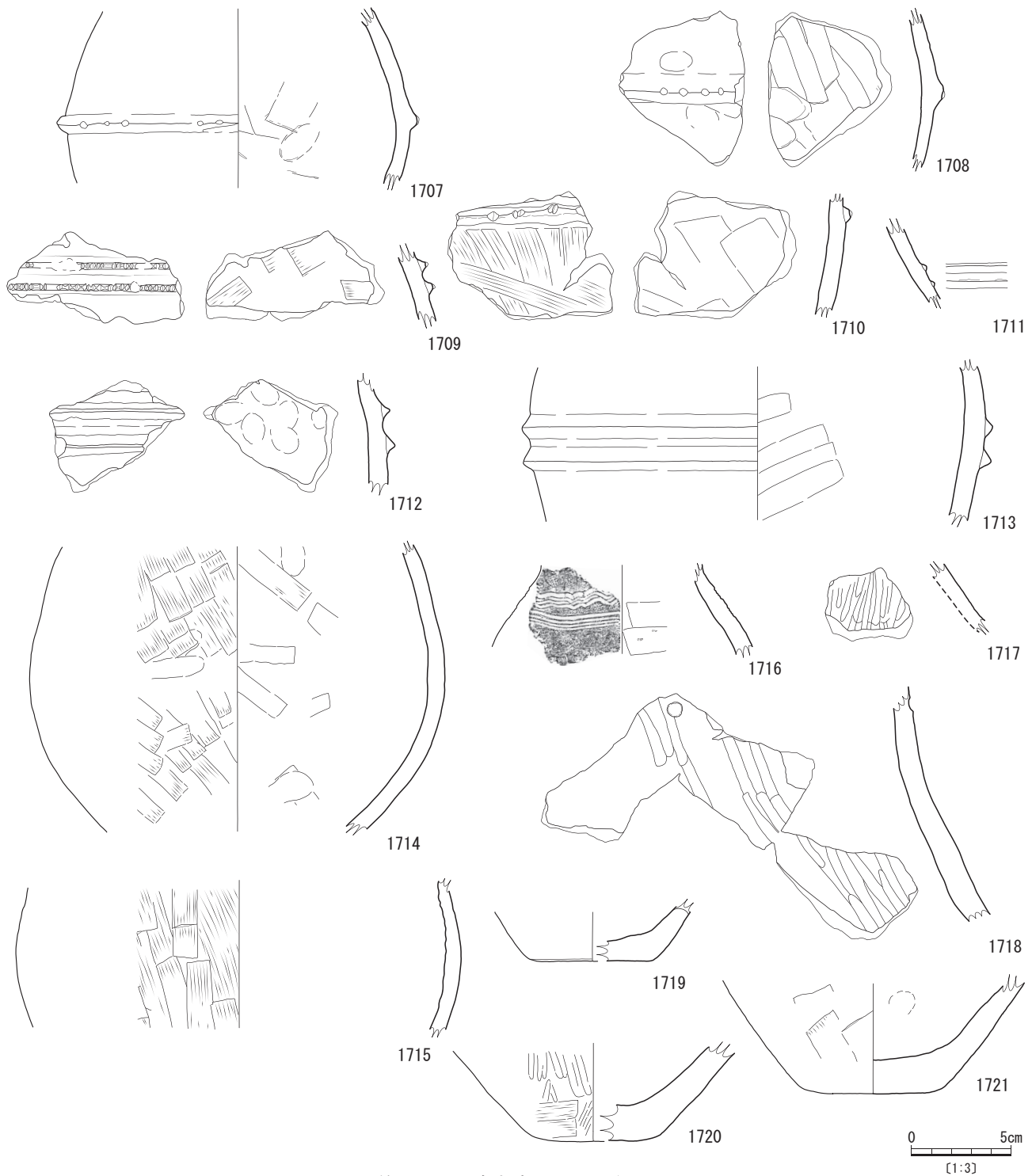


0 5cm  
[1:3]

第 399 図 弥生時代の土器 (3)



第 400 図 弥生時代の土器（4）



第401図 弥生時代の土器(5)

2条の細い刻目突帯が巡る。接着部は一部工具によるナデで調整している。1710は刻目が2つ1組で不規則に並ぶ突帯を巡らし、突帯の下部は縦のハケ目調整である。1711は低く細い突帯が2条巡る。内外面ともにナデがみられ、胎土は赤褐色である。1712・1713はそれぞれ稜のはっきりした2条の三角突帯を巡らす。外面はどちらも横ナデで調整され、内面は1712が指ナデ、1713は工具ナデで調整されている。1714・1715は無文の胴部

である。外面は1714が斜位のハケ目、1715が縦位のハケ目で調整され、内面はどちらも器面荒れはあるが、ナデ調整がみられる。1716は無頸壺の胴部である。楕状工具による波状の施文と横方向に引いた施文が1条ずつ巡る。内面は工具による横ナデの調整がみられる。1717は丹塗壺である。下から上方向に丁寧に磨き上げられ、丹が表全面に施されている。1718は丹塗壺の胴部である。器壁が厚く、外面は斜位の工具ナデ調整がみられる。

焼成後、穿孔を試みた痕がみられる。内面は粗いケズリ調整がみられる。

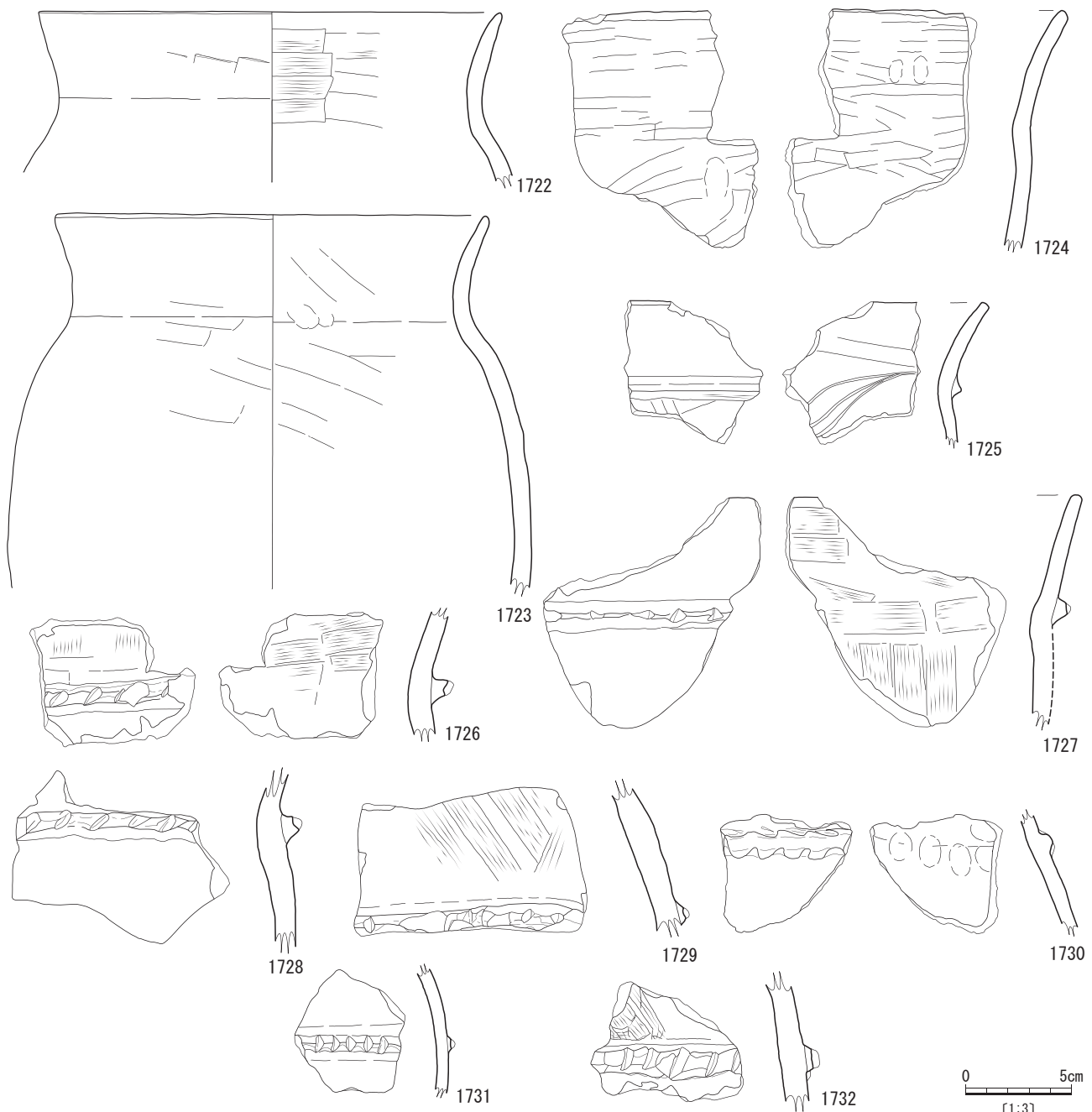
1719～1721はいずれも壺形土器の底部で平底をしており、底部からの急角度の立ち上がりが変わらないまま胴部に至り、内面の断面形は放物線状を呈する器形である。1719は内面にケズリ痕とナデ調整がみられる。1720は外面下部はナデ、上部はミガキ調整がみられ、内面にはススが付着している。

### ウ 古墳時代の遺物（第402・403図）

1722～1732は甕形土器である。

1722～1727は口縁部から胴部にかけてである。1722～1724は無文で、胴部から口縁部へ内湾しながら立ち上がり、口縁部が外反する。頸部の屈曲は弱い。1722・1723の外面には横・斜位のナデ調整が、1724は横斜方向のナデ調整と指頭圧痕がみられる。

1725は頸部から口縁部にかけて外反し、頸部に三角突帯が巡る。内面に頸部付近から斜め下にかけて、葉脈と思われる繊維の圧痕が確認できる。1726～1728は緩く口縁部が外反する器形で、頸部には等間隔に斜めに刻まれた刻目突帯を巡らす。1726は内外面ともに丁寧な工具ナデで調整されており、内面頸部下にはススの付着



第402図 古墳時代の土器（1）



がみられる。1727の内面の頸部上部は斜め方向のハケ目調整とナデ調整がみられ、頸部下部では縦位のハケ目調整とナデ調整がみられる。

1728～1732は胴部である。1728の外表面は横ナデ調整で、砂礫を多く含む。1729は器壁が厚く、外表面に断面が三角形の突帯を巡らせる。平面D字状の刻目が一定に施されている。1730・1731の外表面には断面がかまぼこ形の突帯が貼り付いており、1730は突帯の上下を指で押さえて整形している。1731は刻目突帯上部、下部に強い横ナデがみられる。1732の外表面に貼り付いている突帯は、四角く成形した後、縦に深い刻目を施している。内表面は器壁に荒れがみられるが、外表面は斜め方向の丁寧なハケ目とナデ消し調整がみられる。

1733～1736は台付甕の底部であり、内部は中空となっている。いずれも内面天井部の断面形は放物線を描き、脚部の接地面は丸みを帯びた成形である。1733～1735は器壁が厚く、特に鉢部と脚部の接合部分はさらに厚くなる。1733・1734は脚部内面にススが付着している。1733は脚部内外面ともに工具ナデで丁寧に調整している。1734は脚部外表面に指押さえのあとが多くみられ、手づくねと思われる。1735は立ち上がりから3.5cmの外表面に底部と脚部の接着部分と思われる痕跡があり、脚部外面上部は縦位に、下部は横方向にハケ目調整とナデ調整がみられ丁寧に調整している。1736は底部内面に

平坦な面をもち、ススの付着が確認できる。

1737～1739は高坏の坏部である。1737は明確な稜をもち、緩く屈曲しながら外反気味に口縁部に至る。内外表面をミガキ上げており、外表面は屈曲部より上に縦のハケ目を隙間なく施している。1738は直口気味に開き、外表面に縦、内表面に横のハケ目を施している。1739は明確な稜をもち、屈曲・外反する。内表面は丁寧にミガかれ、外表面は屈曲部より上に縦のハケ目を密に施している。

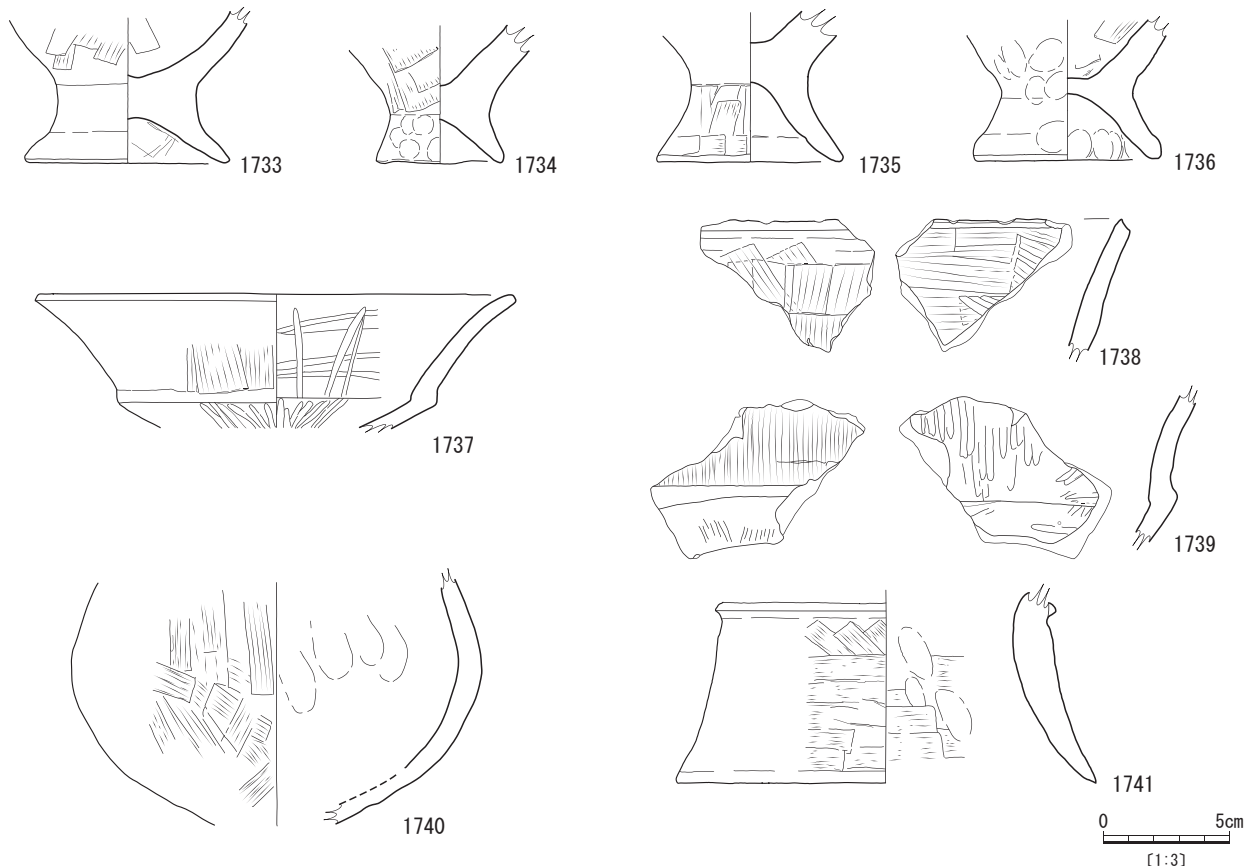
1740は埴形土器の胴部である。縦と横のハケ目を密に施し、調整がなされている。橙色の胎土で、赤色顔料の塗布はみられない。1741は高坏の脚部である。接地面に向け器壁は薄くなり、裾広がりに開いていく。内外面ともに横方向のハケ目状のナデ調整が施されている。

### エ 中世以降の遺物（第404図）

中世から近世までの遺物として、青磁、白磁、染付、薩摩焼がⅡa層包含層より出土した。掲載点数以上に出土したが、いずれも遺構に伴うものではなく、小片であったため、15点のみ掲載した。

#### 青磁

1742～1744は龍泉窯系青磁碗に比定されるものである。1742は龍泉窯系後半の碗の底部である。見込みには一重の圈線が施されている。外表面は畳付を含む全面に施釉されている。1743は龍泉窯系青磁の碗の胴部であ



第403図 古墳時代の土器（2）

り、外面に線蓮弁文が施されている。上田秀夫氏の分類（上田 1982）によると 15～16 世紀頃の所産と想定される。1744 は青白磁碗の胴部である。外面には蓮弁文が施されており、15～16 世紀頃の資料と思われる。

**白磁**

1745 は皿の口縁部から底部付近である。森田勉氏の白磁分類（森田 1982）の E 類（15 世紀中頃～16 世紀中頃）に該当する。全面施釉されているが、外面胴下部は露胎している。1746 は碗で口縁部が肥厚し、玉縁状になるもので、大宰府分類の白磁碗 IV 類（玉縁碗：11 世紀後半～12 世紀前半）である。

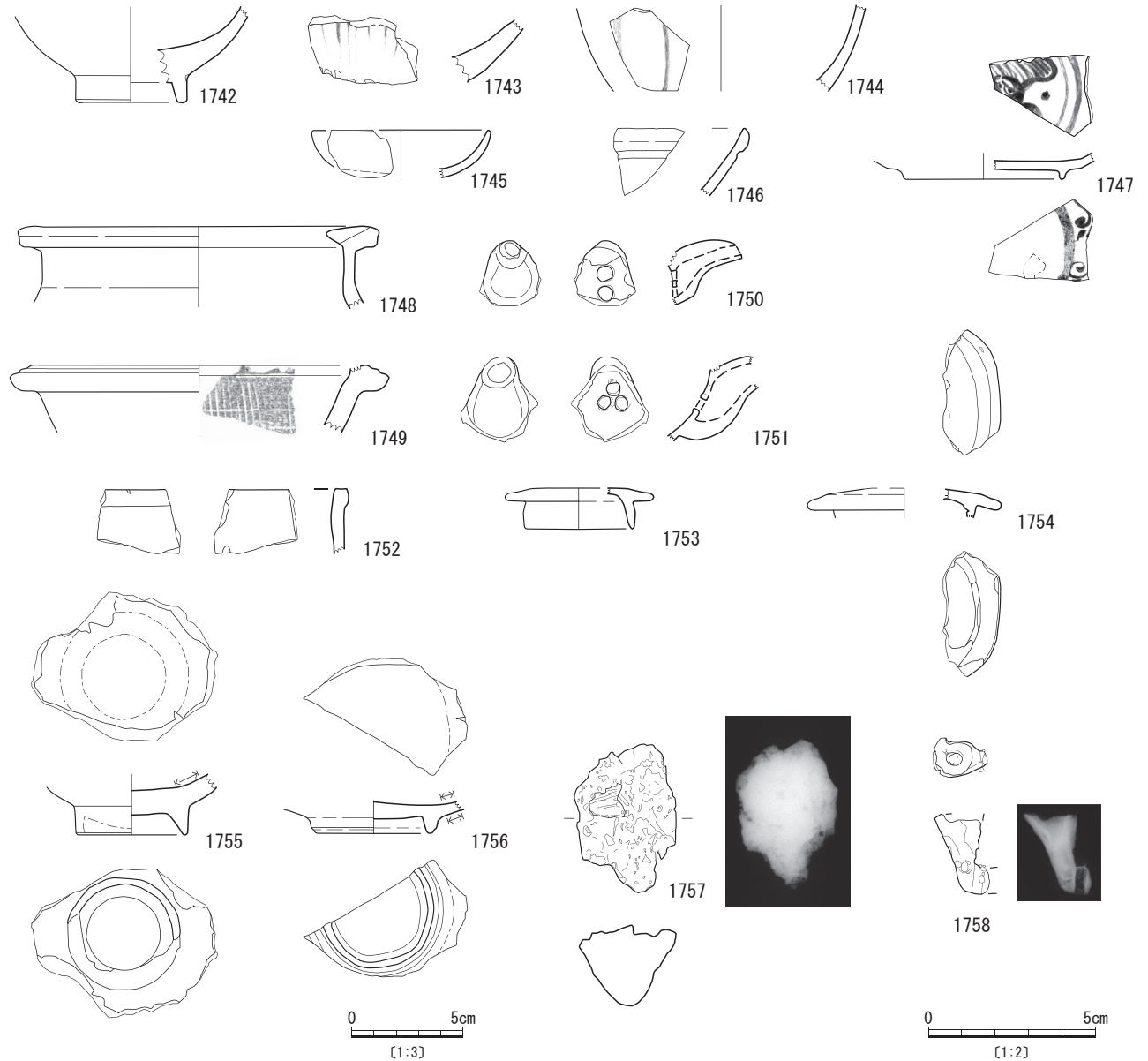
**染付**

1747 は皿の底部である。小野正敏氏の染付分類（小野 1981）の B 群（14 世紀後半～15 世紀中頃）に該当する。

外面に唐草文、見込みに二重の圏線の内側に獅子が描かれている。畳付は露胎しており、砂粒が付着している。

**薩摩焼**

1748 は薩摩焼苗代川系の甕である。口縁部は「T」字状を呈し、外側から内側に折り返してつくられる。口唇部はやや丸みを帯び、貝目が残る。口唇部の外側は溝状に凹む。1749 は薩摩焼苗代川系の播鉢である。口縁部を外側に折り返して肥厚させ、口唇部には 2 条の沈線を巡らせる。1750 は急須の注口である。茶止め穴は二穴ある。1751 は土瓶の注口で、茶止め穴は三穴ある。1752 は薩摩焼苗代川系の土瓶の口縁部である。口縁部が肥厚し、口唇部は平坦である。1753 は土瓶蓋で、大きく欠損している。1754 は薩摩焼苗代川系の土瓶蓋である。上面に暗灰黄釉がかかる。大きく欠損している。



第 404 図 陶磁器・金属製品

1755 は薩摩焼龍門寺系の碗であり、内外面ともに鉄釉がかかる。畳付から高台内底は露胎し、見込みには蛇の目釉剥ぎが施されている。1756 は皿の底部である。見込みは釉剥されている。高台脇から高台内底は露胎する。

オ 金属製品 (第 404 図)

Ⅱ a 層から、古代以降と想定される金属製品が 2 点出土した。

1757 は E -28 区、Ⅱ a 層で出土した鉄滓 (炉内滓) と思われる。木の繊維のような痕跡が認められる。磁力反応はない。1758 は E -28 区、Ⅱ a 層で出土した煙管の雁首の部分と推測される。鉄さびに覆われ、一部破損

している。

参考文献

上田秀夫 1982 「14～16 世紀の青磁器の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会  
 小野正敏 1981 「15, 16 世紀の染付碗, 皿の分類とその時代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会  
 森田勉 1982 「14～16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

第 108 表 古墳時代土坑出土土器観察表

備考欄: 計測値の単位は cm, ( ) 内は復元値

挿図番号	掲載番号	遺構番号	器種	区	埋土	部位	主文様		胎土						色調				備考	取上番号	
							外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			取上番号
387	1665	1	甕	E29, F30	1	口縁～胴	刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ	横斜ハケ目	◎	○	△		○	△	砂礫△	7.5YR4/4	褐	7.5YR5/4	褐	口径: (40.6)	2322 他
	1666	2	甕	E27～29	1	胴	縦ハケ目	剥落 (斜ハケ目)	◎	○	△			△	褐色砂粒○ 灰色砂粒○	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR6/3	にぶい黄橙		2314 他

第 109 表 弥生時代土器観察表①

備考欄: 計測値の単位は cm, ( ) 内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調				備考	取上番号		
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面	内面	備考			取上番号	
397	1667	甕	G19	Ⅱ a	口縁	横工具ナデ	横工具ナデ	○		△		△			10YR6/4	にぶい黄橙	7.5YR6/4	にぶい橙	口唇: 刻目	19767	
	1668	甕	C31	攪乱	口縁	斜ハケ目	横ナデ	○				△		砂礫△	5YR3/1	黒褐	5YR5/6	明赤褐	スス 口唇: 刻目	一括	
	1669	甕	G32	Ⅱ b	口縁	刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ	横ナデ	○		△	△			砂礫○	10YR5/3	にぶい黄褐	10YR4/3	にぶい黄褐		9348	
	1670	甕	G32	Ⅱ b	口縁	刻目突帯・横ナデ・斜ハケ目	横ナデ	△				○	△	砂礫○	10YR4/3	にぶい黄褐	10YR4/6	褐		9347 他	
	1671	甕	G31・32	Ⅱ b	口縁	刻目突帯・横工具ナデ・指オサエ	横ナデ・指オサエ	○	△	△				△	10YR6/6	明黄褐	10YR5/6	黄褐	スス 口唇: 刻目 口径: (33.0)	9342 他	
	1672	甕	D12, E15	Ⅱ a・b	口縁	横ナデ・縦ミガキ	横ナデ	○					○	△	褐色砂粒△ 砂礫△	7.5YR6/8	橙	7.5YR6/4	にぶい橙	口径: (20.5)	8771 他
	1673	甕	H24	Ⅱ a	口縁	縦ハケ目	横斜ナデ	○				△		△	7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR4/4	褐		一括	
	1674	甕	C12	Ⅱ b	口縁	横ナデ	横ナデ・指オサエ	○		△	○			砂礫△	10YR5/6	黄褐	7.5YR6/6	橙		44829	
	1675	甕	C12	Ⅱ a	口縁	横ナデ	横ナデ	△			△	△		砂礫△	5YR5/8	明赤褐	7.5YR5/8	明褐		44825	
	1676	甕	E4	Ⅱ b	口縁	横斜ナデ	横工具ナデ・指オサエ	○				○		砂礫○	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐	スス 口唇: 凹線	44644	
	1677	甕	C12	Ⅱ b	口縁	横工具ナデ	横工具ナデ	○	△	△	△		△	褐色砂粒△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/3	にぶい橙		44823	
	1678	甕	D15	Ⅱ a	口縁	横斜ナデ	横工具ナデ	○				○	○	△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		一括	
	1679	甕	C8	Ⅱ b	口縁	横工具ナデ	縦ナデ・斜ハケ目	○				◎	△	砂礫△	7.5YR4/4	褐	5YR5/4	にぶい赤褐	口唇: 凹線	42352	
	1680	甕	C12	Ⅱ b	口縁	横ナデ	横ナデ	○	△	△	○	△		砂礫○	5YR4/6	赤褐	5YR4/6	赤褐	口唇: 凹線	44828	
	398	1681	甕	C31	Ⅱ a	口縁	沈線・横工具ナデ	横ナデ	○	△	△	○	△	砂礫△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/4	にぶい橙	口唇: 凹線	3021	
		1682	甕	D15	Ⅱ a	口縁	横ナデ	横ナデ	○		△	○	△	△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR5/4	にぶい赤褐	口唇: 凹線	一括	
1683		甕	C7	I	口縁	沈線・横ナデ	横ナデ	△				◎	△	5YR3/6	暗赤褐	5YR4/6	赤褐	口唇: 凹線	一括		
1684		甕	D9	Ⅱ b	口縁	突帯・横ナデ	横ナデ・指オサエ	○		△	△			褐色砂粒○ 砂礫○	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	口唇: 凹線	48747	
1685		甕	B23	Ⅱ a	口縁	突帯・横斜ミガキ	縦ミガキ	○		△		△	△	7.5YR4/4	褐	2.5Y3/3	暗オリーブ褐		17236		
1686		甕	C30～31 B30, D31	Ⅱ・Ⅱc	口縁	横ナデ	横ナデ	△				◎	△	△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR6/4	にぶい橙	スス 口唇: 凹線 口径: (24.9)	Mトレ 17 6582	
1687		甕	D31	攪乱	口縁	横ナデ	横工具ナデ	△				◎	△	△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐	口径: (19.0)	一括
1688		甕	C9	Ⅱ b	口縁～胴	横工具ナデ・斜ナデ	横斜ナデ・指オサエ	△					△	△	砂礫△	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙		42493 他

第110表 弥生時代土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面		
398	1689	甕	B11	II b	口縁	横工具ナデ・斜ミガキ	横ナデ・指オサエ	△		△		△	砂礫△	7.5YR4/1	褐灰	7.5YR5/2	灰褐		44787	
399	1690	甕	E29	II a・b	胴	縦ハケ目	摩滅	○	△				砂礫◎	7.5YR3/1	黒褐	7.5YR3/1	黒褐		2319 他	
	1691	甕	E30・31	II a	胴	突帯・横ナデ・縦ハケ目	横斜ナデ	○	△	△	△			7.5YR6/6	橙	7.5YR5/3	にぶい褐		2618 他	
	1692	甕	C32	II a	胴	突帯・縦斜ハケ目	横斜工具ナデ	○	△	△	○	△	砂礫△	7.5YR4/2	灰褐	7.5YR5/4	にぶい褐		3006	
	1693	甕	C32	II a	胴	縦斜ハケ目	斜工具ナデ・指オサエ	○	△	△		△	砂礫○	5YR4/6	赤褐	5YR5/8	明赤褐	スス	2246 他	
	1694	甕	D30	II a	胴	横縦ハケ目	斜ナデ	○	△	△		△		7.5YR6/6	橙	7.5YR4/2	灰褐	コゲ	2626	
	1695	甕	C27・28 D27	II a	胴	縦ナデ・縦工具ナデ	斜ハケ目・指オサエ	○	△	△		△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/3	にぶい褐		2459 他	
	1696	甕	C31	II a	胴	縦ナデ	縦ナデ	○	△			△	砂礫△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/1	褐灰	コゲ	3002	
	1697	甕	C11	II c	底	ナデ	摩滅	◎	△			△	砂礫○	5YR5/8	明赤褐	5YR6/6	橙	底径：(6.2)	44924	
1698	蓋	E32	II a	口縁	横ナデ・横縦ハケ目	横ナデ・縦ハケ目	○	△			○	△	10YR6/6	明黄褐	10YR7/6	明黄褐	口径：(34.0)	2399		
400	1699	壺	D31	II a	口縁	沈線・丁寧な横ナデ・縦ミガキ	横縦ナデ	△		△		△	5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙	口径：(16.1)	2958		
	1700	壺	F9	II a	頸～胴	摩滅	摩滅(ナデ)	○	△	○	△	△	砂礫○	7.5YR6/8	橙	10YR5/6	黄褐		24531	
	1701	壺	C32	II a	頸	縦ハケ目	摩滅(指オサエ)	○	△	△		△	砂礫△	5YR5/6	明赤褐	5YR5/6	明赤褐		2233	
	1702	壺	C32	II a・攪乱	肩	縦ハケ目	縦工具ナデ・横ナデ	○	△		○	△		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/4	にぶい赤褐		3004 他	
	1703	壺	B～D28 ～36, C32	II a・b・攪乱	胴	刻目突帯・縦斜ハケ目	縦斜工具ナデ	○		△	△	○		7.5YR5/3	にぶい褐	7.5YR4/3	褐		2232 他	
	1704	壺	C32	II a・b	胴	刻目突帯・縦斜ハケ目	横ナデ・横工具ナデ・指オサエ	○	△	△	△	○		5YR4/4	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐		2237 他	
	1705	壺	C33	II a	胴	摩滅(斜ナデ)	縦工具ナデ	△	△		△		砂礫△	5YR4/6	赤褐	5YR5/6	明赤褐		2253	
	1706	甕	E28	II a	胴	摩滅	縦斜ナデ・縦斜工具ナデ	○		△		○	△	砂礫△	7.5YR6/4	にぶい橙	5YR5/6	明赤褐	コゲ	2475 他
401	1707	壺	E28	II a	胴	摩滅(刻目突帯)	斜工具ナデ・ナデ・指オサエ	○		△		△	砂礫○	5YR6/4	にぶい橙	5YR5/4	にぶい赤褐		2487 他	
	1708	壺	E28	II a	胴	摩滅(刻目突帯)	横斜工具ナデ・ナデ	○		△	△	△	砂礫○	7.5YR6/3	にぶい褐	5YR5/6	明赤褐		2476	
	1709	壺	G31	II a・b	胴	刻目突帯・横ナデ・工具ナデ	摩滅	○	△		○	△	砂礫△	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR5/4	にぶい褐		一括	
	1710	壺		II	頸～胴	刻目突帯・縦斜ハケ目	斜工具ナデ	○	△			△	砂礫○	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR5/3	にぶい褐		Mトレ 19 他	
	1711	壺	F18	II a	肩	突帯・横ナデ・横ミガキ	横ナデ・横ミガキ	◎	△		△	△		5YR4/6	赤褐	5YR4/6	赤褐		20145	
	1712	壺	D15	II a	胴	突帯・横ナデ	横ナデ・指オサエ	△			△	△		褐色砂粒△	7.5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	スス	一括
	1713	壺	E17	II a	胴	突帯・横工具ナデ	摩滅	○		△	△	△		砂礫△	7.5YR4/3	褐	7.5YR5/6	明褐		29739
	1714	壺	E32, F22	II b・攪乱	胴	斜ハケ目	斜ナデ・斜工具ナデ・指オサエ	○		△		△	△	砂礫△	5YR6/6	橙	5YR6/8	橙		9310 他
	1715	壺	F32	II b・攪乱	胴	縦ハケ目	摩滅(横ナデ)	○	△	△				砂粒○	5YR6/6	橙	5YR6/6	橙		9313 他
	1716	壺	B5	II a	胴	柳描文・縦ナデ	横縦ナデ	○	△	△		△	砂礫△	2.5YR4/2	灰赤	2.5YR6/8	橙		37808	
	1717	壺	E6	II a	胴	縦ミガキ	剥落	○	△		△	△		2.5YR5/6	明赤褐	5YR6/4	にぶい橙	丹塗り	24439	
1718	壺	D34	II c	胴	摩滅(縦ミガキ)	摩滅(ケズリ)	○	○			○	○	砂礫○	5YR6/4	にぶい橙	5YR6/4	にぶい橙	赤色顔料	7895 他	
1719	壺	B10	II a	底	縦ナデ	摩滅(ナデ・ケズリ)	○	△	△		△	△	砂礫○	5YR5/8	明赤褐	7.5YR6/4	にぶい橙	底径：(6.0)	44064	
1720	壺	E30	II b	底	縦ミガキ・粗い横ミガキ	コゲ付着(斜ナデ)	○	△		△	△		砂礫△	7.5YR6/4	にぶい橙	7.5YR3/1	黒褐	コゲ 底径：(6.6)	6391	
1721	壺	D27	II a	底	摩滅(斜工具ナデ)	摩滅(指オサエ)	◎		△	△			砂礫◎	7.5YR5/4	にぶい褐	7.5YR4/4	褐	底径：6.6	2383 他	

第111表 古墳時代土器観察表①

備考欄：計測値の単位はcm、()内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上番号			
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面		
402	1722	甕	D27	II a・b	口縁	摩滅(横斜ナデ)	横ハケ目	○	△	△			△	砂礫△	10YR6/3	にぶい黄橙	7.5YR6/6	橙	口径：(21.7)	2595 他
	1723	甕	D27	II b	口縁～胴	摩滅(横斜ナデ)	摩滅(横ナデ・横工具ナデ)	△	△	△			○	7.5YR6/3	にぶい褐	7.5YR6/4	にぶい橙	口径：(20.2)	2432 他	
	1724	甕	F17	II a	口縁～胴	横斜ナデ	横斜ナデ	△					△	砂礫○	5YR5/6	明赤褐	7.5YR5/6	明褐		22943 他



第112表 古墳時代土器観察表②

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	器種	区	層位	部位	主文様・調整		胎土						色調		備考	取上番号		
						外面	内面	石英	長石	角閃石	雲母	白色砂粒	黒色砂粒	他	外面			内面	
402	1725	甕	C30	攪乱	口縁～頸	突帯・縦ハケ目・横工具ナデ	横ナデ・横工具ナデ	○	△			△		10YR5/4	にぶい黄褐	10YR6/4	にぶい黄橙	繊維圧痕	一括
	1726	甕	E28・29	II a	頸	刻目突帯・横ナデ・縦工具ナデ	横工具ナデ	○	△	△		△	砂礫△	7.5YR7/4	にぶい橙	7.5YR6/6	橙		2493 他
	1727	甕	D27	II b	口縁～胴	摩滅(刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ)	横縦ハケ目	○	△	△		△	砂礫◎	10YR4/2	灰黄褐	10YR5/4	にぶい黄褐		4850
	1728	甕	E29	II a	胴	刻目突帯・横ナデ	縦ハケ目	○	△				砂礫◎	10YR6/4	にぶい黄橙	10YR5/4	にぶい黄褐	スス	2316
	1729	甕	C32	II a	胴	刻目突帯・横ナデ・縦ハケ目	摩滅(斜ハケ目)	○	△	△		△	砂礫○	7.5YR4/6	褐	7.5YR4/6	褐		3011
	1730	甕	F32	II a	口縁	刻目突帯・縦ナデ	縦ナデ・指オサエ	○	△	△		△		2.5YR7/4	淡赤橙	5YR4/2	灰褐		一括
	1731	甕	F29	II b	胴	刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ	剥落(横ナデ)	△	△	△			褐色砂粒△	7.5YR8/6	浅黄橙	7.5YR7/4	にぶい橙		一括
	1732	甕	E29	II b	胴	刻目突帯・縦ハケ目・横ナデ	剥落	○	△			△	褐色砂粒△	5YR5/4	にぶい赤褐	5YR6/2	灰褐		4720
403	1733	甕	B・C28	攪乱	脚	横縦ナデ・縦工具ナデ	横工具ナデ	○	△		◎	○		5YR4/6	赤褐	5YR5/6	明赤褐	脚内：横ナデ・縦工具ナデ	一括
	1734	甕	C32	II b	脚	縦工具ナデ・指オサエ	横工具ナデ	△	△		△	砂礫○	7.5YR5/6	明褐	7.5YR5/6	明褐	脚内：ナデ・指オサエ 底径：(5.1)	5287	
	1735	甕	D31	II a	脚	横縦ハケ目・横ナデ	縦ナデ	△	△	△		△		5YR4/6	赤褐	5YR4/6	赤褐	脚内：横縦ナデ 底径：(7.4)	2953
	1736	甕	E28	II a	脚	横縦ナデ・指オサエ	縦工具ナデ	○	△	△		△	砂礫○	5YR6/4	にぶい橙	5YR5/4	にぶい赤褐	スス 脚内：横縦ナデ・指オサエ 底径：(7.4)	2499
	1737	高坏	C28	II a・攪乱	口縁	横縦ハケ目・粗い縦ミガキ	横縦ミガキ	○	△		△	△		5YR4/3	にぶい赤褐	5YR4/6	赤褐	底径：(18.8)	2861 他
	1738	高坏	C33	攪乱	口縁	縦ハケ目・横ナデ	横ハケ目	△	△			△	砂礫△	2.5YR5/6	明赤褐	5YR6/6	橙		一括
	1739	高坏	C28	II a	胴	横ナデ・縦ハケ目	縦ミガキ	○	△		○			5YR6/8	橙	10YR6/4	にぶい黄橙		2865
	1740	埴	E28	II a	胴	縦斜ハケ目	指オサエナデ	△	△				砂礫○	5YR5/8	明赤褐	7.5YR6/6	橙		2544 他
1741	高坏	D19	II b	脚	横斜工具ナデ	横ナデ・横工具ナデ	○				△	△		2.5YR4/6	赤褐	2.5YR5/6	明赤褐	底径：(16.5)	16796

第113表 陶磁器観察表

備考欄：計測値の単位はcm, ( )内は復元値

挿図番号	掲載番号	区	層位	種別	分類	器種	部位	胎土色調	胎土色調	釉薬種類	釉薬色調	釉薬色調	施釉部位	文様	産地	時期	備考	取上番号
404	1742	E17	埋土2	青磁	青磁	碗	底	N8/	灰白	青磁釉	10Y5/2	オリーブ灰	残存部全面	見込みに 圏線	中国	中世	底径：3.0	4572
	1743	-	I	青磁	青磁	碗	胴	7.5Y7/1	灰白	青磁釉	10Y6/2	オリーブ灰	残存部全面	線蓮弁	中国	中世		一括
	1744	-	I	青磁	青磁	碗	胴	7.5Y8/1	灰白	青磁釉	10GY7/1	明緑灰	残存部全面	蓮弁文	中国	中世		-
	1745	F16	攪乱	白磁	白磁	皿	口縁	7.5Y8/1	灰白	白磁釉	7.5Y8/1	灰白	外面胴下部無釉		中国	中世	口径：(8.0)	-
	1746	C12	II a	白磁	白磁	碗	口縁	10Y8/1	灰白	白磁釉	7.5Y7/1	灰白	残存部全面		中国	中世	玉縁口縁	44832
	1747	G23	攪乱	染付	染付	皿	底	2.5Y7/1	灰白	透明	7.5GY8/1	明緑灰	残存部全面		中国	近世～	底径：(7.0)	-
	1748	C19	II a	陶器	薩摩焼	甕	口縁	10R5/1	赤灰		10YR3/2	黒褐	残存部全面		苗代川系	近世～	口径：(16.0)	15693
	1749	B20	II b	陶器	薩摩焼	掃鉢	口縁	2.5YR5/4	にぶい赤褐		10Y3/2 2.5YR2/3	オリーブ黒(外) 極暗赤褐(内)	残存部全面		苗代川系	近世～	口径：(17.0)	16954
	1750	E21	I	陶器	薩摩焼	急須	注口	10YR5/3	にぶい黄褐		10YR4/3	にぶい黄褐	外面残存部全面		薩摩焼	近世～		一括
	1751	B19	II b	陶器	薩摩焼	土瓶	注口	10YR3/3	暗褐		7.5YR3/3 7.5YR3/1	暗褐(外) 黒褐(内)	残存部全面(部分的に無釉)		薩摩焼	近世～		16763
	1752	E16	II a	陶器	薩摩焼	土瓶	口縁	5YR5/6	明赤褐		10YR4/4	褐	外面残存部全面		苗代川系	近世～		一括
	1753	D20	II a	陶器	薩摩焼	土瓶の蓋	蓋上面	5YR5/2	灰褐		7.5Y3/2	オリーブ黒	蓋の上面		薩摩焼	近世～		一括
	1754	G32	II a	陶器	薩摩焼	土瓶の蓋	蓋上面	5YR6/4	にぶい橙		2.5Y4/2	暗灰黄	蓋の上面		苗代川系	近世～	口径：(6.6)	一括
	1755	B20	II a	陶器	薩摩焼	碗	底部	2.5YR6/6	橙		7.5YR4/1	褐灰	量付～高台内面・見込み輪状釉剥ぎ		龍門司	近世～	底径：(5.0)	15919
	1756	F25	II b	陶器	薩摩焼	皿	底部	2.5Y7/3	浅黄		2.5Y7/3	浅黄	見込みと胴下部～底面無釉		薩摩焼	近世～	底径：(5.2)	13842

第114表 金属製品観察表

挿図番号	掲載番号	区	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	取上番号
404	1757	E22	II a	鉄滓	4.4	2.9	2.2	36.9		26275
	1758	E28	II a	煙管	2.8	1.2	1.4	3.8		2541

## 第V章 自然科学分析

### 第1節 分析の概要

牧山遺跡における科学分析は、発掘調査から報告書作成時の現段階に至るまでに、各種・各時代に関して実施してきた。報告書刊行が分冊形式で刊行されるため、これらの分析結果に関しても、所属する時期別に掲載することとした。なお、今回は縄文時代前期以降編であるため、該当する時期の遺物に関して掲載する。

### 第2節 牧山遺跡の放射性炭素年代測定 1

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教

廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtavidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

#### 1 はじめに

鹿児島県鹿屋市に位置する牧山遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

#### 2 試料と方法

試料は、G-22区の土坑7号から出土した炭化材（No.1: PLD-28413）、B-22区の土器集中部4号から出土した縄文土器深鉢の底部内面付着炭化物（No.2: PLD-28415）、貯蔵穴から出土した炭化種実（No.3: PLD-28416）の計3点である。炭化材であるNo.1は最終形成年輪は残っていなかった。また発掘調査所見では、土坑7号と貯蔵穴は縄文時代後期～晩期と考えられ、土器集中部4号の縄文土器深鉢は縄文時代後期の磨消縄文系と考えられている。測定試料の情報、調製データは第115表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS: NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

#### 3 結果

第116表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代を、第405図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$ 年代（yrBP）の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその $^{14}\text{C}$ 年

代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い（ $^{14}\text{C}$ の半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$ 年代の暦年較正にはOxCal4.2（較正曲線データ: IntCal13）を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

#### 4 考察

以下、 $2\sigma$ 暦年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。また縄文土器と $^{14}\text{C}$ 年代や暦年代範囲の対応関係については、小林（2008）、工藤（2012）、水ノ江（2008）、新東（2008）を参照した。

土坑7号のNo.1（炭化材: PLD-28413）は、 $^{14}\text{C}$ 年代が3305 $\pm$ 20yrBP、暦年代範囲が1633-1517 cal BC(95.4%)であった。土器集中部4号のNo.2（土器付着炭化物: PLD-28415）は、 $^{14}\text{C}$ 年代が3280 $\pm$ 20 yr BP、暦年代範囲が1614-1507 cal BC(95.4%)であった。また、貯蔵穴1号のNo.3（炭化種実: PLD-28416）は、 $^{14}\text{C}$ 年代が3255 $\pm$ 20 yr BP、暦年代範囲が1611-1496 cal BC(91.7%)および1475-1461 cal BC(3.7%)であった。これらは、縄文時代後期中葉に相当する。土坑7号および貯蔵穴は、発掘調査所見では縄文時代後期～晩期と考えられており、測定結果と整合的である。またNo.2の縄文土器深鉢は縄文時代後期の磨消縄文系と考えられており、測定結果と土器形式は整合的である。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.
- 工藤雄一郎 (2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史—高精度放射性炭素年代測定と考古学—. 373p, 神泉社.
- 水ノ江和同 (2008) 九州磨消縄文系土器. 小林達夫編「総覧 縄文土器」: 666-673, アム・プロモーション
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C

年代」：3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haffidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards,

D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50, 000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

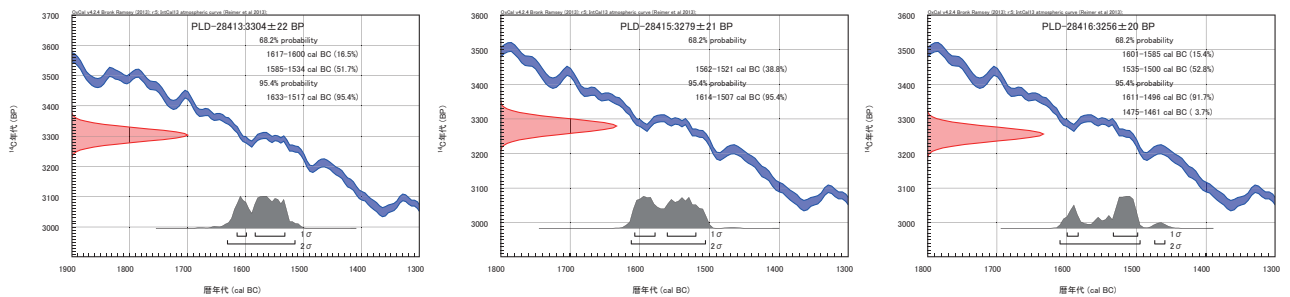
新東晃一 (2008) 早期南九州貝殻文系土器. 小林達夫編「総覧 縄文土器」：186-193, アム・プロモーション.

第115表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-28413	試料 No. 1 調査区：G22 区 遺構：土坑 7 号	種類：炭化材 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）
PLD-28415	試料 No. 2 調査区：B22 区 遺構：土器集中部 4 号 遺物 No. 18409	種類：土器付着炭化物 型式：縄文時代後期・磨消縄文系 器種：深鉢 採取部位：底部内面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：0.1N, 塩酸：1.2N）
PLD-28416	試料 No. 3 遺構：貯蔵穴 1 号	種類：炭化種実 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1.0N, 塩酸：1.2N）

第116表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-28413 土坑 7 号 試料 No. 1	-27.63 $\pm$ 0.22	3304 $\pm$ 22	3305 $\pm$ 20	1617-1600 cal BC (16.5%) 1585-1534 cal BC (51.7%)	1633-1517 cal BC (95.4%)
PLD-28415 土器集中部 4 号 試料 No. 2	-26.39 $\pm$ 0.20	3279 $\pm$ 21	3280 $\pm$ 20	1609-1580 cal BC (29.4%) 1562-1521 cal BC (38.8%)	1614-1507 cal BC (95.4%)
PLD-28416 貯蔵穴 1 号 試料 No. 3	-19.35 $\pm$ 0.28	3256 $\pm$ 20	3255 $\pm$ 20	1601-1585 cal BC (15.4%) 1535-1500 cal BC (52.8%)	1611-1496 cal BC (91.7%) 1475-1461 cal BC ( 3.7%)



第405図 暦年較正結果

### 第3節 牧山遺跡の放射性炭素年代測定2

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹  
小林紘一・Zaur Lomtadidze・黒沼保子

#### 1 はじめに

鹿児島県鹿屋市に位置する牧山遺跡より検出された試料2点について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

#### 2 試料と方法

試料は、土坑47号のⅡ層検出遺構内から出土した炭化材1点(No.4:PLD-31973)、縄文時代前期埋設土器1号出土の轟式土器付着炭化物(No.5:PLD-32296)の、計2点である。炭化材はいずれも最終形成年輪が残存しておらず、部位不明であった。また、調査所見による遺構の時期は、土坑47号が縄文時代後期、縄文時代前期埋設土器1号が縄文時代前期末～中期と推測されている。

測定試料の情報、調製データは第117表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、暦年代を算出した。

#### 3 結果

第118表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代を、第406図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代(yrBP)の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の暦年較正にはOxCal4.2(較正曲線データ:IntCal13)を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相

当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

#### 4 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち $2\sigma$ 暦年代範囲(確率95.4%)に着目して、遺構ごとに結果を整理する。なお、縄文時代の土器編年と暦年代の対応関係については小林(2008)を、測定例については前迫(2008)、新東(2008)、栗畑(2008)を参照した。

土坑47号のⅡ層検出遺構内出土のNo.4(PLD-31973)は、1955-1872 cal BC(79.2%)、1846-1812 cal BC(9.9%)、1802-1777 cal BC(6.3%)であった。これは縄文時代後期中葉に相当し、遺構の推定時期である縄文時代後期に対して整合的である。

縄文時代早期末～前期前半の縄文時代前期埋設土器出土轟式土器の付着炭化物(No.5:PLD-32296)は、4585-4459 cal BC(95.4%)であった。

なお、木材の試料については、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回の炭化材試料は、いずれも最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材であり、年代測定の結果が古木効果の影響を受け、木材が実際に枯死もしくは伐採された年代よりもやや古い年代を示している可能性がある。なお、No.5である土器外面の付着炭化物(PLD-32296)は、燃料材のスズであると考えられるため、測定結果は燃料材に使用された木材が生育していたある時期を示していると推測される。

#### 引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.

栗畑光博(2008)轟式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 328-335, アム・プロモーション.

前迫亮一(2008)市来式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 674-681, アム・プロモーション.

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hafliðason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A.,



Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013)  
 IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration  
 Curves 0-50, 000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4),

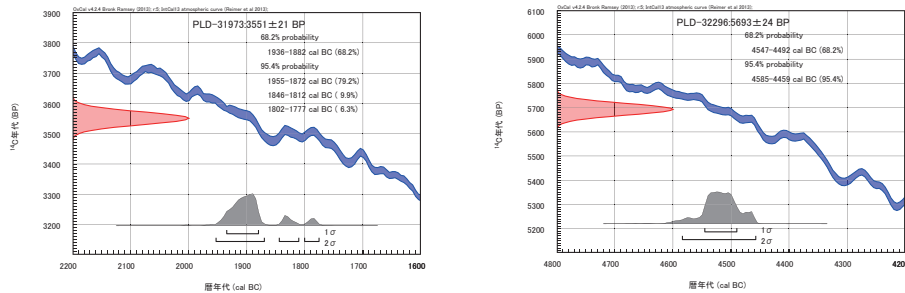
1869-1887.  
 新東晃一 (2008) 早期南九州貝殻文系土器. 小林達雄編  
 「総覧縄文土器」: 186-193, アム・プロモーション.

第117表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-31973	位置：A地点 調査区：H-40 遺構：土坑47号 層位：II層検出遺構内 試料No.4	種類：炭化材（散孔材） 試料の性状：最終形成年輪以外，部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1.0N，塩酸：1.2N）
PLD-32296	位置：B地点 調査区：F-32区 遺構：縄文時代前期埋設土器1号 試料No.5	種類：土器付着物 器種：甗式土器 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）

第118表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}C$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}C$ 年代を暦年較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年較正範囲	2 $\sigma$ 暦年較正範囲
PLD-31973 土坑47号（試料No.4）	-26.71 $\pm$ 0.17	3551 $\pm$ 21	3550 $\pm$ 20	1936-1882 cal BC (68.2%)	1955-1872 cal BC (79.2%) 1846-1812 cal BC (9.9%) 1802-1777 cal BC (6.3%)
PLD-32296 縄文時代前期埋設土器1号 甗式土器（試料No.5）	-26.63 $\pm$ 0.18	5693 $\pm$ 24	5695 $\pm$ 25	4547-4492 cal BC (68.2%)	4585-4459 cal BC (95.4%)



第406図 暦年較正結果



写真9 土器付着炭化物の試料採取位置  
 試料番号5 (PLD-32296) 縄文時代前期埋設土器1号甗式土器  
 胴部外面付着炭化物 (○印箇所を採取)

## 第4節 牧山遺跡の炭化種実同定

バンダリ スダルシャン・佐々木由香 (パレオ・ラボ)

### 1 はじめに

鹿児島県鹿屋市串良町細山田に位置する牧山遺跡は、縄文時代後期や弥生時代中期の遺構が検出された複合遺跡である。ここでは、C地点のD-16区の貯蔵穴1号から出土した縄文時代後期の炭化種実の同定を行い、当時の利用植物について検討した。

### 2 試料と方法

試料は、C地点、D-16区のⅢ層で検出された貯蔵穴1号から肉眼で確認・採取された炭化種実である。試料の取り上げは、株式会社島田組によって行われた。取り上げ時には種実は大量にあったが、このうち状態の良い8点のみが同定に供された。考古学的な所見による種実の時期は、縄文時代後期(西平式・太郎迫式・市来式・丸尾式が出土)である。

抽出・同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。試料は、鹿児島県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

### 3 結果

同定の結果、炭化種実は木本植物のコナラ属クヌギ節炭化子葉と、イチイガシ炭化果実、ウラジロガシ炭化果実、コナラ属アカガシ亜属炭化子葉の4分類群が得られた。同定結果を第119表に示す。

以下に、出土傾向について記載する。

コナラ属クヌギ節炭化子葉(半割)1点とイチイガシ炭化果実1点、ウラジロガシ炭化果実5点、コナラ属アカガシ亜属炭化子葉1点が得られた。

次に、炭化種実の記載を示し、図版に写真を掲載して同定の根拠とする。

#### (1) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* 炭化子葉 ブナ科

完形ならば、球形に近い円柱形。下端は平坦。下端中央に浅い窪みがある。縦方向に浅い皺がある。子葉内部はシンメトリーに割れる。形態からコナラ属クヌギ節のクヌギもしくはアベマキと判断でき、形態はアベマキに近いが、両者の区別はできなかった。高さ16.1mm、幅15.2mm。

#### (2) イチイガシ *Quercus gilva* Blume 炭化果実 ブナ科

楕円体～長楕円体で、突出部(首)は円柱状ないし円錐状で輪状紋がある。柱頭は短く横を向く。臍は中央部が尖るものが多い。高さ14.7mm、幅11.4mm。

#### (3) ウラジロガシ *Quercus salicina* Blume f.

*angustata* (Nakai) H. Ohba 炭化果実 ブナ科

卵形体で、堅果上部で幅は徐々に狭くなる。柱頭は細長い。臍の幅は果実幅の約30%と狭い。高さ20.7mm、幅10.1mm(図版2-3)、高さ22.2mm、幅9.5mm(図版2-4)、高さ18.9mm、幅9.3mm(図版2-5)。

#### (4) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen.

*Cyclobalanopsis* 炭化子葉 ブナ科

楕円体。上下端はやや平坦。頂部はわずかに突出する。最大幅は中央より上部に位置する。表面は平滑でやや縦皺があるが、深い溝は認められないため、イチイガシ以外のアカガシ亜属である。高さ16.5mm、幅11.6mm。

## 4 考察

貯蔵穴1号から出土した縄文時代後期の炭化種実を同定した結果、食用または利用可能な炭化種実として、コナラ属クヌギ節(クヌギもしくはアベマキ)とイチイガシ、ウラジロガシ、コナラ属アカガシ亜属が得られた。1基の貯蔵穴内から、落葉広葉樹のクヌギ節と常緑広葉樹のイチイガシとウラジロガシの少なくとも3種類以上のドングリ類が出土しており、これらが選択的に利用されていたと考えられる。イチイガシは生食可能な種である。縄文時代早期以降の鹿児島県ではイチイガシが最もよく利用されている(小畑, 2011)。本遺跡でも貯蔵穴1号から大量に出土しており、全体としてどの種類が多いか、検討が必要である。

また、いずれも子葉内部まで炭化しており、貯蔵穴内で炭化したのか、他の場所で炭化したドングリ類が貯蔵穴に堆積したのか、産出状況や堆積物と合わせて総合的に判断する必要がある。

## 引用文献

小畑弘己(2011) 東北アジア古民族植物学と縄文農耕. 309p, 同成社.

第119表 牧山遺跡から出土した炭化種実(括弧内は破片数)

試料番号	No. 12	No. 13	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 18	No. 19
地点名	C							
区	D-16							
層位	Ⅲ層							
遺構	貯蔵穴							
時期	縄文時代後期							
採取方法	肉眼							
分類群								
コナラ属クヌギ節								(1)
イチイガシ			1					
ウラジロガシ		1		1	1	1	1	
コナラ属アカガシ亜属	1							



スケール 1, 2a, 3a, 4a, 5a, 6: 5 mm, 2b-c, 3b-c, 4b-c, 5b-c は任意

1. コナラ属クヌギ節炭化子葉 (No.13), 2. イチガシ炭化果実 (No.8), 3. ウラジロガシ炭化果実 (No.7),  
4. ウラジロガシ炭化果実 (No.12), 5. ウラジロガシ炭化果実 (No.10), 6. コナラ属アカガシ亜属炭化子葉 (No.6)

写真10 牧山遺跡の貯蔵穴から出土した炭化種実



## 第5節 牧山遺跡の炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹（パレオ・ラボ）

### 1 はじめに

鹿児島県鹿屋市の牧山遺跡より出土した土器の付着炭化物の起源物質を推定するために、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

### 2 試料および方法

試料は、縄文時代前期埋設土器1号轟式土器の胴部外面より採取した付着炭化物1点で、試料番号として放射性炭素年代測定の測定番号を用いている。測定を実施するにあたり、試料に対して、酸・アルカリ・酸洗浄（HCl:1.2N, NaOH:0.1N）を施して試料以外の不純物を除去した後、測定を行った。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。また、炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{CPDB}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{NAir}$ ）の測定には、質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムで $\text{CO}_2$ と $\text{N}_2$ を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1000℃、還元炉温度680℃、分離カラム温度45℃である。分離した $\text{CO}_2$ および $\text{N}_2$ はそのままHeキャリアガスと共にインターフェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比を算出した。

### 3 結果

第120表に、試料情報と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N比を示す。第407図には炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第408図には炭素安定同位体比とC/N比の関係を示した。

第407図において、試料はC3植物付近の窒素安定同位体比がやや高い位置にプロットされた。第408図においてはC3植物・草食動物と土壌（黒色土）が重なる範囲の位置にプロットされた。

### 4 考察

試料番号PLD-32296の土器付着炭化物は、第407図でC3植物付近、第408図でC3植物・草食動物と土壌（黒色土）に相当する位置にプロットされ、主にC3植物に由来する炭化物と推定される。なお、C3植物にはイネ、コムギ、ダイズのほか、樹木など多くの植物が属する。

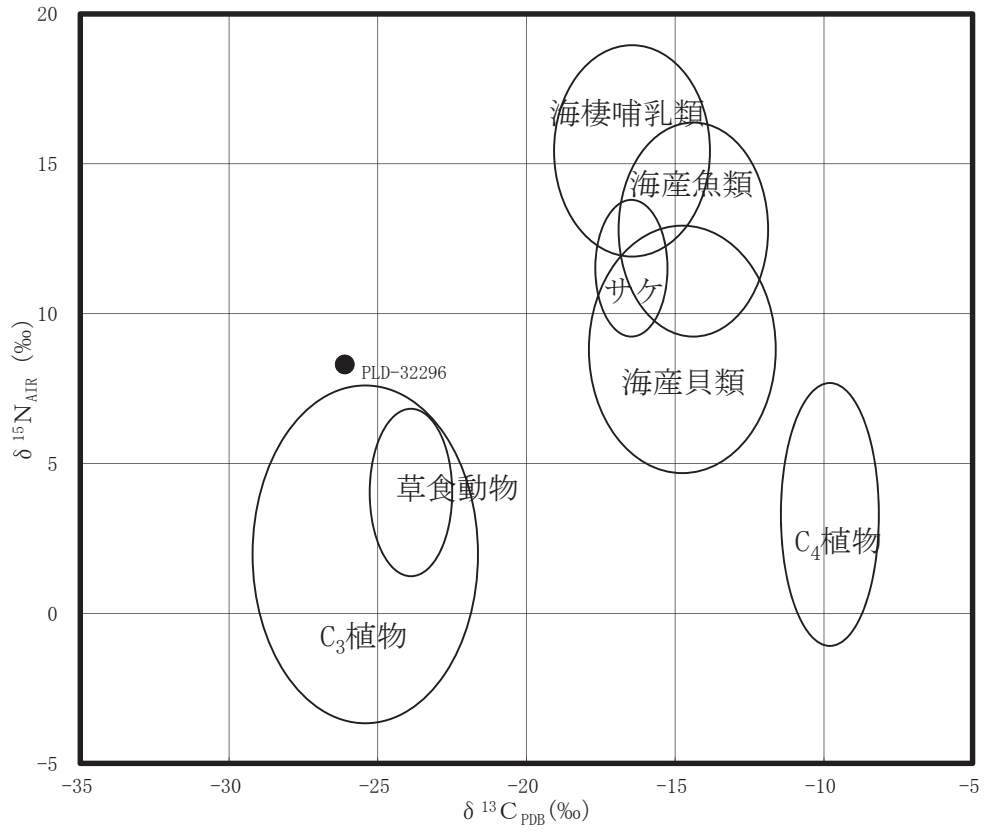
### 参考文献

- 赤澤 威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元. 田中 琢・佐原 眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」: 132-143, クバプロ.
- 坂本 稔（2007）安定同位体比に基づく土器付着物の分析. 国立歴史民俗博物館研究報告, 137, 305-315.
- 米田 穰（2008）丸根遺跡出土土器付着炭化物の同位体分析. 豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」: 261-263, 豊田市教育委員会.
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa（2002）Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2), 549-557.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子（2007）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B（課題番号16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.
- 吉田邦夫・西田泰民（2009）考古科学が探る火炎土器. 新潟県立歴史博物館編「火炎土器の国 新潟」: 87-99, 新潟日報事業社.

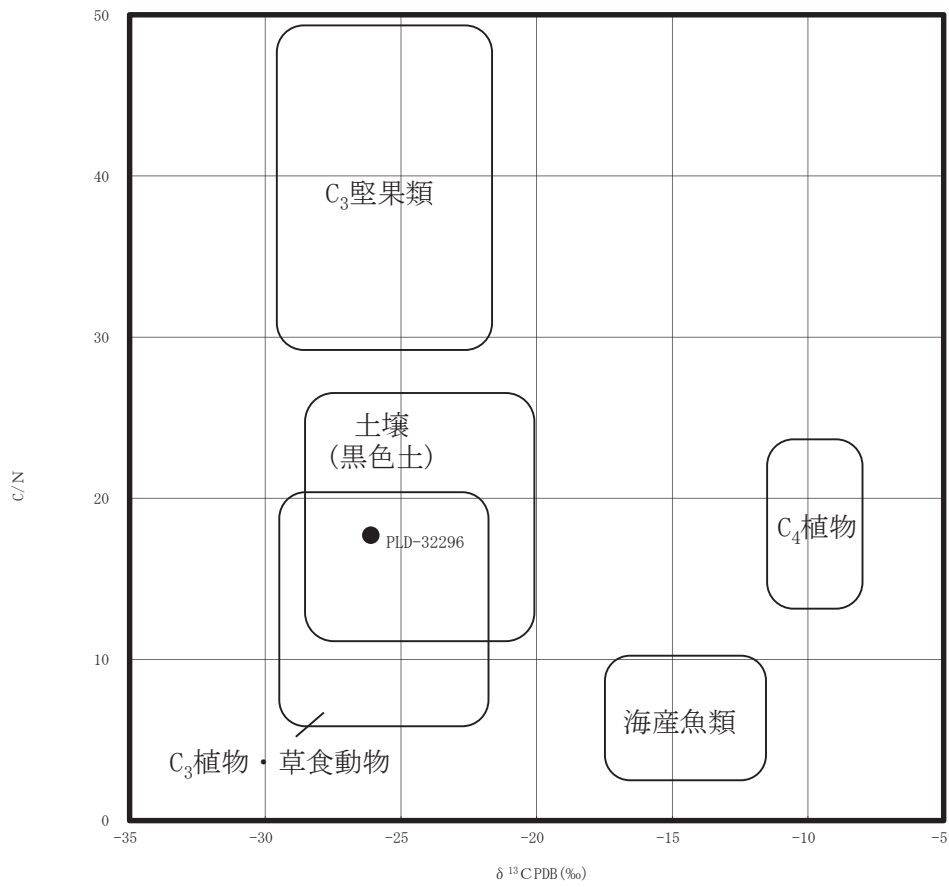
第120表 結果一覧表

試料番号	試料情報	$\delta^{13}\text{CPDB}$	$\delta^{15}\text{NAir}$	炭素含有量	窒素含有量	C/N比
		(‰)	(‰)	(%)	(%)	
PLD-32296	種類：土器付着炭化物（胴部外面） 出土遺構：縄文時代前期埋設土器1号（轟式土器） 資料番号：No. 5	-26.1	8.30	29.7	1.96	17.7





第 407 図 炭素・窒素安定同位体比 (吉田・西田 (2009) に基づいて作製)



第 408 図 炭素安定同位体と C/N 比の関係 (吉田・西田 (2009) に基づいて作製)

## 第6節 牧山遺跡出土試料の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### 1 はじめに

牧山遺跡は（鹿屋市串良町細山田所在）は、笠野原台地の縁辺に立地する。本調査は遺跡出土の土器に付着した炭化物の放射性炭素年代測定と安定同位体分析を行い、土器の時代観や当時の食性に関する情報を得る。また、遺跡から出土した炭化材や炭化種実の分析を行い、当時の植物利用に関する情報を得る。

### 2 試料

分析試料は、牧山遺跡より出土した土器付着炭化物12点と、炭化植物遺体10点の計22点である。試料の詳細に関しては第121表に記す。土器付着炭化物は放射性炭素年代測定と安定同位体分析を、炭化植物遺体は放射性炭素年代測定と種類の同定（炭化材同定、種実同定）を行う。

### 3 分析方法

#### (1) 放射性炭素年代測定

土器付着炭化物は、実体顕微鏡で観察し、不純物等を取り除く。炭化植物遺体は、実体顕微鏡で観察し、付着した不純物を削り取るなどして50mg程度に調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。しかし、試料が脆弱な場合、炭素の損

耗が激しく、分析に必要な炭素量が得られない場合がある。このため、試料によってはアルカリの濃度を薄めて処理を行う（AaAと記載）。さらに、アルカリ処理は、不純物ではない炭素も少なからず溶解するため、脆弱かつ分析試料が少ない場合は、分析に必要な炭素量が得られなくなる。このような試料では、アルカリ処理を行わず、酸処理のみ行う（HClと記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は光信理化学製作所の自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。測定はタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）、<sup>14</sup>C濃度（<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。 $\delta^{13}C$ は試料炭素の<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach 1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、OxCal4.4(Bronk, 2009)、較正曲線はIntCal20 (Reimer et al., 2020)である。

第121表 分析試料一覧及び遺物の性状

No.	遺構	区	層位	掲載・取上番号	性状	樹種
14	埋設土器14号	C33	II b	掲載番号 189	土器付着炭化物	—
15	落とし穴6号	G30	III	掲載番号 203	土器付着炭化物	—
16	—	C33	II c	掲載番号 1225	土器付着炭化物	—
17	—	D22	II a	掲載番号 1144	土器付着炭化物	—
18	—	E30	II c	掲載番号 1221	土器付着炭化物	—
19	—	G31	II c	掲載番号 611	土器付着炭化物	—
20	石器集中部20号	D32	II c	掲載番号 154	土器付着炭化物	—
21	石器集中部13号	G30	II b	掲載番号 286	土器付着炭化物	—
22	石器集中部15号	E・F31	II b	掲載番号 289	土器付着炭化物	—
23	—	H37	II b	掲載番号 552	土器付着炭化物	—
24	前期埋設土器1号	F32	III	—	炭化材	散孔材
25	炭化物集中部1号	E7	II b	取上番号 1	炭化材	クヌギ節
26	石器集中部13号	G28	II b	取上番号 44	炭化材	クスノキ科
27	石器集中部11号	G27	II b	取上番号 35	炭化種実	イチイガシ
28	土器集中部4号	B22	II a	取上番号 18409	土器付着炭化物	—
29	土器集中部1号	E19	II c	掲載番号 237	土器付着炭化物	—
30	落とし穴7号	H31	III	—	炭化材	クスノキ科?
31	土坑16号	F25	II c	取上番号 136	炭化材	クスノキ科?
32	—	D27	II b	取上番号 4946	炭化植物	イネ科?
33	土坑27号	C32	III	取上番号 7	炭化種実	クヌギ類
34	—	F25	II	取上番号 42711	炭化種実	クヌギ類
35	土坑25号	C31	III	取上番号 44	炭化材	節・瘤?

第122表 放射性炭素年代測定結果

No.	性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代						Code No.	
					年代値							
					σ	cal BC	BC	cal BC	BC	cal BP	BP	確率%
14	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3320 ± 20 (3320 ± 20)	-26.37 ± 0.13	σ	cal BC 1614	- cal BC 1600	3563	- 3549	cal BP 16.0	YU-11960	pal-12802
						cal BC 1589	- cal BC 1543	3538	- 3492	cal BP 52.2		
					2 σ	cal BC 1626	- cal BC 1518	3575	- 3467	cal BP 95.4		
15	土器付着炭化物	HCl	3135 ± 20 (3135 ± 20)	-26.89 ± 0.14	σ	cal BC 1439	- cal BC 1397	3388	- 3346	cal BP 68.3	YU-11961	pal-12803
						cal BC 1492	- cal BC 1480	3441	- 3429	cal BP 2.5		
					2 σ	cal BC 1451	- cal BC 1382	3400	- 3331	cal BP 79.2		
16	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3120 ± 20 (3119 ± 20)	-26.26 ± 0.14	σ	cal BC 1425	- cal BC 1389	3374	- 3338	cal BP 50.7	YU-11962	pal-12804
						cal BC 1337	- cal BC 1322	3286	- 3271	cal BP 17.6		
					2 σ	cal BC 1441	- cal BC 1376	3390	- 3325	cal BP 64.7		
17	土器付着炭化物	HCl	3125 ± 25 (3123 ± 23)	-25.61 ± 0.19	σ	cal BC 1429	- cal BC 1389	3378	- 3338	cal BP 52.6	YU-11963	pal-12805
						cal BC 1337	- cal BC 1322	3286	- 3271	cal BP 15.7		
					2 σ	cal BC 1448	- cal BC 1373	3397	- 3322	cal BP 66.6		
18	土器付着炭化物	AaA (0.01M)	3135 ± 25 (3137 ± 24)	-23.53 ± 0.33	σ	cal BC 1442	- cal BC 1396	3391	- 3345	cal BP 64.3	YU-11964	pal-12806
						cal BC 1332	- cal BC 1327	3281	- 3276	cal BP 4.0		
					2 σ	cal BC 1495	- cal BC 1477	3444	- 3426	cal BP 5.2		
19	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3495 ± 20 (3494 ± 20)	-21.73 ± 0.16	σ	cal BC 1458	- cal BC 1379	3407	- 3328	cal BP 75.1	YU-11965	pal-12807
						cal BC 1880	- cal BC 1867	3829	- 3816	cal BP 10.3		
					2 σ	cal BC 1851	- cal BC 1838	3800	- 3787	cal BP 9.9		
20	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3315 ± 20 (3314 ± 21)	-26.10 ± 0.12	σ	cal BC 1828	- cal BC 1769	3777	- 3718	cal BP 48.0	YU-11966	pal-12808
						cal BC 1612	- cal BC 1598	3561	- 3547	cal BP 15.3		
					2 σ	cal BC 1593	- cal BC 1573	3542	- 3522	cal BP 23.2		
21	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3205 ± 20 (3203 ± 21)	-25.52 ± 0.28	σ	cal BC 1541	- cal BC 1541	3517	- 3490	cal BP 29.8	YU-11967	pal-12809
						cal BC 1623	- cal BC 1518	3572	- 3467	cal BP 95.4		
					2 σ	cal BC 1499	- cal BC 1447	3448	- 3396	cal BP 68.3		
22	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3280 ± 25 (3279 ± 23)	-27.67 ± 0.31	σ	cal BC 1506	- cal BC 1427	3455	- 3376	cal BP 95.4	YU-11968	pal-12810
						cal BC 1604	- cal BC 1583	3553	- 3532	cal BP 17.4		
					2 σ	cal BC 1544	- cal BC 1506	3493	- 3455	cal BP 50.9		
23	土器付着炭化物	HCl	3365 ± 25 (3365 ± 24)	-26.20 ± 0.25	σ	cal BC 1614	- cal BC 1502	3563	- 3451	cal BP 95.4	YU-11969	pal-12811
						cal BC 1688	- cal BC 1617	3637	- 3566	cal BP 68.3		
					2 σ	cal BC 1740	- cal BC 1712	3689	- 3661	cal BP 12.1		
24	炭化材 (散孔材)	AAA (1M)	6040 ± 25 (6042 ± 26)	-27.97 ± 0.30	σ	cal BC 1696	- cal BC 1601	3645	- 3550	cal BP 73.9	PLD-42109	pal-12837
						cal BC 1585	- cal BC 1543	3534	- 3492	cal BP 9.4		
					2 σ	cal BC 4992	- cal BC 4905	6941	- 6854	cal BP 68.3		
25	炭化材 (クヌギ節)	AAA (1M)	1180 ± 20 (1181 ± 20)	-31.02 ± 0.28	σ	cal BC 5009	- cal BC 4844	6958	- 6793	cal BP 95.4	PLD-42110	pal-12838
						cal AD 777	- cal AD 787	1173	- 1163	cal BP 11.6		
					2 σ	cal AD 828	- cal AD 862	1122	- 1089	cal BP 35.7		
26	炭化材 (クスノキ科)	AAA (1M)	3280 ± 20 (3279 ± 22)	-27.39 ± 0.28	σ	cal AD 867	- cal AD 887	1084	- 1064	cal BP 20.9	PLD-42111	pal-12839
						cal AD 772	- cal AD 894	1178	- 1057	cal BP 92.6		
					2 σ	cal AD 930	- cal AD 942	1020	- 1008	cal BP 2.9		
27	炭化種実 (イチイガシ)	AAA (1M)	3245 ± 20 (3246 ± 22)	-30.11 ± 0.25	σ	cal BC 1544	- cal BC 1506	3493	- 3455	cal BP 52.7	PLD-42112	pal-12840
						cal BC 1532	- cal BC 1497	3481	- 3446	cal BP 55.5		
					2 σ	cal BC 1473	- cal BC 1461	3422	- 3410	cal BP 12.7		
28	土器付着炭化物	AaA (0.05M)	3330 ± 20 (3328 ± 21)	-26.57 ± 0.20	σ	cal BC 1599	- cal BC 1592	3548	- 3541	cal BP 1.1	YU-11970	pal-12812
						cal BC 1543	- cal BC 1442	3492	- 3391	cal BP 94.3		
					2 σ	cal BC 1620	- cal BC 1600	3569	- 3549	cal BP 20.5		
29	土器付着炭化物	AaA (0.01M)	3300 ± 25 (3298 ± 23)	-26.68 ± 0.15	σ	cal BC 1587	- cal BC 1543	3536	- 3492	cal BP 47.7	YU-11971	pal-12813
						cal BC 1611	- cal BC 1575	3560	- 3524	cal BP 37.3		
					2 σ	cal BC 1671	- cal BC 1655	3620	- 3604	cal BP 2.7		
30	炭化材 (クスノキ科?)	AAA (1M)	3070 ± 20 (3071 ± 22)	-26.06 ± 0.26	σ	cal BC 1524	- cal BC 1520	3473	- 3469	cal BP 0.5	PLD-42113	pal-12841
						cal BC 1396	- cal BC 1367	3345	- 3316	cal BP 20.6		
					2 σ	cal BC 1360	- cal BC 1333	3309	- 3282	cal BP 20.1		
31	炭化材 (クスノキ科?)	AAA (1M)	3385 ± 25 (3386 ± 24)	-29.31 ± 0.25	σ	cal BC 1326	- cal BC 1290	3275	- 3239	cal BP 27.5	PLD-42114	pal-12842
						cal BC 1410	- cal BC 1267	3359	- 3216	cal BP 95.4		
					2 σ	cal BC 1732	- cal BC 1722	3681	- 3671	cal BP 8.4		
32	植物遺体 (イネ科?)	AAA (1M)	1755 ± 20 (1755 ± 20)	-10.46 ± 0.26	σ	cal BC 1690	- cal BC 1627	3639	- 3576	cal BP 59.8	PLD-42115	pal-12843
						cal AD 250	- cal AD 260	1700	- 1690	cal BP 12.5		
					2 σ	cal AD 279	- cal AD 295	1672	- 1655	cal BP 21.3		
	cal AD 310	- cal AD 337	1640	- 1613	cal BP 34.5							
	cal AD 241	- cal AD 362	1710	- 1588	cal BP 95.4							

No.	性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代						Code No.			
					年代値						確率 %			
33	炭化種実 (クヌギ類)	AAA (1M)	3325 ± 20 (3325 ± 22)	-25.25 ± 0.25	$\sigma$	cal BC 1618	-	cal BC 1600	3567	-	3549 calBP	18.8	PLD- 42116	pal- 12844
						cal BC 1588	-	cal BC 1543	3537	-	3492 calBP	49.5		
					2 $\sigma$	cal BC 1670	-	cal BC 1655	3619	-	3604 calBP	2.1		
						cal BC 1636	-	cal BC 1518	3585	-	3467 calBP	93.3		
34	炭化種実 (クヌギ類)	AAA (1M)	3215 ± 20 (3214 ± 22)	-26.53 ± 0.26	$\sigma$	cal BC 1503	-	cal BC 1492	3452	-	3441 calBP	18.0	PLD- 42117	pal- 12845
						cal BC 1482	-	cal BC 1450	3431	-	3399 calBP	50.3		
					2 $\sigma$	cal BC 1511	-	cal BC 1431	3460	-	3380 calBP	95.4		
						cal BC 1617	-	cal BC 1600	3566	-	3549 calBP	18.1		
35	炭化材 (節・瘤?)	AAA (1M)	3325 ± 25 (3323 ± 23)	-26.99 ± 0.25	$\sigma$	cal BC 1589	-	cal BC 1543	3538	-	3492 calBP	50.1	PLD- 42118	pal- 12846
						cal BC 1670	-	cal BC 1656	3619	-	3605 calBP	2.0		
					2 $\sigma$	cal BC 1636	-	cal BC 1517	3585	-	3466 calBP	93.5		
						cal BC 1617	-	cal BC 1600	3566	-	3549 calBP	18.1		

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68.2%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理、AaAはアルカリの処理を薄くして処理、HClは酸処理のみを示す。
- 5) 暦年の計算には、OxCal v4.4を使用。
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用。
- 7) 較正データセットは、IntCal20を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 9) 統計的に真の値が入る確率は、 $\sigma$ が68.2%、2 $\sigma$ が95.4%である。

## (2) 安定同位体比分析

測定は、山形大学高感度加速器質量分析センターの協力を得た。光物理化学製作所製の年代測定用グラファイト合成装置に連結された、安定同位体比質量分析装置を用いる。

試料をスズカプセルに入れて封入し、機器にセットする。スズカプセル中の試料は、自動的に加熱された燃焼管に投入される。燃焼管内では、酸素ガスを瞬間的に導入することによって、スズの燃焼熱を利用して瞬間的に高温(一千数百度)となり、一瞬にして試料を燃焼させる。燃焼によって発生した気体を、キャリアガス(He)とともに還元管を通す。これによって、最終的に試料中の炭素は二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に、窒素は窒素ガス(N<sub>2</sub>)にそれぞれ変化する。これをカラムに通すことで両者は分離し、熱電対検出器にクロマトグラム(分離された信号)として検出される。この信号をもとに、クロマトグラムの面積計算を行い、元素含有率を求める。この段階で、炭素含量、窒素含量、C/Nを測定できる。ガスの大部分はグラファイト合成装置に送られて、年代測定用試料となるが、一部は分離され、質量分析計に導入される。質量分析計では、試料をイオン化して加速させ、強い磁力の中を通して進路を曲げることで、わずかに重さの違う同位体を分離する。ここで、窒素安定同位体比(<sup>15</sup>N/<sup>14</sup>N)、炭素安定同位体比(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定する。

## (3) 炭化材同定

炭化材同定は、年代測定の試料調整の際に削り落とした部分を用いる。木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の各割片を作成し、双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、

Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995、1996、1997、1998、1999)を参考にする。

## (4) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種実を同定する。写真撮影の後、放射性炭素年代測定用試料とする。

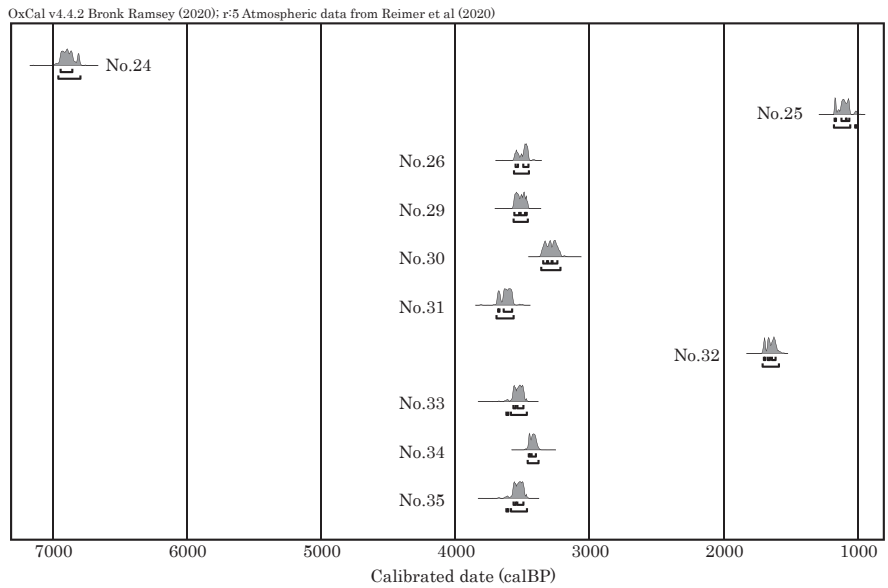
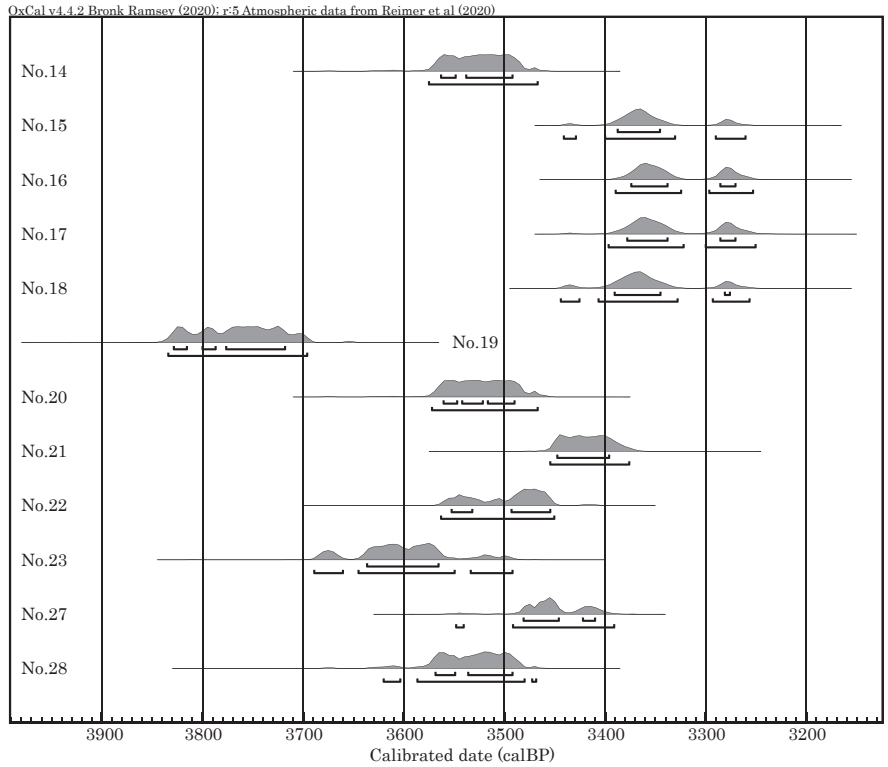
## 4 結果

### (1) 放射性炭素年代測定

結果を第122表に示す。炭化材、炭化種実は定法での分析処理が可能であった。土器付着炭化物は、試料が脆弱であったり、量が少なかつたりしたため、アルカリの濃度を薄くする、もしくはアルカリ処理を行わないなど処理方法を変更して、炭素の損耗を防いだ。いずれも、測定に必要なグラファイトは得られている。同位体補正を行った値は、No.14が3320 ± 20BP、No.15が3135 ± 20BP、No.16が3120 ± 20BP、No.17が3125 ± 25BP、No.18が3135 ± 25BP、No.19が3495 ± 20BP、No.20が3315 ± 20BP、No.21が3205 ± 20BP、No.22が3280 ± 25BP、No.23が3365 ± 25BP、No.24が6040 ± 25BP、No.25が1180 ± 20BP、No.26が3280 ± 20BP、No.27が3245 ± 20BP、No.28が3330 ± 20BP、No.29が3300 ± 25BP、No.30が3070 ± 20BP、No.31が3385 ± 25BP、No.32が1755 ± 20BP、No.33が3325 ± 20BP、No.34が3215 ± 20BP、No.35が3325 ± 25BPである。

暦年較正は、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、その後訂正された半減期(<sup>14</sup>Cの半減期5730 ± 40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、IntCal20(Reimer et al., 2020)を用いる。2 $\sigma$ の値は、No.14が3575 ~





第409図 暦年較正結果

第123表 安定同位体分析結果

No.	遺構・遺物	区	層位	掲載・取上番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ (‰)	Total-C (%)	Total-N (%)	C/N (mol)
14	埋設土器 14号	C33	II b	掲載番号 189	-26.71	8.41	62.58	3.64	20.1
15	落とし穴 6号	C30	III	掲載番号 203	-26.50	9.22	54.55	2.32	27.4
16	土器附着炭化物	C33	II c	掲載番号 1225	-26.33	11.69	60.73	3.01	23.5
17	土器附着炭化物	D22	II a	掲載番号 1144	-26.39	10.37	56.49	2.43	27.1
18	土器附着炭化物	E30	II c	掲載番号 1221	-24.77	9.10	51.61	3.69	16.3
19	土器附着炭化物	G31	II c	掲載番号 611	-22.70	10.28	51.72	2.88	21.0
20	石器集中部 20号	D32	II c	掲載番号 154	-26.71	10.96	60.39	3.54	19.9
21	石器集中部 13号	G30	II b	掲載番号 286	-26.79	7.93	55.24	3.14	20.5
22	石器集中部 15号	E・F31	II b	掲載番号 289	-26.67	8.51	47.82	2.81	19.9
23	土器附着炭化物	H37	II b	掲載番号 552	-26.90	8.79	54.82	3.01	21.2
28	土器集中部 4号	B22	II a	取上番号 18409	-25.18	1.21	29.00	2.99	11.3
29	土器集中部 1号	E19	II c	掲載番号 237	-26.67	8.22	59.00	3.02	22.8

3467calBP, No. 15 が 3441 ~ 3261calBP, No. 16 が 3390 ~ 3253calBP, No. 17 が 3397 ~ 3251calBP, No. 18 が 3444 ~ 3257calBP, No. 19 が 3834 ~ 3696calBP, No. 20 が 3572 ~ 3467calBP, No. 21 が 3455 ~ 3376calBP, No. 22 が 3563 ~ 3451calBP, No. 23 が 3689 ~ 3492calBP, No. 24 が 6958 ~ 6793calBP, No. 25 が 1178 ~ 1008calBP, No. 26 が 3562 ~ 3451calBP, No. 27 が 3548 ~ 3391calBP, No. 28 が 3620 ~ 3469calBP, No. 29 が 3565 ~ 3459calBP, No. 30 が 3359 ~ 3216calBP, No. 31 が 3693 ~ 3565calBP, No. 32 が 1710 ~ 1588calBP, No. 33 が 3619 ~ 3467calBP, No. 34 が 3460 ~ 3380calBP, No. 35 が 3619 ~ 3466calBP である。

#### (2) 安定同位体分析

結果を第 123 表に示す。各試料は、No. 28 の炭素含量が約 30% と低いが、他の試料は約半分以上を炭素が占めており、状態が良い。δ<sup>13</sup>C はほとんどの試料が -26 ~ -27‰ に集まっているが、No. 18, No. 19, No. 28 はやや高い値を示す。δ<sup>15</sup>N は、8 ~ 12‰ の間にほとんどの試料が入るが、No. 18 のみが極端に小さい。C/N は、20 前後が多く、高い試料は 27 前後まで広がっている。No. 18 と No. 28 の 2 点は、C/N が低い。

#### (3) 樹種同定

樹種の結果は、第 121 表に示す。組織が一部溶解して土壌と一体化しているなど保存状態は全体的に悪い。種類が判明したものは、コナラ亜属クヌギ節とクスノキ科で、その他種類不明の広葉樹や節や瘤のような部分もみられた。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1 ~ 3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ~ 20 細胞高のものとの複合放射組織とがある。

- ・クスノキ科 (*Lauraceae*)

散孔材で管壁は厚く、横断面では楕円形、単独および 2 ~ 3 個が放射方向に複合する。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は異性、1 ~ 5 細胞幅、1 ~ 20 細胞高。柔組織は周囲状。

- ・イネ科? (*Gramineae* ?)

維管束の構造は、原生木部の小径の道管の左右に 1 対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを繊維細胞 (維管束鞘) が囲んで維管束を形成する。きれいな菱形の模様になっていないことから、複数の植物体が潰れて塊状になっていると思われる。

#### (4) 種実同定

結果を第 121 表に示す。No. 27 はイチイガシ、No. 33, No. 34 はクヌギ類である。以下に形態的特徴を記す。

- ・イチイガシ (*Quercus gilva* Blume) ブナ科コナラ属アカガシ亜属

炭化子葉は黒色、楕円形で頂部は尖らない。長さ 15mm, 径 10mm 程度。岡本 (1979) は、日本産ブナ科植物の子葉について、イチイガシには子葉の離れにくさ、著しい異形性、頂端が尖らず幼根の位置がずれていること、そして中軸の圧痕が確認できることなどの特異性があることから、イチイガシのみが種まで同定できる場合があることを述べている。今回の個体は、子葉が不揃いである点、子葉の合わせ目は表面を蛇行し、頂端からずれた位置にある点、表面の深い溝が基部から頂部に向かい途中まで発達している点から、イチイガシとした。

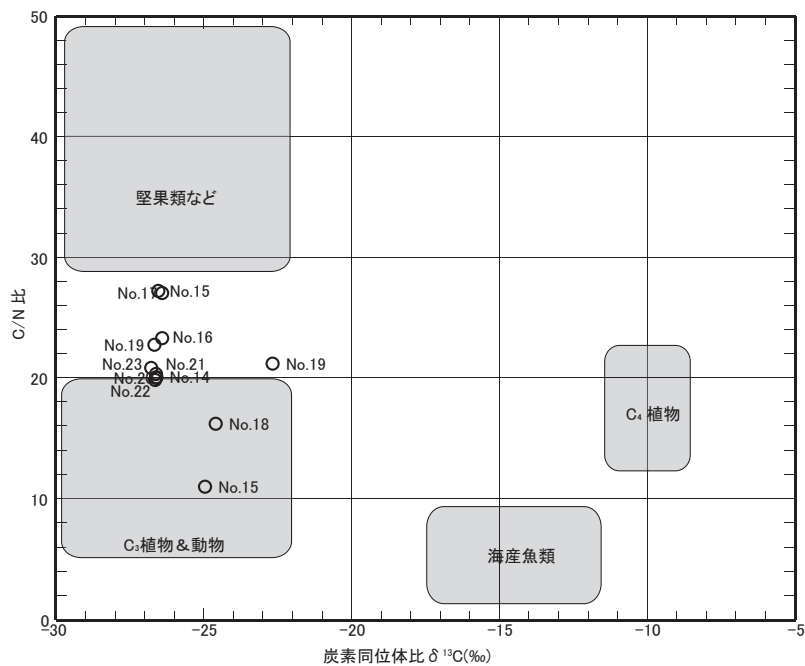
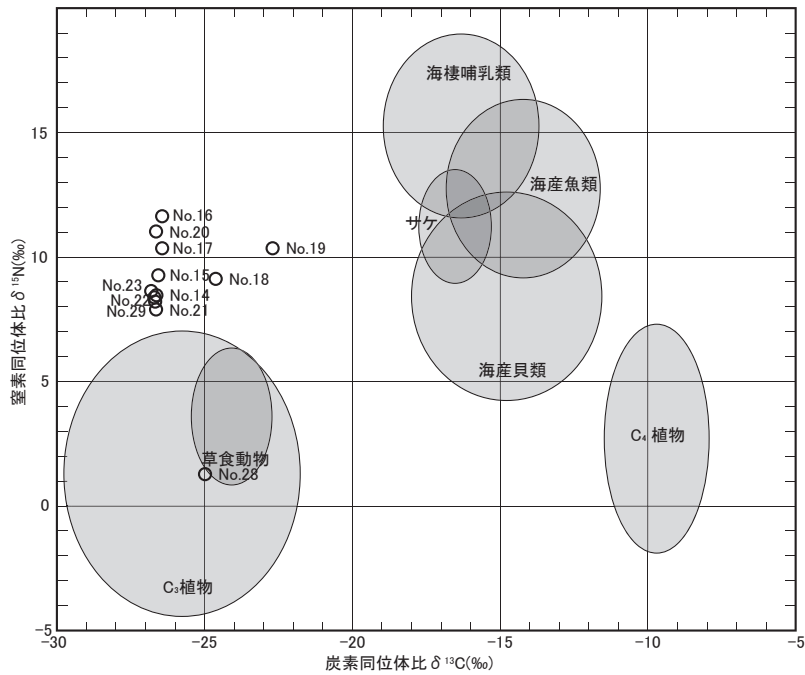
- ・クヌギ類 (*Quercus* cf. *acutissima* Carruthers) ブナ科コナラ属

炭化子葉は、径 15mm 程度の歪な球体で、頂部、基部はやや平ら。破片は、縦に 1 周する子葉の合わせ目に沿って割れた半分である。子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。このような、球体の大型果実をもつコナラ亜属は、クヌギ、アベマキ、カシワ、ナラガシワがあり、これらのいずれかに相当すると思われる。

#### 5 考察

暦年代を第 409 図に示す。土器付着炭化物をみると、No. 15, No. 16, No. 17, No. 18 の 4 試料は、互いに近似し、3300 ~ 3400 年前に相当する。No. 21 と No. 27 が 3400 ~ 3500 年前、No. 14, No. 20, No. 22, No. 23, No. 28 が 3500 ~ 3600 年前に相当する。No. 19 のみやや古い年代値を示し、3700 ~ 3800 年前を示す。一方、炭化物は、おおよそ 3500 ~ 3600 年前付近を中心に値が分布する。しかし、No. 24 は約 6900 年前と古く、No. 25 は約 1100 年前、No. 32 は約 1650 年前と新しい年代を示す。

安定同位体の結果と当時の食材との比較を第 410 図に示す。食材の結果は Yoshida et al. (2013) を参考にしている。炭素の安定同位体比を示す δ<sup>13</sup>C は、食物連鎖の各系列において、最下位の植物から高位の動物まで大きな変化がないのが特徴である。陸上の植物は、δ<sup>13</sup>C が -28 ~ -24‰ 程度の C3 植物と、-11 ~ -9‰ 程度の C4 植物に大きく分けられる。日本列島の大部分の植物質食料は C3 植物で、C4 植物は、ヒエ・アワ・キビなど雑穀類に限られる。栄養源として C3 植物を摂取した動物の δ<sup>13</sup>C は、C3 植物とほぼ同程度の値となる。他方、C3 植物と C4 植物の双方を摂取した動物は、その摂取割合に応じて、δ<sup>13</sup>C が C3 植物寄りか C4 植物寄りになる。このように、試料の δ<sup>13</sup>C と、食物連鎖系一次生産者の δ<sup>13</sup>C を比較することで、試料の由来物がどの食物連鎖の



第410図 測定結果と食材の比較

系列に属するものであるのか、また試料の由来物の栄養源がどこにあったのかを推定できる。

産業革命以後、 $\delta^{13}\text{C}$  が小さい化石燃料の大量消費により現代の大気中の二酸化炭素の  $\delta^{13}\text{C}$  は低下し続けている (C13-Suess 効果)。現代の大気中の二酸化炭素の  $\delta^{13}\text{C}$  は  $-8.0\text{‰}$  程度であるが、産業革命以前は、 $-6.4\text{‰}$  程度と見積もられている (Friedli et al., 1986)。この差の分だけ、産業革命以前の陸上動植物の  $\delta^{13}\text{C}$  は、現代に比べると大きくなる。

海水中の食物連鎖系一次生産者である、海産植物プ

ラクトンや底生珪藻類の、産業革命以前の  $\delta^{13}\text{C}$  は不明である。現代の温帯海域では  $-20\text{‰}$  程度で、C3 植物と C4 植物の中間的な値となっている。日本近海を含む北太平洋では、現代の表層海洋の  $\delta^{13}\text{C}$  は、産業革命以前に比べて  $0.8 \sim 1.0\text{‰}$  程度小さくなっていると推算されている (Eide et al., 2017)。海洋における C13-Suess 効果は、陸上に比べるといくぶん小さいようである。なお、第410図に示した食材の  $\delta^{13}\text{C}$  は、C13-Suess 効果を踏まえた補正を行なっている。

窒素の安定同位体比を示す  $\delta^{15}\text{N}$  は、食物連鎖の系列

において、高位になるほど大きくなっていくのが特徴である。よって、 $\delta^{15}\text{N}$ からは、試料の由来物の食物連鎖の栄養段階が推定できる。また、海洋中は陸上よりも食物連鎖の段階数が多いので、海洋生物の食物連鎖上位者は陸上の食物連鎖上位者よりも $\delta^{15}\text{N}$ が大きいという特徴もある。窒素はタンパク質に由来するので、総炭素原子数/総窒素原子数(C/N比)も、試料の由来を推定する尺度となる。つまり、タンパク質を豊富に含んだ肉・魚類は窒素を多く含むので、C/N比が比較的小さく、タンパク質が少ない堅果類や果実、海藻類などは、C/N比が大きくなる。

今回の土器付着炭化物をみると、 $\delta^{13}\text{C}$ は、いずれの試料もC3植物もしくはC3植物を摂取した草食動物に由来する炭化物の範疇に入る。さらに、C/NはNo.18とNo.28を除き20を超える大きな値を示す。一方 $\delta^{15}\text{N}$ はNo.28を除くと8~10%を超えることから、C3植物を主体とした食材と考えるのにはやや大きい。以上のことを踏まえると以下のような食材が考えられる。

No.28を除く11試料に関しては、炭化物の大部分はC3植物に由来すると考えられる。さらに、C/Nの値からみると、動物質は少なく、炭水化物が主体の食材であったと思われる。しかしながら、 $\delta^{15}\text{N}$ が高いことから、食材として海産物が混じっている可能性がある。特にNo.18やNo.19は炭素同位体比が他に比べて高いことから、他の試料と比べて海産物の影響を強く受けていると思われる。

なお、No.28は他に比べてC/Nが小さく、 $\delta^{15}\text{N}$ も低い。このことから、他の試料とは異なる食材の影響を受けている可能性がある。しかし、他と比べて炭素含量が低く、付着物の保存状態が悪いと考えられることから、値の違いは炭化物の保存状態に由来する可能性もある。なお、炭化物の保存状態を無視して考えるならば、C/Nが低いことから、C3植物以外の食材として、肉類(タンパク質)の影響を受けていることが推測される。

樹種同定の結果は、コナラ亜属クヌギ節、クスノキ科、イネ科の3種類、種実はいチイガシとクヌギ類である。いずれも現在でも周辺の山野に自生している種類であり、当時から入手しやすかった植物であると思われる。種実はいずれも食用になる。特にいチイガシはクヌギ類とは違い、複雑な「あく抜き」作業をしなくても食用可能であることから、当時の植物質食糧として有用であったと思われる。これらの木材や種実、九州地域で出土した炭化材、炭化種実の種類としても一般的なものである。また、土器付着炭化物からみた食材はC3植物が主要な食材とされていることから調和的である(これらの堅果類はC3植物)。また、炭化したイネ科は年代測定用の $\delta^{13}\text{C}$ の結果からC4植物と考えられる。C4植物は温暖で乾燥した地域で効率的に光合成を行えるよう進化

した一群であり、日本では、ススキ属やエノコログサ属(アワなど)、ヒエ属(ヒエ属)などのイネ科植物がC4植物に属する。

## 引用文献

- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51, 337-360.
- Eide M., Olsen A., Ninnemann U.S., Eldevik T., 2017, A global estimate of the full oceanic  $^{13}\text{C}$  Suess effect since the preindustrial: Full Oceanic  $^{13}\text{C}$  Suess Effect. *Global Biogeochemical Cycles* 31, 492-514.
- Friedli H., Loetscher H., Oeschger H., Siegenthaler U., Stauffer B., 1986, Ice core record of the  $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$  ratio of atmospheric  $\text{CO}_2$  in the past two centuries. *Nature*, 324, 237-238.
- 林 昭三 1991 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料 31 京都大学木質科学研究所 81-181
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料 32 京都大学木質科学研究所 66-176
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料 33 京都大学木質科学研究所 83-201
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料 34 京都大学木質科学研究所 30-166
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ 木材研究・資料 35 京都大学木質科学研究所 47-216
- 近藤錬三 2010 プラント・オパール図譜 北海道大学出版会 387p
- 三好教夫 1998 中国・四国地方の植生史 図説 日本列島植生史 安田喜憲・三好教夫編 朝倉書店 p138-150
- 岡本素治 1979 遺跡から出土するイチイガシ 大阪市立自然史博物館業績 230 31-39
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020,



The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62, 1–33.

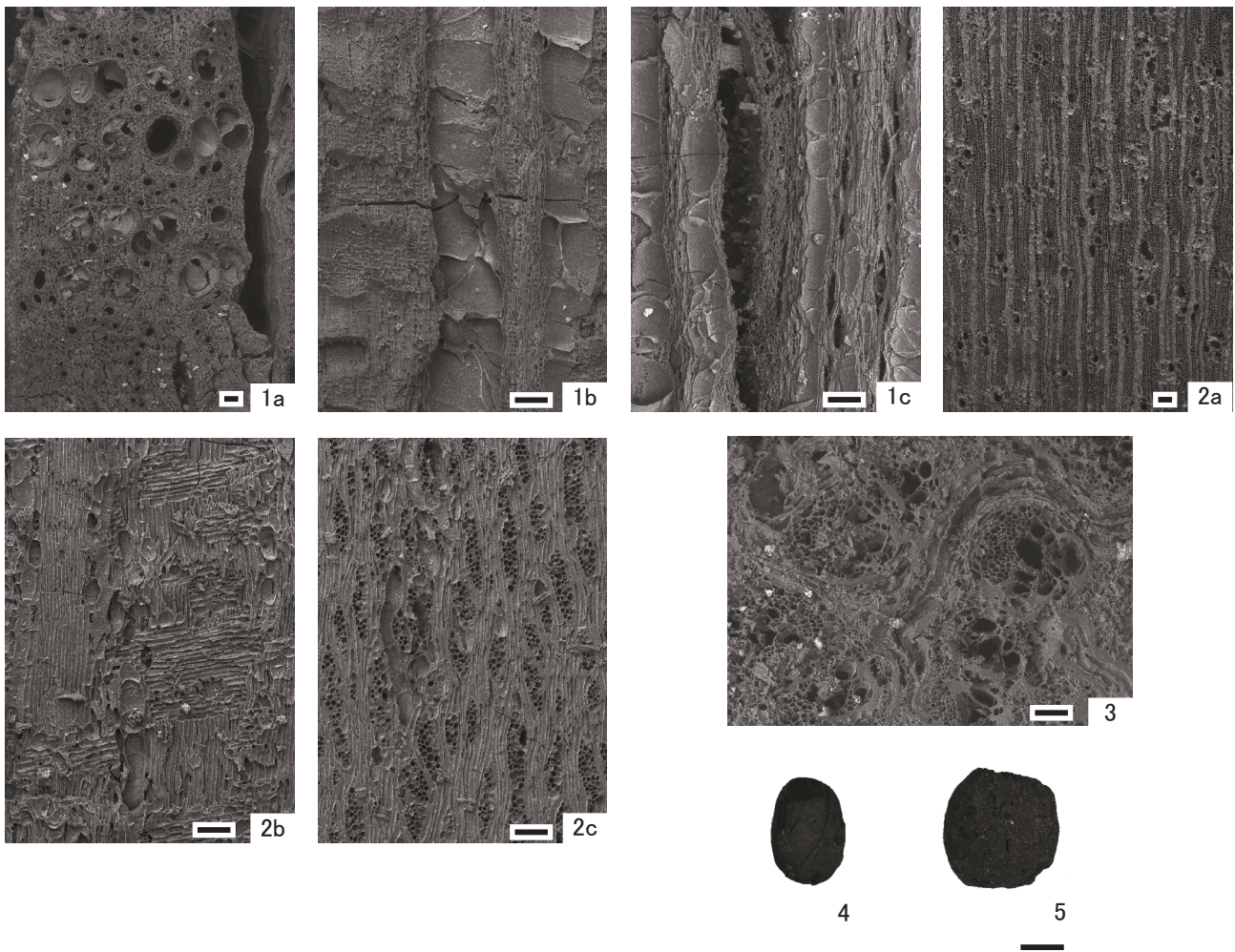
Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355–363.

島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織 地球社, 176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

Yoshida Kunio, Kunikita Dai, Miyazaki Yumiko, Nishida Yasutami, Miyao Toru, Matsuzaki Hiroyuki, 2013, Dating and stable isotope analysis of charred residues on the Incipient Jomon pottery (Japan). Radiocarbon 55, 1322–1333.



1. コナラ亜属クヌギ節(No.12) 4. イチイガシ(No.14)  
 2. クスノキ科(No.13) 5. クヌギ類(No.20)  
 3. イネ科?(No.19)

a:木口 b:柾目 c:板目  
 スケール:100 μm(1–3) 5mm(4,5)

写真11 炭化材・炭化種実

## 第7節 牧山遺跡における放射性炭素年代測定 (AMS 測定) および炭素・窒素安定同位体比分析

(株) 加速器研究所

### 1 測定対象試料

鹿児島県に所在する牧山遺跡の測定対象試料は、土器付着炭化物7点である(第124表)。これら7点のうち、試料2を除く6点を対象に、放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比及び含有量の測定を行った。試料2については量が不足したため、炭素・窒素安定同位体比及び含有量の測定を行うことができず、年代測定のみを行った。また、試料2については同じ理由により、化学処理工程2において試料量をできるだけ減らさないために、汚染除去のための処理を酸処理のみに留めた(通常は酸-アルカリ-酸処理を行う)。

試料5~7は土器片の口縁部外面(5は一部口縁の端面)から採取した。

### 2 年代測定試料の化学処理工程

#### (1) 試料1, 3~7

1) メス・ピンセットを使い、土等の混入物を取り除く。  
2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。AAA処理された試料を2つに分け、一方を年代測定用、他方を安定同位体等分析用の試料とする。

3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。  
4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。  
5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。  
6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### (2) 試料2

1) メス・ピンセットを使い、土等の混入物を取り除く。  
2) 酸処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。処理には1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用い、表1に「HCl」と記載する。

以下、(1)3)以降と同じ。

### 3 年代測定試料の測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)

の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 炭素・窒素安定同位体比及び含有量測定試料の化学処理工程と測定方法

2(1)~(2)の処理を行う。

(3) 試料をEA(元素分析装置)で燃焼し、N<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>を分離・定量する(第125表)。

(4) 分離したN<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>を、インターフェースを通して質量分析計に導入し、炭素の安定同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )と窒素の安定同位体比( $\delta^{15}\text{N}$ )を測定する。

これらの処理、測定には、元素分析計-安定同位体比質量分析計システム(EA-IRMS: Thermo Fisher Scientific社製Flash EA1112-DELTA V Advantage ConFlo IV System)を使用する。 $\delta^{13}\text{C}$ の測定ではIAEAのC6を、 $\delta^{15}\text{N}$ の測定ではN1を標準試料とする。

### 5 算出方法

(1)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料(PDB)からのずれを示した値である。 $\delta^{15}\text{N}$ は、試料窒素の<sup>15</sup>N濃度(<sup>15</sup>N/<sup>14</sup>N)を測定し、基準試料(大気中の窒素ガス)からのずれを示した値である。いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。 $\delta^{13}\text{C}$ はAMS装置と質量分析計で測定され、AMS装置による値は表中に(AMS)と注記し(表1)、質量分析計による値は表中に(MASS)と注記する(表3)。 $\delta^{15}\text{N}$ は質量分析計による値で、表中に(MASS)と注記する(第125表)。

(2) <sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として第126表に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第125表に、補正していない値を参考値として第126表に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲



であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.3\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線 (Reimer et al. 2020) を用い、OxCalv4.4較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。なお、暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を第124～126表に示す。

### (1) 年代測定

試料1～7の $^{14}\text{C}$ 年代は、 $3750 \pm 30\text{yrBP}$  (試料1) から $3070 \pm 30\text{yrBP}$  (試料3) の間にあり、 $3400 \sim 3200\text{yrBP}$ 頃のもの (試料2, 4～7) が多い。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、最も古い試料1が $2204 \sim 2066\text{cal BC}$ の間に2つの範囲、最も新しい試料3が $1391 \sim 1286\text{cal BC}$ の間に2つの範囲で示され、 $1700 \sim 1500\text{cal BC}$ 頃のもの (試料2, 4～7) が多い。全体として縄文時代後期前葉から後期末葉頃に相当し、後期中葉頃のものが多く見られる (小林編2008, 小林2017)。なお、試料1については、(2)に述べるように魚類を含む可能性があることから、海洋リザーバー効果によって本来より古い年代値が示されている可能性がある。

試料の炭素含有率 (酸化回収率=回収された二酸化炭素中の炭素相当量/燃焼された試料量) を確認すると、試料1, 3, 4, 7はいずれも50%を超える適正な値であった。試料2は40%、試料5は41%、試料6は28%という炭化物としてはやや低い値を示した。試料2, 5, 6については、土または胎土の混入が観察されていることもあり、測定された炭素の由来に若干注意を要する。試料2は汚染除去のための前処理が酸処理のみであったことも注意される。

### (2) 炭素・窒素安定同位体比および炭素・窒素含有量測定

次に、試料1, 3～7の炭素・窒素安定同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ ,  $\delta^{15}\text{N}$ ) と炭素・窒素含有量比 (C/Nモル比) について検討する。これらの結果について、日本列島における食性分析の成果を参照して検討する。今回測定された試料の値を日本列島の生物に関するデータと比較し、横軸に $\delta^{13}\text{C}$ 、縦軸に $\delta^{15}\text{N}$ を取ったグラフ (Yoneda et

al. 2004に基づいて作成、第411図) と、横軸に $\delta^{13}\text{C}$ 、縦軸にC/Nモル比を取ったグラフ (吉田2006に基づいて作成、第413図) に示した。

試料1, 3～7の $\delta^{13}\text{C}$ は $-26.9\%$  (試料7) から $-20.6\%$  (試料1) で、試料1を除く5点はC3植物やそれを食べる陸生哺乳類の範囲に分布する。試料1のみ明瞭に高く、鮭類や淡水魚等の範囲に含まれる。 $\delta^{15}\text{N}$ は $1.75\%$  (試料3) から $12.3\%$  (試料1) で、C3植物から海生魚類に当たる範囲までかなり広く分布する。また、C/Nモル比は $10.9$  (試料1) から $27.4$  (試料7) で、これらのうち試料3～7はC3植物および哺乳類からC3植物の堅果類に近い範囲までの間に分布する。試料1は他に比べてやや低く、 $\delta^{13}\text{C}$ が高いこともあって、第413図上ではC3植物および哺乳類とサケの間に位置する。

なお、 $\delta^{15}\text{N}$ がC3植物やシカ、イノシシ等の陸生哺乳類よりも高いことに関しては、この値が食物連鎖の上位に向かって濃縮されることから、陸生の雑食もしくは肉食動物 (第411図のグラフには表されていない) 由来の窒素が試料に含まれる可能性もある (赤澤ほか1993, 吉田2006)。ただし、土器附着炭化物の $\delta^{15}\text{N}$ については、食物が炭化する過程で値が高くなる実験結果があり (吉田2006)、埋没後の続成作用によってかなり変動する可能性もあるなど、試料の起源物質の種類とは別の影響も指摘されるため、注意を要する (三浦・加速器研2018にて整理)。これらの課題を考慮すると、土器附着炭化物の分析ではどちらかと言えば $\delta^{13}\text{C}$ とC/Nモル比 (第413図のグラフ) を重視し、 $\delta^{15}\text{N}$ はより慎重に扱う方が良いと考えられる。

また、第125表に示された試料3, 5, 6の炭素含有量は、炭化物としてはやや低い値となっており、土や胎土の混入によると見られる。このため、これらの試料の測定結果については、測定された炭素・窒素の由来に若干注意を要する。

以上、今回の測定結果と参照データ、および指摘されている課題などを踏まえ、さらに土器附着炭化物には複数種の食物が含まれる場合もあり得ることを考慮すると、試料3～7のもとになった食物にはC3植物やそれを食べる陸生哺乳類が含まれる可能性がある。雑食・肉食の哺乳類が含まれる可能性もあるが、上述の課題もあり、積極的に認めがたい。また淡水魚、海生生物等が含まれる可能性もあるが、 $\delta^{13}\text{C}$ がこれらの試料の値とかなり異なっていること (特に海生生物) と、上述の課題により、その可能性は低いと考えられる。試料1は他の5点と明瞭に異なり、魚類が含まれる可能性が高い (C3植物等も含まれる可能性はある)。

## 参考文献

赤澤威 米田穰 吉田邦夫 1993 北村縄文人骨の同位体食性分析 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告

書 11 一明科町内一 北村遺跡 本文編 ((財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 14) 長野県教育委員会 (財)長野県埋蔵文化財センター 445-468  
 Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 小林謙一 2017 縄文時代の実年代 一土器型式編年と炭素 14 年代一 同成社  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション  
 國木田大 吉田邦夫 辻誠一郎 福田正宏 2010 押出遺跡のクッキー状炭化物と大木式土器の年代, 東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要 9 1-14  
 三浦武司・(株)加速器分析研究所 2019 まほろん収蔵資料の放射性炭素年代測定及び田曾・室素安定同位体比分析の5か年の総括報告 福島県文化財センター白

河館研究紀要 2018 13-58  
 Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757  
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
 吉田邦夫 2006 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析, 新潟県立歴史博物館研究紀要 7, 51-58  
 Yoneda, M. et al. 2004 Isotopic evidence of inland-water fishing by a Jomon population excavated from the Boji site, Nagano, Japan, Journal of Archaeological Science, 31, 97-107

第124表 放射性炭素年代測定結果(δ<sup>13</sup>C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)		δ <sup>13</sup> C補正あり			
							Libby Age (yrBP)		pMC(%)	
IAAA-210222	1	検出地区: D16区 層位: II a層 掲載番号 360	土器附着炭化物	AAA	-21.36	± 0.17	3, 750	± 30	62.67	± 0.21
IAAA-210223	2	検出地区: D22区 層位: II a層 取り上げ番号 29643	土器附着炭化物	HCl	-27.68	± 0.21	3, 390	± 30	65.60	± 0.21
IAAA-210224	3	検出地区: G24区 層位: II b層 取り上げ番号 11304	土器附着炭化物	AAA	-26.27	± 0.16	3, 070	± 30	68.26	± 0.22
IAAA-210225	4	検出地区: D22区 層位: II a層 掲載番号 269	土器附着炭化物	AaA	-26.77	± 0.16	3, 270	± 30	66.58	± 0.22
IAAA-210226	5	検出地区: G24区 層位: II b層 取り上げ番号 40700	土器附着炭化物	AaA	-23.53	± 0.17	3, 310	± 30	66.24	± 0.22
IAAA-210227	6	検出地区: H28区 層位: II b層 取り上げ番号 37643	土器附着炭化物	AaA	-26.11	± 0.17	3, 280	± 30	66.48	± 0.21
IAAA-210228	7	検出地区: G30区 層位: II b層 II b層一括	土器附着炭化物	AaA	-27.50	± 0.20	3, 210	± 30	67.02	± 0.22

[IAA登録番号: #A704]

第125表 炭素・窒素安定同位体比及び含有量

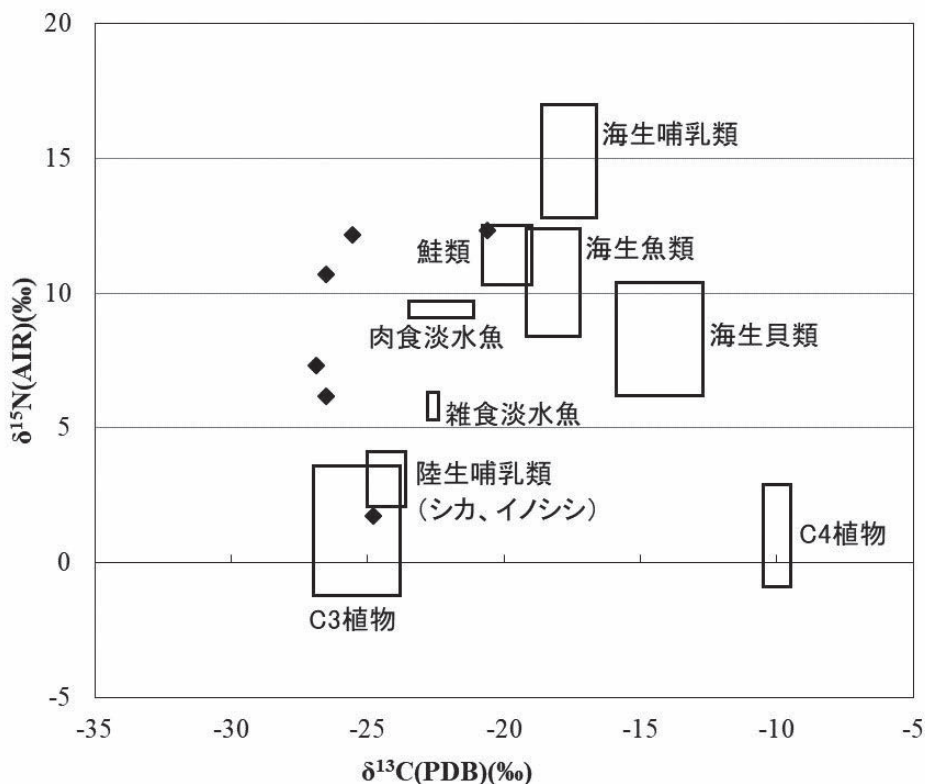
試料名	δ <sup>13</sup> C (‰) (MASS)	δ <sup>15</sup> N (‰) (MASS)	C含有量 (%)	N含有量 (%)	C/N重量比	C/Nモル比
1	-20.6	12.3	58.3	6.22	9.4	10.9
3	-24.8	1.75	42.1	2.12	19.8	23.1
4	-26.5	10.7	61.8	3.25	19.0	22.1
5	-26.5	6.19	43.1	2.25	19.2	22.4
6	-25.6	12.1	35.5	2.43	14.6	17.1
7	-26.9	7.31	52.3	2.23	23.5	27.4



第126表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代, 較正年代)

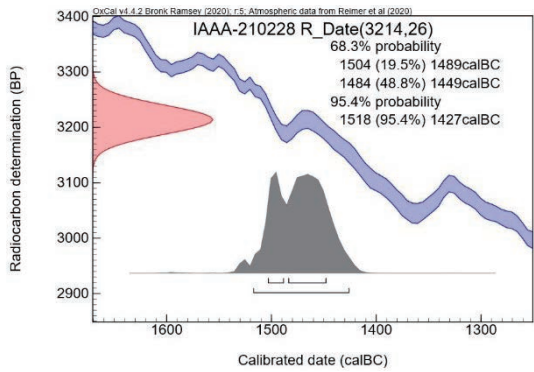
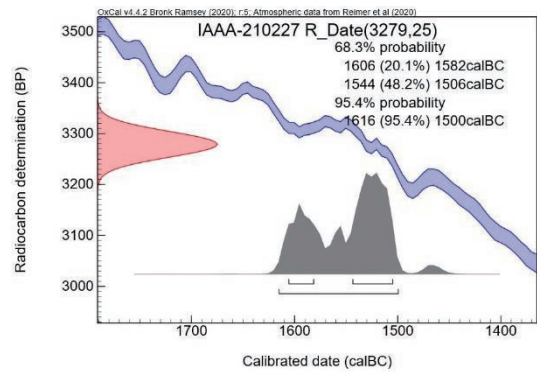
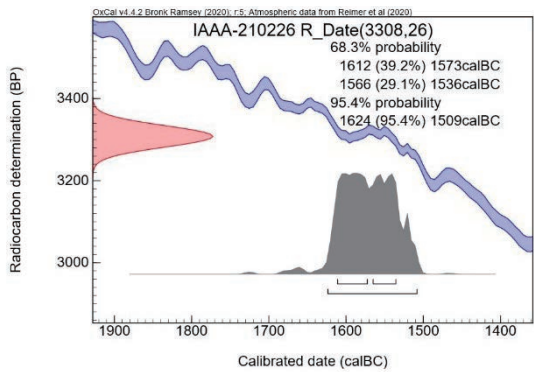
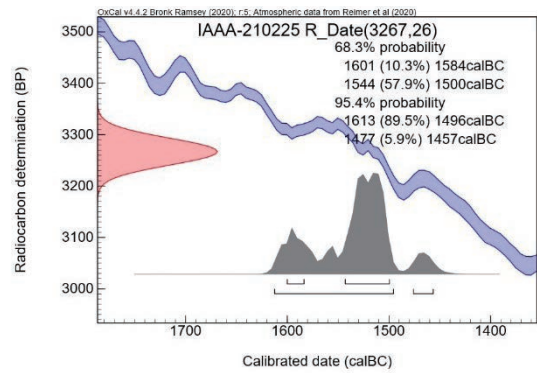
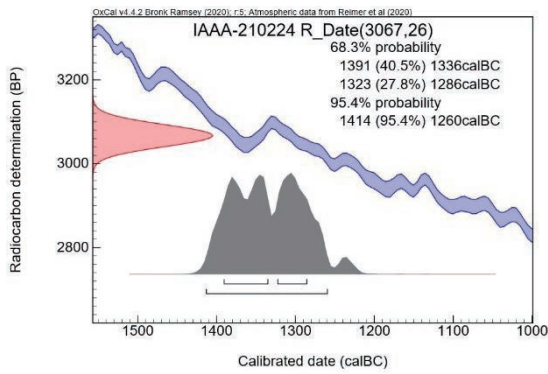
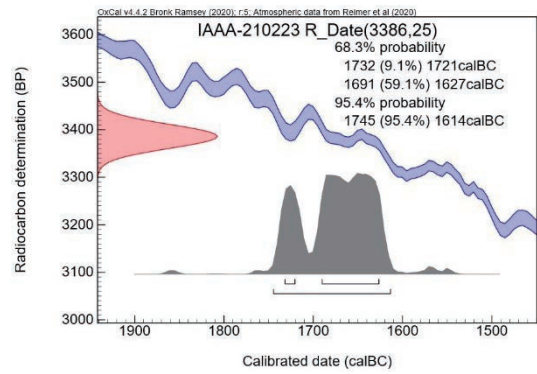
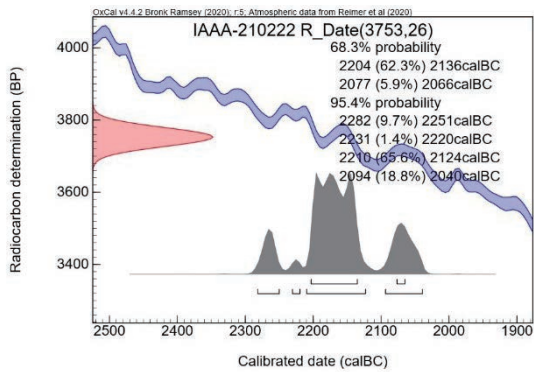
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし			暦年較正用			1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)	(%)	(yrBP)	(%)	(%)		
IAAA-210222	3, 690 ± 30	63.14 ± 0.21	0.21	3, 753 ± 26			2204calBC - 2136calBC (62.3%) 2077calBC - 2066calBC (5.9%)	2282calBC - 2251calBC (9.7%) 2231calBC - 2220calBC (1.4%) 2210calBC - 2124calBC (65.6%) 2094calBC - 2040calBC (18.8%)
IAAA-210223	3, 430 ± 20	65.24 ± 0.20	0.20	3, 386 ± 25			1732calBC - 1721calBC (9.1%) 1691calBC - 1627calBC (59.1%)	1745calBC - 1614calBC (95.4%)
IAAA-210224	3, 090 ± 30	68.08 ± 0.22	0.22	3, 067 ± 26			1391calBC - 1336calBC (40.5%) 1323calBC - 1286calBC (27.8%)	1414calBC - 1260calBC (95.4%)
IAAA-210225	3, 300 ± 30	66.34 ± 0.22	0.22	3, 267 ± 26			1601calBC - 1584calBC (10.3%) 1544calBC - 1500calBC (57.9%)	1613calBC - 1496calBC (89.5%) 1477calBC - 1457calBC (5.9%)
IAAA-210226	3, 280 ± 30	66.44 ± 0.22	0.22	3, 308 ± 26			1612calBC - 1573calBC (39.2%) 1566calBC - 1536calBC (29.1%)	1624calBC - 1509calBC (95.4%)
IAAA-210227	3, 300 ± 30	66.33 ± 0.21	0.21	3, 279 ± 25			1606calBC - 1582calBC (20.1%) 1544calBC - 1506calBC (48.2%)	1616calBC - 1500calBC (95.4%)
IAAA-210228	3, 260 ± 30	66.67 ± 0.22	0.22	3, 214 ± 26			1504calBC - 1489calBC (19.5%) 1484calBC - 1449calBC (48.8%)	1518calBC - 1427calBC (95.4%)

[参考値]

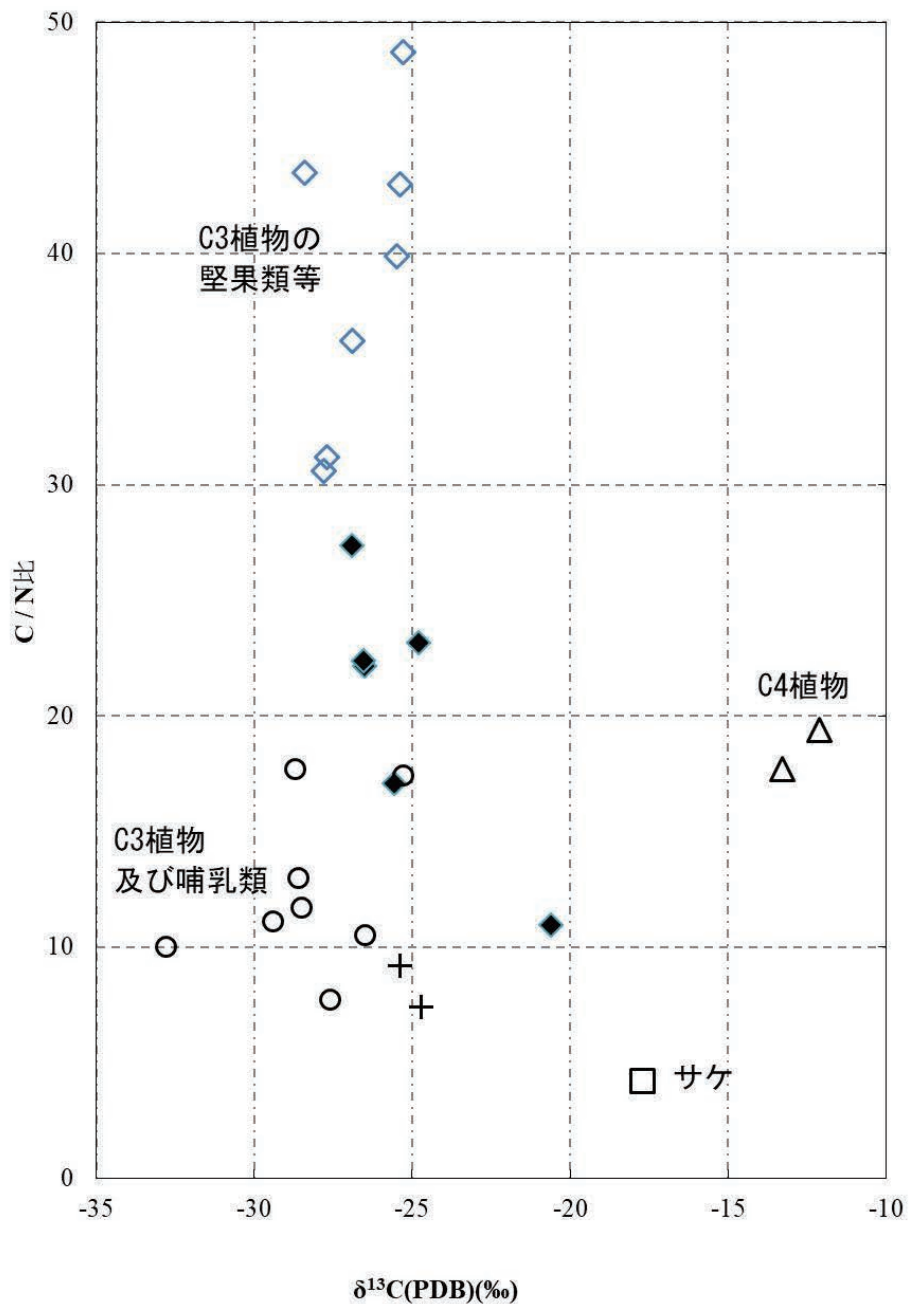


第411図 炭素・窒素安定同位体比グラフ(参考)

◆は測定試料。散布図上に表示した枠は、食料資源の同位体比の分布は人を示す。Yoneda et al. 2004に基づき作成した。



第412図 暦年較正年代グラフ(参考)



第413図 炭素安定同位体比・C/N比グラフ(参考)

グラフのC/N比はモル比。◆は測定試料, 他は現生動植物の炭化試料。現生動植物試料のデータは吉田2006による。また吉田2006, 國木田ほか2010を参考に食料資源の大別を示した。◇はC3植物の堅果類等, ○は堅果類以外のC3植物, +はC3植物を食べる哺乳類, □はサケ, △はC4植物。

なお, 吉田2006によると, C3植物の堅果類等(測定データはトチ, 同(木灰), ミズナラ, ドングリ, 同(粉), カチグリ, ヤマユリ, ジャガイモ, 以下他の食料資源も同様に示す)のC/N比は30~50, 他のC3植物(エゴマ, アズキ, サトイモ, ヤマイモ, ナガイモ, ノビル, マムシグサ, クワイ)及び哺乳類(タヌキ, クマ)は7~20, C4植物(アワ)も堅果類以外のC3植物と同程度とされる。また, サケは海産魚類の範囲に属するものとして示されている。

## 第8節 牧山遺跡出土遺物の蛍光X線分析

鹿児島県立埋蔵文化財センター

牧山遺跡出土土器に付着した赤色物質について双眼実体顕微鏡による観察及びエネルギー分散型蛍光X線分析装置による成分分析を行った。

### 1 試料について

分析試料は牧山遺跡包含層出土の土器3点である。試料の詳細は各項目で示す。なお、1190については赤色部分と胎土部分の分析を行っている。

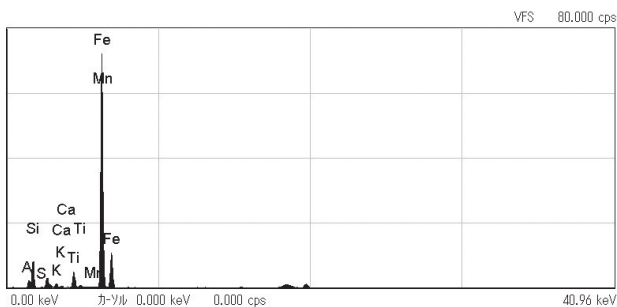
掲載番号：1190（赤色部分）

出土区：G-18

層位：II a・b

分類：第XI類

元素	ライン	質量濃度 (%)	3σ (%)	強度 (cps/mA)
13 Al	アルミニウム	19.22	0.79	25.85
14 Si	ケイ素	41.62	0.73	98.13
16 S	硫黄	0.19	0.07	1.46
19 K	カリウム	2.62	0.15	18.63
20 Ca	カルシウム	0.72	0.09	6.34
22 Ti	チタン	3.61	0.12	128.64
26 Fe	鉄	32.02	0.48	2139.06



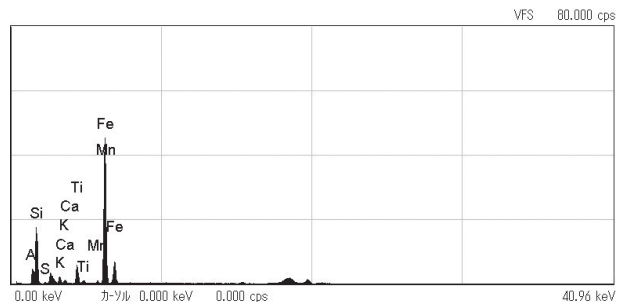
掲載番号：1190（胎土部分）

出土区：G-18

層位：II a・b

分類：第XI類

元素	ライン	質量濃度 (%)	3σ (%)	強度 (cps/mA)
13 Al	アルミニウム	20.97	0.66	47.47
14 Si	ケイ素	57.36	0.65	190.91
16 S	硫黄	0.51	0.08	4.56
19 K	カリウム	3.68	0.17	29.35
20 Ca	カルシウム	1.41	0.11	13.62
22 Ti	チタン	3.35	0.10	127.44
25 Mn	マンガン	0.24	0.03	17.02
26 Fe	鉄	12.46	0.19	1086.97



## 2 観察・分析結果

### (1) 形状観察

双眼実体顕微鏡（ニコン製 SMZ1000）での8～80倍観察

### (2) 成分分析

エネルギー分散型蛍光X線分析装置（堀場製作所製 XGT-1000, X線管球ターゲット：ロジウム, X線照射径 100 μm）を使用し, X線管電圧:15/50kV, 電流:自動設定で分析を行った。以下, 試料の分析結果を掲載する。

定量補正法：スタンダードレス

XGT径：100 μm 測定時間：300s

X線管電圧：15/50kV 電流：1000/580 μA

パルス処理時間：P3

X線フィルタ：なし 試料セル：なし

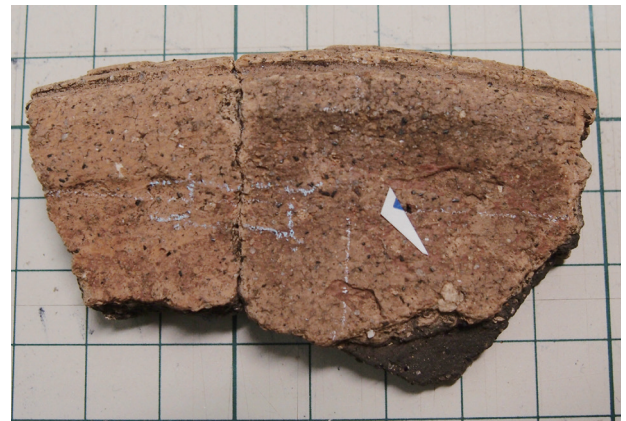


写真12 第XI類土器 1190（赤色部分）

定量補正法：スタンダードレス

XGT径：100 μm 測定時間：300s

X線管電圧：15/50kV 電流：1000/700 μA

パルス処理時間：P3

X線フィルタ：なし 試料セル：なし

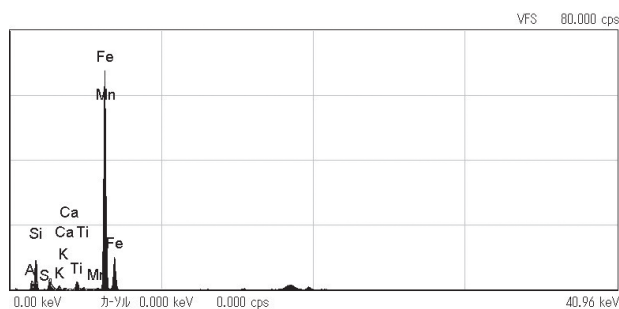


写真13 第XI類土器 1190（胎土部分）



掲載番号：626  
 出土区：D-31  
 層位：II c  
 分類：第VI類

	元素	ライン	質量濃度 (%)	3σ (%)	強度 (cps/μA)	
13	Al	アルミニウム	K	20.40	0.79	32.02
14	Si	ケイ素	K	40.84	0.70	111.10
16	S	硫黄	K	0.14	0.07	1.32
19	K	カリウム	K	2.08	0.13	17.43
20	Ca	カルシウム	K	0.68	0.09	7.14
22	Ti	チタン	K	2.01	0.10	86.70
25	Mn	マンガン	K	0.17	0.04	11.75
26	Fe	鉄	K	33.68	0.49	2748.25



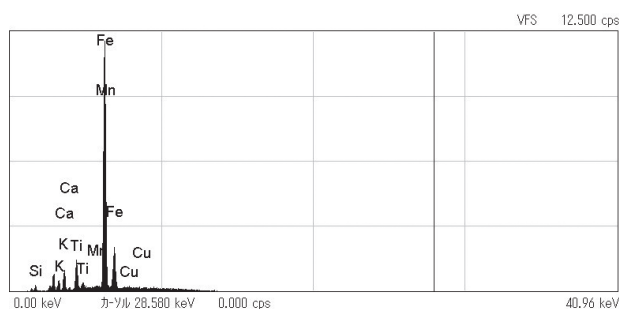
定量補正法：スタンダードレス  
 XGT径：100 μm 測定時間：300s  
 X線管電圧：15/50kV 電流：1000/420 μA  
 パルス処理時間：P3  
 X線フィルタ：なし 試料セル：なし



写真14 第VI類土器 626

掲載番号：1718  
 出土区：D-34  
 層位：II c  
 分類：弥生土器

	元素	ライン	質量濃度 (%)	3σ (%)	強度 (cps/μA)	
14	Si	ケイ素	K	8.69	1.07	3.67
19	K	カリウム	K	2.88	0.36	6.02
20	Ca	カルシウム	K	5.28	0.37	13.04
22	Ti	チタン	K	5.28	0.25	48.76
25	Mn	マンガン	K	0.73	0.15	8.39
26	Fe	鉄	K	76.70	1.05	917.48
29	Cu	銅	K	0.43	0.30	2.80



定量補正法：スタンダードレス  
 XGT径：100 μm 測定時間：300s  
 X線管電圧：15/50kV 電流：1000/740 μA  
 パルス処理時間：P3  
 X線フィルタ：なし 試料セル：なし

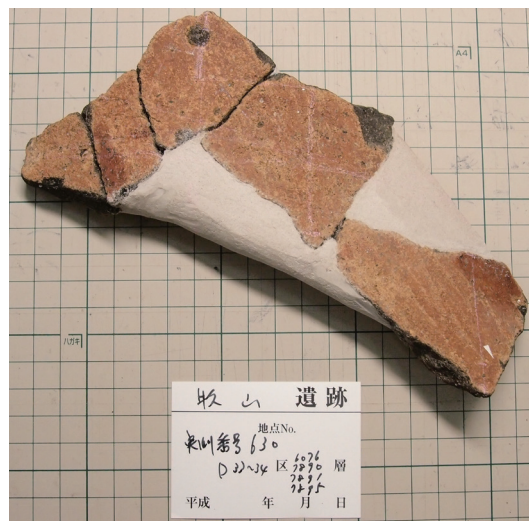


写真15 弥生土器 1718

### 3 考察

蛍光X線分析の結果、1190は赤色部分と胎土部分において、赤色部分の方が若干鉄分の強度が強く現れている。顕微鏡観察下でもベンガラを塗布しているかの判断は難しい。626は赤色部分から鉄(Fe)の成分が高く検出され、顕微鏡観察下において表面への付着が認められるため、鉄を主成分とする広義のベンガラ(赤色顔料)

である可能性が高い。1718も赤色顔料から鉄(Fe)の成分が高く検出されたため、鉄を主成分とする広義のベンガラ(赤色顔料)である可能性が高い。土器表面の顕微鏡観察だけで塗布しているかの判断は難しいが、胎土の表面のみに認められるため、土器製作及び使用中のいずれかの段階で塗布又は付着した可能性が考えられる。

## 第9節 牧山遺跡における土器圧痕調査成果

### 1 圧痕の選別～分析

土器圧痕調査は、土器の表面（表裏面・断面）における種実・昆虫等の痕跡を探す調査である。牧山遺跡では、土器表面に空隙が多くみられ、整理作業の過程で圧痕の可能性のある資料の抽出が行われていた。抽出した資料については、実体顕微鏡を用いて圧痕か否かをさらに選別し、最終的に可能性がある、土器82点から89箇所についてレプリカを作製した。レプリカ作製の手順は、以下のとおりである。レプリカの作製方法等は、福岡市埋蔵文化財センター方式（比佐・片多2005）を基本としている。

- ① 抽出した土器について台帳を作成し、圧痕の位置や所見等の記録を作成する。
- ② 圧痕部分を実体顕微鏡で拡大し、内部の土等の汚れを除去する。
- ③ 実体顕微鏡で圧痕の拡大写真を撮影する。
- ④ 離型剤（パラロイドB-72 5%アセトン溶液）を圧痕部に塗布し、シリコン・ゴム（アグサジャパン株式会社製ブルーミックスソフト）を圧痕部に充填する。
- ⑤ やや硬化したシリコン・ゴムをマウント（走査型電子顕微鏡用ピンタイプ試料台等を使用）に盛り、圧痕部と接合し、硬化させる。
- ⑥ 硬化後、レプリカを取り外し、圧痕部の離型剤をアセトンで洗浄する。
- ⑦ 作製したレプリカを蒸着し、走査型電子顕微鏡で撮影・同定する。

なお、レプリカの電子顕微鏡撮影は鹿児島大学研究推進機構研究支援センター機器分析施設に、一部試料の同定は（株）パレオ・ラボに委託した。また、電子顕微鏡での撮影前にイソプロパノールによる油分の除去を行ったため、レプリカが1割程度収縮している。電子顕微鏡写真のスケールバーに留意されたい。

### 2 結果

同定結果は、第127表及び第414図～第421図のとおりである。以下、同定根拠等について記載する。なお、レプリカを作製した結果、明らかに種実・昆虫類ではないと確認されたものは、同定作業は行っていない。

#### （1）土器種実圧痕レプリカの同定

山本 華（（株）パレオ・ラボ）

#### ア はじめに

鹿児島県牧山遺跡から出土した縄文時代～古墳時代の土器より、レプリカ法によって採取された圧痕のレプリカについて同定した。

#### イ 試料と方法

試料は、牧山遺跡から出土した土器から作製された圧痕のレプリカ25点である。圧痕土器の調査および圧痕

レプリカの作製は、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターによって行われた。

種実圧痕のレプリカは、あらかじめ撮影された電子顕微鏡写真を参照しながら現生標本と対照させ、実体顕微鏡（OLYMPUS SZX7）下で同定を行った。なお、同定にあたっては金沢大学佐々木由香氏所蔵の標本も参照させていただき、ご教示を得た。土器と圧痕レプリカは、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターに保管されている。

#### ウ 結果

種実圧痕について、同定結果を第127表に示す。以下に、サンプル番号順に記載を行い、同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠した。

#### MKY0002 不明鱗茎？

上面観は楕円形、側面観は広卵形。一部層状の鱗片がはがれているように見える。下端に円形の座のような部分があるが、表面に表皮細胞は観察されない。大網ほか（2018）は、表皮細胞が観察される場合に「不明鱗茎」とし、表皮細胞が観察されず形態のみが類似する場合には「不明鱗茎か」としている。MKY0002は表皮細胞が観察されなかったため、不明鱗茎？とした。

#### MKY0006-1 イネ科 Poaceae 有ふ果

幅の狭い紡錘形。表面は平滑。内穎と外穎の境界部に明瞭な段差がある。栽培種以外のイネ科である。

#### MKY0007 アサ Cannabis sativa L. 核 アサ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点があるが、圧痕ではやや不明瞭。小さいため、未熟な核の可能性はある。

#### MKY0011-1 クスノキ科近似種 c. f. Lauraceae 種子

やや扁平な球体。一部に一段高い部分があり、果皮が残存している状態の可能性はある。大きさと形態がクスノキ科のクスノキやクロモジなどの種子に似るが、臍や隆線など、同定の根拠となる部位は残存していない。

#### MKY0016 不明 木材

長方形に近い薄い破片。長軸方向に筋があり、木材の破片と考えられる。

#### MKY0019 ササゲ属アズキ亜属 Vigna subgenus Ceratotropis sp. 種子 マメ科

上面観は円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は長楕円形で、溝はみえない。

#### MKY0021 不明 木材

残存形態はいびつだが、長軸方向に筋が確認される。

#### MKY0023 種実ではない

不定形で、表面には着点など種実と同定できる部位はない。図版にも掲載していない。

#### MKY0024 不明

いびつで扁平な楕円形。表面には着点など同定できる

部位はないが、一部が平坦になっており、軟質の有機物が変形した可能性が考えられる。

#### MKY0031 不明 種実？

扁平な倒卵形。形は種実のようであるが、表面に特徴的な構造は見られない。

#### MKY0032 不明

不定形。表面はざらつき、浅い溝と低い稜線が見られるが、同定できる部位はない。

#### MKY0034 不明 冬芽

やや扁平な卵体。上端がやや突出する。鱗片の一部が剥がれていると考えられる。

#### MKY0037 種実ではない

不定形。一部がやや平坦で、表面はざらつく。種実と同定できる部位は残存していない。

#### MKY0042 スダジイ近似種 c.f. *Castanopsis sieboldii* subsp. *sieboldii* 果実 ブナ科

残存形態は細長い紡錘形。柱頭や着点は圧痕では残存していないが、表面が平滑で、長軸方向に低い稜線がわずかに確認される点でスダジイに似る。

#### MKY0043 サンショウ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC. 種子 ミカン科

側面観は倒卵形。狭楕円形の臍がある。表面には凹凸があるが、明瞭な網目は観察されず、種皮が覆っている状態と考えられる。

#### MKY0046 クスノキ科近似種 c.f. Lauraceae 種子

やや扁平な球体。わずかに突出する部分があるが、臍かどうかは不明瞭。大きさと形態がクスノキ科のクスノキやクロモジなどの種子に似るが、臍や隆線など、同定の根拠となる部位は残存していない。

#### MKY0058 クスノキ科近似種 c.f. Lauraceae 種子

やや扁平な球体。わずかに突出する部分から稜線が伸びるが、土器のひび割れの可能性もあり、臍や本来の表面構造かどうかは不明。大きさと形態がクスノキ科のクスノキやクロモジなどの種子に似るが、臍や隆線など、同定の根拠となる部位は残存していない。

#### MKY0059 不明 種実

上面観は両凸レンズ形、側面観は卵形。上面観、側面観ともに左右の膨らみ方は非対称。側面に明瞭な稜がある点はバラ科の木本植物の核にも似るが、表面には特徴的な筋や溝、皺などは見られない。

#### MKY0063-2 不明 Unknown 種実

やや扁平な楕円体。表面は平滑で、一部わずかに種皮が残存している。何らかの種子の子葉と考えられる。

#### MKY0063-3 サンショウ属 *Zanthoxylum* sp. 種子 ミカン科

上面観は扁平な楕円形、側面観は倒卵形。側面に、狭楕円形で全長よりやや短い臍がある。表面には低い網目状の隆線があるが、不明瞭。形態からイヌザンショウ種

子の可能性も考えられるが、やや潰れて変形しており、大きさも小さい。未熟な種子の可能性もある。

#### MKY0072 イネ科 Poaceae 有ふ果

上面観は楕円形、側面観は幅の狭い紡錘形。表面は平滑で、長軸方向にわずかに筋が見える。基部は残存していない。栽培種以外のイネ科である。

#### MKY0075 種実ではない

狭楕円形。表面は不規則に隆起し、種実や木材などではないと考えられる。

#### MKY0076 マタタビ属 *Actinidia* sp. 種子 マタタビ科

上面観は狭楕円形、側面観は倒卵形。表面には五角形や六角形、円形、楕円形などの窪みが連なる規則的な網目状隆線がある。マタタビやサルナシよりも網目がやや大きく、シマサルナシに似る。

#### MKY0078 不明

広卵形。中心に芯があり、その周囲に鱗片が層状に重なる構造に見える。冬芽の可能性も考えられるが、全体がかなり小さく、不明。

#### MKY0080 不明 種実

上面観は円形、側面観は卵形。形態からは何らかの種実の可能性も考えられるが、表面は平滑で、特徴的な構造は残存していない。

## (2) 土器種実圧痕レプリカの同定

### 真邊 彩 (鹿児島県教育庁)

(株)パレオ・ラボによる種実同定以外の資料について、ここでは記載する。同定結果については、(株)パレオ・ラボの同定結果と併せて第127表にまとめた。なお、レプリカ作製段階で、果皮あるいは葉片と判断したものの一部は、電子顕微鏡撮影は実施せず、実体顕微鏡での拡大写真の撮影までとした。これらについては、第421図にまとめて掲載した。

#### MKY0001・0011-2・0015-2 甲虫 不明

MKY0001は、体部の背面側と考えられる。器面が荒れているため残存状況は良くないが、表面に細かい点刻状の凹凸がみられる。

MKY0011-2は表面が摩滅し不明瞭であるが、胸部と体部の境界と考えられる筋や、脚のような細長い構造がみられるため、甲虫の可能性はある。

MKY0015-2は、完形の埋設土器の胴部内面で検出した。甲虫の腹面側で、部分的に頭部が残存する。扁平で表面は平滑であり、点刻などはみられない。3条の腹節と、基節から生える脚が明瞭に残存する。

#### MKY0003・0004・0035・0056・0077・0082 コクゾウムシ *Sitophilus zeamais*

昆虫類では、最も多く検出された。口吻は欠損しているが、大半が頭部から体部まで残存し、表面の点刻も明



瞭に確認できる。腹面側は基節も明瞭で、MKY0003は脚部も残存する。MKY0035は、上翅が欠損している。

**MKY0006-2 イネ *Oryza sativa* 穎果 イネ科**

細長く、表面に顆粒状突起が明瞭である。レプリカの作製段階でイネと判断されたため、電子顕微鏡撮影は行っていない。

**MKY0008 ヌスビトハギ属 *Desmodium podocarpum* 節果 マメ科**

半月形で薄く、輪郭のみ縁取り状にやや厚みがある。

**MKY0009・0017・0062 葉片**

小型の木葉片である。MKY0009の葉脈は掌状で、わずかに残る葉縁は鋸歯状である。

**MKY0010-1・0010-2・0012・0014・0036・0040 子葉**

長楕円形を呈し、表面に筋が入るものもある。部分的にしか残存しないものもあるが、大きさから堅果類またはマメ類（ダイズ属・ササゲ属アズキ亜属）の子葉と考えられる。MKY0040は長楕円形の子葉であり、MKY0042と特徴が類似しているため、スダジイ近似種と考えられる。

**MKY0018・0038・0039・0041・0045・0048・0049・0060・0064・0066・0071 果皮**

薄く弧状に緩くカーブする形状であり、堅果類等の果皮と考えられる。大半は破片状であり、同定には至っていない。MKY0064は花柱が残存しており、俵型の体部から太く短い花柱が伸びる特徴から、イチイガシ *Quercus gilva* Blume の果皮と同定できる。

**MKY0033・0055 巻貝**

MKY0033は縦長の巻貝で、密集しているがほとんど欠損している。残存状況から、砕いて混和材として加えられた可能性がある。MKY0055は、微細でやや丸みを帯びる形態である。陸生か海生かは不明である。

**MKY0044・0047 繊維又は毛**

いずれも軟質と考えられ、MKY0044は撚りがみられるため、糸状のものと推定される。一方、MKY0047は撚りがみられないため、毛などの可能性がある。

**MKY0061 カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* 核果 ミカン科**

側面形がD字形を呈し、側面に大きなヘソがある。器面の凹凸が明瞭で、ヘソの中央は溝状に凹む。

**MKY0067 布**

平織りの布目痕である。

**MKY0079 不明**

長楕円形の薄い圧痕で、ワクド石タイプ圧痕（ダイズ属ヘソの圧痕）と想定した。しかし、ヘソ部中央の筋などの構造が不明瞭であり、根拠に欠けるため不明とした。

**3 考察**

牧山遺跡では、縄文時代後期の資料を中心に、多種多様な種実・昆虫類の圧痕を検出できた。同定できた種実

については、堅果類、マメ科植物、サンショウ属、マタタビ属といった有用植物がほとんどであり、縄文時代に食用とされた種が多く確認された。

特に、マメ科植物は、明確な同定根拠に欠ける資料もあるが、ササゲ属アズキ亜属は県内でも古手の検出例である。九州地方では、ダイズやアズキの検出例は縄文後期初頭から東九州地方で出現し、後期後半で広がるとされる（小畑 2016）。ダイズ・アズキの栽培には、土掘具とされる打製石斧との関係性が指摘されており、牧山遺跡の検出例も、打製石斧が豊富な時期と一致する。本資料は、県内でのマメ科植物の栽培開始期を検討する上で重要な資料である。

サンショウ属は、サンショウ、イヌザンショウ？、カラスザンショウと複数種が確認された。サンショウ属は炭化種実や圧痕での検出例が多く、九州地方では圧痕検出例も年々増加している。サンショウ属の果実には、テルペン類や1,8-シネオールといった貯蔵穀物害虫の駆除・忌避に効果がある成分が含まれており、当時コクゾウムシ等の害虫の防駆虫剤として用いられた可能性を考えている（真邊・小畑 2017）。牧山遺跡においても、堅果類の子葉や果皮が多数検出されており、貯蔵食糧（堅果類：ドングリ）と害虫（コクゾウムシ）、そして防駆虫剤（サンショウ属）という関係性を圧痕から見出すことができる。今回の圧痕調査によってサンショウ属が複数種確認されたことを受け、種類ごとの使い分け等が想定されるのか、今後の検出例を含めて検証が必要である。

このほか、本県の圧痕ではあまり例のないクスノキ科近似種が3点検出され、新たな有用植物利用の可能性が加わった。また、ヌスビトハギや糸・毛など、当時の人々に付着していたと考えられる資料の検出など、食生活に限らず、環境指標や生活道具といった多視点から当時の生活を検証できる資料が確認できたことが特筆される。さらに、アサの圧痕は曾於市宮之迫遺跡における後期前葉の検出例（小畑・真邊 2013）に次いで本県では2例目であり、種実と繊維の両側面からの利用が想定される。

昆虫類は、コクゾウムシ以外にも3例検出した。圧痕では、環境相に比べ、より人間生活に近い相の種実・昆虫類が検出される傾向にあり、昆虫類はコクゾウムシに代表されるように大半が害虫等、人間生活に近い存在のものである（小畑 2018 等）。県内の圧痕調査成果の蓄積と共に、不明昆虫類の検出例も増加しており、専門家の意見も踏まえた生態的な特性の検証が必要であろう。

牧山遺跡での圧痕調査の結果、縄文後期後葉を中心とした種実・昆虫類の資料が豊富に得られた。また、そのほとんどが有用植物ないしは害虫という、人間の生活により近いとされるものであり、当時の生活に関わったとされる植物や昆虫類の多様性が読み取れた点が大きな成果といえる。



引用・参考文献

大網信良・守屋 亮・佐々木由香・長佐古真也 2018 土器圧痕からみた縄文時代中期における多摩ニュータウン遺跡群の植物利用と遺跡間関係 (第1報). 研究論集, X X X II, 1-25.  
 小畑弘己 2016 『タネをまく縄文人 最新科学が覆す農耕の起源』吉川弘文館  
 小畑弘己 2018 『昆虫考古学』角川選書  
 小畑弘己・真邊 彩 2013 「鹿児島県宮之迫遺跡の圧痕調査成果 - 縄文

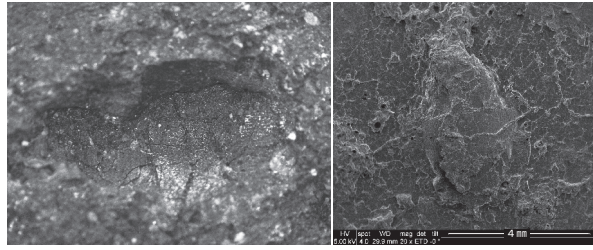
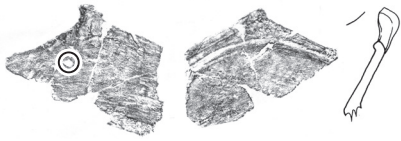
時代の家屋害虫コクゾウムシ属甲虫圧痕の成因に関する一理解-』『文学部論叢』第104号 熊本大学文学部  
 比佐陽一郎・片多雅樹 2005 『土器圧痕レプリカ法による転写作業の手引き』, 福岡市埋蔵文化財センター  
 真邊 彩・小畑弘己 2017 「産状と成分からみたカラスザンショウ果実の利用法について」『植生史研究』第26巻第1号  
 米倉浩司・梶田 忠 2003- BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>

第127表 牧山遺跡検出圧痕一覧表

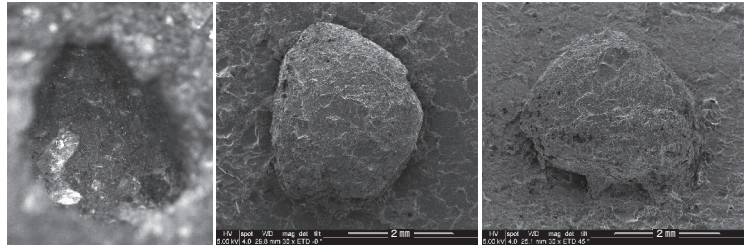
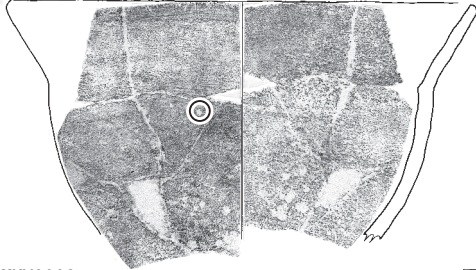
資料番号	掲載番号	器形	型式・時期※	部位	検出面	分類群	部位	備考	挿図番号
MKY0001	891	深鉢	第X -a 類	口	外	甲虫	体部		414
MKY0002	991	深鉢	第X -d 類	頸	外	不明	鱗茎?		414
MKY0003	1039	深鉢	第VI類~第X類	胴	外	コクゾウムシ	胸部~体部		414
MKY0004	1136	深鉢	第VI類~第X類	胴	外	コクゾウムシ	胸部~体部		414
MKY0006-1	1153	深鉢	第VI類~第X類	胴	外	イネ科	有ふ果	弥生時代の可能性もある	414
MKY0006-2	1333	台付皿	第VI類~第X類	胴	断	イネ	穎果		414
MKY0007				口	外	アサ	核	未熟か	
MKY0008	283	深鉢	第IX類か第X -c 類	胴	内	ヌスピトハギ	節果		421
MKY0009	-	深鉢	縄文時代後期不明	胴	断	木葉片	-		421
MKY0010-1	-	深鉢	第V類	胴	外	子葉片	-		421
MKY0010-2	胴			内	子葉又は果皮片	-			
MKY0011-1	-	深鉢	第IV類	胴	外	クスノキ科近似種	種子		415
MKY0011-2	胴			内	甲虫	体部			
MKY0012	-	深鉢	縄文時代後期不明	胴	断	子葉	-		414
MKY0014	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	断	不明	子葉		421
MKY0015	1	深鉢	第I類	胴	内	甲虫	-		415
MKY0016	289	深鉢	第X -b 類	胴	外	不明	木材		415
MKY0017	-	深鉢	第IX類	胴	内	葉片	-		421
MKY0018	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	内	堅果類	果皮		421
MKY0019	-	深鉢	第V類	口	内	ササゲ属アズキ亜属	種子		415
MKY0021	-	深鉢	第XII類	胴	外	不明	木材		415
MKY0023	-	深鉢	XII類	胴	内	-	-	種実ではない	415
MKY0024	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	外	不明	-	軟質の有機物か	416
MKY0031	964	深鉢	第X -c 類	口	口唇	不明	種実?		416
MKY0032	935	深鉢	第X -c 類	口	口唇	不明	-		416
MKY0033	-	瓦器		胴	断	巻貝	-	混和材か	416
MKY0034	-	深鉢	第VI類~第X類	底	底面	不明	冬芽	鱗片重なる	416
MKY0035	-	深鉢	第VI~第X類	胴	内	コクゾウムシ	胸部~体部		416
MKY0036	-	深鉢	第XII -b 類	胴	内	堅果類	子葉		421
MKY0037	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	外	-	-	種実ではない	416
MKY0038	-	深鉢	第XII -b 類	胴	内	堅果類	果皮		421
MKY0039	-	深鉢	第XII -a 類	胴	断	堅果類	果皮		421
MKY0040	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	断	堅果類	子葉	スダジイ近似種か	421
MKY0041	-	深鉢	第VI~第X類	胴	断	堅果類	果皮		-
MKY0042	-	深鉢	第IV類	胴	断	スダジイ近似種	果実		421
MKY0043	-	甕か壺	弥生土器	胴	内	サンショウ	種子	種皮付き	417
MKY0044	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	内	繊維	-	糸状	417
MKY0045	-	深鉢	第XII類	胴	外	堅果類	果皮	小型の堅果類か	421
MKY0046	-	深鉢	第IV類	胴	外	クスノキ科近似種	種子		417
MKY0047	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	内	毛?	-		417
MKY0048	-	深鉢	第V類	胴	断	堅果類	果皮		421
MKY0049	-	深鉢	第VI類~第X類	胴	内	堅果類	果皮		421
MKY0055	-	深鉢	第V類	口	外	巻貝	-		418
MKY0056	377	深鉢	第IV類	胴	外	コクゾウムシ	頭部~体部		417
MKY0058	191	深鉢	第VI類か第VII類	口	外	クスノキ科近似種	種子		418
MKY0059	172	深鉢	第X -b 類	胴	内	不明	種実	バラ科の木本植物か	418
MKY0060	1326	台付皿	第VI類	口	内	堅果類	果皮		418
MKY0061	1327	台付皿	第VI類	口	内	カラスザンショウ	核果		418
MKY0062	338	深鉢	第IV類	胴	内	葉片	-		418
MKY0063-2	-	深鉢	第IV類	口	内	不明	種実	サンショウ等の子葉か	419
MKY0063-3	-	深鉢	第IV類	口	内	サンショウ属	種子	イヌザンショウ未熟か	419
MKY0064	956	深鉢	第X -c 類	胴	外	イチイガシ	果皮		419
MKY0066	1243	深鉢	第XII -b 類	胴	外	堅果類	果皮		418
MKY0067	-	深鉢	第V類	底	底面	布	-		419
MKY0071	907	深鉢	第X -b 類	口	外	堅果類	果皮		419
MKY0072	763	深鉢	第IX類	口	外	イネ科	有ふ果		419
MKY0075	340	深鉢	第IV類	口	内	-	-	種実ではない	420
MKY0076	835	深鉢	第IX類	胴	外	マタタビ属	種子	シマサルナシに似る	420
MKY0077	-	深鉢	第IX類	口	外	コクゾウムシ	胸部~体部		420
MKY0078	-	深鉢	第VIII類	口	外	不明	-	冬芽の可能性もあるか	420
MKY0079	1061	深鉢	第VI類~第X類	胴	内	不明	-	ワクド石タイプ?	420
MKY0080	992	深鉢	第X -d 類	胴	外	不明	種実		420
MKY0082	892	深鉢	第X -a 類	口	外	コクゾウムシ	胸部~体部		420

※型式は第1分冊P26~31を参照

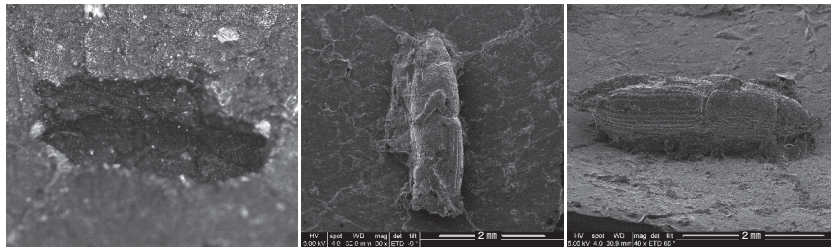
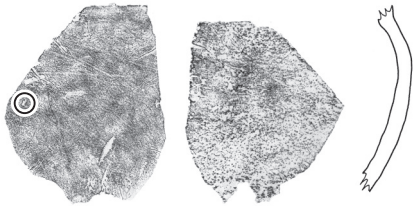
MKY0001



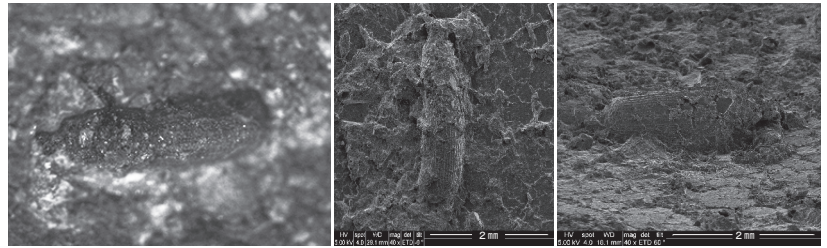
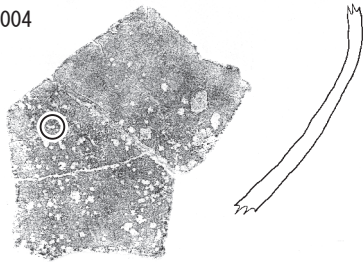
MKY0002



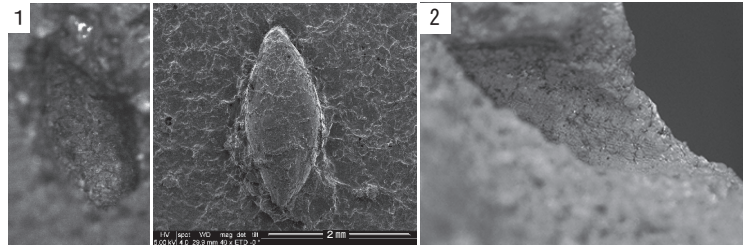
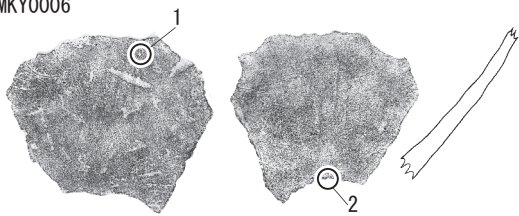
MKY0003



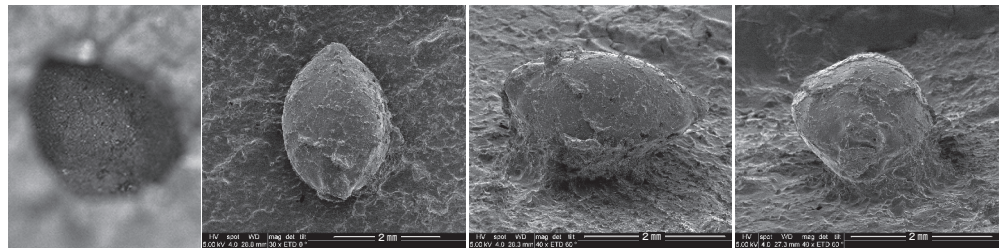
MKY0004



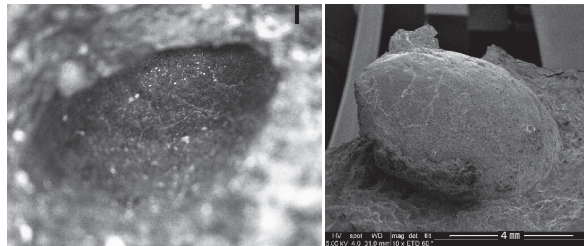
MKY0006



MKY0007



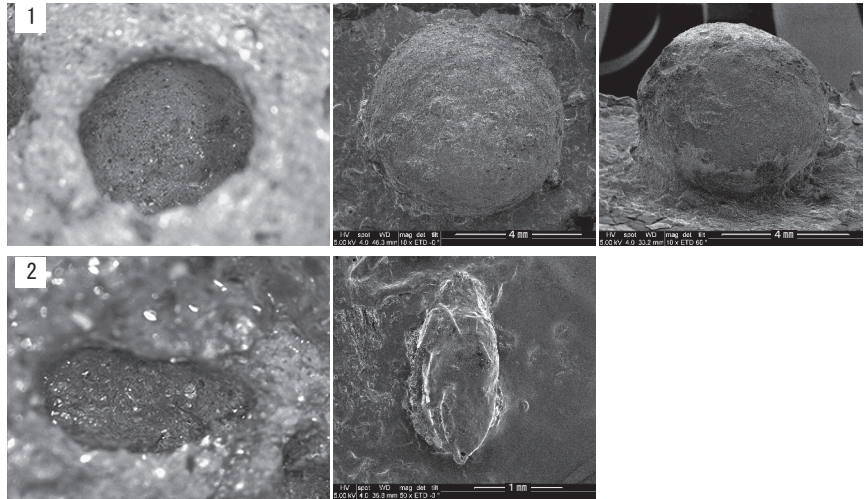
MKY0012



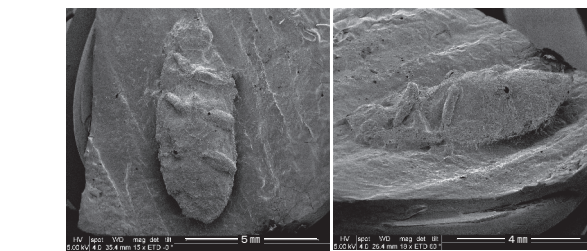
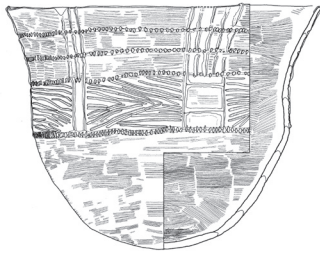
第 414 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 1  
(遺物スケールは 0006 が 1/5、その他は 1/4)



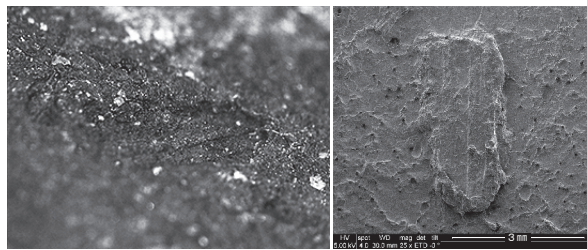
MKY0011



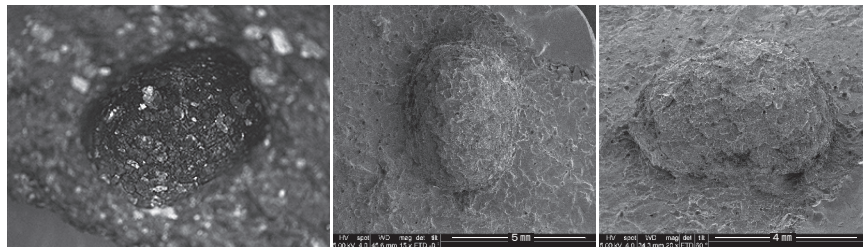
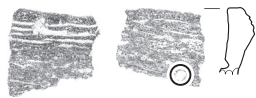
MKY0015



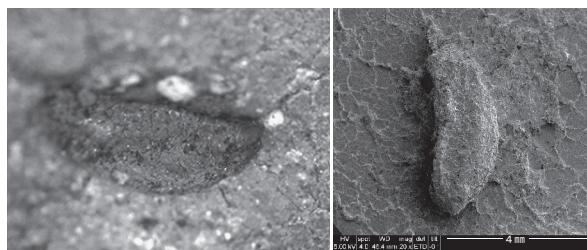
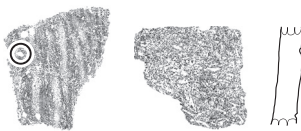
MKY0016



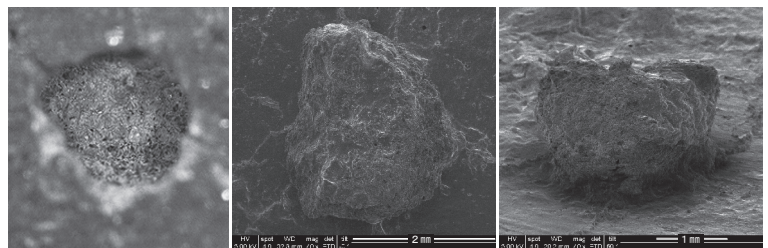
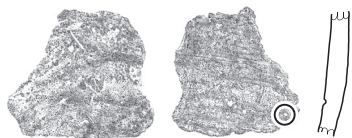
MKY0019



MKY0021



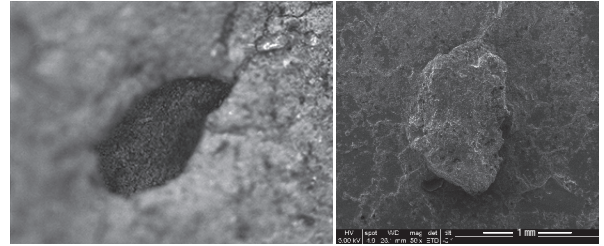
MKY0023



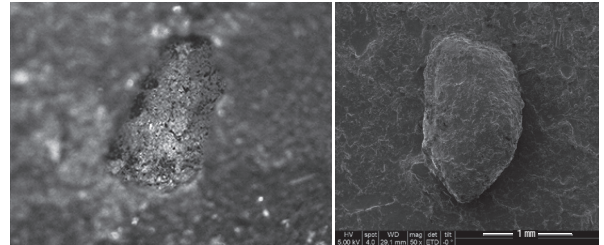
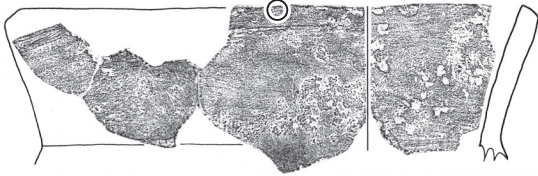
第 415 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 2  
 (遺物スケールは 0008・0011・0012 は 1/4、0009 は 1/8、0010 は 1/6、0013 は 1/5)



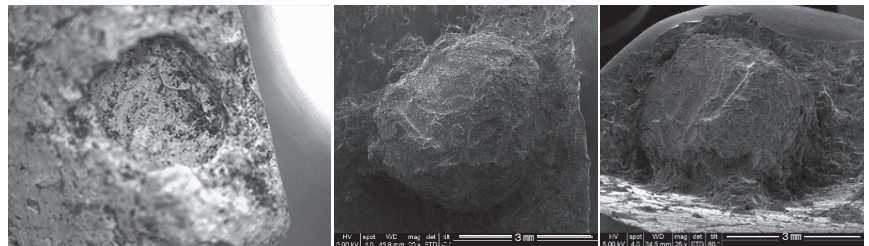
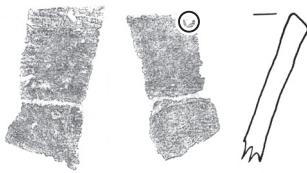
MKY0024



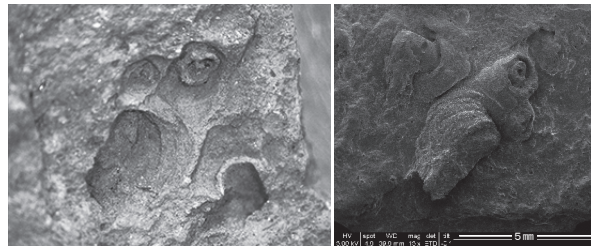
MKY0031



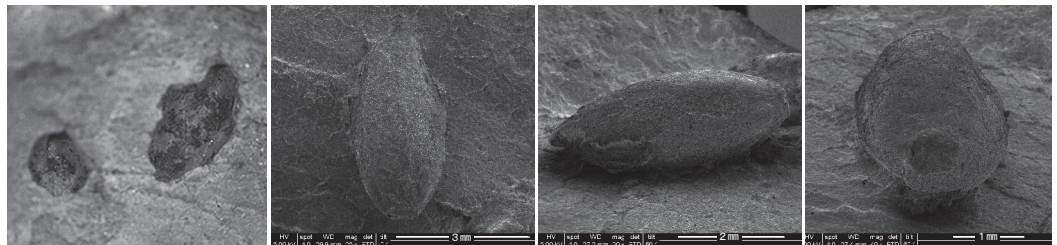
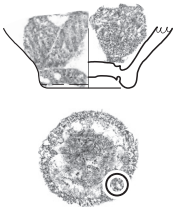
MKY0032



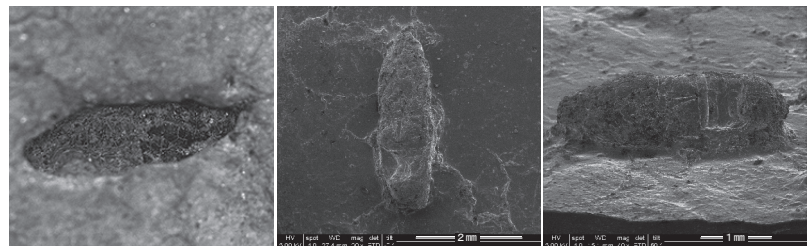
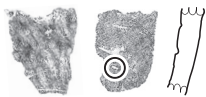
MKY0033



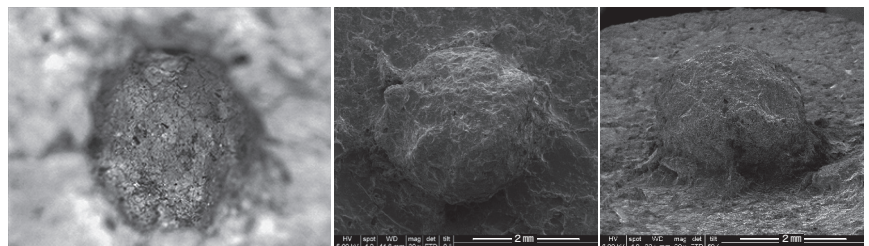
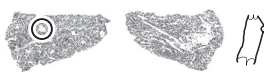
MKY0034



MKY0035



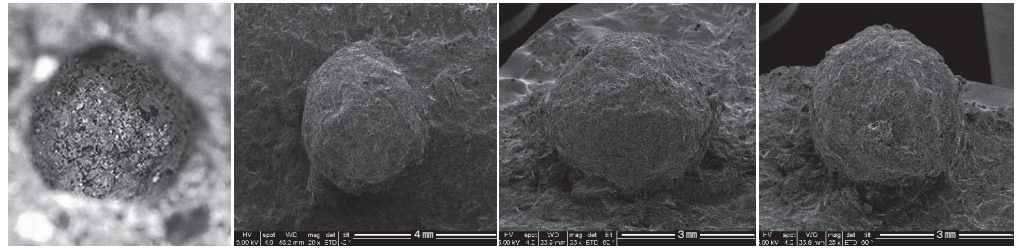
MKY0037



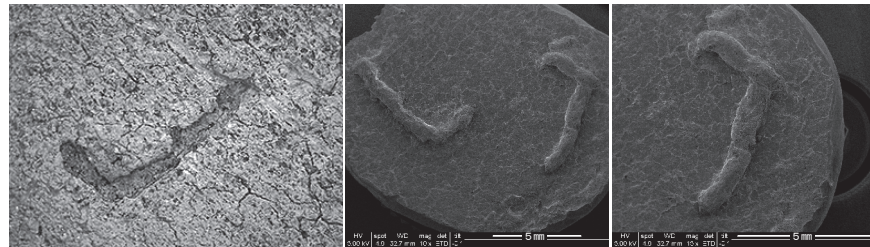
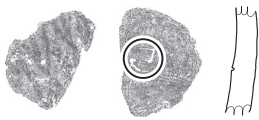
第 416 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 3  
(遺物スケールは 1/4)



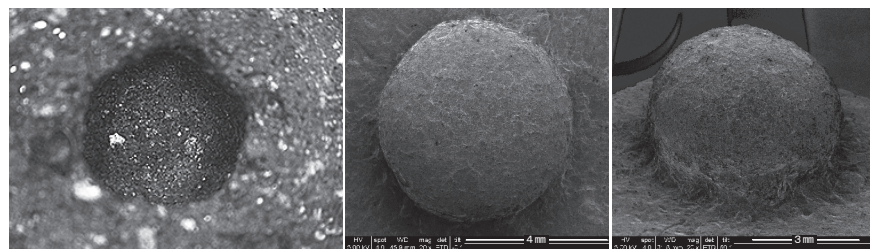
MKY0043



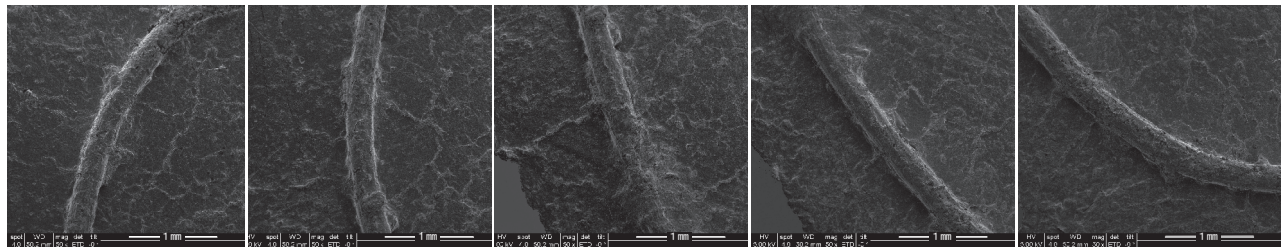
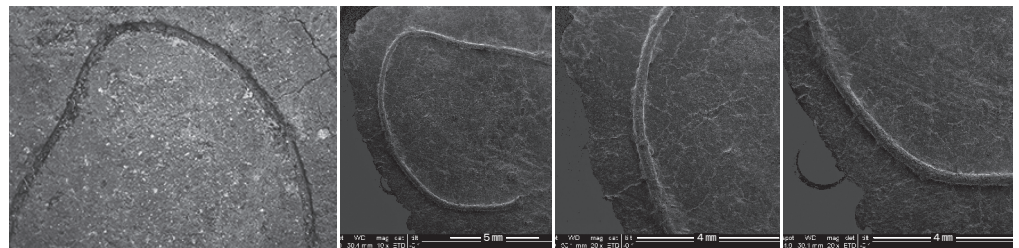
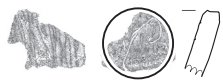
MKY0044



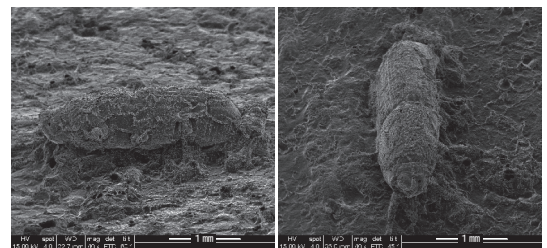
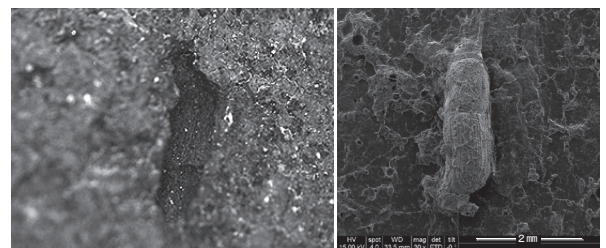
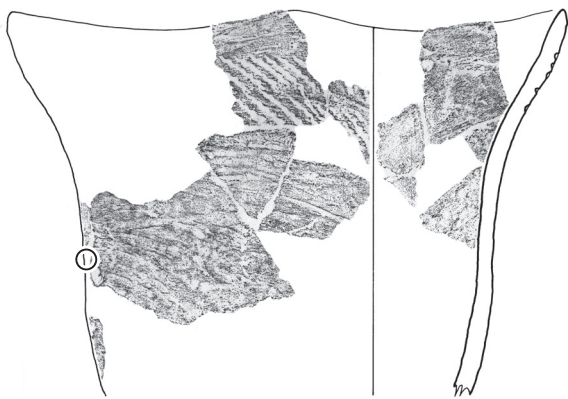
MKY0046



MKY0047



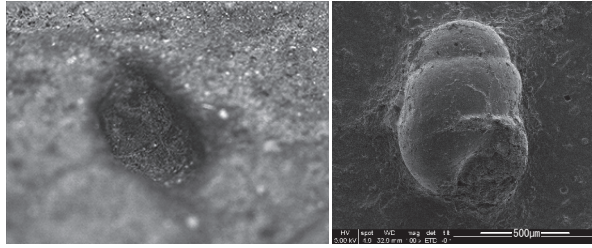
MKY0056



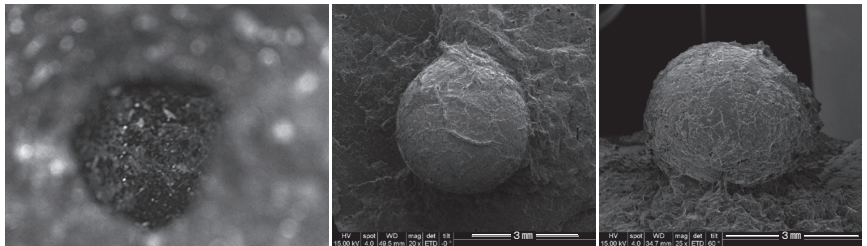
第 417 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 4  
(遺物スケールは 1/4)



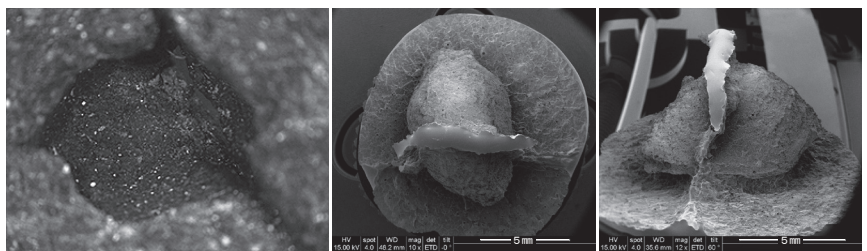
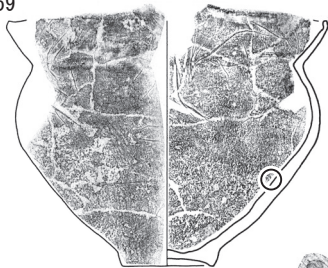
MKY0055



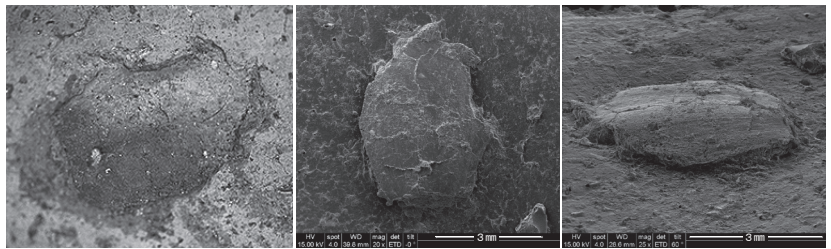
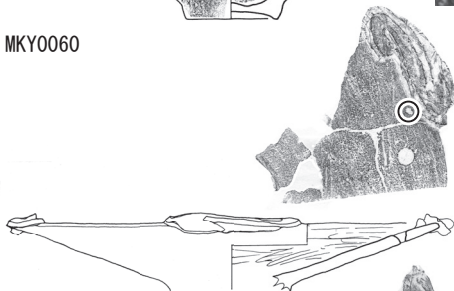
MKY0058



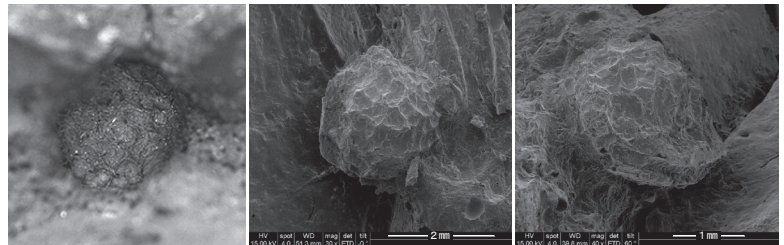
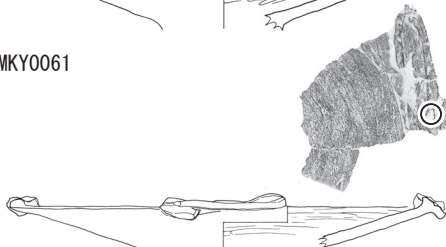
MKY0059



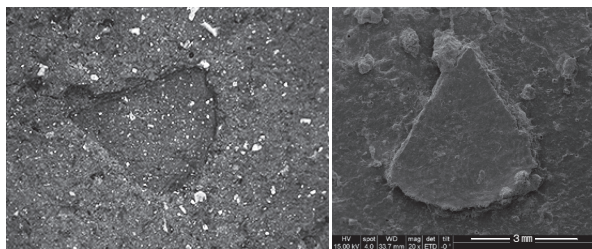
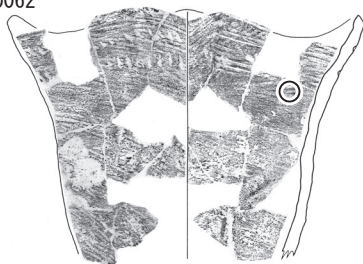
MKY0060



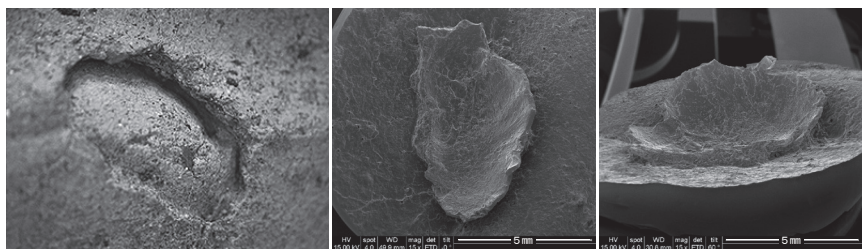
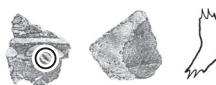
MKY0061



MKY0062



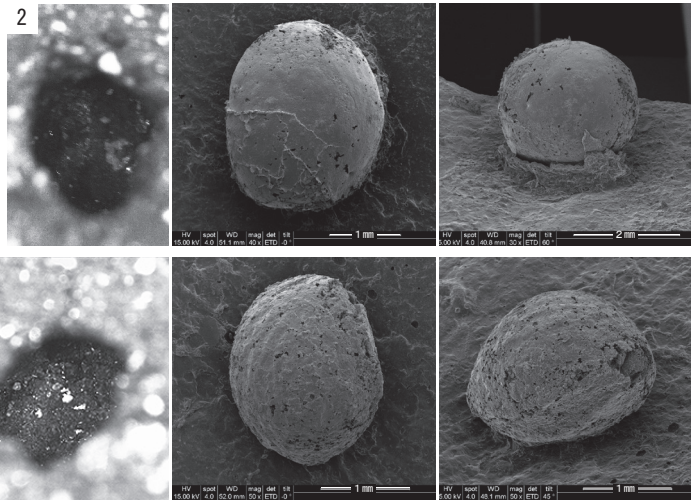
MKY0066



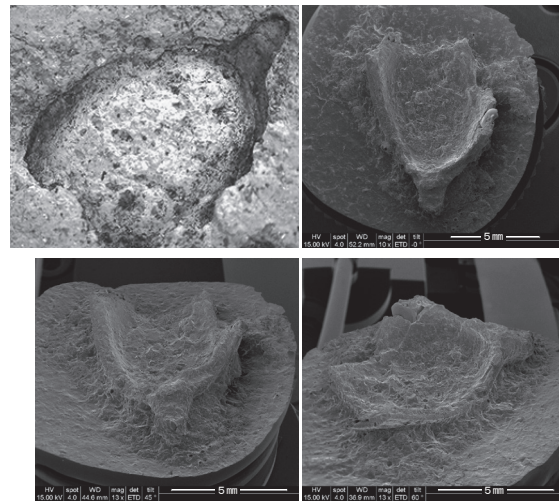
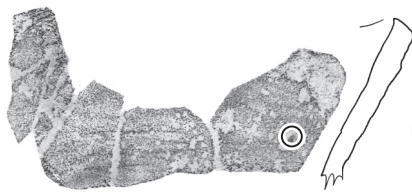
第418図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像5  
(遺物スケールは0055・0066は1/4、0059は1/5、0058・0060～0062は1/6)



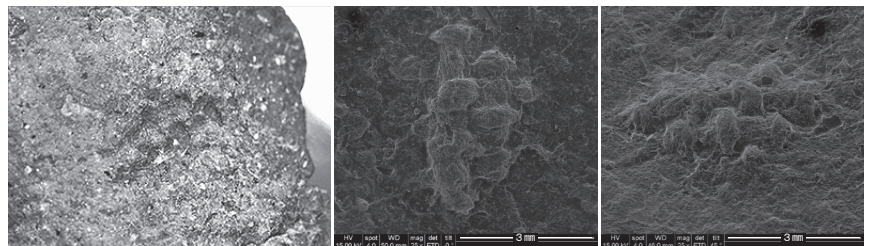
MKY0063



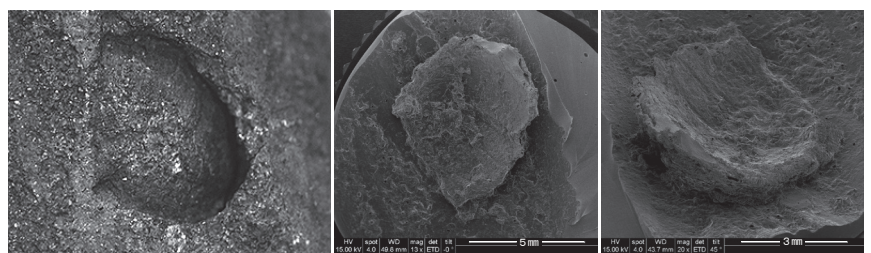
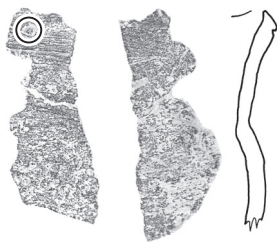
MKY0064



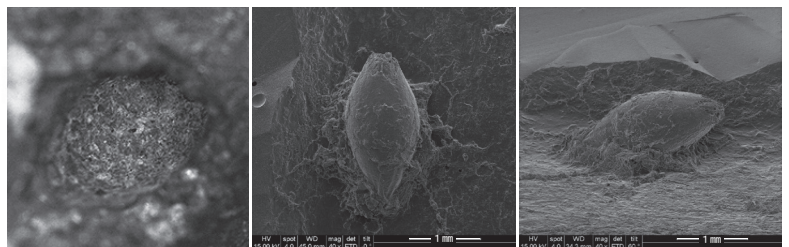
MKY0067



MKY0071



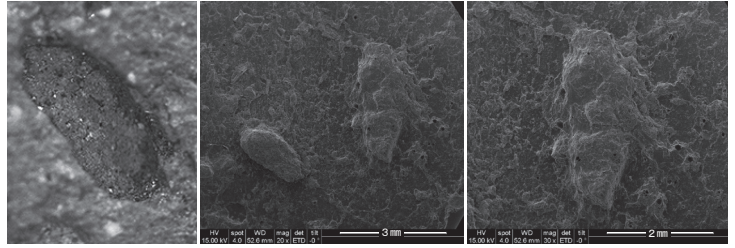
MKY0072



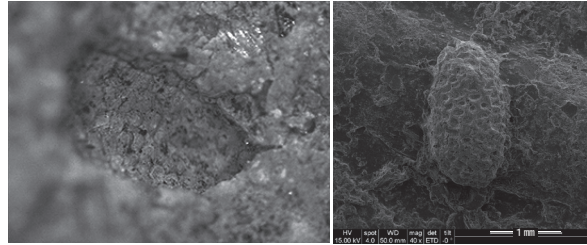
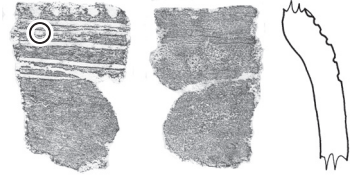
第 419 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 6  
(遺物スケールは 1/4)



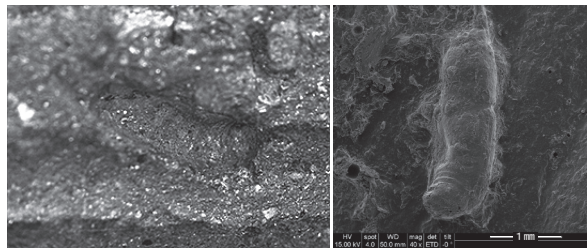
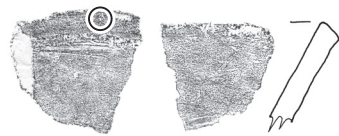
MKY0075



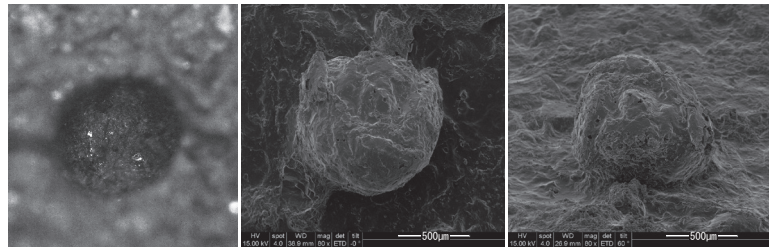
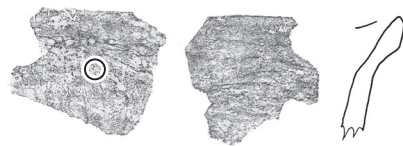
MKY0076



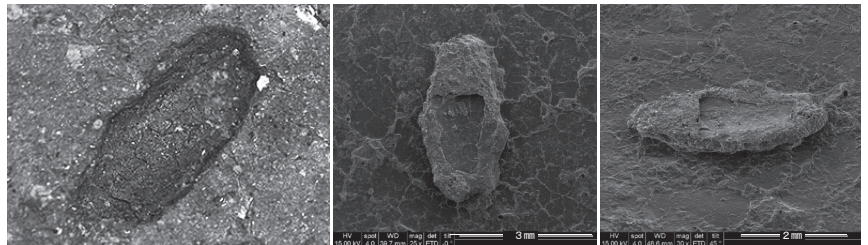
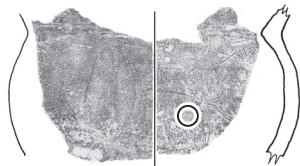
MKY0077



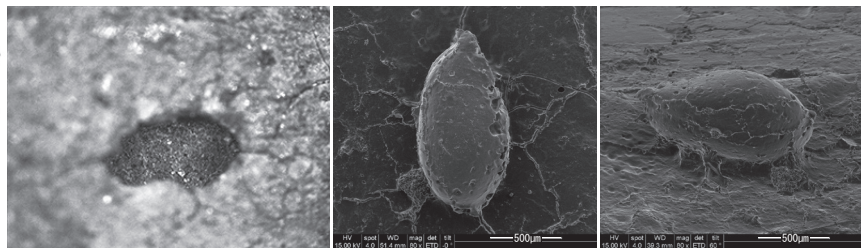
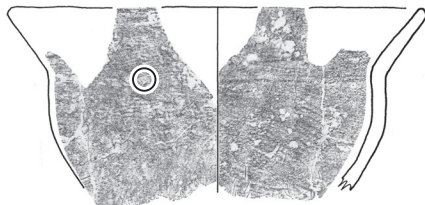
MKY0078



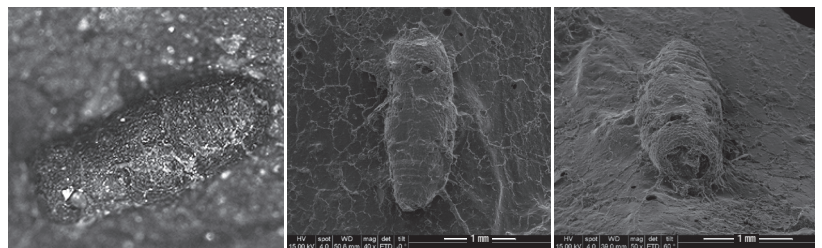
MKY0079



MKY0080

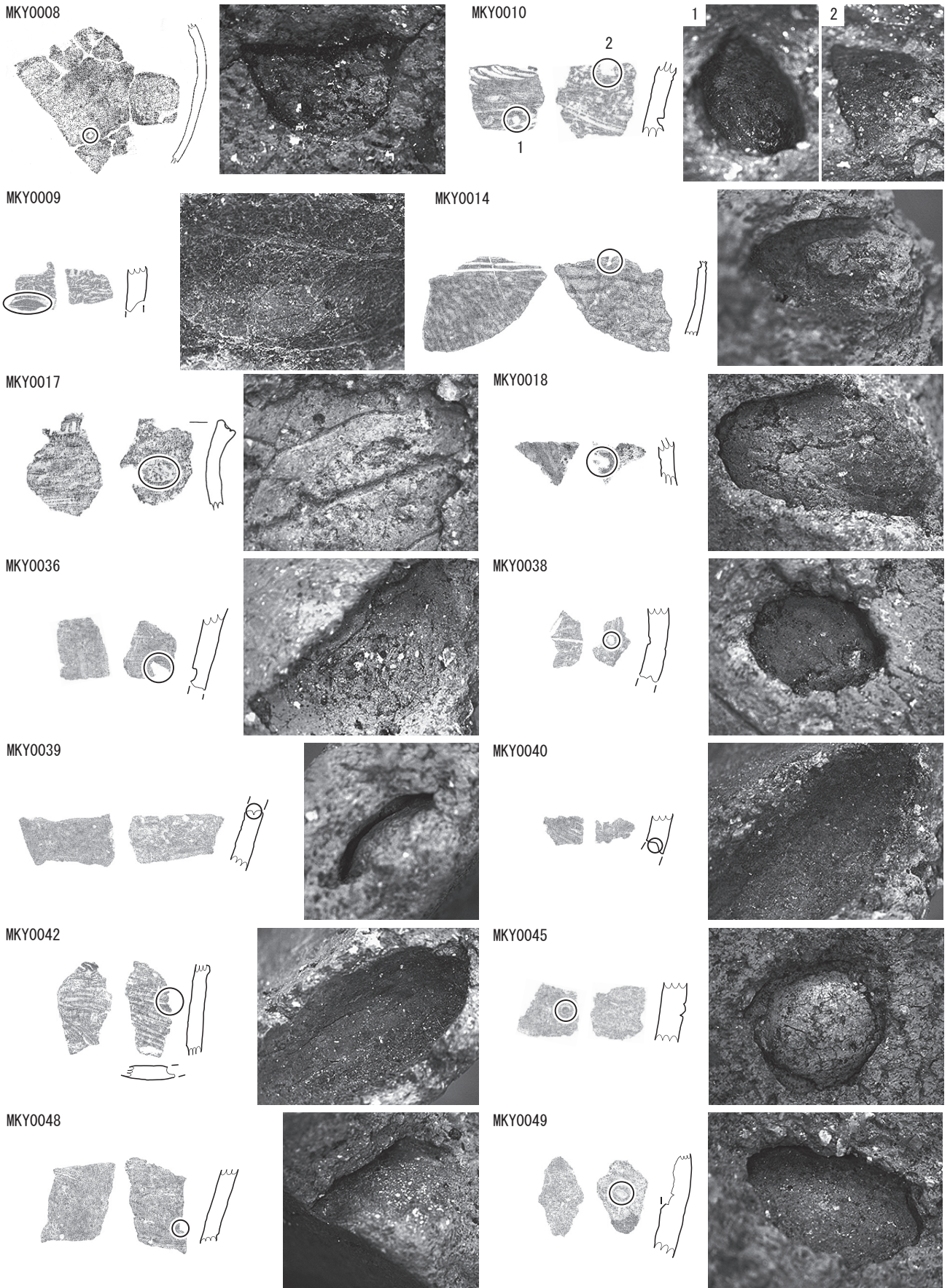


MKY0082



第 420 図 検出した土器圧痕とレプリカ SEM 画像 7  
(遺物スケールは 1/4)





第 421 図 検出した土器圧痕と拡大画像  
 (遺物スケールは 0014 は 1/5、その他は 1/4)

## 第VI章 総括

### 第1節 縄文時代前期～中期

#### 1 遺構

縄文時代前期の遺構はB地点で埋設土器を1基確認した。轟B式土器の完形品で、完形品の出土は極めて珍しい。

縄文時代中期の遺構はB地点で土坑を1基確認した。各遺構編でも述べたが、時期不明とした土坑やピットの中に、前期や中期の遺構が存在していた可能性は高いが、土器の出土量から限定的と考えられる。

#### 2 遺物（土器）

第I類土器は縄文時代前期の轟B式土器で、埋設された完形品の轟B式土器を始めとして、全体で7点と出土量が少ない。おそらく調査区北側に、轟B式土器のまとまりがあったと考えられる。また、年代測定を行ったところ、 $5693 \pm 24BP$  という結果を得た。また炭素・窒素安定同位体分析の結果、樹木など多くの植物が属するC3植物の炭化物だと判明した。測定値は燃料材として使われた樹木が生育していたある時期を示していると考えられる。

第II類土器は中期の深浦式土器の日本山段階の土器（相美 2008）である。第I類同様、52点と全体の出土量が少ない。4～6点のまとまりが3か所みられるが、周辺遺構との関連性は認められなかった。

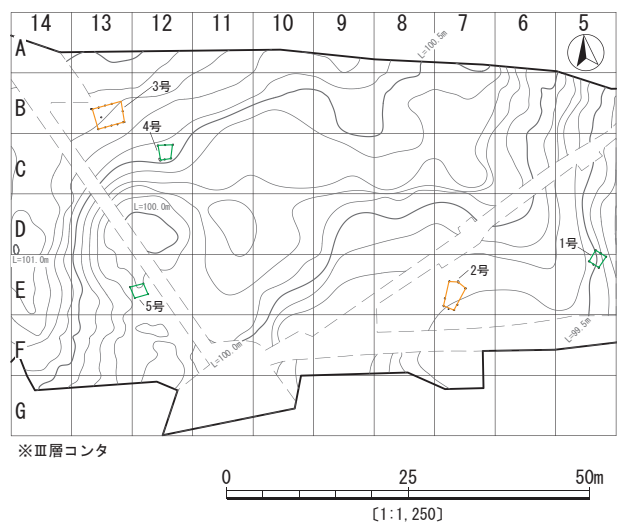
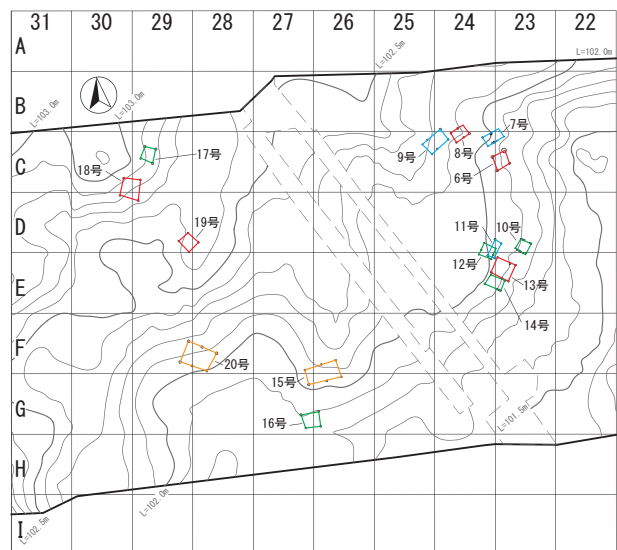
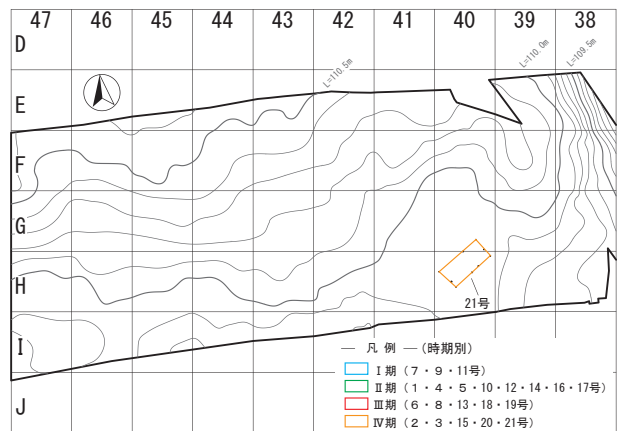
### 第2節 縄文時代後期～晩期

#### 1 遺構

縄文時代後・晩期の遺構はA～D地点の全ての地点に分布しており、掘立柱建物跡21棟、貯蔵穴1基、土坑285基、石器集積2基、石器集中部25か所、埋設土器15基、埋納遺構1基、落とし穴13基、土器集中部17か所、ピット2,511基確認した。

牧山遺跡の掘立柱建物跡は遺構の検出層、遺構内出土遺物（土器）、周辺の土器分布状況とレベル等から判断し、縄文時代後期の遺構と認定した。掘立柱建物跡という遺構の性質上、時期を確定することは難しいが、想定される掘立柱建物跡の配置状況を第422図に示した。間数・大きさ・方角・周辺の出土遺物等から時期差があると判断し、色分けした。しかし、具体的な時期については不明である。本遺跡の掘立柱建物跡11号と12号は切り合っており、少なくとも2時期あったと考えられる。遺構内出土土器やその他の土器の分布状況・形状・方角・配置状況等から判断するとさらに2時期あったと推測される。概ね、環状に配置された掘立柱建物跡の外側に遺物（土器）は分布しているが、どの掘立柱建物跡も遺物が離れて分布している。おそらく、時期別に2～4棟が1

つの群となって生活していたことが推測される。



第422図 牧山遺跡掘立柱建物跡（想定）



貯蔵穴はD-16区から1基のみ検出されている。ドングリの年代測定の結果、3256 ± 20BPの値を得ており、西平式系土器群の年代観と重なる。3種類以上のドングリが埋蔵されており、中でも生食可能なイチイガシが大量に出土している。貯蔵穴のあるC・D-15・16区周辺には土器が分布しておらず、竪穴建物のような遺構も存在していない。遺跡周辺はドングリ類の堅果類が採取できる場所で、採取してすぐにその場に保管していたのではないかと考えられる。

土坑は平面形状を中心に4つに分類したが、中でも円形もしくは楕円形が130基と最も多い。土坑内にピット状の掘り込みをもつものも85基と多い。全土坑の配置状況をみると、環状に土器が密集する内側には土坑の数は少なく、環状の周辺もしくは環状の外側を中心に配置している(第70～72図)。内側の土坑は環状に配置する西平式系土器群とは別の時期の土坑の可能性も考えられる。

石器集積は2基検出された。本遺構は特定の器種の集積ではなく、磨敲石と石皿片の集積と磨石と石皿片と軽石の集積の2基である。軽石が入る遺構はこの遺構だけで、遺跡全体から見ても軽石の出土数は少ない。土器分布状況からは、どちらの集積も第IV類土器と第VI～第X類(西平式系土器)の不明としている土器の分布状況と重なるものの、遺構の検出レベル等で判断するとどちらも第VII類と同時期の可能性が考えられる。

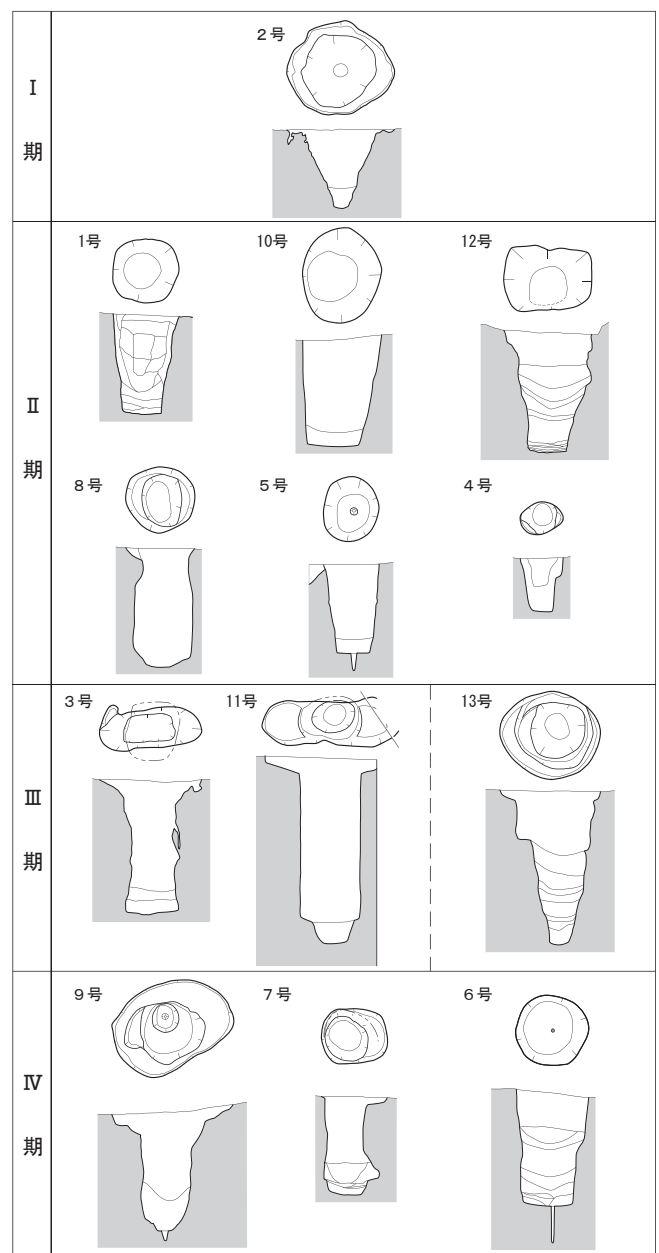
石器集中部の該当する時期については、第IV類1基、第V類4基、第VI・第VII類1～2基、第IX・第X-a・第X-c・第X-d類それぞれ1基であった。第V類土器該当が最も多い。また、数は少ないが掘り込みを伴う石器集中部が2基あり、どちらも平面形状が円形で、断面形状もほぼ同じで隣接している。

埋設土器は15基検出されている。無文土器第X-b類が3基と第X-a類1基は土器が環状に密集する周辺にある。一方、埋設土器として最も多い第IX類土器は土器が環状に密集する内側にある。特に9号にいたってはほぼ環状の中央に位置し、他の埋設土器と配置状況は異なる。また、埋設土器のすぐ近くから磨石や磨敲石が出土している遺構が3つある。注目すべきは14号で、突帯文を縦位に胴部中央に1か所施してあり第X-c類の無文土器ではあるが他の第X-c類にない特徴である。周辺が丁寧にナデつけられ、裏面は縦方向の亀裂とそれを消し込むようなナデがあり、亀裂の修復のために貼り付けた可能性が考えられる。また14号は遺構の外から1つ、土器内から1つ磨敲石が出土し、さらに土器内から別個体の土器片が出土しており、他の埋設土器と明らかに特徴が異なる。周辺からは第X-c類土器の出土は少ない。

埋納遺構は1基検出されている。玉髓埋納遺構として検出されたこの遺構出土の遺物は玉髓ではなく石英であ

り、遺構の名称を変更した。石英を石皿片で意図的に覆った状態で検出された。この他にほぼ同じレベルで10m圏内から3点石英が出土している。同じグリッド内からは1点、埋納遺構のすぐ近くから出土しており、この石英だけを石皿片で隠すようにして検出されたため、埋納遺構と認定した。検出された石英は剥離や線刻等の痕跡はみられない原石であった。石冠同様(後述)、土器が環状に分布する内側から検出されている。

落とし穴は13基検出されている。出土遺物や平断面の形状等から本遺跡の落とし穴の変遷案を第423図に示した。全ての遺構から遺物が出土している訳ではなく、また遺物が出土していても場所が不明であったりするも



第423図 牧山遺跡落とし穴 変遷案

のもあり、注意を要する。Ⅰ期は第Ⅳ類土器の頃より古いと考えられる。形状も他と比べ大きく、第Ⅳ類土器の分布域と遺構が重なり同時期とは考えにくい。Ⅱ期は西平式系土器（第Ⅵ～第Ⅹ類）よりも古いことが予想される。円形の平面をもち、断面形状は箱形と共通点がある。5号は第Ⅳ期の可能性もある。Ⅲ期はⅡ期の断面形状と似ているが、細長い楕円形状の平面をもつ。13号は遺物が出土しておらず不明な点も多く、可能性としてⅢ期に配置した。西平式系土器（第Ⅵ～第Ⅹ類）の頃と考えられる。Ⅳ期は断面形状がⅢ期と特徴は似ており、出土遺物から第Ⅻ類の頃と考えられる。

本遺跡は無文土器の土器集中部が多いことが特徴である。当然ではあるが、土器の分布域が密になるところから土器集中部として検出されていることが分かる。C-22区周辺にまとまりがみられ、中でも第Ⅹ-b類が圧倒的に多く、第Ⅹ-a類と第Ⅹ-c類と続く。この他、F-23区にも集中域はみられる。一方、西平式系（第Ⅵ～第Ⅹ類）の有文土器は土器集中部の中に一部みられる程度で、分布状況もまばらに点在するところからもみても、土器集中部の主体とはなっていない。土器集中部2か所で炭素・窒素安定同位体分析を行ったところ、9号の土器付着炭化物はC3植物やそれを食べる陸生哺乳類の可能性が考えられるという結果を得た。また、4号出土の土器付着炭化物は、炭化物の保存状態を無視して考える必要があるが、肉類（タンパク質）の影響を受けていることが考えられるという結果であった。

ピットは2,511基検出されている。配置状況をグリッド別でみると、G-32区の114基が最も多く、G-31区の93基、F-32区の79基、F-31区の67基と、G-32区周辺にピットが密集している。一方、いくつか例外はあるが土器が環状に密集しているグリッド内のピット数をみると、他のグリッドと比べ比較的少ないことが分かった。平面形状は5つに分けた形状の中で楕円形が1,449基と最も多く、次に円形の701基と続く。断面形状は8つに分けた形状の中でU字形が最も多く、次に浅皿形と続いた。組み合わせとしては、平面が楕円形で断面がU字形のものが445基と最も多く、円形でU字形が次に続く。

## 2 遺物（土器）

土器の取上総点数19,730点で実測図として掲載した点数が1,405点である。

縄文土器は、14類に分類した。

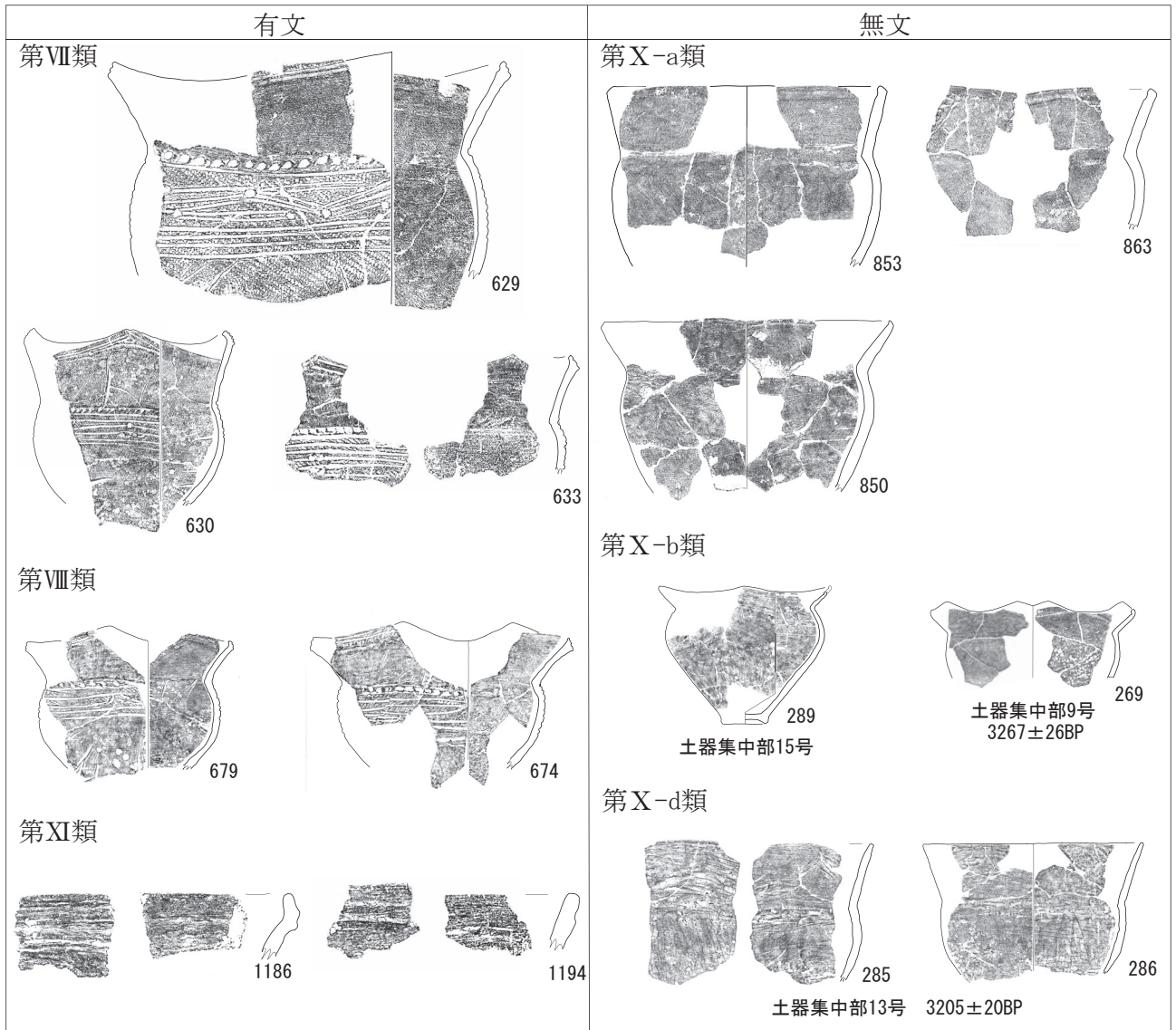
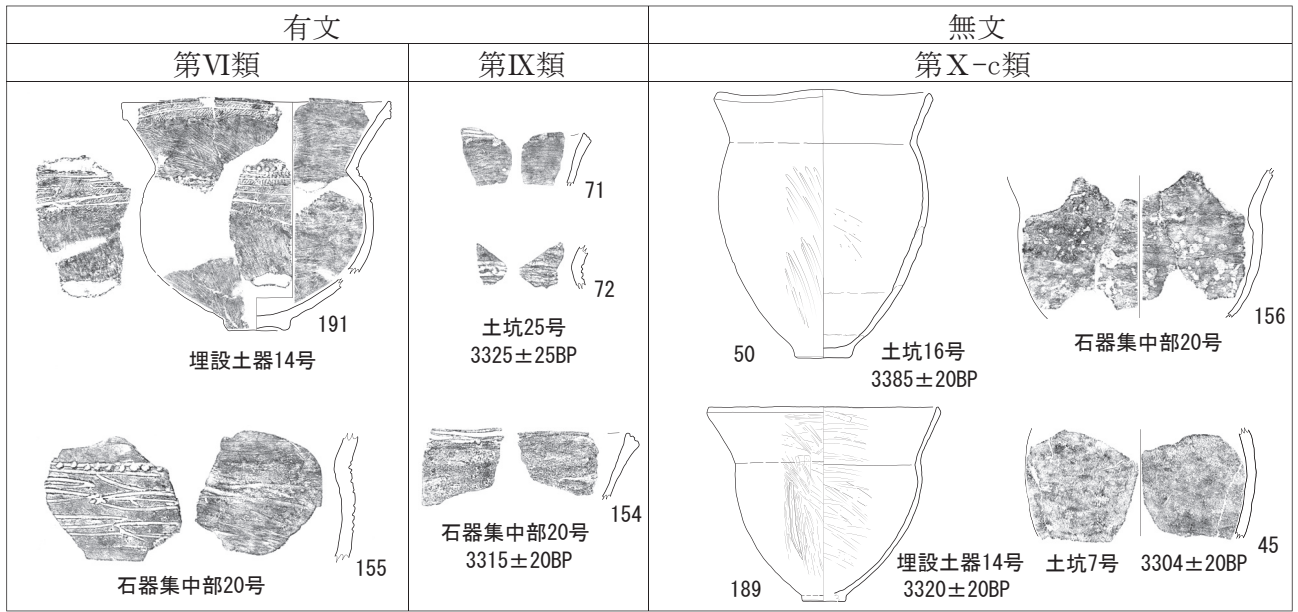
第Ⅰ類土器は前期の轟B式土器で、完形品の出土は極めて珍しい。第Ⅱ類土器は中期の深浦式土器の日本山段階の土器（相美2008）である。第Ⅲ類土器から第Ⅻ類土器が後期の土器であり、第Ⅲ類土器は市来式土器で、最も装飾的な時期のもので、量的にはわずかである。Ⅳ類

土器は丸尾式土器で、3つに細分され、形式的な変化が追えるものである。第Ⅳ類の頃、263の同位体結果から、鮭類や淡水魚類を食べていた可能性が高いという結果を得た。第Ⅴ類土器は納屋向式土器と納曾式土器である。第Ⅳ類土器から第Ⅴ類土器にと型式学的には成立する。第Ⅵ類土器は辛川式土器である。本遺跡の分類では磨消縄文のものに限った。第Ⅶ類土器は西平式土器とする。第Ⅷ類土器は太郎迫式土器である。これらの土器は、口縁形状や文様帯、文様モチーフで分類可能であるが、近接した時期の土器型式であろう。第Ⅸ類土器は縄文が施されないものである。第Ⅹ類土器は無文土器であり、4つに分類した。第Ⅺ類は鳥井原式～三万田式土器と併行する時期の土器群と考えられる。鳥井原式土器にみられる台付鉢形土器を伴うが、深鉢形土器や浅鉢形土器は御領式土器の範疇である。御領式土器の時期と位置づけておきたい。第Ⅻ類土器は中岳Ⅱ式土器である。第Ⅻ類土器は入佐式土器、黒川式土器や突帯文土器を一括した。

最も多く出土しているのが第Ⅹ類土器の無文土器である。4つに分類しているが、おそらく単独で土器型式を設定するには変化が多く、第Ⅵ類土器・第Ⅶ類土器・第Ⅷ類土器・第Ⅸ類土器などの有文土器と同様の口縁部形状・調整・器形をなすことから、それぞれが有文土器とセットをなすものと考えた。第424図に本遺跡の土器変遷案を示した。埋設土器14号から第Ⅹ-c類と第Ⅵ類が共伴関係にあることが判明した。また、石器集中部20号から第Ⅵ類と第Ⅸ類そして第Ⅹ-cの可能性のある土器が出土している。石器集中部20号出土の第Ⅸ類土器は年代測定で3315±20BP、埋設土器14号の第Ⅹ-c類土器は3320±20BPと同時期の可能性が高く、有文土器第Ⅵ類・第Ⅸ類と無文土器第Ⅹ-c類土器が共伴していた可能性が高い。次に、有文土器（第Ⅵ～第Ⅷ類）の年代測定がないため、可能性として述べるが、第Ⅹ-a類土器は頸部の形状に幅があり、器形から判断すると第Ⅶ類に近い可能性がある。第Ⅷ類も頸部の屈曲部の強さなどの共通点があり、第Ⅹ-b類と近い可能性がある。有文の第Ⅵ類・第Ⅶ類・第Ⅸ類と無文の第Ⅹ-c類と第Ⅹ-a類はほぼ同じ時期か同時期の可能性が考えられる。第Ⅹ-d類土器は大型のものがみられず、深鉢形土器の可能性もある。また、第Ⅹ類の精製土器の胴部で、圧倒的に小型品が多いことから、伴う土器型式の器種の補完的なものであったことも示している。以上のように、無文土器を従来の土器型式との共伴関係を把握できたことは大きな成果である。

後期の市来式土器に続く貝殻文系の土器型式は、丸尾式土器から納屋向式土器と変遷し、納曾式土器は西平式土器に先行するとした（前迫1992）。さらに納曾式土器は辛川式と並行して北久根山第二型式の南九州タイプとされている。





第 424 図 牧山遺跡土器変遷案

前迫亮一氏は、納曽式を第4段階とし、辛川Ⅱ式を第5段階とし、辛川Ⅱ式の中ノ原タイプを想定して辛川Ⅱ式が西平式に限りなく近いとした(前迫2002)。納曽式土器には辛川Ⅱ式を写した土器もあり、異系統土器の同伴関係としても捉えられているが、この辺りの土器型式は南九州の納曽式土器に軸足を置いて再整理する必要がある。

土器の分布状況と遺構配置図を第425図から第435図に示した(同遺構から別型式の土器が出土したりしているため、別の配置図に同じ遺構名が掲載されていることもある。よって、配置図上の遺構総数は異なる)。

第425図から分かるように、第Ⅲ類の市来式土器の分布はわずかで、遺構もみられない。第Ⅳ類の丸尾式土器は、C地点が一定数のまとまりがみられ、生活の中心はC地点だった可能性が考えられる。第Ⅴ類土器の納屋向式土器・納曽式土器はE・F-18・19にまとまりがみられるが、第Ⅳ類土器と比べ広がりはみられない。第Ⅴ類の頃から遺構数が増えてきている。第Ⅳ類はC地点が中心であり、第Ⅴ類は少し散在しているが、どちらもブロック状に分布している。この頃はまだ環状を意識していないと思われる。

第426・427図は第Ⅵ～第Ⅸ類の分布図、第428・429

図は遺構配置図であるが、第430～433図と併せてみていただきたい。口縁部の形状等から基本的に分類しており、出土数が少なく、分布状況もまばらである。これら第Ⅵ～第Ⅸ類の有文土器は、環状の内側にはほとんど分布していない。西平式系の無文土器同様、遺構も環状に分布している。

掘立柱建物跡を環状に配置し、おそらく第Ⅵ～第Ⅸ類が土器環状に分布していたことが推測される。これら掘立柱建物跡の外側に遺構も配置されており、集落は環状の外側(第Ⅵ類・第Ⅶ類の頃はC・D-30～34周辺とA～D-22・23周辺)にもあった可能性がある。

第430・431図は第Ⅹ-a～d類の分布図、第432・433図は遺構配置図である。口縁形状などはきりと分類できる土器だけを抽出し、分類を行った。第431図からB・C-22区とF-23区に集中域がみられ、一見、第Ⅹ-a～d類の分布域も重なるが、遺構内出土の土器付着炭化物等の年代測定結果から判断すると第Ⅹ-d類の頃は時期差があることが分かった。有文土器(第Ⅵ～第Ⅸ類)よりも環状に分布していることが分かる。

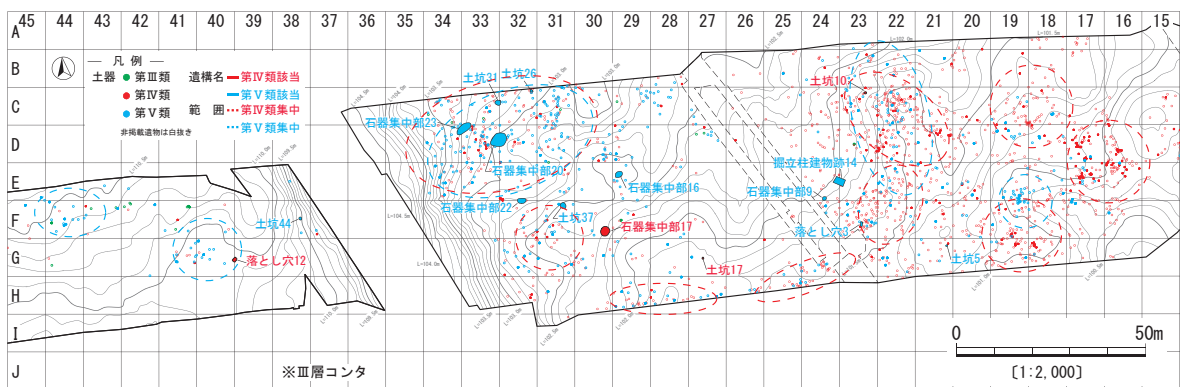
第434図は西平式系土器の不明土器の分布状況である。無文の胴部片が最も多く、形状・色調・焼成等から判断し、分類してある。有文であっても型式判別が難しいものは不明として取り扱っている。第434図から分かるように、他の類と比べ圧倒的に密度も濃く、環状に分布していることが分かる(以下、同じ範囲での分布域を環状と呼ぶ)。C-22区が最も多い。この辺りは土器集中部が最も集中する所でもある。土坑15号が環状の内側にあるのを除けば、遺構も環状に配置する。

環状の中央付近は遺物の出土が少なく遺構もほとんど検出されていないが、石冠や埋納遺構は環状の内側から出土・検出されている。牧山遺跡では第Ⅵ類の頃から、環状の内側を意識して生活していた可能性があり、祭祀的場所であった可能性も考えられる。

第128表 土器分類ごとの出土点数

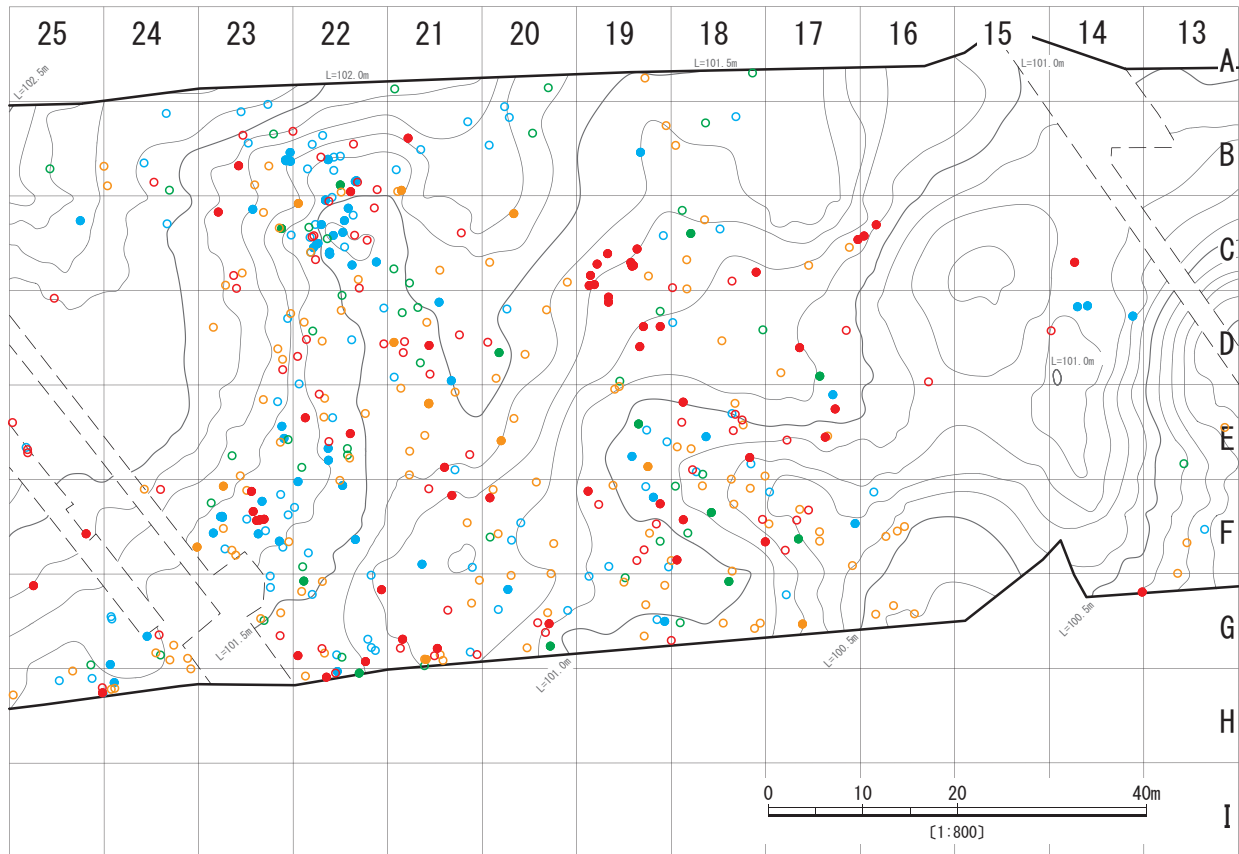
類	掲載点数	非掲載点数	合計	類	掲載点数	非掲載点数	合計
第Ⅰ類	7	0	7(0)	第Ⅹ-a類	85	199	284(2)
第Ⅱ類	28	24	52(55)	第Ⅹ-b類	49	138	187(2)
第Ⅲ類	7	18	25(5)	第Ⅹ-c類	122	441	563(1)
第Ⅳ類	197	1,217	1,414(157)	第Ⅹ-d類	51	199	250(2)
第Ⅴ類	111	408	519(276)	第Ⅺ類	15	15	30(6)
第Ⅵ類	104	119	223(0)	第Ⅻ類	68	552	620(66)
第Ⅶ類	44	237	281(3)	第Ⅼ類	30	139	169(120)
第Ⅷ類	37	92	129(4)	第Ⅵ～Ⅹ類型式不明	404	7,469	7,873(1487)
第Ⅸ類	130	124	254(6)	不明	0	6,850	6850(183)

※ ( )内は一括遺物

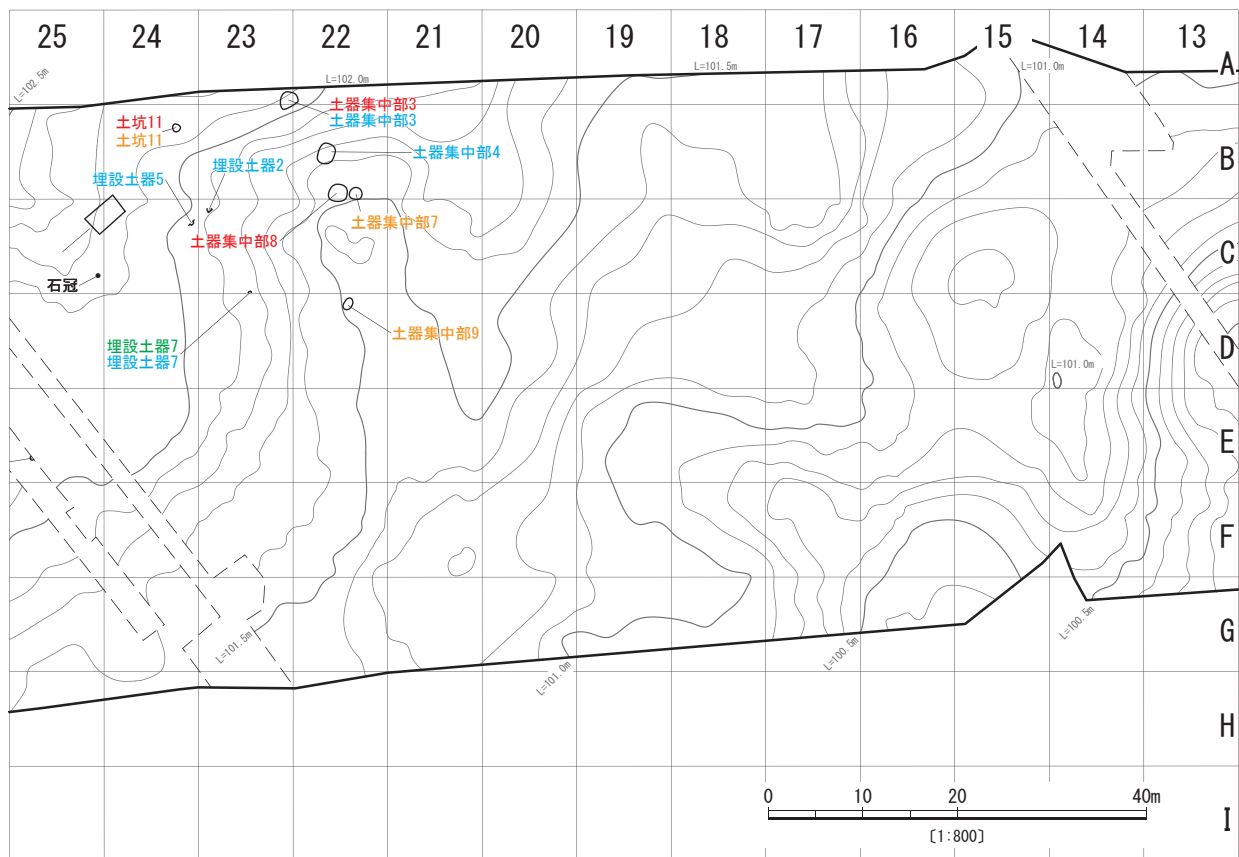


第425図 第Ⅲ～Ⅴ類土器分布図及び遺構配置図



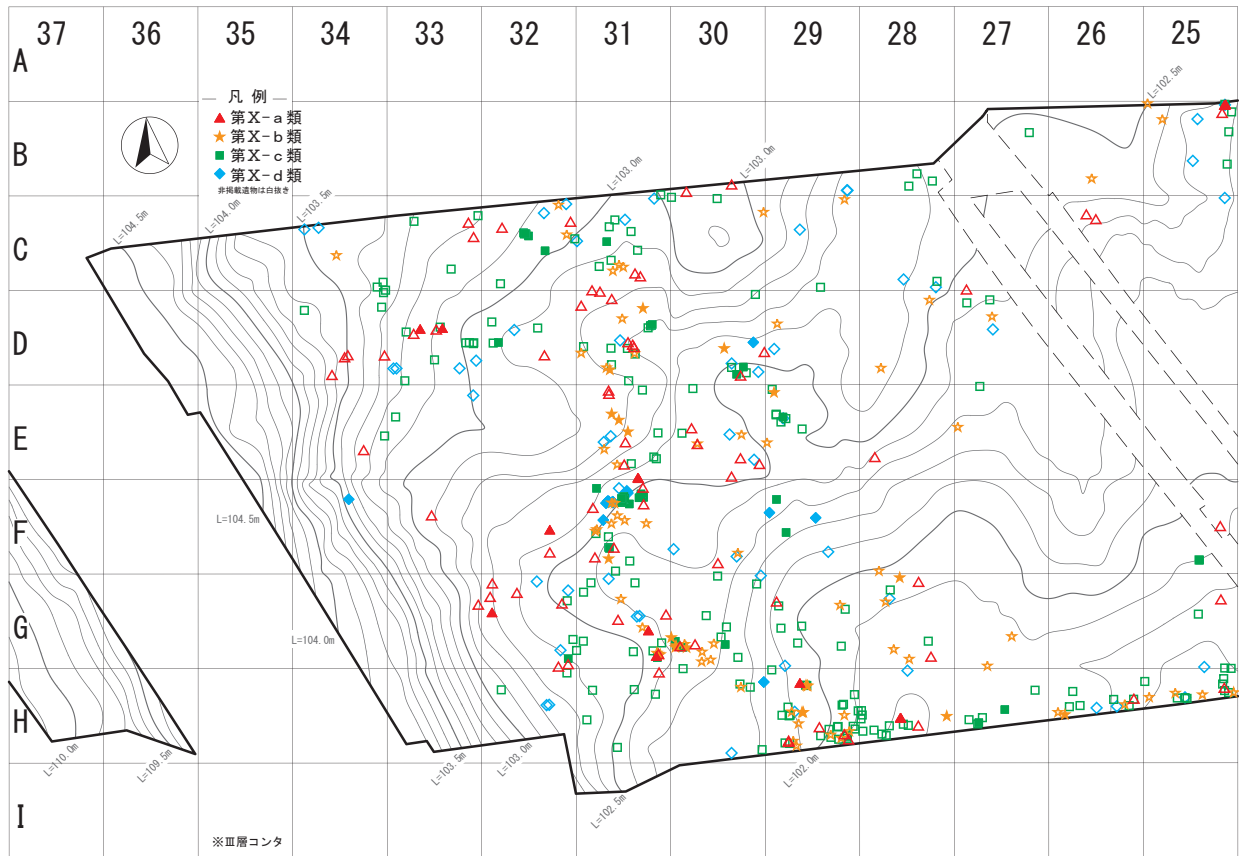


第 427 図 第VI~IX類（西平式系有文土器） 分布図（2）

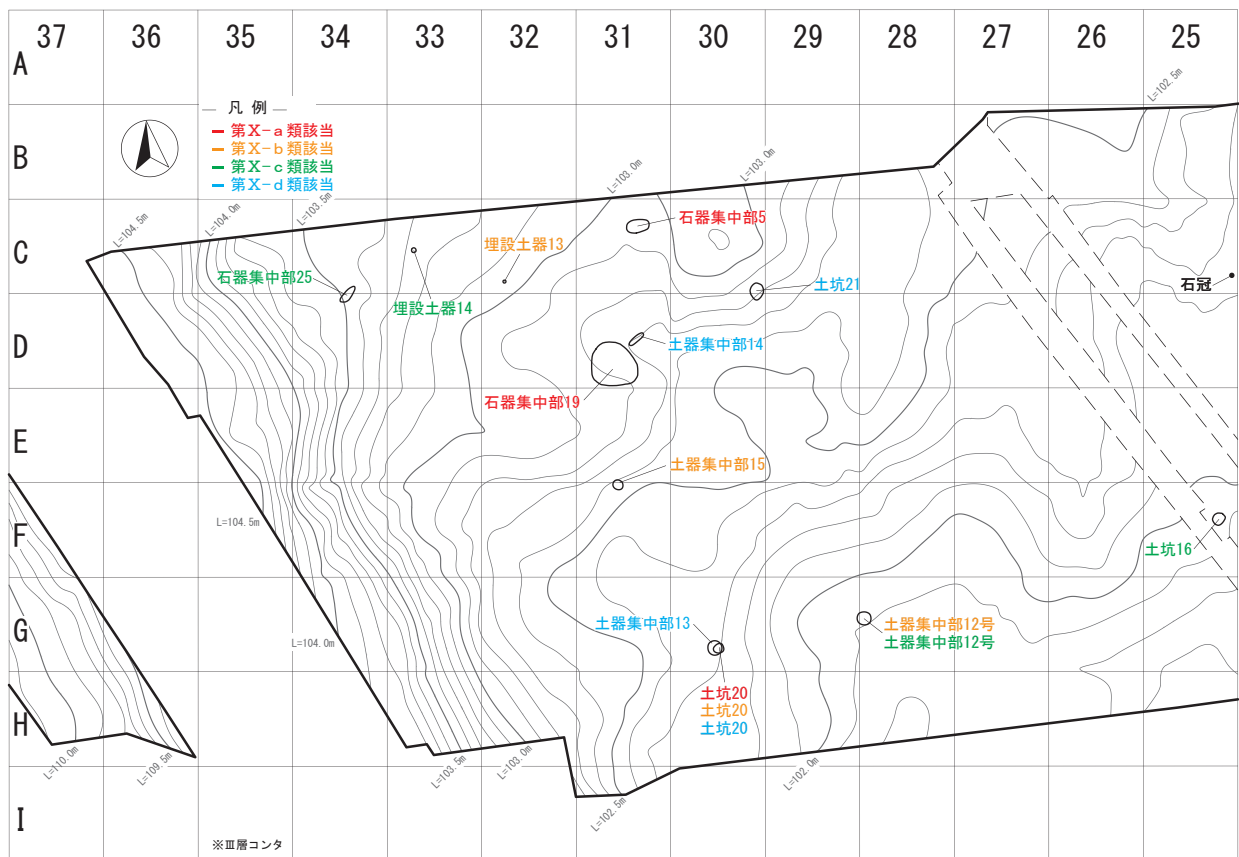


第 429 図 第VI~IX類（西平式系有文土器）相当期 遺構配置図（2）

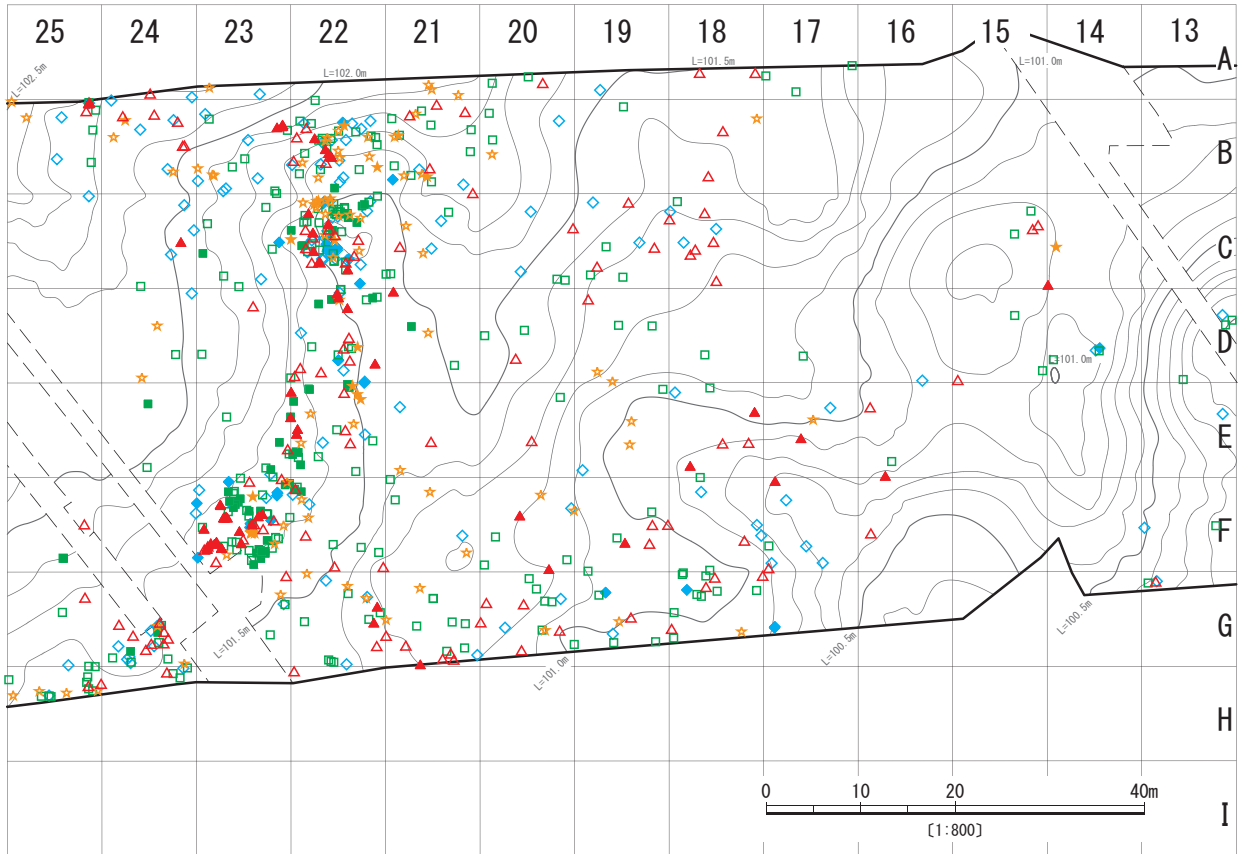




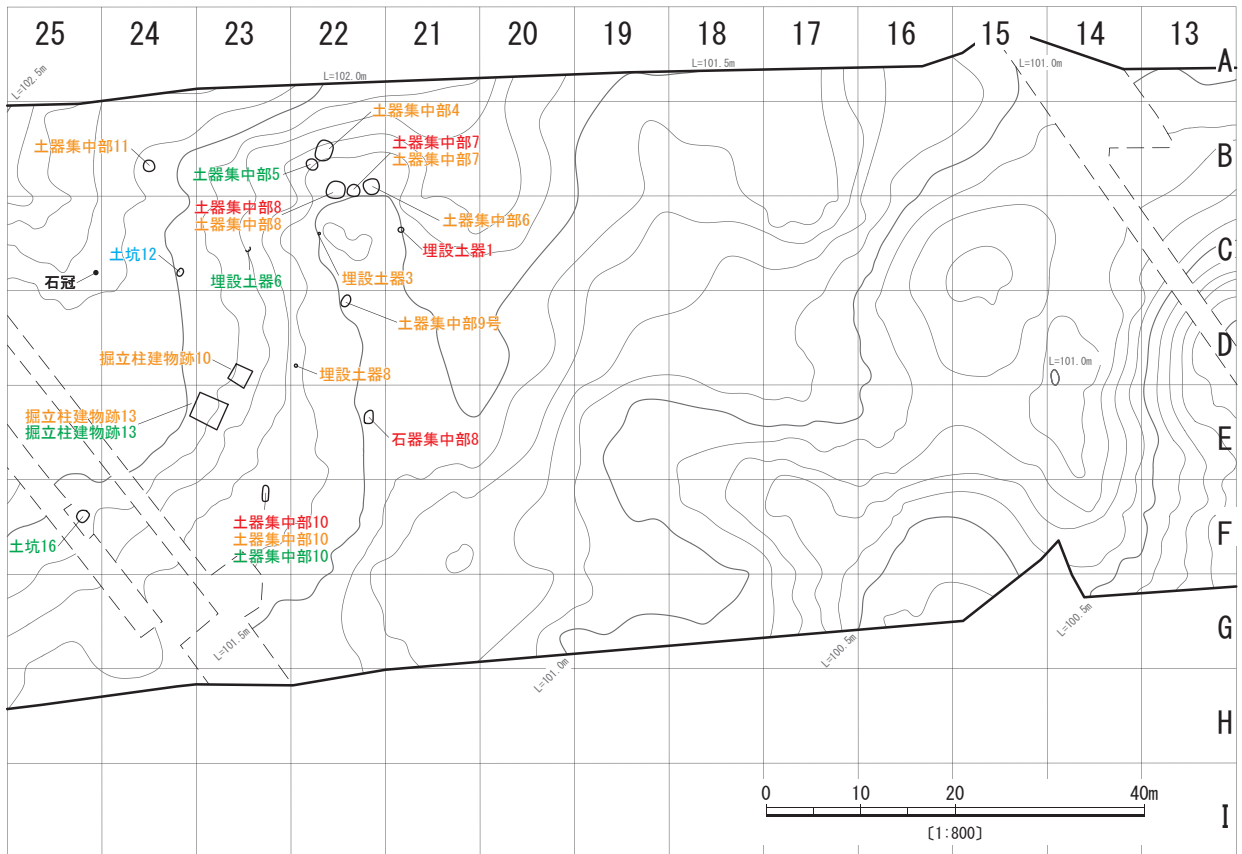
第 430 図 第 X-a ~ X-d 類 (西平式系無文土器) 分布図 (1)



第 432 図 第 X-a ~ X-d 類 (西平式系無文土器) 相当期 遺構配置図 (1)



第 431 図 第 X-a ~ X-d 類 (西平式系無文土器) 分布図 (2)



第 433 図 第 X-a ~ X-d 類 (西平式系無文土器) 相当期 遺構配置図 (2)